カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十円

帰国のごあいさつ

二月八日公会議の第一会期閉会式の翌日、ローマを発ち、フランス、ドイツなどを歴訪ののち、北極廻りで去る一九日羽田着、二一日午前つつがなく福岡に帰ってまいりました。みなさまの盛大なお見送りをうけ、重要な使命を果すべく教皇さまのおひざもとに出発して二カ月余、熱誠こもる教区全信者みなさまのお祈りのおかげで、第一会期を無事つとめさせていただき、肩の荷を下して安堵の感にひたっております。

全世界の司教方にまじって、終始、聖なるつとめを果しながら、神の遠大なる計画の遂行に微力をかたむけ得ましたことは、この上ない光栄と感じております。

公会議の模様や、この間に私の胸に去来したさまざまの印象につきましては、改めて直接、みなさまにお話し申上げるつもりでおりますが、永遠なる神の御手に動かされているカトリック教会の偉大さ、目に見えなくとも信仰の心に明らかに感じられるキリストの現存のよろこびは、到底、人の言葉で言い現わすことも、心で味わいつくすこともできません。

各総会のはじめに教父たちがとなえる「使徒信経」の祈、種々の典礼でささげられるミサ聖祭、皮膚の色や言語、伝統は勿論、ミサのささげ方、服装もそれぞれに相異っていますが、教会が一にして聖、使徒伝来、とくに普遍的（カトリック）であること、そして会議に列る各司教方の上に、世界創造のときと同じように、また二千年前のペンテコステスのときと同じように「神の霊がおおい動いていた」ことは、誰もが一様に感じさせられたところであります。

すぎ去った一九六二年はまさに公会議に明け暮れした年でありましたが、新しい年もやはり、聖霊の息吹きが、教会の内部にみち世の光にて在す神の御子キリストの光栄が照り輝やく年であります。

みなさまの目が常にローマなるサン・ピエトロ大聖堂の上にそそがれますことを希望してやみません。みなさまの寛大なお祈りに対し厚くお礼申し上げると共に、教区全体の上に神の真の平和と恩寵をこい願い、司教掩祝をおくります。

一九六三年一月元旦　福岡司教ドミニコ　深堀仙右衛門

公会議第一会期終幕

第二会期は九月八日から

第二次ヴァチカン公会議の第一会期は、予定通り一二月八日聖母マリアの無源罪のおやどりの祝日に、教皇聖下の演説をもって幕を閉じ、翌九日には三聖人の列聖式が挙行された。

× × ×

第一八総会（一一月一三日）では、聖ヨゼフの名をミサの典文中に、来る一二月八日からとなえるとの教皇の決定が発表され、この日で典礼問題についての討議を終った。

第一九―二四　総会では、啓示の源泉についての討議が展開されたが、委員会が準備した提案について、教父たちの間に意見の調整がつかず、会議が長引くので、教皇みずから事態解決のため介入され（一一月二一日）神学委員会とキリスト教一致推進事務局のメンバーによって新しい委員会を設け問題となった提案を再検討することになった。この特別委員会が同提案を作り替えている間に、公会議は第二五総会（一一月二三日）から、マスコミメディアについての討論にうつった。

第二八総会までに、教父たちは同問題の討議を終ったが、この提案は、序論と四章から成り、第一章でマスメディアに関する教会の理論、第二章がその使徒職的機能第三章が教会の規律上の基準、最後の章は出版、映画、ラジオ、テレビなど重要な媒体を取り扱っている。

× × ×

これまで毎日のように各国の司教団を引見しておられた教皇聖下は、一一月二七日以来、胃疾患による貧血のため、医者のすすめで引見をとり止められたが、数日後に正常にもどられた。しかし聖下の御健康は憂慮すべき状態にあるといわれている。

× × ×

第二八総会の席上、多くの教父たちの希望にこたえて、教皇が第二会期の開始を来年五月一二日の代りに、九月八日に決定された旨発表があり、この日から一二月七日まで、日曜日を除き毎日、総会が開かれるとの発表がなされた。

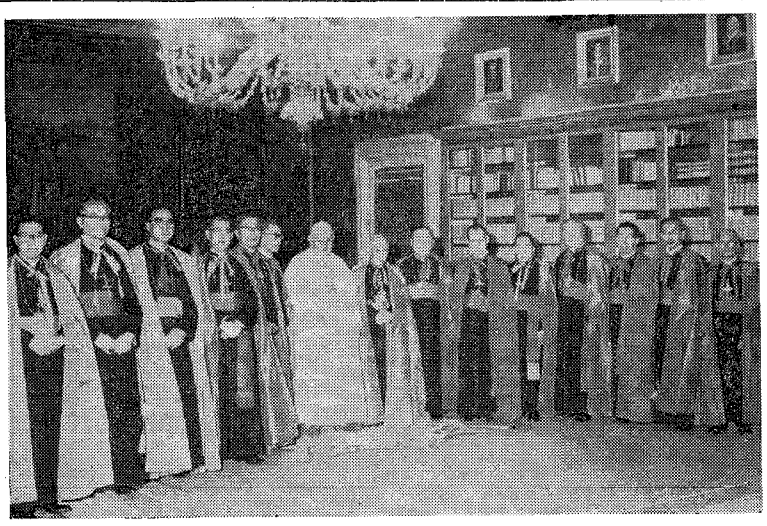
第二九総会では「教会の唯一性」に関して、また第三三総会では「教会」についてそれぞれ討議。最終日の第三十六総会までは、すでに討議された諸件に対する賛否の票決が行なわれた。

× × ×

一二月八日第一会期閉会式のミサのあと、教皇聖下は約四〇分にわたり、非常にお元気なお声で次のような演説をなされた。「公会議は、現実に神に対する信仰とその捉に対する従順、世界救済のご計画に応ずる真剣な努力の行為である。そして今日「エッセの木株から芽生えた汚れなき若木」にて在す聖母マリアを称えるこの日に私の心は大きな喜びに満たされている。

「公会議開催日の光景は、私の心に強く印象づけられ、一、聖、公、使徒伝来なる教会は、その永遠の使命、堅固な構造、力強く魅力的なる組織を全世界に現わした。「ローマを発って各自の教区に帰ってゆかれる諸卿らは、自分の信者らに信頼と愛徳の輝く炬火をたずさえて行くことであろう。諸卿らは、いとも熱心な祈において私と一致し、祈と意志の相互的一致のうちに、私の働きは続けられるであろう。

「公会議はまだ決定的に終結したわけではないので、適用の面は急ぐことはできないが、約束された成果については、慰め多い期待を抱くことができる。新しきペンテコステスによって教会の内外に救世の新しいよろこびがわき出ているのである。このよろこびと感動の日に私たちの頭上に天が開けて、天国の輝きが射しこんでくるのである。



日本司教団は一一月一五日　教皇聖下に拝謁し五〇分間親しくお話しを支えた。（写真中央聖下の向って右から土井枢機卿、田口、深堀、荒井、小林、里脇、長江、松岡の各司教。同じく左から山口大司教、古屋、富沢、野口、平田伊藤の各司教）

世の光

新年のよろこび

慌しかった大晦日も除夜の鐘の音に一夜が過ぎ、門松の上に元日の朝の陽が射すと、不思議なもので急にめでたくなったような気になる。届いた年賀状にも「新春」とか「慶」「賀」とか、何れも喜びや希望を表わしたものが多い。一晩過ぎたら急に万事が好都合になり、景気が好くなった訳でもないのだろうが、それでも新年ともなれば、誰でも新たな希望が湧いて来るものらしい。旧年の失敗を改めて、心機一転、今年こそは……との希望で立ち上るのであれば、何はともあれ目出度いことであると思う。人は希望なしに生きることはできない。もう、すべての希望を失ったというような者でも、なるべく苦しみたくないという、ひそかな望みは持ち続けているものだ。だとすれば、消極的な望みでなく、しっかりした希望を持ちたいものである。また「一年の計は元旦にあり」という時、その希望が行き当たりばったり、あるいはまた、刹那々々の喜びといったものでなく、将来の目標に向ってできることから一歩々々克服して行こうという、心構えを現わしたものと思われる。それにしても問題は、その人の希望と目的の性質である。目的もなく、希望もない人生の喜びは、空虚な騒ぎであり、究極の目的のない望みは、空中の楼閣のように、土台がなく、脆いものであろう。人生の目的も考えず、希望もなく、人間何処より来り、何処へ行くかも知らず、刹那々々を生き、一年一年を送り迎え、ただ徒に暦と自分の年令に一年を加えるだけのものならば、正月も大して目出度いものでもあるまい。「正月は冥土の旅の一里塚、目出度くもあれば、目出度くもない哉」との狂歌の通りである。喜びは生命の輝きであり、人間の心は喜びのために創造られ、喜びを求め、喜びによって生命力を自醒めさせ、能力を開花させる。然し、すべての喜びがそうだという訳ではない。官能の陶酔に耽るとき、後には倦怠と嘔気、疲れと落胆が続くのが常である。希望のない時代ほど騒々しい享楽が巷に溢れる。そして度々騒々しい享楽は絶望と紙一重であることを見い出すであろう。それに反して真の喜びは、心身を強く爽かにし活気をもたらし、善行を励まし、人間相互の愛情と友情の絆を強めるものである。所で、その真の喜びを見い出すには、人間というものが、いろいろ異った要素から成りたっており、理性的、感情的また身体的な要求があるが、そこに一種の調和がなければ、落着いた喜びも幸福も味うことができないものであることを考えて見なければならない。そして、その調和の鍵は、自分の内に在る最も優れたものによって、全体を秩序ずけ統御することである。精神的な喜びを感覚的な喜びの上に、霊的な完成を物質的なものの上に置くことである。

私たちの魂は、限りある、過ぎさる喜びによって、決して満されることなく、反って限りなき喜び、永遠の幸福に憧れ、それを追うものであるが、それはただ無限なる善、神においてのみ充たされるものである。聖アウグスチヌスは「神よ、御身はわが魂を御身のために創造り給うた。されば わが魂は御身に憩うまで安わし」と、その永い魂の遍歴ののち、神を見出し、こう告白している。聖パウロは「汝ら喜べ、主に仕え、希望により喜べ」といったが、トラピストやカルメルのような修道院を訪れた人々は、この厳しい修道院の囲塀の中で、祈りと労働に明け暮れる年老いた修道士の顔に溢れた、平和な喜びに心を動かされるという。それは無言のうちに、会う人々に彼らの心の中にある喜びと平和とを告げずにはいないからである。

キリストの教えは、希望のない暗い宿命の教えでもなければ、無気力なあきらめの教えでもない。キリスト様は「福なるかな心の貧しき人、天国は彼らのものなればなり。福なるかな泣く人……、福なるかな柔和なる人……、福なるかな心の潔い人……」と貧しい人にも、不幸に泣く人にも、また義しいことのために、迫害を忍ぶ人にすべての人々に向って、真の幸福と喜びの泉と、人生の涸れることのない希望の泉が何であるかを示された。

われわれの喜びはこのキリスト様のなされた、永遠の生命の約束に基き、不滅なる魂の幸福への希望から生ずる。そして全能なる神、慈愛深き父なる神の限りなき慈しみとその御助けへの信頼に基くものである。我らにとって正月は神から生命を受けた人間が、永遠の故郷なる神の懐に帰り行く、人生の旅路の一里塚なのであり、地上において時間のうちに行なわれる日常の行為は、矛盾したいろ方であるが、永遠をはらんでいるのである。その意味でわれわれがお正月に「おめでとう」というのであれば、それは真に意味深い言葉だといえるであろう。

（平山高明）

一月

一日（火）ご降誕後の八日目　元旦

われらに救主キリストを与え給うた童貞にして母なる聖マリアを賛美し、そのお取次ぎを願う。その確かなるご保護のもとに「キリストのみ心にかなう者」として、この一年立派な信者生活を送るおめぐみを祈りたい。

二日（水）イエズスの御名の祝日

救主イエズスの御名を愛情と信頼をこめて呼び求めよう。とくに聖体の秘跡のうちにこもり在す主のみ前にひざまずくとき…孤独と失意にしずむとき…はげしい誘惑にさらされたとき…。

六日（日）わが主のご公現の祝日

本日は「王たちの祝日」ともよばれる。マテオ福音書に、イエズス誕生のあと東方の賢人らが贈物をたずさえて幼児の前にあらわれ、礼拝したことがよまれる。イエズスはすべての国民、民族の王であり救主であることを示すものである。ユデヤ人のためだけの救主ではない。ご公現とはその意味である。

八日（火）教区司祭月例集会

一三日（日）聖家族の祝日

現代の社会生活をむしばみ、不幸なものにしている原因の第一は、結婚の目的、家庭生活のあり方についての誤った考えである。夫婦間の忠実、出産と育児の義務、宗教教育の必要が、ほとんど無視され、あるいは自己愛によってゆがめられている。いわゆる「新道徳」をふりかざす人々から、自然法とキリスト教的精神にもとずく健全家庭を守るようわれわれは最善の努力をかたむけナザレトの聖家族のおめぐみを求めるようにしよう

一四日（月）聖ヒラリオ司教博士証聖者

一八日（金）祈禱週間

今日から二五日までの八日間は信仰一致のための祈禱週間となっている。ローマ・カトリック教会から離れているすべてのキリスト教徒（プロテスタント、ギリシヤ正教徒、英国教徒、ユデヤ教徒、同教徒ら）が一つの真の信仰に一致するよう祈る時である。

二〇日（日）ご公現後第二の主日

アブラハムとその子孫になされたお約束により、神はご自分の民と全国民を救うためイエズス・キリストをつかわし給うた、今や全地はキリストを王、救主として礼拝する。主はカナの結婚式にあずかり給うたが、これは天の婚宴にすべての人を招くという神秘を明らかにするためであった。

二一日（月）聖女アグネス童貞殉教者

二五日（金）使徒聖パウロ改心の記念日

二七日（日）ご公現後第三の主日

キリストは万民を神の国の婚宴に招き結う、今日の福音はそれを教えている。ライ病をいやされたユデヤ人も、子供の病気をいやして頂いたローマ人百夫長も、みな一所に神に招かれている。ただキリストをこばむ者だけが宴席から除外される。

（児童福祉会のための献金日）

二九日（火）サレジオの聖フランシスコ司教博士証聖者

三一日（木）聖ヨハネ・ボスコ証聖者

一月一五日に幼稚園教職員練成会

来る一月一五日（成人の日）午前一〇時より、福岡市浄水通三八番地の福岡小神学校において、第三回福岡教区幼稚園教職員練成会が開催される。深堀司教が「公会議より帰えりて」、また平山尚明師が「幼児教育にたずさわる教職員はいかにあるべきか」と題して講話を行なうことになっており、教区内の全幼稚園の園長以下全教職員が参加することになっている。

永久聖体礼拝

（一　月）

第一日曜　サンモール修院
第二日曜　大名町教会
第三日曜　門司教会
第四日曜　大牟田教会

祈禱の使徒会

（一　月）

【一般意向】プロテスタントが真の教会に復帰するよう

【布教意向】公会議による布教促進

お礼

福岡地区布教委員会では、昨年にひきつづき今年も「クリスマスたすけ合い運動街頭募金」を実行いたしましたところ、神父様方ならびに信者各位の絶大なご協力をいただき、募金額は一六万六・二〇〇円に達しました。

年末ご多忙のさなか、寒さをおして街頭に立たれた方々に厚くお礼申上げると共に募金に応ぜられた方に感謝申上げます。

昭和三七年一二月　福岡地区布教委員会

歳末扶け合い運動
街頭で義援金つのる

福岡地区信徒布教会では、ここ数年前から信者の協力のもとに歳末扶け合い運動を実践しているが今年も一二月中旬からクリスマスまで、市内新天町、天神町、呉服町など目抜きの通りで募金を行なった。各教会で当番の信者たちが「カトリック教会」の腕章やタスキをかけて、買物客でゴッタがえす街頭で通行く人々の善意に訴え総計一六万六・二〇〇円を集め、ヴィンセンシオ会を通じて貧困家庭に分配した。なお募金に応じた方々にパンフレット「あなたとクリスマス」を手渡した。

扶け合い募金をよびかける福岡の信者たち

司祭異動
（カッコ内は前任地）

コロンバン会（隈府主任ドノフー師（賜暇帰国）、熊本手取助任フーカンフー師（日本語学校）、玉名主任主任代理オッコーノル師（隈府主任代理）賜暇帰国、マッコーネル師（玉名主任）
スカボロ会
吉塚主任ショーツ師（長崎川棚主任）
オブレート会古賀助任ブレングビル師（日本語学校）

若き生命を日本のために
唐津でズワノニ師の葬儀

既報＝一一月二七日逝去した唐津教会主任セヴェリノ・ズワノニ師の葬儀は二九日午前一一時よりミラノ会日本管区長代理ジャンニ二師（山梨県菲崎主任）司式、マグリン師とサルデイ師補祭で唐津教会で挙行され、教区司祭約三〇名、信者、幼稚園々児と父兄らが若き生命を日本のためにささげた師の生前をしのびながら、最後の訣別をした。遺骸は同カトリック墓地に葬られた。

ズワノニ師は一九三二年イタリヤ・ミラノ県のモンサの生れ。ミラノ会神学校で勉学、四八年六月司祭になり、二年間ミラノ会小神学校で教鞭をとり、五一年四月来日。二年間日本語習得につとめ、五三年五月佐賀教会助任、五四年二月唐津主任となり、五九年七月から佐賀地区長を兼ね、昨年幼稚園を開設したばかりであった。

故ズワノニ師

▽▽▽▽少年侍者ら▽▽▽▽
大神学院を訪問見学

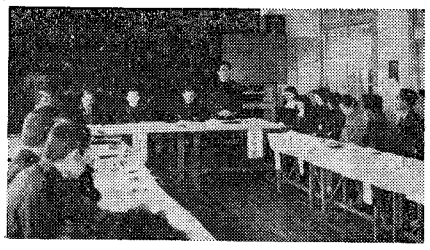
侍者として祭壇のそば近くで教会の聖なる儀式に仕えるのを誇りともよろこびともしている男子小中学生らが約一七〇名が、去る一一月二三日勤労感謝の日に福岡サンスルピス大神学院を訪問見学した。これはつねづね教会で司祭と親しくまじわっている子供たちに司祭職への召命をめざめさせるために、同神学院が昨年にひきつづき企画したもの。

福岡市の外、北九州各市、熊本、久留米、佐賀、伊万里、呼子などから各主任司祭に伴われて到着した子供たちは大神学生の案内で校内を見学、静かな聖堂で祈ったあと、ホールで演劇交換、子供たちも剣舞、合唱聖劇を神学生に披露、運動場では種々スポーツに興じ、三時半聖体降福式のあと深い印象をいだいて帰路についた。

SVP福岡中央総会
新田原教会で

SVPの第三三回福岡中央総会は一二月二日午後一時より新田原教会で開催、平田正喜師（指導司祭）ほか平田会長、四〇名の会員が出席、なお大分教区の別府協議会もはじめて参加、湯川教会はオブザーバーを送った。

会長挨拶、平田師講話のあと各協議会の活動報告、意見交換、懇談を行ない、四時半散会した。総会当日には間に合わなかったが、各協議会が数年来待望していた福岡中央理事会ならびに各協議会の設立承認書を、パリ総理事会から承認されたのは手取、島崎、大名、本年一〇月一日附で受領した。久留米、佐賀、新田原。（箱崎は昨年九月四日附で一足先に承認されている）。（写真はSVP総会）



崎津保育園表彰

崎津カトリック保育園（熊本県天草郡河浦町、園長ブレスリン師）は、一一月二三日熊本県下の給食設備最優秀の保育園として、県知事から表彰された。同園では子供の世話には訪問童貞会シスターが当っている。

スール・オーガスチン今田要子
シャルトル聖パウロ会八代修道院所属。一一月一九日午前一時永眠。四九才。昭和一六年初誓願。同二三年終生誓願。東京世田谷教会主任今田健美神父の令妹。

シスター・モニカ浦岡恵子
サンモール会福岡修道院所属。二二月八日午前九時永眠。二八才昭和三〇年初誓願。

謹賀新年

福岡司教 深堀仙右衛門

福岡邦人司祭地区
司教館附
大名町教会
浄水通教会
地行町教会
蓑島教会
西新町教会
茶山教会
大楠教会
高宮教会
吉塚教会
那珂町教会
箱崎教会
東田島教会
二日市教会
古賀教会
今村教会
本郷教会
久留米教会
大牟田教会
吉野教会
呼子教会
馬渡島教会
大神学校
小神学校
マリア会
聖パウロ会

深堀敏
浦口均
牧山重光
平山高明
七田善次
平田正喜
岩永義人
平田敬
平田惣五郎
黒川博
牧山藤房
平田勇
棚町正刀
青木功
デンケル
シュナイダー
山東龍雄
ショーツ
マクドナルド
ネーヴィール
ウイリアムズ
ベリボー
グリフィン
ドワイヤー
堤要吉
ハー
プレンダヴィル
糸永一
糸永武夫
山田成章
青木保
堤敏雄
牧山田一郎
畠山七郎
山川辰幸
畑原富雄
田清美
伊東誠二
ラプラント
ツルデ
ルエベ
ルズ
カイ
岩村清太
三村邦明
川口康頼
岩永薫
久松和右衛門
前田俊郎

北九州パリ外国宣教会地区
門司教会
小倉教会
湯川教会
戸畑教会
若松教会
天神町教会
黒崎教会
八王寺教会
本城教会
水巻教会
直方教会
飯塚教会
田川教会
行橋教会
新田原教会
トラピスチヌ修院附
門司天使の聖母修院附
八幡煉獄援助修院附
佐賀教会

佐賀ミラノ外国宣教会地区
多布施教会
多久教会
唐津教会
鳥栖教会
伊万里教会
鹿島教会
武雄教会
手取本町教会

熊本コロンバン外国宣教会地区
健軍教会
島崎教会
八代教会
人吉教会
玉名教会
隈府教会
荒尾教会
水俣教会
本渡教会
大江教会
崎津教会
琵琶崎修院附
少年の町附

アブ
モー
バイ
鵜野泰年
グロージャン
バス
キニ
ユー
ガイヤール
デシャ
ベルトラン
ラバル
トブ
フイリベール
ドル
エル
リエ
パルス
カレル
ドレ
ベニエ
ボンカズ
デュノワイエ
ペンクレシユ
ベルトラン
マグリン
サルヴイン
ルチ
アックワビ
バ
ズブリリオ
サルデ
テンペリーニ
ガッザルデイ
ブレンチフィルド
ドンフ
ユンカンフー
ダイモンド
ギャラハー
オーエンド
ヴアイン
オッカナー
ドノフー
ベカー
ハンター
ドライ
パワイル
ブレスリー
ブルン
ベルク
ラス

新刊
『これからの教育』
一五〇円
小出教育学の真髄。
各界代表の問題提起に対してカトリック哲学・心理学・教育学の立場から、明快な解決のヒントを与える書。
切手同封左記へ御注文下さい。
広島市石見尾町
テレサ出版部

医療法人雪の聖母会経営
井手医院
院長 井手速見
診療科目 内科 放射線科 小児科
久留米市日吉町十六番地
電話 二一七五番

聖マリア病院
院長 井手一郎
副院長 佐藤謙治
外科医長 津留水城
診療科目 外科 内科 小児科 放射線科 精神科 神経科 歯科
健康保険、国民健康保険、生活保護法 労災保険、未熟児養育施設 指定病院
久留米市津福本町西鉄試験場駅前
電話 五八〇〇・八〇〇〇番

看護婦（正・准）募集
履歴書持参・午前中面談

カトリック教理

聖霊、使徒たちの上に降臨し給う

キリストの昇天から一〇日目朝九時頃、使徒たちが皆いっしょに集っていると、突然、天から烈しい風が吹いてくるような音が聞えて、かれらが坐っていた家にみち、火のような舌があらわれ、分れて、おのおの上にとどまりました。ふしぎな音を耳にして近所の人が集まってきますと、ペトロが立って声を開き、恐れず情熱をこめて、何が起ったかを説明しました。世界各地から来ていたかれらは使徒たちが、それぞれの国語で話すのをきいて、おどろき感嘆しました。

一、智恵を照らし給う

1、イエズスはみ教の深い意味をよく説明なさいましたが、使徒たちはなかなか理解できませんでした。「まだいうべきことは多いがみなさんは今は聞き分けることができない」と主は申されたことがあります。所が聖霊が下ると、前に教えられたことの意味が明らかになり、忘れていたことも思い出されました。

2、使徒たちが特に理解に苦しんだのは、御受難、御死去、御復活の神秘でしたが、天よりの光によって、救主が苦しみをつけてのち光栄に入るべきであったことが明らかになりました。

3、ペトロらは理解できたことを今度は少しのためらいもなく、人の心にくい入るような強さをもって説き始めました。

二、心を強め給う

さらに驚くべきは使徒たちの心の変りようです。イエズスが捕われたときペトロは逃げ他の者も家に隠れ小さくなっていました。しかし聖霊に強められると、堂々と恐れずに相手の過失を指摘し「お前たちは異教者の手をもってイエズスを十字架につけて殺したのだ」となじります。権力者の前でもそうです。おどされ、話すのを禁じられても屈しません。「われわれは人間に従うよりも神に従うべきだ」と恐れずやり返します。

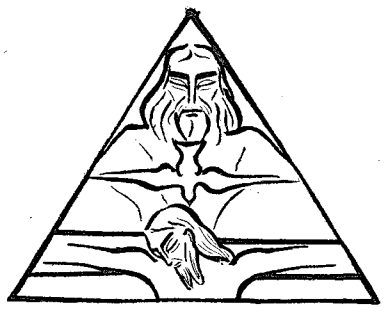
三、魂を聖化し給う

新しく信者になった人たちは使徒たちと一所に生活しましたが、そのグループに加わった人は、そこにみなぎる聖なるふんい気に目をみはりました。かれらは兄弟姉妹のように心を一つにして相愛しミサのお祭をささげていました。人々の魂を聖化し愛によって生きる力は、聖霊によって与えられたのです。

実行
聖霊があなたの上にもその豊かなおめぐみをもって下り給うよう、毎日おねがいしなさい。

聖霊は御父と御子と同じく神にて在す

主は死去の前晩、弟子たちと過越の食事を共になされ、愛の極みをお示しになり、かれらも今まで以上に、主に対し愛と親しみを感じました。やがてご自分が御父のもとに帰ることを打明けになったので、弟子たちの心は悲しみにおうわれました。そのときもう一つの神秘が明らかにされました。「私は御父にもうひとりの弁護者を下さるよう願おう。御父が私の名によってつかわし給う弁護者なる聖霊は、私が教えたことをすべて教え、思い出させて下さるであろう。」



一、聖霊も神にて在す

キリストが御父のもとにお帰りになったあと、弟子たちがひとりぼっちにならないよう、導き、慰め、支える新しい助け主なる聖霊が与えられました。

聖霊とはどんな方ですか。御父や御子と同じ神にて在す。聖霊は弟子たちの心に働きかけて、キリストが教え給うたことを教え、話されたことを思い出させになりました。またかれらの魂を照らし強め愛の火を盛んになさいます。真の神であられますから弟子たちは聖霊を礼拝し賛美いたしました。

二、御父と御子より出で給う愛

1、聖霊は、キリストの洗礼のとき、鳩の形で現われになりました。鳩は愛と平和のシンボルで、御父と御子のおたがいの愛が聖霊です御父は永遠の愛をもって御子をながめ、御子も光栄の王なる御父を限りない愛をもって愛し給う。御父と御子の間の永遠の愛そのものが神なる聖霊にて在す。だから私たちは「主と聖霊と共に、世々に活きかつ統治し給も神、御子、われらの主キリストによりてアーメン」ととなえます。

2、永遠の愛にて在す聖霊は、この地上でも愛の火を点じ給います聖霊によって私たちも御父、御子を愛することができます。また愛の火が私たちの心にともっていますので、御父は私たちを親しく「わが子よ」とよび、御子も「愛する弟、妹よ」とよび給うのです。私たちも御父には心から「お父さん」、御子には「愛するイエズスよ」とよびかけることができます。

3、愛による生活―私たちは今、神の愛に生かされています。この愛が私たちを神に対する愛、人々に対する愛の実行に燃え立たせます。

聖霊によって神と隣人を愛するときはじめて、私たちは神を本当に知り、新しい命をもつことができます。なぜなら

「神は愛にて在す」からです。

「愛する者は神より生れ、神を知るもの」だからです。

実行
「聖霊来り給え」の祈を知っていますか。度々「聖霊来り給え、信者の心に満ち給え、主の愛熱の火を燃えしめ給え」と祈りましょう。

教会における聖霊のはたらき

一、中国の村で

夕暮も近い頃、年とった二人の男が車をひいて中国のある小さな町にやってきました。露地の奥の貧しい家の軒先に立ってあたりを見廻し、誰も見ていないのを確かめそっと声をたてくとやがて内から老婆が顔をだして二人をながめ小さな舌で「司教さま神父さま、ようこそ」といってすぐ家に入れました。

仕事場らしい所にはもう司成の数の信者たちが集って祈をしており、一番前の列には今晩、洗礼と堅信をうける大人や子供がいます。

司教は、一同の顔をみつめながら、ゆっくり話しをはじめます。

「今まで神さまはあなた方の心にふれ、照らし力づけて下さいましたが、これからは両手にあふれるほどのおめぐみをもって、心の中にまでお入りになります。迫害をする人よりもはるかに力あるお方、生ける神さまの子供になるのです。聖霊は清い愛をもって皆さんの心を燃やそうとしておられます。無神論者によって支配されているこの国は冒瀆と罪で一杯ですが、世の光である皆さんの心からは、神への愛が立ちのぼり、隣人をも愛で包まねばなりません。でも自分の力だけでは不可能ですから、聖霊は、皆さんの心のうちにお宿りになり、愛のおくり物を下さろうとしておられます。

二、聖霊の賜

「堅信をうける方は聖霊の七つの賜を大事にして下さい。信仰の根を深くはるために上知と聡明の賜を、司教、司祭に相談するのがむつかしい時ですから賢明の賜を、いつ信仰のため投獄されるかも知れませんから剛毅の賜を、誤と真理を見わけて悪にあざむかれないために知識の賜を、いつまでも神に結ばれて離れないために孝愛と敬畏の賜を、保たねばなりません。「肉体を殺すことができるがそれ以上のことはできない者を恐れるな」。皆さんは事を審くために主が光栄をもって来り給う日をよろこびのうちに待っているのです。」

司教さまは洗礼と堅信の秘跡をさずけ、新しい信者は、はじめて主の御体を拝領しました。

三、教会を導く聖霊

やがてこの信者たちはそれぞれの家庭と職場にもどってゆきます。炊事場で働きながらこっそりと投獄された信者に聖体を運んだり、病人や貧困者を助けたりすることでしょう。すでに無理な裁判をうけて殺された人もいます。しかし聖霊はひとりひとりの信者に必要なお助けをめぐみ、勇気をもって愛徳を実行し、神の国のために働かせになります。

迫害の時代には聖霊は平時よりも多くおめぐみを下さいます。が全教会において、いつどこでもお力をあらわしになります。「かれ世の終りまで、みなと共に留まり給うであろう」と主は申されました。そのおかげで教会は信仰の教を誤る事はありません。特別の照らしがあるからです。教会はいつも聖人がたえることはありません聖化のおめぐみがあるからです。

聖寵とはなにか

今まで見てきたように聖霊は、教会において司教、司祭、信者を通して働き給うのですが、聖霊が与え給う賜やおめぐみを聖寵と申します。

一、どこから

聖霊降臨の日、聖寵は天国の神のみ心から下りました。だから神の超自然のめぐみと申します。

犬は目、脚、嗅覚など自分の本性にふさわしい能力を与えていますが、理性はもちません。犬は考えたり話したりできません。理性は犬の本性を超えたもので犬にとって超自然的なものです。もし人間が天使の知恵を頂けたら、これもやはり人間の本性を超えています。しかし聖霊のおめぐみはこれよりずっと超自然的なものです。なぜならこれはいかなる被造物も人間も天使も自分の本性によって所有できず、ただ神にだけ属するものだからです。

聖寵は神の賜で、誰も自分で手に入れることはできず、ただ謙遜に待ち、神が下さるなら感謝をもって頂き、熱心にお願いするだけです。神の純粋な愛のおくり物だからです。

二、

聖寵は目に見えません。使徒たちの上に聖霊が下し給うた賜も、全く内的なもので、手にふれるような宝物でありません。しかし心を照らし力める新しい力であり、命あるものです。丁度、戸をあけて入り、仲良く語り、慰め、力づけてくれる友のようなものです。聖寵をもって神は私たちのそばに親しく近づき、心のなかに入って休み給うのです。

聖寵は神のめぐみですが、天地の主にて在す御父が、どのような聖寵を誰に与えるかを、永遠のご計画によってお定になります。

私たちが超自然のめぐみを頂ける資格をえて下さったのは、十字架で死し給うたイエズス、キリスト、神の御子です。十字架の功徳によって私たちは、聖寵をうけられるようになったのですから、教会は祝別をしたり秘跡をさずけるときに十字架の記しをします。次にこの聖寵を私たち各自に分配なさるのは、聖霊です。聖霊は天よりの聖寵をもって、私たちの心のなかにおいでになります。

三、なんのために

なぜわざわざ神は聖寵をお与えになるのですか。私たちはまだこの地上に生きているのですから、健康、強い筋肉、知恵、その他の能力さえあれば充分でありませんか。

いいえ、私たちは天国にゆかねばなりません。神を信じ、愛し、神に似たものになり、すでに今から神の子供にならねばなりません。この地上で財産をもち、幸福な金持ちの生活をするためでなく、永遠のたすかりを頂くために、聖寵をお与えになるのです。

四　聖寵の必要

私たちはひとからおくり物を頂くことはうれしいことです。しかし時にはいらない物をもらうこともあります。では聖寵のおくり物も余計なものでしょうか。

「私は馬鹿じゃないし、意志も生れつき強いから、聖寵がなくても自分で天国にゆけるだろう」と主張した人がいます。これはうそです。誰も歩いて太陽まで登ることはできません。まして自分の力で「近より難い光」にて在す神にまで達することはできません。

海の真中で難破した人を助けるためにヘリコプターが来ましたがヘリから救命綱を下してもらわねば、助かるわけがありません。同様に、神が御手をのばして下さらなければ…。「われをはなれて汝ら何事をもなす能わず」。聖寵がなければ、神の愛を語ることも、たすかりのために功徳ある業をすることもできません。

実行
けんそん―あなたは、神さまの聖寵がなければ、たすかりのために何もできないことを考えて、心からけんそんになりましょう。
感謝―これまでに神さまが聖寵をもってあなたのうちになし給うた数々のみ業を考えて感謝申しあげましょう。

つつしんで新年のおよろこびを申し上げます

新刊紹介

わが母の面影
ジャン・ギトン著
岳野慶作訳　¥四〇〇
（中央出版社）

若き日のために
―理想の学
愛の真理とは何か―
小山信夫著　¥三八〇
（中央出版社）

キリスト教の社会理念
飯島幡司著　¥九五〇
（朝日新聞社）

聖パウロ書院とともに
岩田屋百貨店七階の文具部に常設のセント・ポール・コーナーのご利用をお願い申し上げます。

大名町　聖パウロ書院
岩田屋六階
セント・ポール・コーナー

読書

カトリック長崎のハンドブック
長崎の殉教者
片岡弥吉著

長崎のわが国キリシタン史における役割の大きいことを考えると、当然のことながら長崎をのぞいては、わが国キリシタン史を論ずることはできない。

長崎の殉教者という書名であるが、それは、長崎を通してみた日本キリシタン史ともなっている。数多くの、しかも無名の殉教者たちの血によって、朱に染められた長崎県のキリシタン聖地は、栄光の土地であり、わが国の宝庫でもある。長崎といえば、観光ポスターにでも天主堂がえがかれるが、そんなところが日本のどこにあろう。

長崎の信者は、他の地の信者とことなって、一種何かくさ味があるともいわれる。にもかかわらず七代にわたって、迫害のひどい風にも屈せず、脈々と信仰を守りつづけてきた人達の子孫のうちには揉がない信仰の土性骨がある。世のどんなことよりも信仰の方を大切にしてきた人達の貴い血潮が流れている。殉教や何番崩れといわゆる旅の物語を聞いて育った人々には、一見淡々とした生活の中にも、何ものも抑圧することのできない、たくましい信仰の精神がにじみでている。

本書は長崎の殉教者達を地域的に五部（ザベリオと平戸、大村領のキリシタン、長崎とキリシタン有馬領のキリシタン、五島のキリシタン）にわけて、歴史的順をおって敍述したものである。天正遣欧少年使節のことも、日本二十六聖殉教者のことも、大浦や浦上天主堂建立のことも、信徒発見のことも、島原の乱のことも、女部屋の成立のことも、わずかな〈ページの中に要領よく書かれている。本にすれば、ゆうに大部な書になると思われるような一人の殉教者や信者のことが、わずか数行が一ページたらずに凝縮されて、敍述されている。

「岩永マキは本原郷平の生れ、浦上四番崩れによって明治二年岡山に流されたとき二十二歳。瀬戸内海の鶴島で饑えと説得に悩まされながら、毎日穴坪の開墾を割り当てられ、苦労の限りをつくしながら信仰を守り通して、明治六年浦上に帰った。三年半、全村が空虚になったため、田畑は荒れはてていた。三千余人帰郷した村民たちは、農具も食物もなく、陶器のかけらで畑を耕し、虫のついたカンコロを生のまま水にとかして喰べるというような苦労を重ねて、秋の収穫を迎えたのも束の間、赤痢が浦上に拡がった。この二一〇名の患者の救護に乗りだしたド・ロ神父を助けたのが、岩永マキらの四名であった。マキらは赤痢患者の家を廻るので、わが家に帰ることができず、高木仙右衛門の家を借りて合宿した。赤痢がやむ間もなく台風におそわれ、農作物は全滅、家屋は倒壊という惨状になった。マキらの活動がまた始まる。引きつづき港外の島々に天然痘が流行し、師とマキらはまた救護にあたった。マキは天然痘で両親を失ったタケという孤児をいだいて浦上にかえった。相つぐ災難に続出した孤児を育てるという仕事が、またマキの新しい天職となった。マキら四名の処女たちは、合宿所において師の指導をうけ、修道者のような生活をした。これが女部屋で、正式の修道会となったのは昭和三十一年のことである。マキは大正九年一月二七日、七二歳で逝去、こうらんば墓地に葬られた。マキとその同志たちの側に高木仙右衛門の墓がある」

著者は純心大学教授、わが国屈指のキリシタン研究家、特に長崎のキリシタンについては右に出るものはないだろう。ともすれば信仰の部外者によってなされる学問的キリシタン研究とか、ロマンチックなキリシタン文学研究とは違って、信仰の血の気が行間にかよっている、香り高い読み物である。

（角川新書　二一〇円）

カット・木原　保

――わが旅行記――

太陽を背に（三）
ペトロ

セーヌの流れ静かに、マロニエの葉かげさわやぎ、まこと詩情あふるるパリ。といっても、パリにも生活がある。日本を発つ前に、ある神父さんから、パリで日本人に会ったところ、マロニエの葉というのは、どれですかと一生懸命に探していたという話を聞かされ、その笑い声が耳に残って、「木を見て森を見ず」の愚をくりかえすまいと、決心はしていたが、パリは、あまりにも偉大であった。美の街、「モナリザ」はルーブルの一隅で永遠の謎を秘めた微笑をたたえ、学術の街、ソルボンヌはパンテオンのそばにあって十三世紀以来の大学の伝統を誇り、歴史の街、そうパリは歴史の街でもあった。歩道に面した家の壁に大理石をはめこんで、そこには「一八四八年二月〇〇日、警官〇〇〇氏、祖国愛のために、ここで殉職す」といったような碑がよく見られた。時には可憐な花がかざられていたりした。二月革命の暴徒の兇弾に倒れた警官であろう。街を歩いていて、ふとこういった碑が眼につくと、一瞬、頭の中で街中に暴徒があふれ、怒号喚声の中に銃声が響きわたる、革命の様子が想像されてきたりした。革命といえば、教会の石像の中で、首のないものをよく見うけた。暴徒が石像を斬首刑にしたというか、首をはねたのだということだ。パリの方々には、ヨーロッパのすべての都市と同様に古い、あるいは由緒ある教会が散在している。折りをみては、地下鉄を利用して、こういった教会を巡り、旅の疲れをいやしたりしたり。

パリの地下鉄は、蜘蛛の巣のように四通八達し、何処に行くにも便利だし、そして全線同一賃銀で行ける。主な駅の入口には、地下鉄全線の地図があり、その地図の下には、各駅の一覧表があってそれぞれの駅名の処に押ボタンがある。自分の行先の駅名をアルファベット順で、その表から見つけだし、ボタンを押すと、地図の方に、自分が今いる駅から目的の駅までの間に点と豆電球がついて、そこから何番目の駅か、途中で、どこで乗りかえるかが一目でわかる仕組みになっている。こうして地理不案内な私は、いつも地下鉄のお世話になった。

ある日曜日、地下鉄を利用してサン・スルピス教会に行った。この教会には世界的に有名なパイプオルガンがある。そして、毎日曜日、午前十一時四十五分からのミサの時に、これも有名なオルガニストのマルセル・デュプレが演奏する。大きな聖堂は信者で一杯だった。オルガンの演奏はすでに始まっていた。素晴しい。しかし音響効果は、日本でステレオを聴いた時の方が良かった。低音が響きすぎる感じだ。ミサ中続けて演奏されると思っていたら、ミサが始まると途端に終った。しかしミサはオルガン以上に素晴しかった。会話ミサである。栄光誦、信経を全員が司祭と声をあわせて、ラテン語で誦える光景は、黙示録中の小羊をかこむ賛歌を思わせる。ミサの牲の前には、世界的なオルガニストも手を休め、静かに跪かねばならない。ミサと演奏会をとり違えるとは不見識だ。しかし、そういう不見識な者が、少なくとも一人はいた。「主よ、われは不肖にして」の祈りを信者全員が三度誦え、つぎつぎに聖体拝領に立っていく。静かな主日の聖務であった。

別の日、またモンマルトルに出かけた。ここはいうまでもなく歓楽の地である。夏の朝の暑い日差しをうけて、夜の街はまだねむっていた。それでも広場には、百人ばかりの絵描きをかこんで沢山の人がむらがっていた。どうせ糧を得るための絵だと思って見ていたがドイツ婦人が絵を買った。だが値切った途端に、画家は絵を取り戻して、プイと横を向いてしまった。やはり彼は芸術家の誇りを持っていたのだ。広場をすぎたところに、有名な聖心の聖堂がある。中に入ると永久聖体礼拝を行なっている。何のためだろうと思ったしかし、私の側の柱にはこう書いていた。「一八八五年八月一日以来、この聖堂内で昼夜を分かたず聖体が顕示され、礼拝が行なわれている……」と。この聖体礼拝のためには、何の組織もないとのことだ。七十七年間、一瞬の中断もなく、善意の人々によって、この永久聖体礼拝が続けられてきているのだ。歓楽の地モンマルトル、その丘の上の大聖堂では、固い信仰の炎が燃えつづけている。「主の聖心よ、彼らの心にあなたのおん血の一しずくを注ぎたとまえ」

俳句

怒涛　河豚の座と知らず侍りし博多宿
風声　冷え込みの激し陶房残葉す
牧泉　講堂に大馬小屋や聖誕劇

典礼シリーズ
㉒ 生者の記念・聖人の代願
ラプラント

ミサは教会全体のいけにえですから、典文中、生ける人の記念のところで戦闘の教会のために殊更に祈り、コンムニカンテス（聖なる一致において…）の祈の間、勝利の教会に代願を求めるよう典礼は命じています。聖変化のあとには、苦悩の教会のため特別の祈り死せる人の記念をいたします。

生ける人とは誰のことですか

教会の最初の八世紀間は、いけにえの材料（パン、ブドー酒、ローソクなど）をささげた人のためにだけ、生者の記念をしていました。だから古いミサ典書のなかには「この賛美のいけにえをおんみにささげる者」という言葉だけが記されていました。

しかし第九世紀以後は、ミサにあずかっている一般の信者やそこにいない人のためにも、記念をとなえる習慣がひろまりました。シャール大帝の有名な典礼学者であったアルクイノは、八〇〇年頃、「その人々のためにも我らはおんみにささげ、あるいは…」という言葉を力リア・ミサ典書につけ加えました。

このつけ加えは、ミサの功徳を多くの人に広く分つことになるので、利益の面もありますが、別の面からは、初代教会の信者のあの無私無欲な、純粋な礼拝精神をそこなうことになります。かれらはミサを、ここにとなえるように、専ら「賛美のいけにえ」と考えたのです。（詩四九の14）

名前の表

ミサのためにささげものをした人の名前は、ディプチックという名簿板に鉄筆で記されました。これはたて二五センチ、よこ二二センチほどの、木か金属の二枚板の上に蠟（ろう）をひいたもの。二枚の板は帯金で合せられて本のように開閉ができ、金や銀で芸術的に装飾されたものが多く、蠟の代りに金箔や象牙の薄板を用いたものもあり、この場合には、ささげものをした人の名前やコンムニカンテスの聖人たちの名前が、恒久的にほり込まれていました。

名前は助祭が大声で読み上げたので、司式司祭は終るまで待ちました。時にはリストが極端に長いこともあり、ルーブル博物館所蔵のバルベリニのディプチックには三五〇の名前が記されています。第四世紀に始まったディプチックの習慣は、第一三世紀に完全に姿を消しました。

心構え

私共は司祭と一緒にミサ典書のNとNの文字の所で、特別に祈ってあげたい人の名前を心のなかで名ざすようにしますが、それには英国のサリスブリーのミサ典書が指示しているように、まず近親者友人、そしてよく知らない他の人々というように、愛徳の順序に従い、また余り長くならないようにすべきです。余り長いとミサから気を散らすことになるからです。ブルスフェルドのドイツ儀式書は潜心を助けるために、司祭は目を閉じるように勧めています。こうすれば私共は、聖パウロのいう生ける真の神に（テサロニケ前一の9）友人たちの安全とたすかりをもっと熱心に願願することができます。（詩四八の八）。

コンムニカンテス

この祈りで、私共は勝利の教会と一致し、すべての聖人たち特にここに列挙された二六名の聖人らのご保護を祈ります。第一は童貞聖マリア（第五世紀以来）、次に聖ヨゼフ。これはヨハネ二三世教皇の命令で一九六二年一二月八日からとなえられていますが、全教会の保護者、聖マリアの浄配、現教皇の霊名の聖人である聖ヨゼフを尊崇するためです。そのあとに聖マチアスを除く一二使徒、終りに一二名の殉教者がきます。

なぜほかの聖人の名をとなえませんか

それは教会が私共の信心をみちびき、きりなしにリストを読み上げるという行きすぎを阻止するためです。現行のリストは、大聖グレゴリオ教皇が決定したもので、キリスト教世界の母教会であるローマの教会に、私共の注意と信心を集中しています。一方には教会の柱である一二名の使徒、他方にローマで殉教し、とくにローマで崇敬されている一二名の殉教者。

この殉教者は、聖なる階級順にあげられています。五教皇、一司教、二聖職者、四信徒。一二使徒という聖なる数字に対して、殉教者の数も一二にしたのでありましょう。

中世期には、ローマ以外のいくつかの司教座聖堂では、自分の所で大いに崇められている他の聖人たちの名前をもとなえていました。例えばフランスでは聖マルチノ、聖ヒラリオ。アングレモでは聖アウグスチノや聖エロニモなど。ミラノ式典礼には今日でも一二名以上の聖人をいれています。

個有のコンムニカンテス

典礼暦年中の聖木曜日と五つの大祝日では、コンムニカンテスの最初の部分が長くなっています。その日の玄義を思い起させる言葉がつけ加えられ、私共をその玄義の精神に一致させます。これら個有の附加部分は、第六世紀に始まったものです。

× × ×

コンムニカンテスをもって取次の祈りの第一の場面が終ります。だから終りに「われらの主キリストによって、アーメン」という言葉がそえられました。（第一三世紀頃）東方典礼にもこの取次の祈りがあって、とくにコンムニカンテスの部分はシリア、ビザンツ、聖ヤコボの典礼と私共のとは、ほとんど同じです。

二つの祈りは（生ける人の記念とコンムニカンテス）は教会全体のひろがりにまで私共の心をひろげるものですので、非常に大切な祈りです。この精神をもっと現わすため、第一五世紀から一六世紀頃のフランス、ドイツのミサ典書には、すべての聖人に対する崇敬のため、ここで跪礼をするように規定してありました。

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　四八〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　六五〇円
コンサイス英英辞典　四五〇円
デイリーコンサイス英和辞典　六二〇円
新クラウン英和辞典　D縮刷版　四七〇円
ジェム英和・和英辞典　革　五五〇円
最新明解英和辞典　革　八五〇円
初級クラウン英和辞典　革　六五〇円
初級コンサイス英和辞典　革　三三〇円
初級コンサイス和英辞典　二〇〇円
三省堂独和新辞典　一五〇円
コンサイス独和辞典　五五〇円
コンサイス仏和辞典　五五〇円
コンサイス露和辞典　七五〇円
日西辞典　二、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、五〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、二〇〇円　二、〇〇〇円
新版広辞林　一、三〇〇円
明解古語辞典（改訂版）　四八〇円
明解国語辞典　四三〇円
三省堂国語辞典　四三〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　三〇〇円
大明解漢和辞典　八〇〇円
明解漢和辞典　四〇〇円
三省堂大六法全書　一、三〇〇円
模範六法全書　四三〇円
明解六法　一五〇円
学習百科事典（新版）　一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　六五〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

SSD
三省堂　福岡出張所
福岡市向田町九ノ三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十円

三聖人の列聖式挙行

一二月九日、教皇自らの司式で

ヨハネ二三世教皇は、第二ヴァチカン公会議第一会期終了の翌日サンピエトロの大聖堂で列聖式を壮厳に司式した。新聖人はイタリヤ人カプチン会修士フランチェスコ・マリア・クロエゼ（一八〇四―一八六六）、イタリヤ人、聖母マリア下僕会司祭アントニオ・マリア・プッチ（一八一九―一八九二）とピエール・ジュリアン・エイマールの三名であるが、いまわれわれは聖エイマールの生涯を簡単にたどってみることにする。

生い立ち

フランスの新しい栄誉となった聖ピエール・ジュリアン・エイマールは、一八一一年二月四日ドフィネ県のラミュールに生れた。ナポレオン一世が最盛期を誇っていた頃である。両親共に模範的信者で、とくに母親は聖体に対して並々ならぬ信心をいだいていた。かの女はどんなに忙しい日でも聖体訪問を欠かすことがなかった。将来の聖体礼拝会の創立者に、聖体への熱愛をはじめて吹きこんだのは勿論この母である。そのせいか五才になったばかりのピエールはある日こっそり祭壇の上に登り、聖ひつの扉に頭をつけていた所を人々に発見され、どうしてそんなことをしたのかと詰問されて、その方がよくイエズスさまのお話がきけるから、と答えて一同をおどろかしたというエピソードが残っている。

初聖体の日をかれは一日千秋で待ちのぞんだが、当時の習慣で満一二才まで待たねばならなかった。しかし一度それが与えられると、周囲のつぶやきをよそに司祭の許しをうけて毎日曜、拝領台に近づいた。

司祭をあこがれて

少年の心に司祭職へのあこがれが燃え上ったのもこの頃である。しかし父は家業をつがせるつもりだったので、ラテン語の勉強を許してくれなかった。かれは悩みを聖母献身会の神父に打明け、二人がかりで父親を説伏せて、その会の修練院に入ることができた。一七才のときである。

修練院でかれは、信心と勉学に余り熱中したので健康を害ね、数ケ月ごに家に帰されてしまった。司祭職への望みがこれで切れたわけではない。父親の死後、今度はグルノーブルの神学校に入学させてもらった。

一八三四年二三才で念願の司祭となったかれは、まずシャットの教会の助任に任命され、三年間とくに説教と告白をもって信者に奉仕した。それから信者数四五〇のモンテナルの主任司祭に任ぜられたが、ここは大革命中に牧者を失い、宗教上の無知もあって、教会堂は荒れ放題、信者の熱心も枯渇して、まことに悲惨な状態にあった。

かれはまもなく信者の手をかりて神の家を美しく修理したが、それにもまして信者の心をつかんだのは、その敬けんな祈の態度、清貧の生活の模範であった。また病人や貧困者をあわれみ、自分の中食さえ恵んでしまうので、炊事の妹もほとほと根をあげていた。

修道生活

こうしているうちにかれの心には、修道生活へのノスタルジアが強まっていた。当時コリン神父が創立したマリスト司祭会のことをきいて、司教に無理に頼みこみ入会の許可をつけた。

リヨンでの修練がまだ三月にしかならないのに、総長はかれをベリーの同会神学校の霊的指導師に任命、五年のちにはリヨンの管区長、総長補佐にあげた。かれはこの頃、信仰弘布会の主唱者ポーリヌ・ジャリコ嬢と交わり、外国宣教をあこがれた。またマリアの第三会の指導に当っていたときに、当時のアルスの主任司祭聖ヴィアンネーと知り合った。

教育者、使徒

ついでかれは会のある高等学校の校長につけられたが、学生の知的、道徳的向上に最大の効果をあげることができた。物理学、博物学の内容を充実させ、海洋学の特別講座を開き、理工科大学への予備校も作った。それ以上にかれは青年たちの慈父的指導者として生徒を愛し、また生徒からも慕われたのである。

教育者としてだけでなく、使徒としてもかれは司祭的使命を高度に発揮し、多くの徒刑囚を牢獄に訪ね、クリミヤ戦役に出陣する兵士らの心の友ともなった。

この頃、かれは新しい神のご計画を感じていた。一八五一年フルビエールの巡礼地で祈っているとき、聖体にささげられた特別の修道会の創立を、神が望み給うことを悟ったのである。かれはこの考えが、真に神よりのものであるかを確めるために、パリの総長と天司教に打明けて相談した。

創立者

聖体を礼拝し、聖体について人々に教えることがこの会の主要目的である。大司教は会が純粋に観想修道会の性格をもつと判断したので、容易に許可を与えなかった。しかし会が、子供たちの要理教育に尽力し、小教区をも受持つはずであると聞いて、今度は双手をあげて賛成した。

志願者は少しづつふえていったが、有名な彫刻家ロダンも一時、修道者たらんとしてかれのもとに起居したことがあった。

師はまた、聖体をたえず礼拝し聖体的使徒業を行う観想修道女会も創立した。かれ自身、多忙の身であったが、センモーリスに建てた修練院に引きこもって、心ゆくばかり聖体の前に祈ることを、こよなき楽しみとしていた。

かれの修道会はピオ九世教皇によって認可されたが、一八六八年七月、健康を害ねて故郷ラミュールに静養にもどる途中、八月一日聖なる生涯を神のみ手に返した。

一九二五年ピオ一一世教皇がかれを福者の列に加えた。

聖体礼拝会の修道者は一六〇〇名、修道女は六〇〇名を数えている。

おとめは　御子を　み手に　たず
さえて　神殿に　のぼり給えり

聖体礼拝（二月）

第一日曜　古賀教会
第二日曜　浄水通教会
第三日曜　小倉教会
第四日曜　健軍教会
大濠訪問会

祈禱の使徒会（二月）

【一般意向】公会議の参加者が一致して、教会の最善を図るように
【布教意向】新しいアフリカ諸国の支配者のため

光の世界

証人

二月五日は日本二六聖人殉教者の祝日である。慶長二年（一五九七年）秀吉の禁教により長崎の西坂の丘でペトロ・バプチスタ神父、パウロ三木修士らを始め二六名が、殉教を遂げられてから三六六年目に当る。

殉教者のことをギリシャ語ではマルトスというが、これは証人という意味であり、初めはキリストの生涯と、その復活の証人として使徒達を指していう言葉であった。後にこの言葉は、キリストへの信仰を敢然として表明し、いかなる困難、迫害にも一歩も退かず信仰を守った信者に対して用いるようになった。当時、異教の国ローマでキリストの信仰を宣言することは死を招くことであったが、キリストの御言に従い、その真理たることを身を殺して証明した人々のことをマルトス証人と呼び、そこからまた殉教者を意味する言葉となった。愛する者のために、そのもっている最も良いものを失い、最も恐るべき責苦をも耐え忍ぶことは、実際ひとが誰かを最も深く愛していることの証拠である。ところで世の人々にとって最も大切なものは生命であり、死に対しては殊に暴力による死に対しては本能的な嫌悪と恐怖とを感ずるものである。従って、どんな死の危険に脅かされても、しめされた神の教を守り抜く殉教者は、神への愛を最大限に示す証人であり、その信仰と愛の故に教会は最も深い崇敬を表わすのである。キリスト様は「誰もその友のために生命を捨るより大なる愛を持てる者はあらず」（ヨハネ一五の13）と仰せられた。殉教者はまた、人間には快楽よりも財宝や名誉よりも、いな生命よりも尊き価値の存在すること、人間の最上の幸福は神の裡に生きることであるとの証し人である。

二六聖人の中にルドビコ茨木という二才の少年がいたが、長崎奉行の寺沢氏は、その年少なのをふびんに思い、自分の養子にし武士に取り立てることを約して少年の意をひるがえそうと努めた。しかし少年はすきゆく地上の栄華に振り向きもせず、ただ一言「天国」とのみ答え「人もし全世界をもつともその魂を失わば何の益かあらん」（マテオ一六の26）とのキリスト様の御言の証し人としてその魂を神の御手に返した。

それらの人々の剛毅さと堅忍さが、偏執狂者や狂信者に見られ勝ちな傲慢や憎悪や偏狭さに陥らないで、反ってその両極のように見える柔和や謙遜や賢明によって飾られた美しい徳の調和を保っていることは、殉教者を狂信者や偏執者の熱狂と区別する一つの大きな徴となるであろう。殊に己れを迫害する敵をも赦すひろい隣人への愛は、神からのものであることを示している。聖ステファノは石殺の刑に遇いながらも死にのぞんでキリスト様に倣い祈った。「主よこの罪を彼らに負わせ給うことなかれ」と（使徒行七の60）

昨年パリーでベルナノスの「カルメリットの対話」という戯曲が上演され、成功と大きな反響を呼び起した。その主人公は繊細な感情の持主であり、血醒さいフランス革命の風におののいている貴族出身の小心な修道志願女である。その会話を通じて内心の苦悩と恐怖とがよくにじみ出ている。遂に彼女は修院を去り家にかくれるが他の修道女達が信仰の故に処刑される日彼女もまたとって返し、自分の信仰を表わし、ギロチンへの階段を昇ってゆくとこで終るが、ベルナノスはその中で神の恩寵こそはこの繊細な感情の持主、弱いものに化したのだといおうとしているようである。これはコンピエーヌの殉教を背景とした戯曲であるが、事実ローマのフェリチタもまた、その殉教の数日前、出産の苦しみにあって獄卒から嘲笑されたとき苦しみを耐え得なかったおのが弱さを認めながら「でもその時には私の中に他のお方がいらっして、私の耐え忍び得ないことも私のために耐えて下さいますから……」と殉教には神の特別な助けのあることについて答えている。

時代と場所と環境を異にする老幼男女、学者、無学者あらゆる階層の幾万幾十万のこれら証人達は「一体何が彼らに……？」との深い反省を迫害者に呼び起し、多くの改心の機会となった。テルツリアヌスは「殉教者の血はキリスト教をあこがれた。信者の種である」とこれを云い表わしているが、それはキリスト様の「一粒の麦地に落ちて死せざれば一粒に止まるも、死すれば多くの実を結ぶ」（ヨハネ一二の24）との御言の証明に他ならない。更にこれらの証人の他に今日、世界中には生涯を神に捧げ尽して生きる二五〇万の司祭や修道者達がいる。彼らは、正当に享受し得る家庭の喜びも、世の名誉、快楽を一切おいて、ひたすら神のため生きようとする。彼らもまた神の証人といえるであろう。私たち信者はこんにち殉教に遇うことはないかも知れぬ、しかし信仰によって日々キリストの教を実践することにより、神の御言の証人になることができるであろう。「汝らは世の光なり。汝らの光は人の前に輝くべし。然らば人は汝らの善行を見て天に在す汝らの父に光栄を帰せん」（マテオ五の16）

平山　高明

リオ市でロザリオ十字軍

大会に一五〇万人が参加

ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ市では家庭ロザリオ十字軍の一〇〇万人誓約を期して、約二万人の信徒役員がキャンペンを行った。

家庭ロザリオ十字軍は、創始者パトリック・ペイトン師が昭和三四年一一月に来福して指導し、翌年の四月から五月にかけて実際の運動を展開したことがある。

リオ市でも四週間ひきつづいて誓約をうるための一大運動を起し最後の野外大会（ラーリー）には一五〇万の信者が参加した。

野外大会はカンデラリア教会で挙行されたが、これを報導した同市の一週刊紙は、ブラジルでかって見られた共同的信仰のもっとも感銘深い表朗の一つであったと述べている。

ペイトン師は大会の席上でこの運動が成功するために私は一五・〇〇〇のミザを神に約束し、リオ市の十字軍の全責任をわれらの主ご自身にとって頂いたと述べた。

なお師はこのときまでに、アメリカ、カナダ、ブラジルの友人司祭の助けで、約束のミザの三分の一を果した。

ペイトン師の他にヒギンス師とクイン師も小教区司祭の協力で十字軍のメッセージ（共に祈る家庭は共に留る）を市の各町角に掲示した。

ペイトン師はこれまでに三〇〇に近い教区で十字軍を指導して異常な成功をおさめているが、三年前のマニラ大司教区での大会には三〇〇万人がこれに参加したといわれている。

二月

二日（土）　聖母マリアのお清めの祝日

マリアとヨゼフは、律法の掟にしたがい、幼児イエズスを誕生から四〇日目に神殿にともない給うた。マリアは清めの式のあとイエズスを神なる御父にささげになったが、今日のミサではこのイエズスのご奉献の意味が強調されている。

われらも自分を神にささげるため、世の光なるキリストをうでのうちに抱き上げよう。

三日（日）　ご公現後第四の主日

キリストは奇跡をもって嵐をしずめ給うたが、奇跡はキリストが神の御子にて在すことを証明するしるしであり、また神が人間世界の上になし給う奇しきみ業の象徴とも考えられる。嵐をしずめ給うたキリストはわれらに真の平和をさずけ給うのである。

地行町教会で堅信

五日（火）　日本二六聖殉教者の祝日

昨年二六聖殉教者の列聖百周年の記念式にあずかったときの感激は、まだまだわれらの心に高鳴っている。殉教者の精神は、迫害のときだけでなく、全信仰生活を通じて生きていなければならない。「主よ、われらは一切をすてておんみに従えり」とのペトロの言葉をよく吟味しよう。

教区司祭月例集会日

一〇日（日）　七旬節の主日

教会の典礼上の暦によると、一年はご降誕祭の聖節と、ご復活祭の聖節の二つに大きく区分される。第一は、神の御子のご托身の玄義を、第二はその贖罪の玄義を神秘的に再び新たに体験する期間である。

七旬節の日曜から灰の水曜日までは、ご復活の祝日への遠い準備で、灰の水曜日からはじまる四旬節は近い準備である。キリストの神性のあらわれを見たわれらは、これから、この神性にあずかれるために、キリストがなし給うたことをみて、必要な協力をしてゆく。

一一日（月）　ルルドにおける聖母ご出現の記念日

一七日（日）　六旬節の主日

ご復活はキリストとキリストに従う者の勝利が輝やく日であるが、それまでにはキリストとサタン、信仰と世間的精神との間に激しい闘いが展開される。アダムは敗北して園から追出されたが、キリストは、われらをブドウ畑（神の国）に招き、新しい生命のみことばを伝えて下さる。

二二日（金）　使徒聖ペトロが教座を定めた記念

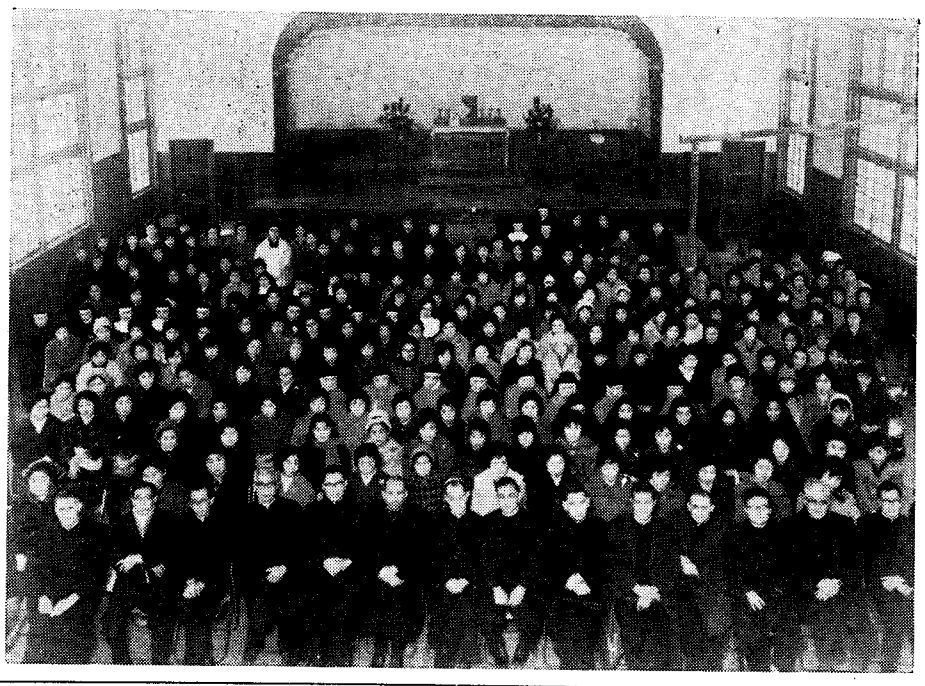
二四日（日）　五旬節の主日

教会は旧約時代の太祖らをキリストの前徴として、われらに示す。今日は諸国民の父、信仰の模範であるアブラハムの姿があらわれる。かれが人間的常識をこえて、ただ信仰だけで故国をすて示された土地に進んだように、われわれもキリストのあとについてエルサレムさして登ってゆかねばならない。

二七日（水）　灰の水曜日

今日からご復活への近い準備―四旬節―がはじまる。これからは旧約の太祖たちでなくて、キリストご自身がわれらの模範である。灰を頭にいただくことは武装して闘いに臨む者の覚悟を感じさせる。

第三回 福岡教区幼稚園教職員練成会



厳寒にめげず二三一名参加

第三回福岡教区幼稚園教職員練成会が、一月一五日成人の日に福岡双葉学園の講堂で開催された。福岡地方は正月以来雪が降りつづき、練成会前日も大雪で、当日は会場付近の道路はカチカチに凍りついて歩行も困難なほどであったが、福岡、佐賀、熊本の三県下の幼稚園総数三八のうち三七園より園長以下ほとんど全教職員にあたる二〇五名、それに福岡市と北九州の四つの保育園より二五名、ほか一般幼稚園より一名、計二三一名が参加した。（ちなみに前回の参加者は二五〇名であった）。

会は三〇分おくらせて一〇時半から開かれ、ロザリオ一連のあと「幼児教育にたずさわる教職員はいかにあるべきか」のテーマのもとに平山高明師がまず「この子を我がために育てよ」（出エジプト記）と題して幼児教育の崇高な目標を高々と示し、第二の講話では「主よ術ることを教え給え」（ルカ福音書）と題して、幼児の自然に対するおどろきを、いかにして神にまで高めるか、即ち祈にまで高めるかについてじゅんじゅんと説き、聴衆に自覚と反省と決意を新にならしめた。

小憩ののち一五分の特別紙助があり、午前の部を終ってサンモール会修道女とその協力者の手になる心のこもった暖かい食事に舌づつみをうった。

午後は記念撮影のあと、深堀司教が「ローマより帰りて」と題して約一時間二〇分つぎのような趣旨の講話をなした。

「ローマを訪れる者には〝見る者〟と〝観る者〟とがある。観る者にとっては、ローマは永遠を目指してすすむ人間の歴史のシンボルである。私はこのローマで開かれた第二ヴァチカン公会議に、永遠めざして人類を指導する教会の姿を見出し、さらに教会の現実の歴史が永遠の神のみわざであることを痛感させられた。キリストは「言葉の故でなくとも、せめてわがなせし業により我を信ぜよ」と申されたが、公会議を通じてあらわになった神の能力のみわざを目撃した人は、神に対する信仰をますます深められていった。

われわれは、みなこの信仰をもって永遠の神をみつめ、生活を真に意義あらしめなければならない。

ついで聖体降福式が会場に設けられた仮祭壇で行なわれ、午後三時予定通り、盛大裡に練成会を終了した。

なお午後の部には、司教の召集に応じて、教区内の一般の修道女約一〇〇名も参加した。

この練成会の会場は当初、福岡小神学校と浄水通教会を予定していたが、参加者多数のため、上記の通り変更した。

（写真は練成会参加者）

お礼

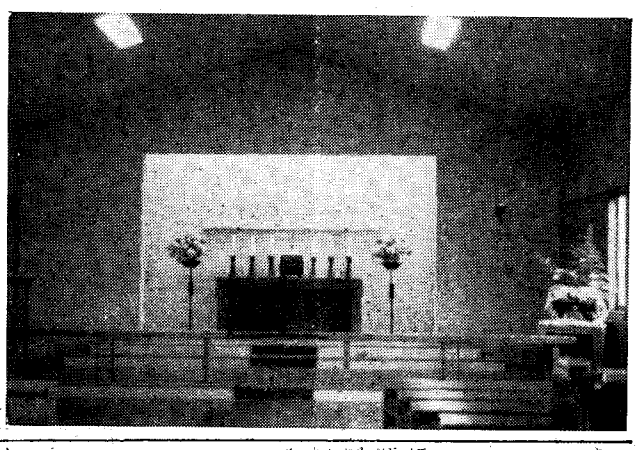
去る一月二七日の児童福祉会献金日には、本教区信者のみならず、各学校や幼稚園の生徒、園児、父兄のみなさまから、愛のこもった多額の御寄付を頂きました。紙上失礼ながら厚く感謝申し上げます

福岡カトリック司教館

八幡教会（天神町）新装成る

昨年九月から改築工事をはじめていた八幡市天神町のカトリック教会（主任＝パリ外宣会ラバルタ師）、年の瀬の迫った一二月三〇日まったく新しい姿でお目見えし地元信者たちのよろこびのうちに午前一一時から、深堀司教の手で祝別された。

これまでの教会は、戦災で焼失した教会に代って一五年前にベノア師の設計で、当時の主任司祭ボア師が建て、付属保育園の遊戯場にもあてられていたが、このたびは祭壇と信者席が入れ代り、入口に近いところに幼児同伴の母親のためのガラス張りの部屋で作られている。全体は直線を生かした現代風のもので、内陣の設計は戸畑明治学園教諭横尾龍彦氏で、聖ひつの扉（キリストを象徴する魚の彫刻）祭壇上部の壁にかけられた最後の晩さんの浮彫も、同氏の手によって作製された。



駐日ヴァチカン 新公使来日

新任の駐日ヴァチカン公使マリオ・カーニャ大司教は、一月九日北極廻りのSAS航空機で午後六時一五分羽田着来日した。空港には東京大司教土井枢機卿はじめ、荒井横浜司教、ヴァチカン公使館のモンセニョール・ゼラダ師、教区司祭と修道会と宣教会の代表たちが新公使を迎えた。

新公使は、北イタリヤのル、モンフェラットの生れで五一才、グレゴリオ大学、ラテラノ大学、ヴァチカン外交学校、ローマ大学に学び、神学、教会法、法学の学位を得ている。一九三四年七月二三日司祭、ヴァチカン国務省を振出しに、オランダ駐在教皇大使館、秘跡聖省、ペルー駐在ヴァチカン大使館各勤務を経て、四九年からイタリア駐在ヴァチカン大使館参事官を勤めた。昨年一〇月一三日、ヨハネ二三世教皇により駐日ヴァチカン公使に任命され、一一月一八日司教に叙階された。

山崎忠雄氏教育界から引退

カトリック学校の陰の功労者

生涯をカトリック学校の育成と発展にささげ、とくに大牟田市倉永の明光学園（カノッサ修道女会経営）の生みの親として慕われてきた山崎忠雄氏は、このたび教育の第一線から退くことになり一二月一五日わかれを惜しむ学校当局生徒らによって盛大な送別会がひらかれた。

山崎氏は、明治二四年山口県の生れ、東大西洋史科卒業のあと大正一三年から終戦の翌年までの三二年間、双葉学園（当時は双葉高等女学校）に奉職、その間東京高円寺のメルセス修道会の学校創立（現在の光塩女子学院）に協力、戦時中は鹿児島聖名高等女学校（現在の純心女子学園の前身）を生命を堵して守り抜き、昭和二六年から大牟田明光学園の創立のため、数カ月間福岡司教館に起居して設立準備に奔走、二七年開校と同時に主事となり、来日まもないシスターたちをたすけて新学園の基礎固めに長い経験を生かし、新人生の心に正しい人生観を植えつけるための努力をはらった。

こうして学園は昨年九月に創立一〇周年を迎え、この地ではすでに押しも押されぬ一流校としての名声をかちうるに至っている。

引退後は東京都に居住することになっているが、余息ふたりとも教育に従事しており、とくに明の左夫氏はマリア会修道士として暁星学園で歴史の教鞭をとっているなお戦前には文部省検定中学校用教科書「西洋史」をあらわしている。（写真は山崎忠雄氏）

日置師ローマで司祭に

ローマ・プロパガンダ大神学校に留学中のフィリッポ日置孝三郎師は、昨年一二月二二日、同校付属聖堂においてアガチャニアン枢機卿から、司祭の聖位にあげられた。なお初ミサはローマ市内のカルメル修道院でささげられた由。

日置師は昭和九年鹿児島県名瀬市の生れ、福岡奈屋学園卒業後九大理学部に入学、約一年ののち司祭召命にこたえて福岡サンスルピス大神学院に入学、昭和三四年八月神学科一年のときローマに留学した。

両親の吉彦さんとタカ子さんの現住地は、横浜市磯子区磯子町広地。令妹のひとりは新田原トラピスト修道院に入会している。

煉獄援助会総長

煉獄援助修道会総長マリー・ド・ラ・クラワ童貞は、八幡市黒崎修道院を視察し、一二月二八日深堀司教を訪問した。

宣教五〇年

一月八日教区司祭月例集会の席上、深堀司教は、同席のボア師（八幡煉獄修道院付）が去る一二月二〇日で日本上陸五〇年になったと発表、全司祭は拍手してベテラン宣教師の多幸を祝した。

司祭異動

（カッコ内は前任地）

暘明帰国＝ジヤロ師（大濠修道院付）ドイル師（大江主任）、大江主任＝スカーリー師（和歌山御坊主任）、八代主任グリーフィン師（帰国）、手取助任オーエンス師（八代臨時主任）、東泉修院アブタ師（小笹修院付）、小笹修院長ブラッサ師（帰国）

神学校献金

（一二月二日）

大名町	六、〇〇〇
浄水通	三、〇〇〇
地行町	二、〇〇〇
囊島	一、五〇〇
西新山	一、九〇〇
茶楠宮	一、〇〇〇
大牟田	二、〇〇〇
高宮	一、五〇〇
那珂町	三、五〇〇
吉塚	二、五〇〇
箱崎	一、四五〇
田島	六〇〇
古賀	九二五
二日市	七〇〇
今村	七、七〇〇
本郷	二、四〇〇
久留米	五、七〇〇
大牟田	二、〇〇〇
吉野	五〇〇
呼子	二、三七〇
馬渡島	一、一〇〇
佐賀	二、〇〇〇
唐津	一、〇〇〇
武雄	—
鳥栖	—
鹿島	二〇〇
伊万里	八六〇
門司	—
小倉	二、一〇〇
戸畑	八、〇〇〇
湯川	三、〇〇〇
若松	一一、六〇〇
門田	二、〇〇〇
黒崎	—
八王寺	三、五〇〇
本城	一、三五〇
水巻	—
直方	一、六二五
飯塚	六〇〇
田川	三、二〇〇
行橋	四五〇
新田原	一、五〇〇
手取	四、〇〇〇
健軍	五、七二〇
島崎	五、五〇〇
八代	二三、五〇〇
人吉	五、〇〇〇
水俣	一、五〇〇
隈府	九〇〇
玉名	一、九〇七
本渡	九五〇
大江	七五〇
津奈木	—
荒尾	一、五〇〇
崎津	四、〇〇〇
合計	一、一〇〇
	一三八、六五七

雑誌 聖心の使徒 別冊

東洋の使徒 ¥100

聖フランシスコ・ザベリオの偉大なる
足跡を珍らしい写真でたどる

バスクの空
ハビエル城
活げる信仰
洗礼
パリの大学生
東洋へ……
インド
南インドの布教
使徒聖トマの墓
モルッカ諸島
マラッカ
日本の使徒
南国の都
島津貴久
福昌寺
市来・平戸
博多
府内
日本よ、さらば
閉された国
聖人の手

発行所 祈禱の使徒会本部
東京都千代田区紀尾井町七

医療法人雪の聖母会経営

聖マリア病院
院長 井手一郎
副院長 佐藤謙治
外科医長 津留水城
診療科目 外科 内科 小児科 放射線科 神経科 歯科
健康保険、国民健康保険、生活保護法
労災保険、未熟児養育施設 指定病院
久留米市津福本町西鉄試験場駅前
電話 五八〇〇・八〇〇〇番

井手医院
院長 井手速見
診療科目 内科 小児科 放射線科
久留米市日吉町十六番地
電話 二一七五番

看護婦（正・准）募集
履歴書持参・午前中面談

カトリック教理

聖霊はわれらを照らし、強め給う

助力の聖寵

一、照らし

パウロは、小アジアから海を渡ってマケドニア地方に行き、キリストの福音をのべたことがあります。フィリッポという町について、川のほとりの祈の家にいますと数名の女たちがやって来ました。神を敬う商人であったリヂアという女は、とくにパウロの話をよろこんできき、キリストによる救いの教に信仰しました。どうしてそうなったのでしょう。聖書には「神が、パウロの語る言葉をよろこんできくように、かの女の心を開き給うた」と記してあります。かの女は、パウロがまじめな正しい人であり、その教が神よりのものであり、その言葉に従うべきであることを、神の聖寵によって悟ったのです（使徒行録一六の14―15）

二、強め

リヂアは洗礼をうけ、自分の子供や使用人をも信仰にみちびきました。近所の人々があざけるのも恐れず、パウロを家に泊めてもっとくわしく教をきこうともしました。

しばらくしてパウロは、新しい教をひろめることを理由に、牢に入れられ、むち打たれました。でも少しもつぶやき、落たんせず、神を賛美していました。神のために苦しみをうけ、人を救うことができると思ってよろこんでいます。このような勇気こそは、まさしく聖寵のたまものでありました。

三、助力の聖寵

神が聖寵を下さるのは何のためでしょう。楽な生活をするためですか。いいえ、神の子として生き死ぬためです。神のお助けがあってはじめて、私たちは神について考えたり、神のために働く望みがわいてきます。

私たちの心のなかに、いいことを望ませ、そしてそれを実行させるのは、神です。そのお助けなしには、どんな小さないいことでもすることができません。

四、すべての人に与え給う

① 神はすべての人を天の国に招き給うたはずです。主は万人のためにこの世に生れ、命をささげ給うたのですから。すべての人を愛し誰にでも聖寵をお与えになります。はじめから神にすてられた人はいません。「神はすべての人が救われることを望み給う」。たすかりを得るに必要な程度の聖寵は誰にでもめぐまれます。自分の責任で大罪を犯したものでなければ永遠にすてられる者はありません

② しかし神の聖寵はいつでも同じではありません。パウロには異教者に教をひろめるための奮発心迫害にたえゆく聖寵、はじめて教をきく人には、神を認め信じ改心し、受洗するための聖寵が必要です。聖人といわれる方たちでもみなが同じ聖寵を頂いてはいません。聖マリアがうけられた聖寵は聖ペトロのとは違います。

③ 聖寵の多い少いも人によって違います。パウロは、神に対して深い熱烈な信仰と愛をもっていましたが、はじめて福音をきいたギリシヤ人は、神についてまだ盲と同じで、神の方にいくらか心が引かれる程度でした。神が与え給う聖寵の量は、うける人自身によって左右されます。ある人には他の人より多くお与えになります。熱心によく祈り、聖体を拝領し、よろこんで神のおすすめに従い、強い信頼をいだいている人にはより多く与えられるのです。

「神は多く苦しむ者をより多く助け給う」。だから私たちも苦境に立ちいたったとき、神に絶対的な信頼をかけねばなりません。

神を愛する人は、どんな苦しいときでも、神のお助けに支えられてこれをたすかりに役立てるすべを知っています。

しかし聖寵は、神の贈りものです。それを人に与えるも与えないも全く自由です。ですから神がある人には多く、ある人には少く与えたとしても、神が不公平な、えこひいきな方とは申せません。

五、協力の必要

パウロがアテネの町で説教したとき、神のせっかくのおめぐみにもかかわらず、ほとんどの者がパウロをあざけるので、やむなく話を止めて立ち去りました。すると何人かの男女があとからついてきて「私たちは、おっしゃることを信じます」といいました。そして

聖霊はわれらを聖化し給う

しばらくして洗礼をうけました。

このように神はすべての人に聖寵をめぐみ給うのですが、ある人はこれをこばみ、ある人はありがたく頂いて、そのおすすめに従い神の子となってたすかりをうけます。

「私は外に立って戸をたたく」。あなたたちは、心の戸を開いて、主をなかにお入れせねばなりません。聖寵の招きをききたくなくて戸をしめたままにしている人は多いものです。おめぐみをうけて、それに協力する者には、神は聖寵を増して下さいますが、いつまでも抵抗している者は過ちをかさね最后は神に捨てられ、あとになって悔んでもおそすぎるでしょう。

「私は、あなたたちが神の聖寵をむだにうけないように忠告する」と聖パウロは教えています。

実行

聖寵のお助けがなくては、神さまの子として生きることができないのですから、たびたびこれを祈り求め、そのおすすめに従うようつとめましょう。

ある大会社の社長が、九つになる息子をつれて田舎にドライブにでかけました。途中せまい道にさしかかってゆっくり運転していますと、道ばたに破れ服をきて、はだしでしょんぼり立っている少年を見つけました。社長は車をとめて、たずねました。

―ここでなにしているの―

―なんにもしていません。

―家はどこ―……

―お父さんは―ずっと前に死にました。

―お母さんは―どこに行ったか知りません。

―ちゃ、ごはんはどうするの―あちこち廻って食べさせてもらいます。

社長はかわいそうに思って「一緒に私のうちにおいで」といって、乞食の少年を大きな車にのせ、りっぱな家につれてゆきました。おそるおそる玄関を上ると、おふろで体を洗い、散髪をしてもらい、さっぱりした洋服をきせられました。鏡にうつった自分の顔をみると、少年は別人のように変っています。

社長はこの少年をまるで自分の本当の子供のようにあつかいます。

数日たって社長は「もしよければいつまでもここにいてかまわないよ」と申します。それからまた「君をうちの養子にします。これから私をお父さんとよびなさい。君は私の家族のひとりになるのです。私が死んだら、他の子供と一緒に財産をわけてもらえます」と申しました。

乞食だった少年が、幸運にも金持の養子になれたのです。

一、神の子、キリストの弟、妹

この話は本当にうらやましいことですが、これよりももっとすばらしいことが、あなたにも与えられていることを知っていますか。

ある日、天と地の造主なる神があなたのみじめな姿をごらんになり、限りない愛と同情にかられてあなたをだき上げ「あなたは私の子供だ、私の家族にお入りなさい」と申されました。そして洗礼をもって、よごれを洗い清め、新しい着物をきせて下さいました。

いまあなたと神との間に、他人行儀のかた苦しさはありません。あなたはイエスの弟、妹ですし天地の主にて在す神をお父さんとよぶことができます。

「われらが神の子とよばれるために、御父が下さった愛がいかに大きなものであるかを見なさい」（聖パウロ）

二、天国の世つぎ

乞食の少年は社長の財産を相続する権利をうけました。しかしあなたが神から頂くのは、もっとすばらしい、神の国における永遠の生命です。「私のものはみなあなたのものです。ほしいものはなんでもあります」と申されます。

三、聖寵の命

楽しい家庭、帰る家をもたないことは、さびしく悲しいことです。乞食の少年がそうでした。神は私たちにも帰るべき家を準備して下さいました。天のふるさとです。

また神は私共に自分の命をわけて下さいました。これは超自然のいのちで、これによって神共は神の子にされたのです。神の命をもらっているのですから、実際に神の子です。

四、神の家

神はどこにでもおいでになりますが、洗礼をうけた信者の心は、特別に神の聖なる家―神殿―になります。聖霊が、神なる御父と御子と共に実際におこもりになり、聖なるふんい気を感じさせて下さいます。イエスが信者ひとりびとりについて「私たちは、かれの所にきてそこに住むだろう」とおおせになった通りです。

信者は自分の心のなかで、きわめて親密に一致していますから、聖なる者とされます。あなたたちがミサにあずかる教会が聖なる場所であるように、神が生きておられる信者の心は、なににもまして聖なる所であります。私たちを聖なるものとする聖寵を"成聖の聖寵"と申します。

至聖なる三位一体の神

ソナとそのおはたらき

一、神の三つのペルソナ

私たちはこれまで、なんども父と子と聖霊の三つのペルソナについてきいてまいりました。

御父とほどんなお方ですか―御父とは全能でなんでもご存じで、完全で、正しくあわれみ深く聖なるお方です。人間のたすかりをご計画になり、世界を創造し、御子をこの世につかわしてその御国に私共を招き、御子と共に聖霊をお与えになりました。

御子とは、御父の最愛のお方すべてにおいて御父とひとしく永遠の昔からそのおそばにおられまた人としてこの世にお生れになり、み教をのべ、十字架につけられてお亡くなりになり、よみがえって天に昇り、聖霊をおつかしわにになりました。

聖霊とは、御父、御子と同じく真の神で永遠に生き、イエスのご托身、み教え、祈、十字架上のいけにえに協力なされ、使徒たちの上に降臨給うて、人々を照らし強め、聖化するためお下りになります。

御父、御子、聖霊は三つのペルソナですが、いずれも真の神で、永遠、全能、完全なお方です。私たちは三つのペルソナなる神を同じように礼拝します。

二、ただひとりの神

キリストのご生活をみても解る通り、この三つのペルソナはいつも共同で働いておられます例えば御父が人々を天の国の幸福に招き、御子が人間の言葉で福音を伝え、聖霊が福音をうけ入れるよう人の心をお開きになります。

私たちの洗礼のときでも、御父は「あなたを私の子供にしよう」と申され、御子は「あなたは私の弟、妹だ」と申され、聖霊は「あなたの心の中に降り、聖なる家にしよう」と申されます。

だから私共は、父と子と聖霊との御名によって、洗礼をうけるのです。

このように三つのペルソナがいつも一所にお働きになるのはただ一つの知恵、ただ一つの意志、愛をもっただ一つの神にて在すからです。

ペルソナは三つでも、ただ一つの神ですから、これを三位一体の神と申します。

三、最高の神秘

これまで見てきたことは、私たちの知恵で理解しつくすことはできません。三位一体のことだけでなく、ほかの神のみ業についても人間に説明できないことがたくさんあります。例えば卵をわってなかを見ても、くちばしもあしもはねも見つけることはできません。しかし卵のなかになにかのかたちでそれらがふくまれていることは事実です。ふしぎなことです。まして三位一体のことを完全に説明できないのも当然です。そうしようとするのは、小さな子供が地球を両手でだきかかえようとするのに似ています。

三位一体は、最高の神秘であって、もしキリストがそれを教えて下さらなかったら、なにも知ることはできなかったでしょう。

私共は理解できないことであっても、神が教えて下さった神秘を深い尊敬をこめて信じ、賛美し、私共に下さったおめぐみについて深く感謝申し上げましょう。

二月五日は日本二十六聖殉教者の日です。

殉教による信仰宣言のうちに信仰生活の力を汲みましょう。

日本キリシタン物語　中央出版社
片岡弥吉著　永井隆絵　¥一五〇
四百年前のキリスト教伝来に始まる少年少女のための歴史物語。小学五・六年から中学生向き。

キリシタンの信仰生活　中央出版社
助野健太郎著　¥二三〇
キリシタンの殉教をあらしめたその信仰生活―その時代の信心会、聖書、公教要理、祈祷書、迫害下の教理の伝承―について書かれた本。

長崎の殉教者　角川書店
片岡弥吉著　¥一二〇
今日の長崎を案内しながら、そこに生き抜かれた信仰と殉教の歴史を記録している。
「長崎のキリシタン史は、そのまま、わが国のキリシタンの歴史である」（同書より）

長崎への道　中央出版社
パチェコ・ディエゴ著　菅田玲子訳　¥二五〇
日本の道、イスパニアの道、大阪の城、バスク地方の緑なす丘……と、日本の二十六人の初殉教者の歩いた道をたどって、キリシタンの信仰生活と殉教を物語る「道の書」

大名町　聖パウロ書院
岩田屋六階　セント・ポール・コーナー

わが旅行記

太陽を背に　(四)　ペトロ

南フランス、スペインとの国境近く、ピレネー山脈の麓にルルドの町がある。ポーから四〇キロの間を汽車はガブ川を右に見ながら谷間を縫うようにして登っていく。前の席には、少し頭の足りないような若者が両親らしい老夫婦と一緒に腰かけている。彼は一言もしゃべらない。きちんと姿勢を正して寸分のみだれをも示さない。夜行列車の中で。余程家を出かける時から言いきかされてきたのだろう。ルルドへの巡礼だなと察しが着く。

一時間遅れてパリを出発した列車は、不思議と定刻きっちりにルルドに着いた。朝のすがすがしい空気を吸って駅頭に立つ。さて、これから。とにかくミサに与かろう。真正面少し見下ろすような所に十字架のついた尖塔が立っている。方角を見失わないようにしてまだ眠っているような街の中を歩く。小教区の聖堂だった。ミサに与かりながら、少女聖ベルナデッタが聖母より聖堂を建てるようにとの伝言を、ここの主任司祭に告げにやってきたのだと思うと、聖女が非常に身近かに感じられてきた。聖堂内部は当時と大分違うように思う。無数の巡礼者を迎え、この聖堂も相当広げられたのではないだろうか。内部のいたる処でミサが献げられている。夏の間は一日平均十本の巡礼列車が着くとのこと。私が着いた翌日、司教館できいた話では、その日、ルルドに二四人の司教様がこられているとのことだった。

教会から出ると、列車で一緒だった親子三人も丁度出てくるところだった。母親の方がニッコリ笑って会釈した。「やっぱり、あなたもここに来るのでしたね。そうですよ、こなければならない処ですよ」と言っているようだった。

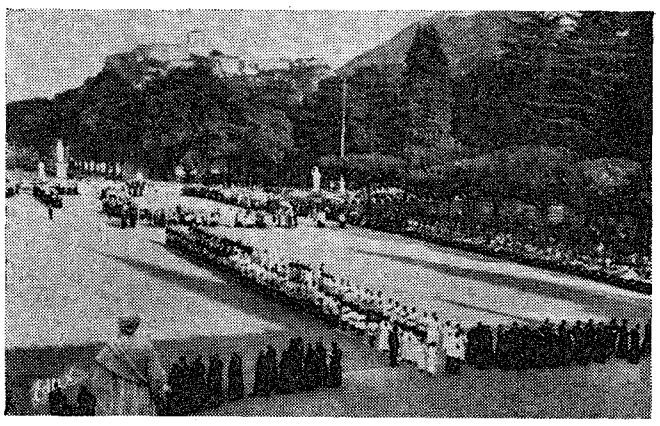
ルルドの町は、冬になると人口二・三千人になるという小さな町だ。その町と聖母ご出現の聖域の境に、聖域を半分かこんだ恰好でガブ川が流れている。町から聖域に入るところに、聖ミカエル橋という小さな石橋がある。この橋を渡った途端、雰囲気が、がらっと変わる。いや、心が変わるというか変えられると言わうか、ある神父さんの表現をかりると、信仰の熱がハサミでプツン、プツンと切れるように、如実に感じられる。祈り、祈り、ゆきかう群衆のざわめきの中に、深い潜心がただよっている。もう文字にすることのできない、深い激しい感動が……書けない。聖母がやさしく両手を拡げ、この聖域をおおっておられるという確信が澎湃として湧き起こる。広場を中心として北側に地下の大聖堂、南側に病院、東側、広場の奥に聖母のお望みによって建てられた大聖堂がある。広場を横切り、ガブ川の岸辺、奥まったところに、簡素な洞穴がある。聖母ご出現のその地である。無数の人が祈っている。洞穴の中では、司教ミサがあっていた。シーンと静まった祈りの聖域。ピレネーの大空を屋根とし、黒ずんだ質素な洞穴を祭壇とした眼に見えない聖堂と言った感じである。ひざまいて祈る。心が動く、熱くなる。これが改心となり、また第二の改心となり、活動となっていくのであろう。立上って、人ごみを離れ、ガブ川の激しい流れを見つめていると、案内のS嬢が、「洞穴の前の方に白い○印があるでしょう。ベルナデッタが祈っていたところです。先生は、いま、あそこで祈っておられました」と言う。

ルルドでは、巡礼期間中、毎日午後の四時半から聖体行列、夜の八時から、ローソク行列がある。何万という人が、心が、中から溢れる熱に抗しかねたように歌う光景は、自分が一粒のケシ粒ほどもない小さなものになっていく感がある。聖体行列の最後に、よく知られている病人への聖体顕示が行われるが、病人の顔つきは、奇跡を熱望する異機な熱はなく、イエズス様が身近かにおいで下さったという親しさをこめているようである。

別れを惜しむかのように、その視線は、いつまでも、遠ざかっていくご聖体を追いつづける。

実際私の眼の前では奇跡はなかった。だが、ルルドでは、毎日沢山の奇跡が行われているとのことだった。一つの建物になっている告解場では、毎日のように、何年も告解をしていない人の改心が行われているとのことだ。「マリアを通してイエズスへ」、これが毎日ルルドでは、事実となって現われている。

告解場の裏手の丘には、頂上を第十三留として、十字架の道がある。沢山の団体が、つぎつぎに、この道を辿って登っていく。五・六人の若者が若い神父様をかこんで、裸足で石ころ道を静かに登っていった。



ある時、盲の子供が母親と一緒に第十三留のところまで登ってきて、そこで、お母さんの洋服はキレイだね」と言ったとのこと。

典礼シリーズ

㉓　聖別

ラプラント

司祭はささげものに掩手する

このしぐさがはじまったのはやっと第一五世紀です。それ以前は深く身をかがめるだけでした。この小さな典礼行為の意味は、聖体布の上におかれたささげものを指し示すことで、当然「この供物」というように指示形容詞がついています、英国のヨークのミサ典書は（一四二五年）はっきり「アンク（この）ととなえるとき司祭は軽くカリスにふれねばならない」とのべています。

この典礼行為はユデア教に由来しているという人もいます。レビ記一六章によると、大司祭は年に一度、牡山羊を神殿にひいてゆき身代りにする意味でこれの上に手をかざす。それから牡山羊が大司祭の口を通じて人民のすべての罪を告白させ、そのあと荒野にひかれてゆき、罪を身に負うたまま野たれ死にする。

このユデア教の儀式は、カリスの上に掩手する私共の典礼行為とよく似ていますが、この方は一五世紀もあとで始まったものであって、なんの影響も与えていません。

掩手にともなう祈は、神が司祭ら（しもべら）と信者たち（主の金教会）のいけにえをよみし、平和と天国を私共に与え給うようにとの願であります。教会の初めの頃は、司祭はここで自分のミサの意向を次々とのべていました。しかしリストが余り長くなるのでそれを短かくするために、大聖グレゴリオ教皇が現在のような文にきめました。その前はあれこれと意向をのべていたので、掩手の祈にはたくさん変った祈があり、例えばゼラジオ教皇のミサ典書には四一種の祈がのっています。今日では聖木曜日、ご復活祭（＝聖霊降臨祭）、司教聖別のミサなど三種類だけ残されています。

掩手のときに鈴をならします。サンクツスになってひざまずいていない人もこのときからはひざまずきます。子供たちにも完全な沈黙を守らせ、この荘厳な瞬間を理解させ尊敬をいだかせるのは、親たる者のつとめです。

〝このささげものを祝し〟の祈

主の最後の晩さんを再現するにあたり、司祭はかくも偉大な業を果す力のないことを感じて、自分がまさに行おうとする絶妙な聖変化を神が祝し、認めて下さるように願います。パンとブドウ酒がイエズスのお体とおん血になり、物質的ささげものが全く霊的、神的なものになる、これがラテン語のラチオナビレム（普通には合理的と訳される）の意味です。ささげものをきし示し、またこれを聖別する決意を示すため、司祭はカリスとオスチアの上に五つの十字架のしるしをします。

この祈はほとんどそのまま第四世紀の聖アンブロジオの書物のなかに見られ、聖体制定の儀式それだけで聖変化を行う力のあることを示しています。だから殊更に聖霊をよび下す必要はありません。

聖体制定の叙述

典礼文はここでは最後の晩さんについての聖書の叙述を、そのままにたどってゆきます、しかし二つの聖変化の祈のうち三分の二以上が聖書からの引用でなく、教会のごく当初からある信心と伝承のなかからとられたものです。もっとも遅く加えられたものは「信仰の奥義」という言葉で（第七世紀）これはミサが私共の信仰を要約してふくむ奥義であるとの意味です。「その聖なる貴いおん手に」という言葉は、非常に古い聖バジリオ、聖ヤコボ、聖クリソストモの東方典礼からとられています。

キリストのしぐさ。司祭はできるだけキリストが高間でなされた通りをくり返します。聖別された四本の指でオスチアをとり、目を天にあげ、全能の御父に感謝し、このパンを祝します。「分ける」「与える」の言葉があるので昔のいくつかの典礼では、ここで第二のパン割きをしていました今でもシリアとコプトの典礼ではそうします。しかし、しぐさ以上に司祭をキリストに同一化するのは「これは私の体、私の血である」との秘跡的言葉です。

自分の神の崇むべき現存におそれおののき、司祭は二度ひざまずいて礼拝します。中世期には多くの司祭が、尊敬のしるしにオスチアに接吻しましたが、その頃はひざまずくことはせず、ただ深く敬礼していました。

晩さんが終ったとき、キリストはおん血を聖別なさいました。二つの聖別のあいだには晩さんがはさまっていたようです。しかし教会は第一世紀から儀式を長引かせないためと便宜上の理由で、この二つの聖別を一つの儀式に結び合わせました。カリスの聖別の祈がずっと長いのは、それはおそらくブドウ酒の外観が液体であって、全人類の罪のため流されたキリストの貴いおん血によるあがないを強く象徴しているからでしょう。

聖体奉挙

第一二世紀までは聖別のときに奉挙はありませんでした。しかし一二〇〇年頃ホスチアを奉挙する習慣がパリにはじまり、カリスの奉挙は二、三代おくれて現われたにすぎません、遅れて現われたこのしぐさの起原には二つの理由があげられます。一つは、オスチアをはっきりと見たいという信者らの信心がもり上ったこと、もう一つは、二つの外観のもとにキリストが真に現存し給うことを否定するベレンガリウスなどの異端を、教会がほぼ滅しようと決意したためです。

参列者たちの行為

みなひざまずいて二度の奉挙のときキリストを礼拝します。もしオスチアを見ながら心のなかで「わが主よ、わが神よ」と射祷をとなえるなら、七年の贖宥を頂けます、ローマは司祭にはこの射祷を禁じています（SCR四三九七）。ミサの言葉以上になにも加えてはいけないのです。

東方典礼では、司祭が大声で聖別の言葉をとなえ、信者は大声でアーメンと答えます。欧州で中世末期は聖別のあいだに、オサルタリスやオ・サクルムなど聖体賛歌をうたっていました。しかしラテン教会は、沈黙する方がよいと考えてこの習慣を禁止しています。（SRC三八二七の三）

聖別のときに十字架のしるしをしたり、胸を打つなどの習慣は長くつづきました。イギリス、フランス、スペインではオスチアがもっとよく見えるため、オスチアのうしろに黒や紫の小さな布をたらしました。

× × × ×

これらのしぐさはいずれも聖別の崇高さと偉大さを教えています神の御子が祭壇に降り、秘跡的に私共のあがないのみ業をくり返し給うのです。天使たちにならって礼拝と憂をささげましょう。

（二二〇、中央出版社）

読書

人間の形成について考えさせる
わが子のしつけ

ローテル著

子どもをもってみて、はじめて子どもの教育のむずかしさを痛感する。それまでは、親は子どもについて、いろいろと理想的なことを考えている。しかしながら、両親から生れた子どもは、両親の性格や素質をそのままうけついで親になくもがなと思われることが、子どもに歴然とあらわれてる。

また、同じ両親から生れた子どもでも、その兄弟は同じようではない。それぞれ能力や性格が違っている。ある者は賢く、ある者は愚かである。健康な子あり、また病身の子もある。兄はゆったりしているかと思えば、弟は一寸こせしている。子どもには、親のいかんともしがたい天性があることをみとめて、そこから教育がはじまる。

教育ではどうにもならないと悲観しないが、教育ですべてが解決できると楽観もしない。神からさずかった子どもの能力、性格、素質などを十分に発揚させて、また神のもとにお返しするのが親のつとめである。第四誡において、親は子どもを養育する義務があると教会は教える。にもかかわらず、養うことにおわれて、育てることを怠ること、しばしばである。

あまりにも子どもを放任しすぎて、わがままにさせる親があるかと思えば、またあまりにも手をいれすぎて萎縮させ、自立性をなくさせる親もある。一人として同じものはいない子どもに、教育の一般原則はあっても、それを個々に適用する場合には、機に応じてとらねばならない、まさに千差万別の手段が必要である。そこに教育のむつかしさとよろこびがある。

教育は最高の芸術である。ミケランジェロがどんなりっぱな彫刻をつくっても、人間にまさる作品はない。親や教師は、神のなし給う教育のわざに参与する。そして日々、最高の芸術品の作成に協力する。そのいとなみの貴さを、しんに考え及ぼす時、力の足りなさを感じ、脊筋になにかが走るのを覚える。

本書は、親が子どもをそだてるにあたって必要なことがらを、天主の十誡になぞらえて、十章にまとめて説明したものである。説くところ、高尚な教育抽象論に流れず、具体的な日常生活にそくしてなされている。さりとて、なんの関連もない随想風のものではなくガッチリ、しんはとおっている。

第十誡まで読了して、親は自分の子どもの教育の方法について、その何戒かのうち、反省させられるものを見い出すであろう。そして親、教師のみならず、誰でも人間の形成について考えさせられることが多いであろう。

（二二〇、中央出版社）

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　四八〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　六五〇円
コンサイス英英辞典　革　六二〇円
デイリーコンサイス英和辞典　革　五〇〇円
新クラウン英和辞典　D縮刷版　六五〇円
ジェム英和・和英辞典　三五〇円
最新明解英和辞典　三八〇円
初級クラウン英和辞典　四七〇円
初級コンサイス英和辞典　五五〇円
初級コンサイス和英辞典　八五〇円
三省堂独和新辞典　六五〇円
コンサイス独和辞典　三三〇円
コンサイス仏和辞典　二〇〇円
コンサイス露和辞典　一五〇円
日西辞典　七五〇円
商業英語活用辞典（増補版）　二、〇〇〇円
新英文法辞典　七五〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　一、二〇〇円
新版広辞林　背革特装版　二、〇〇〇円
明解古語辞典（改訂版）　一、三〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四三〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　四二〇円
大明解漢和辞典　三〇〇円
明解漢和辞典　八〇〇円
三省堂大六法全書　四〇〇円
模範六法全書　一、三〇〇円
明解六法　四三〇円
学習百科事典（新版）　一五〇円
明解日本語アクセント辞典　一、二〇〇円
書道六体大字典　六五〇円
一〇、〇〇〇円

三省堂　福岡出張所
福岡市向田町九ノ三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十円

新駐日ヴアチカン公使マリオ・カーニヤ大司教閣下にキリストにおける敬愛と服従の真心をさささぐ

神と使徒聖座とのおめぐみにより福岡司教たるドミニコ深堀仙右衛門は、本教書をもつて、四旬節にあたり、福岡教区の司祭、修道者、信者各位に挨拶と祝福とをお送りいたします。

永遠の故郷さしてこの世の旅を日々渡つております私たちは、さきの灰の水曜日からめぐみ豊かな四旬節に入りました。この期間は自分のたすかりについて調べ、祈り、犠牲、抑制の業をもつて自己改善をはかり、聖徳の高い段階にむかつて飛躍すべき、よき時であります。

考えて見ますと、私たちがたどりつつある今の世は、物質主義や快楽主義のふかい霧におうわれていますので、多くの人々は、礼拝すべき真の神のすがたを見失い、キリストの救いの十字架をしりぞけ、もつとも大切な救霊の目標を忘れて、ただその日だけの幸福を追いもとめている実状であります。

ところで私たちは、救主イエス・キリストによる洗礼の秘跡をさずかり、永遠のたすかりを保証する信仰をめぐまれているとは申すものの、やはり世間のなかに生きているのでありますから、他の人々と同様、恐るべき滅びの危険と誘惑にさらされていることを忘れてはなりません。

聖ペトロはすでに、二千年後の今日を見通していたかのように、「汝ら節制して警戒せよ、仇なる敵はほゆる獅子のごとく、食いつくすべきものを探しつつ、ゆきめぐればなり。汝ら信仰に心を固めて、これに抵抗せよ」（ペトロ前書五の八―九節）とすすめて、霊魂の終りない滅びの危険のなかに生活していながらもこれに打勝ち、たすかりの道をまつとうするようにねんごろにさとし、そのために、信仰を強め、祈りと節制と犠牲の業をはげめと、訓戒しているのであります。

まことに今日、私たちがおそれつつ警戒しなければならないのは、現代のこの世相でありまして、それに対処する最良の手段は、ふかく自らを内省して、キリスト信者としての自分の生活と行い、信仰の姿、たすかりへの歩みぶりを慎重に改めてゆく外に方法はないのであります。

これがために慈愛ふかい母なる教会は神の深遠な御摂理の「時みつるに及んで」、昨年十月十一日から全世界の司教らを集めて、教皇ヨハネ二十三世聖下とともに教会最高の会議をひらきまして、人類の平和はキリストの十字架からくだり、救いはキリストを信じまつるその信仰にある、従つて信仰の真理に心をかたむけ、生活を一新せよと、私たちに一大警鐘をうち鳴らし、全世界の兄弟たちがキリストのもとに一つになるよう、よびかけているのであります。

この公会議はいまも進行中であることは、皆さんご承知の所であります。

さらに教会は、毎年のことでありますが、救主の御復活の大祝日まえに、四旬節の期間を定めて、この間に、私たちが主の御苦難を黙想し、そのお手本にならつて祈りと苦業を実行し、生活を改善し、罪のつぐのいをなし、そのご功力にあずかつて、ついにキリストと共に新しい光栄の生命に復活するよろこび、天国のきよいよろこびをすでにこの世でも味わせようとしております。

それだけでなく、子を思う親心にかられて教会はさらに「少くとも年の一度は御復活祭のころに聖体を拝領すべし」と命じてまで、私たちに主の聖体を拝領させ、聖寵のいのちに生きさせようとしているのであります。

私たちは、このゆきとどいた教会の勧めと愛のおきてに従つて、新らしく強められた信仰の心をもつて、御復活祭のころに熱心な聖体拝領をなし、それをもつて主キリストとの復活のよろこびにあずかるとともに、聖なる信者の義務を果さなければなりません。

幸いにも私たちの多くの小教区では、この聖なる信者の義務を完全に果し、主の御復活のおめぐみをゆたかにこうむらせるために、四旬節の期間中に、信者の黙想会をひらくよい習慣が古くから守られております。

いまここで説明申しあげるまでもなく、黙想会においては、特別の霊的講話や信者生活の指導があたえられ、共同で信心業を行つておりますが、そのすべてが私たちに、自分の霊魂の歩み、信仰と生活のすがたについてふかい反省と糺明をうながし、おかした罪を真心から悔い悲しんで、神のおんあわれみと罪のゆるしを頂く告白場に入る光と力をあたえてくれるのであります。

このようによく準備された心をもつて悔悛の秘跡に近づくならば、私たちは、すべての罪をゆるされるばかりでなく、聖寵の衣をきせられて新らしき人々となり、悪いかたむきや欠点と戦い、世間の恐ろしい誘惑にも抵抗する力をさずかることができるのであります。

罪をゆるされて信仰の精神に若がえり、愛にもえたち心のなかに御復活のキリストを拝領したてまつり、天国につながる光栄とよろこびのうちに留まるとは、またなんと大きな幸いでございましょう。主イエズス・キリストが十字架上の死をもつて私たちをあがない、ご復活をもつて私たちに保証し給うた天国、すなわち永遠の故郷さして安全に進むために、皆さんが、教会が命じる年のつとめのおきてを忠実に果し、黙想会に進んで参加なさいますよう、最后にかさねておすすめしながら、教区の愛する諸子の上に神のおめぐみをお祈りし、司教堺祝を送ります。

一九六三年三月三日
福岡司教ドミニコ
深堀　仙右衛門

福岡司教四旬節教書

年のつとめについて

世の光

改心

聖書を開くとメタノイアという言葉がいたる所に見出されるが、「捕虜の帰国」または「奴隷の状態からの解放」というこの言葉は罪によつて情欲の奴隷となつていた魂が、罪のくびきを捨て、今まで離れていた神に恩寵によつて立帰ることを意味している。至聖三位の愛のだんらんに入り、永遠の生命の幸福を味う国に入るためには、聖の聖なる神と一致するには、まず何よりもその魂が罪の汚れを去り、神へと向き直ることが必要な条件である。キリスト様は「改心せよ、けだし天国は近づけり」（マテオ四の17）と、このことを〝けだし〟という言葉でもつて教えておられる。

信望愛はわれらを真の改心へとみちびく。

改心とは、人間が自己中心的な考えの殻を破つて神との正しい関係をたて直すことである。聖書は「神の中にこそわれらは且つ生きて且つ動き、且つ存するなれ」（使徒行録一七の6）といつているが人間は神との関係を認めることなしに真の自己を見出すことができない。なぜなら神の中にのみ人間は存し、神との関係においてのみ人間は本来の意味をもつのである。「何処より来り、何処へゆくか」その存在の起源と人間の究極目的を、また神との関係とを知ることなしに自己のうちに如何なる分析の努力を重ねようとも、主観的な内省を深めようとも、遂に自己の理解には到らないであろう。親鳥を全然考えないで卵の何たるかを論ずることの無謀さよりも甚しいといえよう。

神への完全なる痛悔。

新たな観点と考えに立つとき、一人の人間はその深奥において変化することができる。特にある者との最も親密なる愛は人間を変える決定的な役割を果す。しかもその愛たるや、一介の被造物「我」に対する永遠の彼方よりの慈愛の眼差しと、その実現のためには「御子すらも渡すを惜み給わざりし」ほどの御父の愛なることを、キリストによつて見出したとき、また「われらの救いのため」人性をとり、十字架上に償を果し給うた限りなきキリストの愛を信ずるとき、人は誤れる執着によつて神を捨てていた今までの忘恩と背任とを思つて、痛悔、改心へと駆り立てられるのである。

実際ひとが誰かを愛し始めると何人もその者の心を傷つけまいとし、傷つけたことに対しては心に深い悲しみを感じるであろう。完全なる痛悔とは、万事に超えて愛すべき神にさからつたことを悲しむ心から生ずる。そして真に愛するならば非礼を悲しむだけでなく、二度とくり返すまいと努めるであろう。痛悔もまた、莫然と罪一般を悔むのでなく、おのが犯した罪を嫌悪し、再び犯すまいと決心し、その罪を償おうとの心を抱くことである。

不完全な痛悔。

聖書の放蕩息子が飢に迫られて始めて迷いの夢がさめたように、痛悔にも苦しみや失敗を通じて始めて過去の生活の味気なさ、罪のみにくさ、恥しさ、あるいは死の恐れ、罪の罰の恐れというものから、改心が始まることがある。

それはまだ自己中心的であり、愛の観点から見れば不完全である。この状態ではまだ成聖の聖寵の状態を来たさない。しかし不完全な痛悔もまた悔悛の秘跡を伴うとき、全くにその罪を消されるのであり主キリスト様は、悔悛の秘跡を罪のゆるしの公的な方法と定められた。

痛悔は聖徳によつて力をうる。

ユダもペトロも共におのが罪を認め、良心かが責を感じた。しかしユダは絶望し、ペトロは痛悔して立ち直つた。全能にして慈悲なる主、父なる神に信じより頼むのでなければ、罪の意識は暗く耐えがたく、実りなきものであろう。究明はただ無益な内省にとどまりその心理分析は疲労困ぱいと劣等感と悲しみと怒りと、やがて失望を生むだけである。「世間の悲しみは死を生ず」（コリント後七の10）と聖パウロはいつている。これに反しておのが惨めさを認めつつも無限なる神の慈悲に信ずる「神に従いての悲しみは、悔なき救霊にいたるべき改心を生じ」（全上）新たなる生命に復活させられるのである。父なる神の意識をもたない現代に絶望の「病める魂」が充ちており、騒音への逃避が熱狂的に追求されるのも、また理なしとしない。回心とは罪の暗から聖寵の光への過程であるが、エレミア予言者は「主よ御身に立ち帰えらせ給え、しからばわれら立ち帰えらん」（哀歌五の21）のなかで、立ち帰えらせ給えの言葉をもつて人間の聖化の計画において常にイニシアチーブをとり給うのが、神であることを、しかし一方には「われら立ち帰えらん」との言葉をもつて、われらの自由の協力をも示している。

四旬節においてなす外的の犠牲と苦業は、まずなによりも情欲を制し、内心の騒ぎをしずめ、心の内と外に語りかけ給う神のみことばを聞き、真の改心の実を結ぶためなのである。（平山高明）

聖体礼拝（三月）

第一日曜　鳥栖教会
第二日曜　地行町教会
第三日曜　湯川教会
第四日曜　男子パウロ小神修院
第五日曜　

祈禱の使徒会（三月）

〔一般の意向〕信者各自の向上による教会の改革
〔布教の意向〕ベトナムにおける布教

三月　聖ヨゼフの月

三日（日）　四旬節第二の主日
四旬節の最初の日曜日において教会はわれわれに、深い神への信頼を強めようとしている。キリストと共に内心の激戦にのぞむわれわれは、不安と恐れを禁じえないが全能の神のつばさのもとに、キリストの力強いかいなに支えられて進むことができる。

福岡学士会例会

五日（火）　教区司祭月例集会

六日（水）　四季の水曜日
ミサの祈のなかに、旧約聖書中のもつとも有名な二人の人物があらわれる。モイゼとエリアである。二人は聖なる山において神のみいずに近づくため、あらかじめ断食によつて身を清め、全く神のものとなるため、この地上のものに対する執着を断つた。

七日（木）　アキノの聖トマ博士証聖者

九日（土）　ローマの聖女フランチェスカ寡婦

一〇日（日）　四旬節第二の主日
旧約のヤコボは父イザアクから特別に愛されて、約束の世つぎとされ、神の祝福をうけた。キリストは御父の愛子にてましますが、人間となつてわれわれの兄弟となり御父の愛にあずからせて下さつた。キリストと一致する限り、われわれも神の愛子であり、天国の世つぎであり、祝福をうける。

一七日（日）　四旬節第三の主日
旧約のヨゼフは貞潔と愛徳の模範と仰がれている。かれは情欲の誘惑を退けたために牢に入れられたが、神をうらまず、また自分を売つた兄弟たちを心からゆるしている。聖パウロはこの手本にならい、光の子たる信者は情欲と戦い、慈愛を実行するようすめ、さらに主は福音のなかで、神のみ言への服従をもつて悪魔のいどみに抵抗するよう命じておられる。

午前九時、福岡大神学院で叙階式

午后二時半、大名町教会でレジオ・アチエスの式

一九日（火）　聖ヨゼフの大祝日
前の日曜日に旧約のヨゼフの手本をながめたわれわれは今日、新約のヨゼフの聖徳を賛美する。至聖なる御子の養父、いと清きマリアの浄配なる聖ヨゼフの純潔、聖家族におけるその父性愛を賛嘆し、同じおめぐみをお願いしよう。

二四日（日）　四旬節第四の主日
モイゼは救主キリストの前表。モイゼはイスラエル人をエジプトから救い出して自由の国にみちびき、キリストは御受難の功徳をもつて、われわれに霊の真の自由を返えし、天よりのパンをもつて養い、復活のよろこびの保証を与え給う。

黒崎教会で司祭叙階式

二五日（月）　聖母マリアのお告げの祝日

八代白百合学園の新校舎祝別式

三一日（日）　御受難第一の主日
神の御子は、新約の大司祭として、十字架の祭壇に上り、あがないの血を流そうとしておられる。「これは汝らのためにわたされるわが体である。これはわが血における新約のカリスである」。

湯川・豊津両教会で堅信

布教と司牧の第一線に

福岡大神の卒業生

福岡サンスルピス大神学院からは今春五名の神学生が、八年間の修練と研学をおえて司祭位にあげられ、それぞれの教区で布教と司牧の第一線に送られる。

同校は昭和二三年に大神学校に昇格したが、過去一七年間に七九名（留学地で司祭になつたものをふくめて）が巣立つている。

今春の卒業生の顔ぶれは左の通り。

浦俊雄師　霊名ヨゼフ、福岡教区所属、昭和七年五月生れ、北九州市八幡区黒崎田町三丁目出身。二八年福岡泰星高校卒、来る三月二四日北九州市八幡区黒崎教会で深堀司教から司祭叙階の予定。

平野勇師　霊名ペトロ、長崎大司教区所属、昭和一二年四月生れ、長崎県西彼杵郡外海町黒崎出身。三一年長崎南山学園高校卒、来る三月一九日長崎市大浦教会で山口大司教から司祭叙階の予定。

野下千年師　霊名ドミニコ。長崎大司教区所属、昭和一二年八月生れ、長崎市三ツ山町出身三一年長崎南山学園高校卒。来る三月一九日長崎市大浦教会で司祭叙階の予定。

大城清正師　霊名クリストホ琉球教区所属、昭和八年七月生れ、沖縄国頭郡本部町出身。琉球大学中退、来る三月二四日沖縄首里教会でドナギ司教から司祭叙階の予定。

三浦偕師　霊名ヨゼフ。所属教区未定。昭和一〇年三月生れ鹿児島県名瀬市大熊出身、二九年大島高校卒。叙階日は未定。

写真は左から三浦師、野下師、平野師、校長ラプラント師、浦師、大城師

土井枢機卿の司教銀祝

2月10・11日に東京で祝賀

東京大司教ペトロ土井辰雄枢機卿は、二月一三日で司教叙階二五年銀祝を迎えた。

祝賀の式典は二月一〇日の荘厳ミサではじまり、そのあと上智会館でレセプションが開かれた。

ヴアチカン公使長江、野口名司教、教区司祭、男女修道会と信徒代表ら約八〇〇名が参列して心からお祝いした。

翌一一日午後零時半から、椿山荘で教区司祭、男子修道会代表たちが集つて、枢機卿に司教銀祝をお祝いした。

土井枢機卿は、明治二五年一二月二二日仙台市に生れ、一一才のとき全家族と受洗。旧制二高から仙台小神学校を経てローマのプロパガンダ大学に留学。神学、哲学の学位を得て帰国。大正一〇年五月一日仙台で司祭にあげられ、昭和八年から駐日教皇使節（現在のマレラ枢機卿）の秘書を四年間つとめて一二年一二月二日東京大司教に任命されて翌二月一三日司教叙階、シャンポン大司教のあとをついだ昭和三五年三月三日ヨハネ二三世教皇から日本人としてはじめての枢機卿にあげられ、同三月二八日ローマでその親任式が行われた。

東京大司教に就任された当時、信者数は約八〇〇〇、邦人司祭は二〇名。現在では信者は四万五〇〇〇名、邦人司祭は、教区司祭が五四名、修道会司祭五三名に増加している。

第二次世界大戦中に、一九の小教区のうち一一が破壊状態にあつたが、現在の小教区数は五一に上つている。男子修道会と宣教会は二四、女子修道会は四二。

日支事変、第二次世界大戦、終戦直後の困難な時期に、日本司教団首席、日本カトリック中央協議会の理事長として、教皇公使と他の司教たちの協力のもとに、日本の教会が直面する難問題の解決に努力した。なお第二ヴァチカン公会議では司教・教区「行政委員会委員の職にあるカーニヤ大司教のほかに荒井、

福岡に黙想の家を

——九月に完成の予定

御受難修道会が福岡に開く「黙想の家」の定礎式が行われ、来る九月の完成をめざして早くも建設のつち音が油山山麓にひびきはじめた。

二年前から来福して黙想の家創立の具体案をねつていたカール師は、深堀司教の非常な熱意、平田勇師と渡辺満氏の協力で、福岡大神学院の真南、徒歩二〇分、西油山のふもとに（市内大字片江一四八番地）約二万四〇〇〇平方メートル（約八〇〇〇坪）の土地を購入、ブルドーザーを入れて山林を切開ひらいて道と建設用地をつくり、二月一九日午前一一時から関係者の見守るなかで深堀司教が土地の祝別と定礎式を行つた。

こんど作られる黙想の家は、司祭や一般信者が団体または個人で黙想ができるように、静かな広々とした環境に位置し、遠くに福岡市街を望み、すぐうしろに油山がせまつている。総面積約九七〇平方メートル（三二二坪）の鉄筋とブロックの建物、六畳または、八畳の個室二八があり、中央が聖堂。設計は福岡市の菅種雄氏があたり、高山建築株式会社が、九月はじめ深堀司教がローマに出発するまでに工事を終らせることになつている。

黙想の家の定礎式

三世紀ぶりの着衣式

福岡聖アウグスチノ修院で

一月二八日聖アウグスチノ修道会福岡修道院（市内東田島）において、ヨゼフ赤倉稔修道士（二八）の修練着衣式が行われた。他の修道会の司祭、修道士、両親、信者の参列のもと、同会としては日本における実に三〇〇年振りの着衣式であつた。

院長エドワード・グリフイン師の説教があり、長男を神にささげた両親に祝辞がおくられ、またそのかみ殉教した聖アウグスチノ会修練士に与えられた信仰と愛を、この新しい修練者の上にも豊かに与えられるよう祈つた。

学園だより

夜学で保母の免許を

熊本信愛保育専門部

ひるは働きながら夜学で養護施設の保母の免許がとれるため、幼きイエズス会経営の熊本信愛女学院（校長クロチルド童貞）では、保母専門部の新設のため厚生省に指定認可の申請をしているが、二月末までに受理される模様である。

認可がおりればただちに三月一日から二〇日まで希望者の募集をおこない、二七日に入学試験、四月一五日入学式のはこびになる。

定員は五〇名。保育専門部の修業年限は二カ年毎日午后五時四五分から三時間の講義があり、夏期休暇中に実習をすることになつており、受験資格は高校卒以上の女子、なお二カ年以上施設現場の経験ある者で、施設長のすいせんをうけた者は入学試験を免除される。

中学校を新設

熊本マリスト学園

二年前に開校した熊本マリスト学園高等学校（熊本市健軍町、マリスト修士会経営、パトリック校長）では、このたび中学校を併設することになり、すでに校舎の新築もおわり、認可をうけて四月開校めざし生徒募集をはじめている。定員は八〇余名。

校舎を新築

八代白百合学園

八代白百合学園（八代市長町、シャルトルの聖パウロ会、校長十字架のマリア童貞）では昨年夏から校舎の増築に着手していたが、三月はじめに完成するので、三月二五日に深堀司教を招いて祝別式を挙行する。

聖小崎育児園焼く

二月一四日午后一二時三〇分頃聖小崎育児園＝北九州市八幡区本城赤坂、園長ルネ・ルリエ師＝の付属施設アフターケアーホームから出火、同ホームを全焼したが、園児はみな登校中で無事、幸い風がなかつたのと地元民の機敏な協力で類焼は免れた。

アックワビバ師が新地区長

佐賀県下のミラノ会

昨年逝去したズワノニ師の後任としてアックワビバ師＝多久教会主任＝が佐賀県下のミラノ宣教会の地区長に任命された。

××××

福岡市東田島教会助任ドワイヤー師は長崎市城山教会へ。同教会のオカナ師が東田島の助任に任命された。

児童福祉会献金

（1月27日）

	円
大名町	5.600
浄水通町	2.000
地行町	3.900
簑島町	1.600
西新山町	1.051
茶椨町	2.700
大宮町	3.306
高珂塚	2.000
那崎	1.315
吉島	—
箱賀	900
田市	1.022
古日	2.000
二	1.000
村	5.350
郷	2.360
米	5.775
田	2.000
野	—
子	2.250
島	1.250
賀	3.200
津	1.000
栖	—
里	1.050
雄	—
島	410
久	600
司	3.500
倉	7.500
湯川	2.200
戸畑	12.710
若松	5.000
八幡	3.505
王寺	1.400
黒崎	6.500
本城	1.000
水巻	1.500
直方	2.300
飯塚	2.380
田川	—
行橋	—
新田原	—
手取町	4.600
健軍	5.300
島崎	7.200
八代	3.500
人吉	2.700
水俣	1.200
隈府	2.075
玉名	1.695
荒尾	800
本渡	1.600
大江	1.500
崎津	2.470
計	140.274
福岡双葉学園	65.200
久留米信愛女学院	17.800
大牟田明光学園	11.300
戸畑明治学園	57.700
熊本信愛女学院	18.850
熊本マリスト高校	6.900
大濠幼稚園	7.044
西新幼稚園	3.772
福岡マリア幼稚園	10.500
二日市幼稚園	10.320
島崎聖母愛児幼稚園	5.819
人吉幼稚園	4.600
計	244.330
合計	384.604円
（昨年度）	289.350

聖心の使徒（昭和38年3月号）

表紙「三月によせて」　湯崎夫沙子画

四旬節……千寿利久
三月の意向　改革はまず自分から……林省吾
ベトナムの教会（三月の布教の意向）……粕谷源蔵
黙想　朝の奉献……河野義祐
キリストの聖墓……J・マータク
十字架の道……大野綾子画
私も聖人？……千寿利久
四旬節…十字架のイエズス修道女会
三月の聖人＝病者の友……宮本一彦
明治の頃……青山政徳
自然の驚異（十七）…H・ムシヤレク
新本めぐり……
ポスト……

一部　一カ月　〒共　五七円
一カ年　五七〇円

日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾井町七

医療法人雪の聖母会経営

井手医院
院長　井手速見
診療科目　内科　小児科　放射線科
久留米市日吉町十六番地
電話　二一七五番

聖マリア病院
院長　井手一郎
副院長　佐藤謙治
外科医長　津留水城
診療科目　外科　内科　小児科　放射線科　精神科　神経科　歯科
久留米市津福本町西鉄試験場駅前
電話　五八〇〇・八〇〇〇番

健康保険、国民健康保険、生活保護法
労災保険、未熟児養育施設指定病院

看護婦（正・准）募集
履歴書持参・午前中面談

カトリック教理

世界における神の秩序

信仰のつとめはよく果すが、毎日の生活ぶりがかんばしくない人がいます。こんな人はいい信者とは申せません。神は、私共のために世界を秩序に従ってお造りになり、そこにあるものをみなお托せになりました。ですからこの世界の秩序を通じて神のご意志をよく知り、信仰のつとめだけでなく毎日の生活をこれに合せるようにしなければなりません。

一、家庭における秩序

①夫婦生活の秩序

序

夫と妻がそれぞれこう考えました。「私ばかりせっせと働かされて、給料は妻にとられてしまう。妻は家で何もしない。妻とは別れよう」。「私にはもう自由がないわがままな夫にしばりつけられている。この家から出てゆこう」。この二人は結婚生活をなんと心得ているのでしょう。夫婦が死ぬまで助け合うようにおきめになったのは、神ではないですか。この秩序に反し勝手に結婚をやぶる人には、本当の幸福はありません。

② 子供に対する父母の義務

ある夫婦の家庭は春の日のように暖かで幸福です。二人は自分のつとめに精出して子供に食べさせよく教育し、祈を一所にし教会にゆくことを教えてあげます。これが両親の義務で、いちいち教えられなくても子供が何を必要としているかを見れば、神のおきめになった秩序、親の義務がわかるはずです。

③ 年長者の義務

子供たちは大きくなると家の手伝いができます。母親が用事で家にいないときは、姉が小さい弟の世話をします。危い所で遊んでいると注意します。これが神のお望みになった秩序です。

④ 家庭内の信頼と愛

母親は息子がうそを言っているのに気づきますと、すぐ言わないように注意します。でないと何時もうそを言うくせがついて、家のなかでは、もう誰をも信用できなくなります。これは神の秩序に反することです。

神は、知恵と愛をもって家庭生活のあり方を秩序づけになりました。もし家庭のものがみな、神のこの秩序に従うならば、そこからかけがえのない幸福とよろこびがわき出てくることでしょう。もしそうしなければ、必ず争いが起りおのおの自分のことしか考えなくなって、助け合いの精神は消えてしまいます。

二、世界における神の秩序

① 共同生活の秩序

家庭ばかりでなく、人間の相互の関係を規定する内的な秩序（法）もあります。これも神がお望みになったものです。例えば市は市長や市会議員によって、国は政府によって治められます。

② 天国

天使や聖人たちの国にも秩序があります。天国では勿論みな聖なる秩序を完全に守りますので、自由と平和がみなぎり、平和とよろこびに満ちています。

③ 自然界の秩序

知恵をもたないものの間にも秩序があります。石が地に落ちること、水が低い方に流れること、太陽がきまった時間に昇ることも秩序によります。つばめは空中をとび、巣をつくり、ひなをかえします。

石や太陽や鳥は、それと知らずに秩序に従うのであって、自然の法則（動物では本能）によってそうさせられるのです。

要するに、神はすばらしい秩序によって万物をおつくりになったのですから、これをよく守るとたすかりと幸福がえられます。これを守らないことが、不幸の原因です。

これらは、神のお望みも自分のしていることも知らず、ただ与えられた力や本能によって、動かされているのであって、盲目的な服従にすぎません。

三、自発的に従うこと

人間は、石や太陽とは違った方法で秩序に従うべきです。知恵をそなえているのですから、造物主を知り、造られた物を通して神のお望みをよみとることができます。しかも自由な意志も与えられているので、神のきめ給うたことに、強制されずに自発的に服従してゆくのが本当です。

ところが私共は時々、馬鹿なことをします。女の子が花を足でふみにじるとか、平気でうそを言うとか、小さい子供をいじめるとかこんなことを見ると、私共は悲しくなります。神のおきめになった秩序は聖なる貴いものですから、それをやぶることは神を侮辱することであり、そのお怒りにふれるわけです。

四、キリスト信者は

父なる神は、愛をもってこの世界をおつくりになったのですから私共も世界を愛し、御父のご計画を理解して、その秩序を大切に守るように努めるべきです。

神のお望みは、キリストと教会の教のなかにはっきり示されています。信仰の光によって、してよいことと悪いことのけじめがつくはずです。

神のお望みに従うのがむつかしいときには、よく祈って聖寵の助けを求めなさい。

神のおきて

神の十戒

一、十戒がさずけられる前

イスラエル人はエジプトにいるとき、人間の悪業をいやというほど見せつけられました。かれらは真の神の代りに太陽や偶像をおがみ、弱い人民を苦しめ、人を殺すことも平気でした。イスラエル人は長い間こういう所に住んでいたので、だんだん悪にまひして、周囲の人のまねをするようになりました。

しかしかれらは世の救主を出すべき神の選民です。このままではみなだらくしてしまうと心配なきれた神は、選民をこの危険から遠ざけようとおぼしめされました。

二、十戒をさずけ給う

神は、モイゼをつかわしてイスラエル人をエジプトから広々とした静かな沙漠に、おみちびきになりました。国を出発して三月目にシナイ山のふもとに着きますと、神はモイゼを山上に召し、今度、イスラエルの民と特別の関係を結ぶこと、民が自分のおきてを守るならかれらを世界中のどの民よりも愛し、めぐみをほどこすであろうと、おさとしになりました。

三日目の朝になると、にわかに雷がとどろき、稲妻がひらめき、雲が山をたれこめ、ラッパの音が鳴りひびきましたので、人々はテントのなかに小さくなっていました。モイゼはかれを引き出して山のふもとにゆきました。このすさまじい勢のなかで、神はおごそかな声を放って、契約の十の条件をお示しになりました。これが神の十戒です。

三、十戒の内容

この十戒は、人間のしてよいことといけないことの、一番重要な点を示しています。

第一戒から第三戒まで神は最高のお方、唯一の聖なる主にてましします。

第四戒—神は家庭を保護し給う。子供は父母を尊敬すべきこと。

第五戒—神は命を守り給う。誰もひとの命をうばってはならぬ。

第六戒—神は結婚生活を祝し給う。夫婦は忠実を守り、かんいんをおかしてはならぬ。

第七戒—神は人間の所有権を保護し給う。ひとの持ち物をとってはならぬ。

第八戒—神は真理と名誉を重んじ給う。ひとの名誉をけがしてはならぬ。

第九戒と第一〇戒—神は人の心の悪をも見のがし給わない。不正なことを心にいだいてはならぬ

このように十戒は、人間の生活を守り、幸福にするための完全な法律であります。なぜなら内容がはっきりして正確で、道徳生活の根本を示し、実際問題に適用できます。

人間が作ったものでなく、神の権威にもとずいています。神のやさしい心づかいがみなぎっています、人間の幸福のために与えられたものです。

十戒とキリストの教え

一、ファリザイ人のやり方

十戒は、いつくしみのお心から神が私共に下さった貴いおめぐみですが、多くの人はこれを重荷のように感じています。またイエスの時代のファリザイ人は、おきての文字の解釈にばかり熱をあげて、くだらぬ小さな規則を作り出し、人間の行動をがんじがらめにしておりました。

二、イエズスのお考えと模範

イエズスのおきてに対するお考えは全く違います。主は、おきてが御父によって与えられ、私共を御父にみちびくために与えられたのであると、教えておられます。従って私共は、まず御父のお考えはなんであるか、どうすれば御父のお気に召すかを頭に入れて、従うようにせねばなりません。

主は、教えるばかりでなく、おきてを忠実に お守りになりました。御父の好み給うことを果すことが主のよろこびでありましたので、周囲の人たちはみな、主の完全な生活ぶりに賛嘆をおしみませんでした。御父に対する愛が深かったから、それが外に表われたのです。

三、最大のおきて

ある日ひとりの学者が「おきてのうちなにが一番大切ですか」とたずねますと、主は「心を尽し精神を尽して神を愛しなさい。また隣人を自分のように愛しなさい」と申されました。主のお考えではこの二つがおきての根本であり、すべてであります。神と隣人に対して愛を実行するように全力を尽すなら、すべてのおきてを実行することになり、それがまた御父のお気に召すことになるのです。」

良心とはなにか

神のご意志は、世界の秩序のなかに、またおきてやキリストの愛のお手本のなかにあらわれています。しかし目に見えないし耳に聞えるものでもありません。神のご意志とそうでないものを区別するために、目や耳とは違った特別の器官をお与えになりました。これが良心です。

一、善と悪を区別する器官

誰でも良心をもっていますから良心の働きを知るのはかんたんです。

母親が上の子に赤ちゃんのことまかせて外出しました。縁側から落ちないように注意するように言われています。そこに友だちがさそいに来ました。行ってもいいだろうと思いますと、すぐ良心が行ってはいけないと命令します。

良心は、私共が何かをする度毎に声を出すわけでありません。本を読むとか、テレビを見るとかただそれだけでは、だまっています。しかし悪い本を読むとか、勉強をなまけてテレビを見ようとすると「その本は読むな、テレビのスイッチを切りなさい」と命令します。

良心の命令にすぐ従うのは、時としてつらいことですが、その通りにしますと、心はさわやかなよろこびにつつまれます。いいことをしたのですから、人は賞めてくれなくても、心の中に在す神が賞めて下さいます。

正しい良心から心の平和が生れてきます。反対に良心にたてつくと、心は針にさされたような苦しみを味います。

二、良心的生活

① 正しい良心と誤った良心。

この長上の命令は従うべきかことわるべきか、これは神のお望みであろうか、これをすると罪になるのだろうかなどと、良心が判断に迷うことがあります。正しい教育を充分に受けていない間はそういうことが度々ありますが、また罪や情欲や悪い傾きのためにみだされることもあります。

② 神のご意志に基いて良心を調整すること。

時計は正しく時間を示さなければ役に立ちません。時間はラジオの時報に合せます人間の良心は神のご意志に合せます。これは天文台の時計のように正確です。ご意志は世界の秩序やおきてのなか、キリストの模範や聖人の生涯、教会のおきてのなかに現われていますから、良心の働き具合をこれらによって コントロールして おきます。そうしたら必要なときに正しく指示を与えてくれます。

③ 相談すること。

何が正しいかを純な心で探すように努め、悪い下心や利己愛によって狂わされないようにします。自分の判断に自信のないときには両親や先生や司祭にたずねます。それにもまして、神がいつも心を照らして下さるように常々よく祈りましょう。神は聖寵をもって良心をデリケートにして下さいます

④ 良心に従わないでいると。

度々良心に従わないでいるとさびた小刀のように、力がにぶってしまいます、そして重大な事柄についても大間違いの判断を下して取りかえしがつきません。良心に忠実な人は、その声にすなおにすばやく従い、自分の望みや情欲に沈黙を命じて、正しいことをどこまでも実行してゆきます。

黙想は救霊のための貴重な手段である。なぜならば、忠実に黙想をするものは、決して罪の中にとどまることができないからである。

ベトレヘムより カルヴァリオへ　中央出版社
アベル・ラム著　¥三二〇
誰にでもよく分かる主イエズスのご生涯の黙想の書。
福音の一節〻祈り、決心によって、黙想の初歩者にとって、よき道案内である。
中学生のためにも好適。

十字架生活　中央出版社
マルセル・ポリ著　¥一五〇
「十字架の道の黙想ほどたやすく、しかも意義深い信心はない。十字架の道の各留はそれぞれ最も変化ある最も個性的な黙想を暗示し、祈りと糺明の材料を豊富に提供してくれるからである。」
——ムーサロン大司教

キリストとともに—ご受難—
ドン・ボスコ社
A・エバンヘリスタ著　¥四〇〇
十字架上のキリストの祈り、言葉、願い、従順、委託、愛など、信仰生活のつきない泉である救い主の十字架を多方面から黙想することを教える四旬節のよき黙想書。

典礼にいきる信心—救い主—
中央出版社
H・デュモリン著　¥二二〇
四旬節の主日と聖週間の典礼にそっていかに救いの効果を各自の霊魂のうちに実現して行くべきだろうか？

大名町・聖パウロ書院
岩田屋六階　セント・ポール・コーナー

見えない神を見えさせる
創立史

アヴィラの聖テレジア著
東京女子跣足カルメル会訳

この「創立史」が翻訳されて、「自叙伝」「完徳の道」「霊魂の城」と、聖女の四大著作がすべてそろったわけである。

わが国の出版界には、ほとんど知られていないこれらの著作が、世界における最高の古典であることを思う時、感慨なきをえない。これらの貴重な作品の翻訳が、わが国において、しんに劃期的な出版として迎えられるのは、いつの日だろうか。

それにしても、投機的なベストセラーめあての出版のみが、多く目につく現在、このような地道なたゆまないいとなみを続行しておられる方々に、心から敬意と感謝の念を表したい。

「創立史」は、とりもなおさず神にたいするご奉仕の歴史であり、また創立にあたって、種々、聖女を献身的に助けた多くの恩人にたいする感謝の記録でもある。一つの修道院さえ、創立するのはいかに困難なことであるか、これにより、つくづくと思い知らされた。

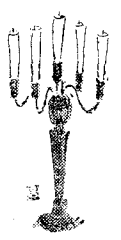
それにもかゝわらず、四十七才の時、「かの女の髪の毛と同じくらい」多くの修院を設立するようにとの命をうけ、アヴィラにはじめてサン・ホセ修院を創立してから、六十七才で帰天するまで、二十年間に、なんと十八も修道女の修院と十四の修道士の修院を創立したのである。計三十二にのぼる修院を創立した聖女は、激務にたえる余程の健康に恵まれた人であろうと想像していたが、案に相違して、つねに病弱に悩まされた人であったことを知り、全く吃驚させられた。まさにこれは「自叙伝」にあるように神の憐みの書である。

「こうした諸修院の創立の物語のなかでは、寒さや炎天、ときとしては、一日じゅう降りしきる雪のなかをいく旅の苦しさは申しますまい。何度道にまよったことでしょう。たいへんかげんが悪かったり、熱が高かったりしたこともありました。けれども神にみ栄あれ！平素病弱な私が、神に力づけられているということを、たびたびはつきり感じていたのです。新しい創立をしなければならないときに、病気で痛みがはげしく、たまらないほど不安になったことも、幾度あったかしれません。修室にいても、横にならずにいられないように感じたことさえありました。そのようなとき、みあるじのほうを向いて、どうして私にできないことをお命じになるのかと泣きごとを申しあげたもの でした。するとみいず高き主は、力をお与えくださるのでした。主からたまわった創立に対する熱意とまたそれにつきものの心配とが、私に自分を忘れさせたのだと思います。」

創立への反対は、地元の人たちからばかりではなく、緩和派の上長からもしつようになされた。聖女はときとして、自分が今なしていることは錯覚ではないかとの疑念をもつことさえあったが、その時、「テレジア、今こそしっかりしなさい」「私である」「何をおそれているのか。いつ私があなたをみすてたことがあったか。私は、これまでどおりのいつもおなじ私である。この創立はふたつとも放棄してはならぬ」などと励まし、勇気づけられたのは、ほかならぬみあるじご自身であった。それも聞えたような気がするという程度のお言葉ではなく、もつと明らかな厳然たるものがあったようである。聖女の筆になるものを読んでいると、みあるじとのあまりにも親密な交わりのために、つい見えない神を、見えさせられるような気さえするのである。

そして、修院創立の苦心談というもののみには終らず、修道女のもつべき徳などについても説き、英雄的な生涯をおくつた多くの人物の挿話がちりばめられていて、変化に富んだ読物となつている。

とに角、観想と活動とが、その極限において、見事に調和せしめられていた一人の聖女の、心奥の秘密にふれることができるだけでも、じゅうぶん読むに値する書物である。（七百円、ドン・ボスコ社）



典礼シリーズ
㉔ 聖別
わたしのかたみとして
ラプラント

ぶどう酒の聖別につづいてすぐ司祭は、イエスが最后の晩さんのおわりに十二使徒にのたもうた次のみことばを加えます。「あなたたちがこれを行うごとに、私のかたみとしてこれを行え」（コリント前一一の24、ルカ二二の19）

このみことばがあるからこそ、ミサはご受難の記念とよばれるのです。そしてまた同じ理由によつて聖体奉挙につづく祈りも「ゆえにわれらは……を記念して…」のことばではじまります。従つてミサは、記念の儀式であり、追憶の行為です。一体なにを追憶するのですか。それは私共のたすかりの玄義であります。

なぜご復活とご昇天を記念するのですか

救主イエスのご命令を実行にうつすために使徒たちは、キリストご自身の記念、すなわちミサを行うことにしました。しかもキリストが天にお帰りになつてすぐあとからです。

罪のあがないの玄義は、ただご受難だけでありませんので、ミサをささげる者はご復活とご昇天の記念をもあわせ行うことを忘れませんでした。もしイエスがよみがえり給わなかつたら、罪に対する全面的勝利もなかつたはずです。そしてもしそうであつたら、聖パウロも云つている通り、「私共の信仰も空しい」ものです（コリント前一五の17）。

主は死し給うたばかりでなく、復活して永久に生き、御父の右に坐して、私共のために取次をなしておられます。ですからキリストの追憶には復活もご昇天もふくまれなければなりません。

ご受難とならんでご復活を記念することは、第三世紀のはじめから行われています。聖アンブロジオは、三八五年頃、ご昇天の記念もしております。実際かれの作つ祈は、現在の私共の「ゆえにわれらは…を記念して…」とほとんど同じです。

カトリック東方典礼では、ほかのキリストの玄義、たとえばご埋葬とか御父の右に坐し給うことなどの玄義の記念もいたします。

中世期のあるミサ典書にはキリストのご降誕さえ加えられています。

どのような玄義の記念がなされるにせよ、聖体奉挙後のこのすばらしい祈をとなえるとき教会の念頭にあるものは、ミサが、最后の晩さんだけとかご受難だけというように、キリストのご生涯からきりはなされた玄義でなくて、キリストによる人類たすかりの全行為の記念であるということであります。

この祈がきわめて重要であるもう一つの理由は、ここで全会衆が祭壇の上に降り給うた貴いいけにえを、司祭と一所にささげるからであります。このときまではイエズスを象徴するパンをささげていたのですが、今ここではイエズスご自身をささげるのです。

「おんみのしもべなるわれら」というのは、むかし司教と共同してミサをささげていた司祭たちを指し、「おんみの聖なる民」というのは、洗礼をうけてキリストのおん血によつて聖化され、主を拝領できるようになつた信者たちを指しています。

「全会衆が共同して供え物をささげるというのが、ミサ執行のクライマックスである」と現代のある典礼学者は申しています。

ところが不幸なことに信者たちは、聖体奉挙のあとは精神の緊張をほぐすときとばかりに、咳ばらいをしたり、体を動かしたり、姿勢をくずしたりします。丁度ご祈のあいだに、キリストのおん体とおん血がいけにえとして天の御父にささげられ、あがないのおめぐみが頂けるのであることを忘れています。

聖金曜日とご復活祭、ご死去とご復活はご昇天によつて完成された私共のたすかりのただ一つの大きな玄義の二つの面であつて、この二つはきりはなすことのできぬものであることを、私共は信じているのですから、この祈をよくとなえて、復活の玄義を再現するように努めましょう。

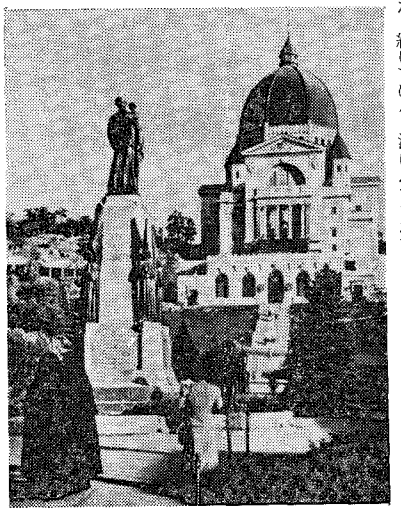
ミサは私共の復活の記念です。この世に生れ、よみがえつて、天に昇り、永遠のすみかを準備し給う救主のうるわしい記念です。この祈の終りの部分にあるように「イエズスは永遠の生命の聖なるパン」にてましますのです。

――わが旅行記――

ロンドン空港、外国の空港で日本語のアナウンスがあつているのは、ここだけではあるまいか。日航が北極まわりで来ているからである。私の並んでいるモントリオール行きのゲートの隣りが日航のゲートである。テニスの選手だろうか四・五人と、彼らを見送りに来た人々であろう、二十人ばかりの日本人がにぎやかに話合つている。私も一歩左りに寄つて並べば十七時間ばかりで東京に着く。だが、これから、大西洋を渡り、米大陸を横断し、地球を半分まわつて……と思うと、フッと冷たい風が胸の中を吹きぬける。

点々と水山の浮かぶ北洋を見下ろしつつ。機は北極を思わせる空を静かに飛ぶ。隣りに、五十がらみのスコットランド人が坐つている。がつぢりとした体躯、おだやかな眼差し、スコットランドそのものを思わせるような人柄をたゝよわせている。何がきつかけだつたろうか、互いに心打ちとけて話し始めた。私がスチュワーデスとフランス語で話していたので英語は話せないのかと思つて失礼をしたと言つて、はなはだ紳士的である。あのスコットランド兵がはいているスカート姿の自分の写真を見せて、故郷ではボーイ・スカウトのリーダーをしていると言う。二人の息子の写真や奥さんの写真を見せたりして、全くあけつぴろげの話しぶりである。三十人ばかりの仲間と一緒にカナダにレーダー基地建設に行くとのこと。通路を隔てた向方の席ではポーカーをやつている。そのうちの一人が、こちらを向いて、その席が気にいらなければ変えてもらうことができるだぞと言う。しかし、彼は、ここがいいと言いながら私の方を向いて、笑いながら、自分はトランプが嫌いなんだと独り言のようにつぶやく。

アメリカ大陸は、旧大陸から行くと、活力にみちた若々しさを感じさせる。なるほど新大陸だ。機上から見ると、白い真直ぐの道が、森林をぬけ、山をぬけ、果しなく続いている。河にぶつつかつて白い線は切れるが、定規をあてたように、向う岸から全く同じ直線で、また白線は果しなく続く。道だろうか、それとも、森林火災の場合、延焼を防止するための空地帯であろうか。とにかく、広大な自然を、人間の力が、これでもか、これでもかと、活力にみちてつき抜けている感じである。



ペトロに太陽を背に（五）

モントリオールにしても、特にサン・フランシスコからロス・アンゼルスに至るフリー・ウェイは、実際、道はできるものではなく、造るものである。立体交差の、夢の掛け橋とでもいわうか空中にゆるい曲線を描いて登る時には、幼い頃にサーカスでオートバイの曲乗りで味合つたスリルに似たものを感じる。

ニューヨークのマンハッタン島群立する摩天楼。エンパイヤーからの眺めは壮観と言うほかはない。ここから東の方の河岸に国連ビルが、現代建築の美しい姿を見せている。この国連ビルを見学した時のこと、四・五分時間が余つたので玄関の近くのシネマ・ホールに入つた。後の方で立つていると、頭のはげた紳士風の人間がそづと身を寄せてきた。はつと思つて財布が内ポケットにあるのを確めたうえで、腕組みして特構えていると。肩の辺りから、サッとなで下ろした。餌物のありかの診断だなと思つていると、ズボンのポケットにいと静かに手を入れてきた。カメラの露出計が入つている。今だッと思つて、ぐッと手をつかむやいなや、さッと身をひるがえして外に逃げた。国連でスリと対決する巻である。

ワシントンは、落着いた静かな街である。ビルも確か十一、二階以上のものはないようだ。法令で制限しているとのことだ。

人間の欲望を野放しにしたようなニューヨーク、それを抑えたワシントン、全く対称的である。そして、双方とも、人間の意志が、がつちりと上から押しかぶさつている。どうしても自然に出来あがつた都市とは思われない。こういつたところにも開拓者の精神が息んでいるのであろうか。

教会の建物にも同じことが窺える。モントリオールに聖ヨゼフのオラリオというのがある。丘の上に立つた、とてつもなく大きな教会である。ここには私事の因縁があつて、特別の親しみを持つて行つた。一階の方から上の聖堂に行くには、病人、年寄りのためにエスカレーターがある。勿論一つの建物の中だ。一寸失礼してエスカレーターで昇る。聖堂は立派な芸術作品である。建物の内部は、ところどころ、まだセメントを塗つたままになつている。金ができる毎に少しづつ仕上げていくのだとのこと。今までに何十年かかつている。そして完成するまでに、また何十年かかることだろう。営々として築きあげられていくのだ。あせらず、いそがず、がつちりしたプランと石のように堅い意志をもつて。

（写真は聖ヨゼフのオラトリオ）

俳句

榕樹洞

椿咲く足摺岬濤せまる
足摺に椿ちらほら崖たかく

風声

雪解けの音陶房の窓ゆする
窓越しに眺める吾子や梅日和

牧泉

春泥やバス山の如せまり来る
日向ぼこ受験子を主に託す

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　四八〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　六五〇円
コンサイス英英辞典　六二〇円
デイリーコンサイス英和辞典　五〇〇円
新クラウン英和辞典　六五〇円
シェム英和・和英辞典　四五〇円
最新明解英和辞典　五五〇円
初級クラウン英和辞典　三三〇円
初級コンサイス英和辞典　二〇〇円
初級コンサイス和英辞典　一五〇円
三省堂独和新辞典　六〇〇円
コンサイス独和辞典　五五〇円
コンサイス仏和辞典　五五〇円
コンサイス露和辞典　七五〇円
日西辞典　二、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、五〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、二〇〇円　三、〇〇〇円
新版広辞林　一、三〇〇円
明解古語辞典（改訂版）　四八〇円
明解国語辞典　四三〇円
三省堂国語辞典　四二〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　三〇〇円
大明解漢和辞典　八〇〇円
明解漢和辞典　四〇〇円
三省堂大六法全書　一、三〇〇円
模範六法全書　四三〇円
明解六法　一五〇円
学習百科事典（新版）　一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　六五〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

SSD
三省堂 福岡出張所
本社　福岡市向田町九ノ三
東京都千代田区神保町

昭和30年7月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行　第93号

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十円

米国生れの修女列福

寡婦で修道会創立者

エリザベス・バーレー・シートン（米国の愛徳修道女会の創立者）は、三月一七日に福者に列せられた。

かの女は、米国生れの市民としては「福者」と公けに宣言される最初の人である。

シートン修女は三三才のときにカトリック信者になった。一七七四年（アメリカ独立宣言の二年前）マンハッタンで、有名な医師の娘として生れた。母方の祖父はリッチモンドの聖アンドリュー監督派教会の主任牧師であった。

一九才のとき、ニューヨークの船会社の相続人W・シートンと結婚し、二男三女をもうけた。一八〇三年秋、夫の病気療養のためイタリアに渡ったが、上陸後一週間で夫は病死した。

エリザベスはなお数カ月イタリアに滞在する間に、はじめてカトリックの教にふれた。帰国後さらに教理を深めてカトリック教会に帰正した。

かの女はこの改宗ため、親戚一同から交りを絶たれ経済的援助もうけられなくなったので、五人の子供を養うため教壇に立ち、バルチモアでカトリックの初等学校を開いた。一八〇八年にかの女と、他の女子教員らは修道女になることを決心し、バルチモアのジョンキャロル司教の指導のもとに新修道会を作った。

シートン修女らは、一八〇九年の夏メリーランド州エミッツバーグに移り、創立者は一八二一年にそこで生涯をおえた。かの女が創立した修道会は全米にひろがっている。

ソ連スリピイ大司教釈放

緊張緩和のきざしか

教皇は、二月一〇日、ソ連で通算一八年間禁固刑に服していたソ連ウクライナのヨシフ、スリピイ大司教（七〇才、ビザンツ式典礼カトリック司教）を謁見された。

スリピイ大司教の劇的釈放は、ヴァチカンではローマ聖座とソ連間の緊張緩和のしるしと見ている。

公式の言明はないが、昨年公会議開催中にテスタ枢機卿はベア枢機卿の仲介で、ロシア正教会のモスクワ大主教（公会議にオブザーバーとして出席）らと会見して、スリピイ大司教の釈放を要請したといわれる。そしてこの要請は教皇ご自身の発意でなされたものであると、考えられる。

一月上旬モスクワの大主教からローマの希望が政府の権威者に伝えられたとの知らせがあり、同月二七日ウィルブランド師はモスクワに赴き、二月六日師はスリピイ大司教と共に汽車でウインに到着、同九月ローマに帰還した。

テスタ・チコニヤ二両枢機卿は翌日の午後、大司教を教皇の書斎に案内した。教皇は大司教を見ると感動のため抱擁しようと進み出られたが、大司教は床にひれ伏して教皇への尊敬を表わした。

旅行と信者のつとめ

観光センター聖職者大会

第一回イタリア観光センター聖職者大会が、公会議聖省の発起で二月一八日から二三日までローマで開かれた。

観光旅行の大流行にともなう道徳と宗教上の諸問題については、教皇聖下に代って国務長官チャコニヤ二枢機卿が公会議聖省長官チリアチ枢機卿あてに書いた書簡中に表明された。

チャコニヤ二枢機卿は、本会議が時宜をえたものであることを指摘して、次のように述べた。

今日、観光旅行の急速な流行はその非常な重要性と、キリスト信者の宗教、道徳上の習慣に対する影響の両方の見地から、最も緊急な問題の一つとなっていることは、万人のみとめる所である。

教皇聖下は、すでに観光旅行に よって生じつつある新しい習慣をよく存じである。それらの習慣は、もし必要な措置がすぐに講じられなければ、聖日の務め、宗教の実践、青少年の道徳および家族組織そのものに悪い影響を与えるおそれがある。

一方、その書簡は、観光旅行の有益な面も強調している。「キリスト教的人生観によって生かされつつ、物心両面における平和的で愉快なくつろぎのふんい気のうちに観光旅行が行なわれるようにするすべての団体は、奨励されるべきである」。

シオンの娘よ、恐るるな

みよ、録されたる如く、汝の王は小ろばに乗りて来れり
王よ、世の造り主よ、われを救わんとて来りまする御者よ

世の光

教育のめざすもの

かってヴイクトール・ユーゴーは、これから一つの大学の設立は一つの刑務所の減少を意味することになるであろう、と預言したがそれから百年、不幸にしてこの預言はまだ実現していないようである。

今日、短大をもふくめて五百以上の大学が設立され、義務教育は六年から二年に九年に引き上げられ、世界一の就学率を誇っている。それでも刑務所がなくなった話は一向に聞かないし、犯罪が減少したという傾向も見当らない。かえって毎年の犯罪統計によると青少年の犯罪が激増しつつあるし粗暴犯の年令がハイティーンからローティーンに下りつつあるという。このことをもって何も教育無能を主張する心算はさらにない。ただ俗にいう、仏作って魂入れずの言葉のように、このことはわれらに教育制度や教育技術以前の何物かが欠けているのではないかと反省を促しているように思われる。即ち制度や技術が向けられる教育目標の喪失である。

人間の教育である以上まず人間とは何かという事を考えねばならない。そして世界におけるその位置や使命といった、いわゆる人生観、世界観の確立が緊要であり、それなくしては少なく共人間の教育はあり得ないと考えるわれらは人間の崇高な目的、真の目的により良く導くものをより高く評価する。従ってわれわれは諸価値の間に序列のあることを認める。物質的価値に対する精神的価値、社会に対する個人の人格、最後に人間をもふくめての宇宙に対する神の超越性を認めるものであり、精神の物質に対する優越も人間の尊厳も、すべては究極目的なる神からでて、それに秩序づけられている程度に応ずると考えるのである。

「わが闘争」という記録映画が上映されたが、アウシュヴィッツの収容所の場面だけは忘れることができない。えんえんと つづくユデヤ人の子供、老人、女の列と、力を使い果し「役にたたなくなった」捕虜たちが、放心したような虚ろな目をして出口のない収容所へとつづく。幾棟も並んだ倉庫にはガス室で毎日のように処理されていた人々の靴とか眼鏡とかが、山のように積まれていた。人間はここではもはや使い古された古靴と何の変りもない。そこには人格の尊厳も、生命の尊さの観念もない、ただあるのは一つの民族の繁栄であり、国家社会主義、ナチのスローガンだけである。人間の憧れも理想も、ささやかな喜びも国家の前にはまさに一片の風にそよぐ葦にすぎない。

神を見失った世界においては、人間の真の尊厳はその根拠を見失う。神に肖ったものとして創られ神の光栄に召された人間の使命をみなければ、個人は単なる全体の一部、使い古された一箇の歯車にすぎなくなるであろう。そして国家に貢献するとは、とりもなおさず物質的繁栄に寄与することのみに堕してしまうのは、当然の帰結であろう。

ナチにせよ共産主義にせよ、全体主義が社会を個人に対して優越した地位におき、個人の道徳的人格の独立性をみとめないことにおいては共通であるが、神なき教育が子供を唯物主義、ひいては再び全体主義への道を開くことを考えてみなければならないだろう。

われらは他人の行為に対しては敏感であるし厳しくさえある。しかし自分のことは案外気がつかない。荷車の上にるいると重ねられたポーランドの餓死者の画面に人々は息をのみ、人間のもつエゴイズムと惨酷さに慄然としている。しかしわれらの周囲をふり返って眺めるとき、同じようなことが行なわれていないだろうか。

毎年、百万人からの幼き生命が日の目をみずして暗から暗へと葬られている、を思うとき、神をもたない現代の病巣の深奥をのぞく気がする。より高き文化生活を享受し、子供たちに豊かな生活と教育を与えるために、社会にとっては役に立たない、むしろ有害と見られる、これら幼き魂には生きる権利は、この社会においては拒まれるのであろうか。ここでは経済が人間完成に奉仕するのではなく人間が経済によって滅されている。

これは名状しがたい価値観の混乱であり、相対的道徳主義から生じたものである。この主義によれば普遍的な真理とか正義とか、善の基準とか人間の究極目的というものは存しない。正しい事の代りに利益という概念が基準になり、道徳とは処世術である。その結果「人格の完成」という文句も意味のない飾り文句となり「平和な国家社会を形成するに役立つ人」という言葉も、単に物質的な繁栄をもたらす人というだけの意味に堕してしまうのである。

教育は常に子供に対する畏敬の念を前提とする。しかし真の畏敬は、子供の魂が神の似姿として創造され、その永遠の生命に召されて居る一つの自由な人格であるとの意識から生ずる。われらはこの畏敬と同時に、人間が悪に傾き易き傷ついた本性をも持つとの人間観にもとずいて、神の恩寵のもとにキリストの模範と御教に照され正しき理性により判断し実行する誠実な、人格の完成された人間を教育することを、われらの教育の使命と考へるのである。

（平山高明）

南ア、南米に多くの司祭を

ベルギー・ブルージュのE・J・ド・スメット司教は、自教区からできるだけ多くの司祭を、アフリカと南アメリカに送る決意のあることを明らかにした。

ブルージョ教区は、人口や産業施設の増加で司祭の数は決して十分とはいえないが、コンゴ、ルアンダ、ブルンディ、南米の諸教区はさらに深刻な司祭不足になやんでいる。司教の勧告に応じる司祭は、最低三年間布教地にとどまることになっている。現在、各地で働いているブルージュ出身の宣教師は二六〇名に上っている。

カテキスタ養成機関設置

南ローデシアに

南ローデシア（アフリカ南部、ベルギー領）にはじめて、要理教師（カテキスタ）養成機関が開設された。

このセンターは南アフリカの教皇使節マッギュー大司教の管轄下におかれている。二年間の養成期間に、自ら進んで布教事業に献身しようとする若い信者たちに、内容の充実した課程がほどこされる。二年毎に二五名の志願者を収容するが、志願者は堅実な信者でなければならず、しかも既婚者であることが望まれている。

各学年は二学期に分れ、学期毎に一月の休暇がある。センターには二名の専門の司祭がおり特殊講義については、他の専門の教師が援助する。一名の修道女が家政学、一般教養、宗教教理を教える。

全課程を終了すると、十字架、カテキスタ免許状をさずかり、各自の司教によって住地がきめられる。なお月々の給与が渡れざるほか、信者から謝礼をうけることもできる。

聖体礼拝

（四　月）

第一日曜　——
第二日曜　今村教会
第三日曜　黒崎教会
第四日曜　女子パウロ修院
八代教会

祈禱の使徒会

（四　月）

〔一般の意向〕青少年に対する教理教授の近代化
〔市教の意向〕アフリカ労働者のため

四月

二　日（火） パウラの聖フランシスコ証聖者
五　日（金） 聖ヴィンセンシオ・フェレリオ証聖者

福音の光修道会福岡本部で着衣式

七　日（日） ご受難第二の主日（**枝の主日**）

聖週間中、われらはカルワリオの山上にそびえる十字架から目をはなすことができない。この十字架は、ギリシャ人のように人智をもてはやす類の者には愚の極みであり、ユデヤ人のように世の栄華を求める者にはつまずきの石であり、神ののろいにほかならない。しかし信仰をもって神のご計画をながめるわれらには、ふかしぎなお力のあらわれである。

十字架上のみじめな死によってわれらが輝やける神の子とされたことは、神の愛の勝利であり、光栄だからである。こうして十字架は神の王国の聖旗となったのである。

一一日（木）聖木曜日（聖体制定の記念日）

キリストはこの世を生かすためにご自分のいのちをすて給うた。このささげられた神の御子のお体は、いまわれらを永遠に生かすパンとして与えられるのである。

一二日（金）聖金曜日（ご死去の記念日）

キリストを十字架につけたのは、われらの罪である。しかし今は痛悔と涙をこめて刺しつらぬられたお方をあおぎ見る。われらのたすかりはこの十字架にかかっている。こがね色にかがやく木を平伏して礼拝しよう。

一三日（土）聖土曜日（キリストご埋葬の記念日）

今晩、日没後にはじまるミサでは、すでにご復活のよろこびのアレルヤが高らかにうたわれる。信者たちはローソクを手に、復活し給うたキリストと共に、洗礼の約束に忠実ならんことを宣言する。

一四日（日）イエズス・キリストのご復活の大祝日

教会は信者たちに教主キリストのご復活の事実を想起させようとするだけではない。ご復活は今日のでき事であって、信者のおのがキリストと共に霊的に復活してゆくのである。

大名町教会で司教荘厳ミサ（午前九時）

二一日（日） 白衣の主日

ご復活後の週間には「信仰」ということばが、新たなひびきをもって、われらの心に迫ってくる。それは知恵によって神の御子を承認する以上にその絶対的な魅力にわれらの全人格がとりこにされることである。

北九州地区司教の日（於門司教会）

二三日（火）教区司祭月例集会日
二五日（木） 福音史家聖マルコの祝日　大祈願祭
二八日（日） ご復活後第二の主日

今日は「よき牧者の主日」。牧者たるキリストは羊を知っている。即ち名前や顔をおぼえているというのでなくて、羊の上に格別の愛をそそぎ給う。だから「われはわが羊のために、生命をすつ」と申されている。

茶山教会で堅信

要理教授法講座ひらく

ラベル・平山両師が担当

福岡地区公教要理委員会では、このたび久しい以前からの深堀司教の希望と、多方面からの要望にこたえて、「要理教授法講座」を開設する。

日時—本講座の第一期は、来る四月二〇日（土）を皮切りに二二週間、毎土曜日午後一時から三時まで、二講義づつ。

場所—福岡双葉学園

講師—第一講義は福岡サンスルピス大神学院教授ラベル師。第二講義はパリのカトリック大学要理教育研究所での研学を終えて昨年帰朝した平山高明師。

受講資格—修道者、一般信者を問わず、広く聴講を歓迎するが、とくに要理教育にたずさわっている者。

ラベル師

平山 高明師

第一期の講義内容

最初の八講義で、要理教育法の歴史を簡単にたどり、各時代を支配していた精神について特に強調する。この説明によって、教会の最初の数世紀間に、要理教育がわれわれに対する神の愛に焦点を合せていたことを、容易に納得することができる。当時の宗教々育においては、聖書の利用がさかんで熱心な信者になるためには、教を"知る"だけでは不十分で、なによりも真のキリスト信者として"生き"ねばならないことを、わからせようとしたのである。

問答式の要理書が普及していったのは、それからずっとあと、とくにルーテルの誤謬に対して、力こぶを入れざるをえなくなってからのことである。

現代にみられる要理教育の復興運動は、体系的教理の必要を否定しないまでも、神がわれわれを愛し、われわれはこの愛にこたえねばならないことを、明瞭にみせるような風に、教を伝える必要のあることを強調しているのである。これは、一九六〇年の夏、ドイツで開かれたアイヒシュタットの研究週間の結論のなかに、簡潔にまとめられている。

次の一六講義は"予備布教段階"についてなされる。予備布教段階とは、非カトリック者に厳密な意味でのカトリックの教の説明に入る以前の期間のことで、長さは一定していない。非カトリック者に対して教を述べる場合、カトリック者にそれを教えるような風にしてはならないことは、もちろんのことである。

長さはともかく、ある程度の準備期間は絶対に必要で、その期間に、われわれが伝えようとするキリストのみ教を、非カトリック者が智的にそして霊的に受けいれる態勢をととのえてやらなければならない。

この準備段階はどのように進展してゆくものであるか、ラベル、平山両講師の講義は、この点を明らかにしてゆくはずである。

要理教授法講座プログラム

一、要理教育法小史とその精神（八時間）

四月二〇日
(1)初代教会時代からトレント公会議に至るまで
(2)トレント公会議から現代に至るまで
四月二七日
(3)アイヒシュタット及バンコックにおける教理研究週間の目的
(4)アイヒシュタット研究週間の決論第一部「神は人間に語り給う」解説
五月四日
(5)アイヒシュタット研究週間の主要議題
(6)アイヒシュタット研究週間の決論第二部「人間からの答」解説
五月一一日
(7)バンコック研究週間において討議された要理教育法三段階において簡単な解説
(8)バンコック研究週間において討議されたその他の問題の要約

二、予備布教段階（十六時間）

五月一八日
(9)予備布教段階の解説
(10)学生が出す宗教に対する疑問の主要なものについて
五月二五日
(11)予備布教段階の解説（続き）
(12)学生が出す宗教に対する疑問（続き）
六月一日
(13)予備布教段階の神学
(14)人間的及び霊的な面で、未信者の環境に不足しているもの、特にその重要なものについて
六月八日
(15)未信者の求めているもの、特にその主要なものについて（以下省略）

各地でアチエス

聖母への宣誓を更新

【福岡セナートス】レジオ・マリエ福岡セナートスの昇格初のアチエスは、三月一七日（日）午後二時半から深堀司教臨席のもとに大名町教会で挙行され、板付アメリカ基地の信者会員をふくむ福岡市内二二のプレシディウムと四つのジュニアから、司祭八名、全員一一〇名がマリアの御旗のもとに参集した。

ロザリオのあと、司教が二〇分にわたりマリア信心と公会議について熱のこもった説教を行い、司教、司祭らにつづいて全員が二名づつ、御像のまえに進み出て、来る一年間、聖母マリアの使徒として、イエズスとマリアのご光栄をたかめ、人々のたすかりと自己の聖化をめざして使徒業にまい進するとの誓を新たにした。

【北九州クリア】北九州クリアでは三月三日午後二時から、北九州市八幡区槻田の教会に会員約六〇名が集ってアチエスを行い、山東龍夫師が説教を述べた。

【熊本クリア】着実な歩みをつづける熊本クリアでは、アチエスを三月一七日午後二時から開き、天草島をのぞく県下各地のプレシディウムから会員一〇〇名が手取教会に集り、ダンフィ師の説教のあとマリアへの宣誓を更新した。天草島の本渡、大江の両プレシディウムは、本渡で同日アチエスを行った。

なお久留米クリアは、来る四月二一日にアチエスを行う予定。

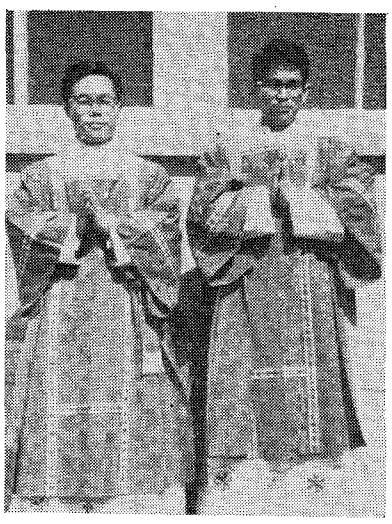
（写真は上下とも福岡アチエス）

三木神学生、副助祭に

福岡大神で叙階式

福岡サンスルピス大神学院春の叙階式は三月一七日午前九時より深堀司教司式で同院付属聖堂において挙行されたが、この日に福岡教区所属の三木義明氏（霊名パウロ・三木、若松市出身）と瑞球教区所属の宮良徹氏（霊名フランシスコ、那覇市出身）が副助祭にあげられて、キリストの祭壇にさらに大きく前進した。

なお同じく福岡教区所属の中浜一男氏が下級聖品の戒厳師と侍祭の位をうけ、山川渉氏がトンスラを授かった。両人とも長崎県南松浦郡岐宿町の出身。（写真右から三木、宮良副助祭）



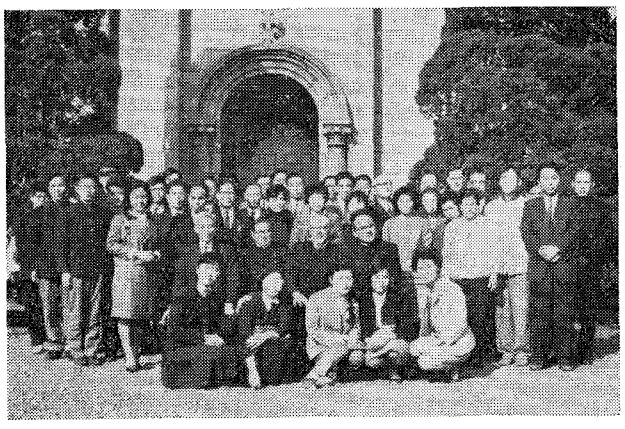
全教会で黙想会

深堀司教は、今年度四旬節教書をもって年のつとめについて広く信者の注意をうながし、教区の古い習慣になっている信者黙想会の実践をすすめたが、教区内のほとんどすべての小教区が、一日ないし数日間の黙想会を開き、大きな霊的効果をあげている。参加者のために貸切バスを出して信者の便宜をはかった小教区もあるとのこと。

訂正

先月号の児童福祉献金表のなかで、掲載もれの分がありましたので左の通り訂正いたします。

久留米聖母幼稚園　二四、五二五円



8月にSVP九州地区総会

聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会の福岡中央理事会の第三四回総会は、三月三日午前一一時半より熊本市手取教会において開催され、平田正喜師（理事会総指導司祭）以下、地元の手取、島崎および別府の各協議会の指導司祭のほか、中央理事下一〇協議会、なお別府から特別参加を加えて全員四四名が出席。

各協議会の活動報告は、今回より実状的な発表となり、質問と答弁で討議した。協議ならびに決定事項は左の通り。

(1) ブロック別の九州地区総会開催は、日本全国理事会の要望に従って福岡中央理事会が主催となり、八月第一日曜日に福岡市で開催することに決定。

(2) 北九州市小倉区湯川協議会に対し、本日正式入会を承認。戸畑、黒崎両教会でSPVに対しての動きがあり、この機に全面的に働きかけること。

(3) SPV黙想会開催奨励については、まず各協議会が主体となってそこで実行するようにする。

なお次回総会予定地は今村協議会とし、一二月上旬開催する。

（写真は手取教会前でSVP会員たち）

司祭異動

大江教会助任パワー氏は休暇のため三月十八日同地を出発、本国アイルランドに向った。

佐賀幼稚園新築

創立満一〇周年を迎えた佐賀カトリック教会付属幼稚園（園長サルヴィ師＝ミラノ外宣会員）では、これまで古い司祭館の一角を園舎に使っていたが、司祭館の新築計画にともない昨年八月から新園舎の建築にとりかかり、このほど完成、園児たちは早速広々とした明るい教室に引越した。

新園舎は、四教室、ステージ、炊事場など延五四四、九八平方メートル（約一六五坪）の建物で、福岡の菅種雄氏設計、地元佐賀の本庄組が施工に当った。司祭館の移転で運動場も十分広くなるはず。

本園は市の中心部にあって、入園希望者は年々増加し、これまでの建物では到底希望に応じきれない状態であった。三月二二日卒園当日の園児数は一六三名で、教諭、事務員とも七名。

アルベリオーネ師来福

男子聖パウロ会、女子聖パウロ会、ピエ・ディセポレ会の創立者で現総長であるヤコボ・アルベリオーネ師は、福岡の各修道院視察のため来福、三月二二日司教館に深堀司教を訪問した。

聖週間聖式の時刻

（大名町教会の分）

聖木曜日
午前八時＝聖香油聖祝の司教荘厳ミサ（於浄水通教会）聖体拝領なし。
午後七時＝最後の晩さんの司教荘厳ミサ。聖体拝領八時頃

聖金曜日
午後七時＝主の御受難、御死去の盛式。聖体拝領八時頃。

聖土曜日
午後七時＝御復活の徹夜の盛式。聖体拝領九時頃

聖体行列のお知らせ
恒例の福岡教区主催聖体行列は、来る五月五日（日）に、昨年同様、泰星高等学校と双葉学園の間で挙行いたします。

年のつとめ

年のつとめの聖体拝領の期間は本年は二月一〇日から六月九日までです。

聖心の使徒（昭和38年4月号）

表紙「復活」　湯崎夫沙子画
四月の意向　公教要理も近代的に　塚本伊和男
アフリカにも社会政策を（四月の布教の意向）　柏谷源蔵
黙想　朝の奉献　河野義祐
激励　十字架のイエズス修道女会
エンマウスへの道　三木次郎
写真特集　復活のキリスト
家庭の宗教教育　安斉伸
子供をキリストに導く　千寿利久
ある黙想会の感想
四月の聖人　公教要理の父　宮本一彦
自然の驚異（十八）　H・ムシヤレク
新本めぐり
ポスト
購読料　〒共　一カ月　五七円　一年　五七〇円
日本祈禱使徒会発行
東京都千代田区紀尾井町七

医療法人雪の聖母会経営

井手医院
院長　井手速見
診療科目　内科　放射線科　小児科
久留米市日吉町十六番地
電話　二一七五番

聖マリア病院
院長　井手一郎
副院長　佐藤謙治
外科医長　津留水城
診療科目　外科　内科　小児科　放射線科　精神科　神経科　歯科
健康保険、国民健康保険、生活保護法
労災保険、未熟児養育施設　指定病院
久留米市津福本町西鉄試験場駅前
電話　五八〇〇・八〇〇〇番

看護婦（正・准）募集
履歴書持参・午前中面談

カトリック教理

第一戒、われは汝の神なり
神を礼拝せよ

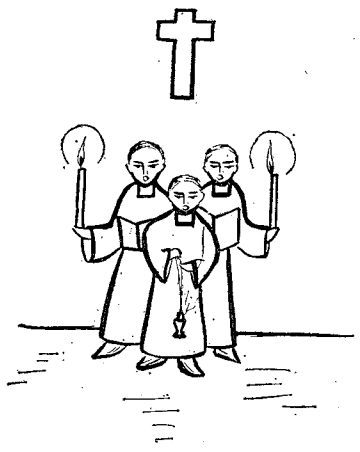
使徒聖ヨハネは、黙示録のなかで次のように記しています。「私はまぼろしを見た。天に一つの門が開かれた。そして天に一つの王座が設けられていて、その上に宝石のような輝きをおびた方が座っておられた。王座のまわりにエメラルドのような虹がかかっていた。その前に二四人の老人が白服をきて、金の冠をかぶって坐っていた。また王座の中央とそのまわりに四つの動物がいて、夜も昼もたえず「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、かって在り、今も在り、後に来られる方、主なる神、全能のお方」とくり返している。二四人の老人はひれふして、世々に生き給う方を礼拝し、王座の前に冠を投出して「われらの主なる神よ、おんみこそは、光栄とほまれと力とを受けるにふさわしい方です。おんみは万物を造られたからです。万物が存在しそして創造されたのは、おんみのみむねによります」といっていたと。

一、造り主なる神

聖ヨハネはこのとき、天国の光景をかいま見せていただいたのです。ここで王座というのは、いと高き地位と権力をいい表わすもの。しかし神ご自身のお姿は見えていません。ただ神の栄光が光り輝く宝石のようだと申しています。また虹が人間の手にとどかないように、神は被造物をはかるに越えた方です。神は、だれにも頼らず自分の力で存在しておられる方、万物の王、いとも聖なる方であります。

二、礼拝とは

王座の前に居並ぶ二四人の老人は、被造物を代表しています。白衣は、かれらが清く罪のけがれにそまない人であること、また金の冠はあげられた地位と、つみかさねた功徳を象徴しています。しかし、けんそんに王座の前にぬかずき、冠をすててひたいを地につけ最上の敬意を表明しています。神は限りなく尊い方、全世界を造り治め給う方ですから、あらゆるほまれと賛美をうけるにふさわしいと、認めています。神を最高のいとも聖なる方と認めることを、礼拝と申します。



三、礼拝は人を聖化する

(1) 神を真心から礼拝するには、ごうまんな精神をすてねばなりません。思い上った心の持主、自分本位な人が神の前にひざまずくとは考えられません。真理に反するとき人間の心は不安になります。だからまことの神を礼拝する人の心には平和があり、それをこばむ者はどうしても不安をまぬかれません。

(2) 旧約時代のダヴィド王は、あるとき大きな罪を犯したので、罰として子供が病気になりました。王は病気が治るよう力の限り祈り断食をし、地面にねるなどして神のおあわれみに訴えましたが、神はきき入れ給わず、ついに子供は死にました。王はそのとき少しも神につぶやかず、うらまず、かえって身をきよめて新しい衣服をまとい、香料をぬってお祝いの姿で神殿に進み、神の前に平伏しました。王は、神のおぼしめしが正しく聖であることをみとめて、これに服従する覚悟を新たにしたのです。

「主よ、私にではなく、おんみのみ名に光栄あらんことを」と祈りました。

このように自分をすてて神を礼拝したダヴィドこそ、偉大な人物であります。

四、外的礼拝と内的礼拝

(1) 礼拝は外部に表わさねばなりませんが、いつもそうするわけにゆきません。心の奥底で言葉なく神を伏し拝むこともあります。食事をしたり、仕事にはげんだり、病人の面倒をみたりしている間にも、尊敬と愛をこめて、神を心の中で礼拝することができます。しかし心のうちだけでも礼拝をするのは、どうみても不自然ですし、正しいことでもありません。敬いの心には外的な態度が伴うのが必然です。

礼拝の心を表わすには、行儀よくひざまずき、頭を下げ、手を合わせ、賛美歌をうたい、祭壇のローソクに火をつけたりします。聖体降福祭のとき香をたくのもその一つの表われです。私共の口や体は、神の下さったものですが、それを礼拝に役立てるべきです。

(2) 共同の礼拝

神の王座の前では、天使や老人たちが口をそろえて礼拝をしています。私共も、この地上では色々な人と共同の生活をいとなんでいるのですから、心を合わせて神を礼拝するのは、もっとも価値のあることであります。家族中がそろって祈りをするのは、キリスト信者の熱心のバロメーターです。日曜日には教会に集って司祭と共に礼拝のいけにえをささげます。聖体行列のように、公けの賛美をすることもあります。

五、キリストと共に

主は、一晩中ひとりで祈り給うたことも、弟子達と公けの場所で祈り給うたこともあります。でもどのようなときにも、主のお心は御父から離れることがありませんでした。イエスよりも完全に御父を礼拝した人はありません。望みたいことは、主が私共の貧しい祈を助けて下さること、みすぼらしい私共の礼拝をご自分の完全な礼拝でかざって、御父の前にさし出して下さることであります。

偶像崇拝と迷信

一、神にさからうもの

神への礼拝をきらうのは悪魔です。自分が神に代って人間の世界を牛耳ろうとたくらんでいます、人間が幸福になるのをねたんでいるので、私共を神から引き離そうと懸命になります。イエズスに対してさえ「もしひれ伏して私を礼拝するなら、この世の国とその栄華をそっくり与えよう」と、おうそれた誘惑をしております。しかしイエズスは「サタン退け、汝の神なる中を礼拝し、ただ神にのみ仕えねばならぬ、と書かれている」と答えて、サタンの誘いを打ちくだきになりました。

二、現代の偶像

真の道をはずれた現代人は、新しい偶像の型を作り出しました。お金、スポーツ、自動車、安楽な生活、豪華な食事、立身出世など表向きは神の姿をとってはいないが、欲望を満足させるものに熱中して、それを一番大切なものであると信じこんでいます。物質を最高のものとみなすなら、偶像崇拝者といわれても弁解ができないでしょう。

私共は、神とマンモン（お金）ということはできません。神に仕えないものは、くだらぬ物質の奴れいになっています。

三、迷信

迷信とは、ある被造物に神の与えておられない秘密の力があると信ずることです。うらないや運勢判断を信じ、また縁起をかつぐこと（例えばいやな数字とかいやな動物など という）は迷信の罪です。悪魔の助けをかりて行う魔術や霊媒も罪です。

神のみむねの実行

救主イエズスは、公けに教をのべ伝えになるまでの三〇年間ナザレトの町で平凡な労働の生活に従事なさいました。二才のとき一度だけ、エルザレムで学者たちの注目をひくことばをお出しになりましたが、またすぐヨゼフとマリアのもとにお帰りになりました。主はなぜ、もっと早くから救いのみわざを開始なさらなかったのでしょう。そうすることが御父のみむねだったからです。

一、なぜみむねを実行すべきか

(1) イエススは御父のみむねをどのように考えておられたでしょうか。御父は天地の王にて在すからそのお望みは絶対的なものであります。そのご計画はスケールの大きい、そしてなに一つ見落し給うことのない行きとどいたものです。御子にとって御父のみむねの実行よりも感激的なものはほかになかったのです。

(2) 私共も神のご計画に参加して御国の建設に力をそえねばなりません。神は、一人ひとりに使命と役割と責任を割りあてておられます。偉大でいつくしみ深い神のお役に立てるということは、なんと名誉なことでしょう。私共にいつも進んで「私が何をすることをお望みですか」とたずねるべきです。

神は「ひとを憎むな、過ちをゆるせ」とはっきり命令なさることがあります。しかしあるときは命令しないで「これはいいことだからいたしなさい。そうしたら私はうれしいのです。これは私に愛を見せるいい機会ですよ」とだけ申されます。結局、神は物おしみない広い愛を期待しておられます。

三、ぎせいと苦しみ

(1) 神のみむねを実行するのがつらく感じられることが稀でありません。気の進まないことを親に命ぜられたり、試験勉強をやめミサに行くなど、神のご意志に従うことはぎせいです。「みむねが行われますように」これが私共のモットーです。神を愛することが強くなればなるほど、神のためのぎせいが楽しくなります。

(2) 神は私共に病気や死別や失敗などの苦しみを下さることがあります。一つ一つの苦しみをへらすことはできません。ただ与えられたままに雄々しくなるのが神のみむねです。「よろしゅうございます。私の望みでなく、おんみのみむねが成就しますように」とすべてを神のみ手に托せましょう。

良い意向をもつて

私共の仕事は、外から見てよくできているか、できていないか、でき上がりを見て判断しますが、そのほかに、目に見えない価値も考えねばなりません。これは仕事をするときにもっていた意向から生れます。叱られないためとか、先生によく思われるためとか、神の愛のためとか、意向のもち方でねうちが違ってきます。

一、良い意向とは

全生活をあげて神のお気に入りたいと心がけている人は、どのように毎日の生活を送っているでしょうか。

家庭の主婦が朝早くから家事に精出しています。朝の祈のとき「今日の仕事をすべておんみのご光栄のためにささげます」とお約束します。仕事の合間にも、時々神のことを考えるようにします。夕方になると主人や子供をあたたく迎えるように努めます。夕の祈のときにその日の働きを御父のみ手に托します。

この人は神のために生きていますと言えることは不可能ですが朝と晩、またたびたび神のことを思い出します。だから祈と生活は別々のものでなく、一つになっています。生活全体が神への賛美に向っています。

二、永遠のねうち

この家庭の主婦のしていることと自体はどの位のねうちがあるものでしょうか。それ自体は大したものではないでしょうが、よい意向をもってすると、段違いのねうちが生れてきます。

聖イグナチオは「一切を神への奉仕にむける人にとって、すべては祈である」と申しています。神はこのような仕事をおよろこびになり、永遠のねうちを与えになります。

三、わるい意向

ひとによくみられたいために聖堂で祈る人がいます。イエズスの時代にもファリザイ人らがそうでした。神や人に対する愛のためでなく、賞賛をうけることだけをねらっていました。主は「かれらはすでにむくいを受けてしまった」と申されました。かれらは人に見られたいと思ったのだ、そして見てもらったのだからそれでおしまいだという意味です。神からのむくはありません。ひとから賞められたいと願うのは、だれにしても同じことです。だからこそ悪い傾きにひきずられないために、いい意向を新たにするよう努めねばなりません。私共は神から見て頂くだけで充分ではないでしょうか。

私がひそかに神のためにすることは、ひとに知られたくない「私の秘密」なのです。

聖週間の典礼
光明社発行　¥一二〇
キリストの救世の玄義は現に教会の典礼の中に脈々と流れ息ついております。
教会の典礼に参与してご復活のよき準備を！

◇新刊◇
神は愛にてましまし
—バイブルの霊操—
ジャン・モンステルレ著　中央出版社
渡辺義愛訳　¥五〇〇
信仰生活のいしずえを、キリストのみことばの上に築くことは、「キリストと共に復活し」「キリスにならう」私たち信者にとって必要な道です。

—◇日々の霊的読書◇—
かく祈るべし
ペトロ・ハイドリッヒ　中央出版社
山村直資共訳　¥一五〇
黙想的祈りは、信心生活を内面的に深め、かつ、使徒事業の上にも大きな効果をもたらすことを説いております。

聖体より三位一体へ
ベルナド著　ヴェリタス書院
宮本さえ子訳　¥一六〇
充分な理解に基ずいた信仰と愛をご聖体に対してもつべきことがいかに重要であるかを本書は教えます。

キリスト復活　—フイデス文庫—
ドンボスコ社
バルバロ著　¥一〇〇
キリストの復活への信仰を深めるために本書は役だちます。

大名町・聖パウロ書院
岩田屋六階
セント・ポール・コーナー

典礼シリーズ

㉕

Supra quae— このいけにえに

ラプラント

聖別のあとすぐ司祭は、聖体の外観のもとに現存し給うキリストを神にささげます。このオスチアは神の御子ご自身ですから、神がこれを拒み給うはずがありませんが、あわれな罪人である司祭と信者一同の手でささげられていますから、神は私共の無謀と無価値を不快に思われるとも考えられます。だからスープラ・クェの祈のなかで司祭は、祝聖のパンとぶどう酒の上に同情のお目をそそぎ給うよう願します。これは前の「われらささげ奉る」の祈のつづきであり、説明です。

私共は、神がいつくしみ深い方ですからこの贈物を嘉納して下さることと信頼できます。すでにキリスト以前にも、神は三人の聖者即ち今日の司祭と同様、肉の人でしかしキリストの制定し給うた叙階の秘跡をうけていない三人のいいにえ、献物をよろこんで受け入れ給っているからです。この三人とはアベル、アブラハム、メルキセデクです。

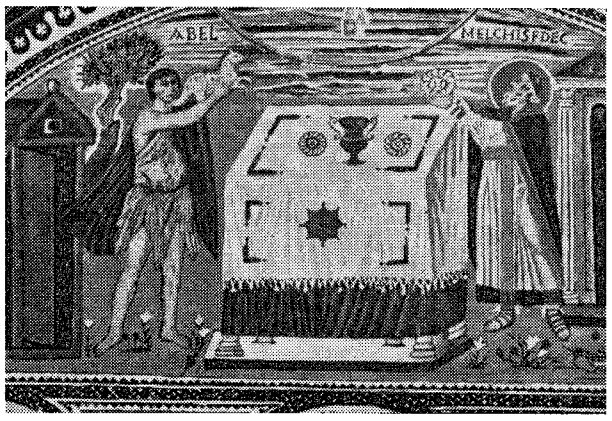
アベル

アベルは自分の羊のうち一番いいものをささげました。「ヤーウェはアベルとその供物をよみせられた」（創四の4）。神はかれが誠実で正しい人ですから、かれとその供物を愛し給ったのです。イエズスは、マテオ福音書によると（二三の35）このアベルを「義人」とよんでおられます。しかも兄カインから殺されたアベルは、同胞から殺されたキリストの前表です。しかしキリストの御血は「アベルよりも雄弁に語り」（ヘブレオ一二の24）アベルの血は復讐を叫んだが、キリストの御血は刑吏のためにすらあわれみを哀願し給うのです。

アブラハム

アブラハムは長い放浪中に、いけにえをささげる祭壇をいくつも建てました。この祭壇の供物はどれも神に嘉納されましたが、もっともすぐれたいけにえは、最愛の子イザアクそのものでした。（創二二章）。アブラハムは気高い服従心から、お約束の独り子をいけにえにすることを決意したのです。天使がその腕をおさえて、死ぬはずのイザアクの命を助けました。神はアブラハムの信仰の報いとして、かれをユデヤ人のみならず、私共をふくめてすべての信ずる者の父となさいました。聖パウロは「信仰する者はアブラハムの子であることを理解せよ」（ガラチア二の7）といい、また「われらの太祖」とよんでいます。

第四世紀以来の聖伝は、アブラハムのなかに、御独子をいけにえにする永遠の御父の姿をみています。イザアクは薪の上に自ら進んで横たわり、死のうとしたが、イエズスも「死に至るまで従い給うて」御父のご命令通り、十字架の木の上に釘つけられて死し給いました。



（左に羊をささげるアベル、右にパンをもつメルキセデクがち、祭壇には立たね入りパンの大きいオスチアがおかれ上部の手は供物をうけ入れ給う神をあらわしている）

メルキセデク

メルキセデクの献物は、人物同様に神秘的です。「サレムの王メルキセデクは、パンとぶどう酒をもってきた。かれは最高の神の司祭である」（創一四の18）。パンとぶどう酒をささげる司祭なる王で、聖体の二つの外観をささげるとともに、王たるキリストの完徳の前表です。イエズスは系図をもたぬこの司祭によく似ておられますので、聖書は三度、キリストを「メルキセデクの如き司祭」とよんでいます。（マテオ二二の44　詩篇一〇九の4、ヘブレオ七の15—17）。聖書のこの言葉にもとずき、チプリアノ、アンブロジオ以後の聖伝は、メルキセデクの献物をミサの前表とみなしてます。

ここで一つ明らかにすべき点があります。聖書は司祭としかいっていないのに、なぜ典礼文ではメルキセデクを大司祭とよんでいるのでしょうか。かれはモイゼやアロンの以前、ユデヤ教が制定した司祭職の出現以前に生存していたのに、どうして大司祭でありうるのでしょうか。

それはアブラハムとの比較によってそういえます。アブラハムはヤーウェにいけにえをささげることによって、司祭的職務を果したのですが、メルキデクはこのアブラハムの上に神の祝福をよび下している。（創一四の18）。この行為の故にかれはアブラハムの上位にあったわけです。ヘブレオ書も「目下のものが目上のものから祝福をうけるのは勿論である」と説明しています（七の7）。アブラハムも司祭でしたから、かれより上位の司祭であるメルキセデクは大司祭とよばれていいのです。

しかもかれは王でしたから、王的司祭であり、福者カンブレのオドン（一一一三年死）の言によると「過去の歴史の司祭中、最高位の司祭」であります。

このタイトルはほん訳の間違いから来ていると、ある典礼学者はいいますがそうでありません。聖書にはなくても、第四世紀の使徒伝承規則や、エロニモ、大レオ教皇、その他の教父たちの書のなかにものっています。

旧約の三つのいけにえの事実を典文に加えることは、教父時代からはじまったことで、モザラブ、ビザンチン、聖ヤコボの諸典礼中にもみられ、また第六世紀の作でキリスト教人物画のうち最古のものとされているラヴェンナ・聖ヴイタル教会の二つのモザイクにもはっきりでています。（写真参照）

現在の典文では神殿のいけにえにふれていません。キリストとそのいけにえによって廃止されたからです。実体があらわれると影はなくなるのです。しかも「ユデヤ人のいけにえは、それがキリストのそれの前ぶれである限りにおいて、神に嘉納されたのである」と典礼学者ルブランはのべています。

この短い祈は、ほとんどそのままアンブロジオの秘跡書のなかにのっています。「聖なる献物、汚れなき供物」という言葉は、第五世紀中頃に大レオ教皇が加えたものです。これはメルキセデクの献物にかかっており、マニ教の異端に対して物質的なものでも神にささげていいものであることを、明示しようとしたものです。

心構え

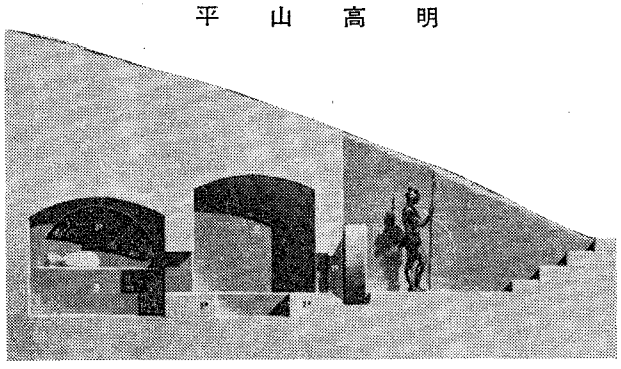
この祈をとなえるとき、私共は無価値なものであっても、いけにえを神が嘉納して下さるよう、願ましょう。アベルからはすみやかに清い心でささげること、アブラハムからは自分の大切なものをささげることを、メルキセデクからは日常生活のありふれたものをささげることを学びましょう。そしてアブラハムは私共の父ですから、私共も霊的にセム族のひとりであることを考えて、ユデヤ人に対する憎しみを心に抱かないように努めましょう。これは一九三八年九月六日のピオ一一世教皇のおことばです。

聖書のくに (1)

平山高明

ご復活の朝

カンラン山の辺りに薄くかかっていた雲がバラ色に染め出され、驚のゲツセマニーのオリーブの木は濃い緑のなかにまだ眠りを止どめていたころ、巡礼者は黙々としお墓に向う。雨期の冬は去っていたがそれでも四月のパレスチナの夜は相当冷え込む、早春の朝の空気は新鮮で如何にも爽々しい。誰も口をきく者はない。皆主の葬られたもうたお墓のことを考えているのであろう。十字軍が建てたダマス門を潜り抜け、ゆるい勾配を右にとり、市場を二〇〇米ほど行くと十字架の道行の十留に出る。更にヂルス人の谷と呼ばれる市場の細い石畳の道を過ぎ石に折れると、お墓の聖堂はもう目と鼻のところに見える。もし巡礼者が聖画に描かれているゴツゴツした小高いカクワリオの丘と、驚の墓を想像して行くならば、その期待は見事に裏切られるだろう。お墓の聖堂は現在ギリシヤ、ラテン地区の中心になっていろいろ様のころにはゴルゴタのこの小さな岩の穴起はエルザレムの街の西端七五米の丘に連なる城壁の外側にあった。現在ある聖堂は一〇〇年前の火災ののち修復されたもので、二〇数回の修復によって統一のない重苦しい外観を呈している。石の壁の崩壊を防ぐための鉄骨が痛々しい。カトリック、ギリシヤ正教、アルメニア、コプトなどの教会がおのおのの儀式を割りあてられた時間に行っている。ここではとりわけ「彼らの一ならんことを」との主の祈りが胸にしみるように感ぜさせられる。正門に入ると右はカルワリオの祭壇に到る急な勾配の石段があり、その祭壇の下方には大きな岩の亀裂が見られる。主が息絶え給う時「地震い、磐破れ…」とあるが、その時のものと伝えられている。



キリスト時代の墓の断面図

ご復活の朝人々は皆昌直にお墓の方へと急ぐ。マリア・マグダレナ、サロメなどの聖なる婦人たちを動かし、急がせた同じ力が人々を主のお墓へと急がせるのであろう。お墓はカルワリオの丘の西北五、六〇米の斜面に位置していた。当日のユデアの習慣により衆議会の議員であったアリマテアのヨゼフも自分や家族の墓を庭園に準備していたのである。聖書によれば「御屍を取下して布に包み、石を塡りうがちて作りたる墓の」とあるように、この墓はエルザレムの近くに見出される横穴式の墓であったと考えられる。そしてご復活の朝、ペトロより先に墓に着いた他の弟子は「なかに入らないで外から身をかがめて布の横わっているのを見た」とあるが、それらの墓の入口は一般に低く一米内外であり、その入口には円板状の石の大きなふたが薄の上を転ぶように、なっていた。それは楔形の石をおき、それを取り外すと入口を閉ぐようになっているが、その石を転ばすためには大の男が三、四人はかかるであろう。ご復活の朝早く聖なる婦人たちが墓への途中で「誰がわれらのために墓の入口より石を転ばし退くべき」と互に語っていたのはそのためであり、警戒に当る番人たちに気づかれずにこっそりと石を動かすことは至難の業であろう。

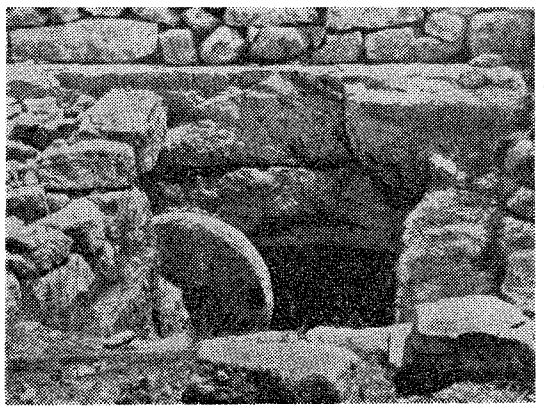
三日の間主の御屍に触れ、これを包み、天使たちによって開かれた主のお墓は、その弟子たちにとって特別に思い出深い聖なる地となったのであろう。人々はそこに来ては主を偲び信仰と希望と愛を新たにされて帰ったのであろう。

一三五年ローマ皇帝ハドリアヌスがキリスト教徒を迫害した時、この場所にキリスト教徒を近づけないために、石で墓を蓋い、ジュピターやヴェニスの像をその上に安置した。しかしこの冒瀆は、その意図に反してお墓を無瑕に守ってくれたし、更に後代の史家に対しては、キリストの死後間もないころキリスト教徒がその墓を特別に崇敬していたことと、ローマ官憲によってそれが確認されていたという、非常に貴重な史的事実を与えられたことである。神は禍からさえも福を引き出し給うのである。後にコンスタンチン大帝はこの異教の廟を取除き、壮重雄大な聖堂の建立を命じた。現在われわれが見ることのできるのは、三日間主の御屍に触れた長さ二米幅一・九米の大理石に葬られた、岩の床石だけである。天井も周囲の岩も削り去られ昔の面影は何もない真に惜みて余りある感がする。そしてこの尊い宝を包む宝石箱のように、モスコー式円塔で飾られた長さ八・三米幅五・九米の小聖堂が葬っている。

更に直径四五米の円形大聖堂と廻廊がそれを包んでいる。光の射し込む窓は少ない上に廻廊で囲まれて内部は昼間でも暗いので蠟燭の焔に照らし出されてイコンや人の影が焔にゆらめき、アルメニア教会の修道士たちの単調な祈りのメロディーが闇を通して聞く者を思わず深い玄義の黙想へと誘う。

またその暗いお墓の前で聖土曜日の蠟燭の祝別の式が行われる。「ルーメン・クリスティ（キリストの光）との歓びの声がひびき、闇に深く輝く一本の大蠟燭から次々と巡礼者のローソクに火が点ぜられ、大聖堂が一瞬にして火の海と化し光の洪水になる。それは「暗闇に坐せる人々の上に光出でたり」とイザヤの予言の通り、キリストの生命の光に生きされた永遠の生命のシンボルのようである。

ご復活の朝巡礼者はこのお墓の前で司教ミサに与り、その後で三・四人づつ墓の内部に入り跪いて墓の前に祈る。様々の国から、地の果から集って来た巡礼者はみな深い感動に打たれ言葉を出す者も多く見られ、恐らくご復活の朝まだき聖なる婦人たちに告げた天使の言葉を、彼らもまた心の中で聞いていたにちがいない。「汝ら懼るること勿れ、けだしわれ汝らが十字架に釘つけられ給いしイエズスを尋ぬるを知れり、彼はここに在さず、すなわち曰いし如く復活し給えり、来りて主の置かれ給いしところを見よ」と、そしてその愛し給いし弟子の如く、巡礼者たちはその信仰と憐み深き贖主への愛を一層深くしてそこを去るであろう。



キリスト時代と同じ墓

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　七三〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六八〇円
デイリーコンサイス英和辞典　革　六五〇円
新クラウン英和辞典　縮刷版　三〇〇円
D版　四三〇円
大型版　八五〇円
ジェム英和・和英辞典　一〇〇〇円
最新明解英和辞典　五五〇円
初級クラウン英和辞典　六三〇円
初級コンサイス英和辞典　三八〇円
初級コンサイス英和辞典　二五〇円
三省堂独和新辞典　二〇〇円
コンサイス独和辞典　七〇〇円
コンサイス仏和辞典　六〇〇円
コンサイス露和辞典　八五〇円
日西辞典　三、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、六〇〇円
英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　一、三〇〇円
背革特装版　三、〇〇〇円
新版広辞林　一、四〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四五〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　三五〇円
大明解漢和辞典　九〇〇円
明解漢和辞典　四五〇円
模範六法全書　六七〇円
明解六法　二〇〇円
学習百科事典（新版）　一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　八〇〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

SSD
三省堂　福岡出張所
住所名変更
福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十円

教皇ヨハネ23世聖下の新回勅

「地上の平和」（パチェム・イン・テリス）

秩序の尊重が平和の基

教皇ヨハネ二三世聖下は「地上の平和」と題する世界平和に関する長文の回勅を、聖木曜日に当る四月一一日に発表された。

これは司教や全世界の聖職者、信徒にだけでなく、善意あるすべての人にあてられ、外電はこれが共産圏の国々においても好感をもって受けられたと報じている。

この回勅は、戦争の恐怖に対する熱狂でなく平和の切望についての厳密に論理的な究明であって、平和は人間と人間社会の神から与えられた本性中に存すべきであることを説いている。

回勅は冒頭から「あらゆる時代の人間が切望してやまない地上の平和は、神の定め給うた秩序を絶対的に尊重しない限り、きずくことも、固めることもできない」と断言している。

自然の宇宙は動かすことのできない秩序に支配されている。しかし、人間はそれとは違った秩序、すなわちその本性に適った秩序、神が良心を通じて命ずる秩序に従って行為するのである。

人間本性に基づく秩序を守ることは、個人だけでなく、人間相互間においても、おのおの政治共同体における市民と公権との関係においても、さまざまな政治共同体間の関係においても、最後にこの政治共同体と世界共同体との関係においても、絶対に根本的に要求されることであって、それがない限り、平和の実現はありえないのである。

正義が履行され、自由が尊重され、愛徳の実行が伴わない限り人間相互のあいだにも、また諸国民のあいだにも平和は確立できない。

教皇は回勅の第五部、カトリック信者あての実際的戒告で、興味ある教えを述べておられる。「誤謬そのものとそれを犯している者たいそれが宗教や道徳について誤っている者であっても―この二者を常に区別しなければならない。誤りに陥っている者でも人間であり、尊重すべき品位を具えているのであって、いつかそれから脱け出て真理に到る可能性を失っているわけでない。」

だから信者が社会的・経済的分野で、完全な真理を有しない者と協力して働いているならば、この人たちもいつか真理に目を開く機会をつかむかも知れない。

このような実生活での協力はこれまでは、時宜を得ない無駄なものと思われていたが、現在では実際的な利益を生むし将来性もあることである。ただ現実にどのようにどの程度まで協力を進めてゆくかについては賢明に判断を下すべきである。

キリストは，われらに住居をそなえんとて，天に昇り給えり

堕胎の合法化を批難

ポーランドのウィジンスキー卿

ポーランドの首位大司教ウィジンスキー枢機卿は、共産圏諸国が堕胎を合法化しようとしていることを、激しく批難して次のように述べた。

この堕胎の合法化の計画は、ポーランド人に対してナチが行なった虐殺行為にひとしい。堕胎に"人殺し"のレッテルをはることを押止める人はいないだろう。

かれらは労働力が不足していると言っているのに、一方ではまだ生まれてこない子供の小さな手を川に投げ捨てている。大きな犯罪はいつも小さな犯罪からつづいてくるものである。われらは決してこの計画に妥協しないだろう。

われらは常に生命に奉仕し、ポーランド国民に奉仕して、たとい日々生命の危険にさらされることになっても、この国民の心身を悪から守ることを、義務と考えている。

人口問題に特別メッセージ

駐日ヴァチカン公使マリオ・カーニャ大司教は、第九回人口問題研究発表・講演会にあてた特別メッセージで次のような所信を発表した。

一九四八年に制定された優生保護法の規定は、日本全国民の賛同を得たものでなく、この法の実施を慨嘆したのはカトリックの指導者たちだけではなかった筈です。

それより、日本のある政治家たちは国らの基本的課題を国民の生活水準を引上げることにあると考えていたようでありますが、ことし一月、池田首相の談話として朝日新聞に掲載された記事のなかで「人づくり」の必要性に言及し、次のようにいっております。「私の『人づくり』には、生まれ出た人間を〝つくる〟ということだけでなく『りっぱな子供を産む』ことも大切だということを忘れないで下さい。これから生まれようとする者を、人工的制限するなどというのは、神の摂理に反する。人口が増えているときは、必ず国が上向きにあるときだということをよく心にとめておいてもらいたいと思います。人口問題の解決はほかにくふうの仕方があると思います」といっています。

私はこのことから、カトリックの常に主張してやまなかったことがらが、その動機は相異なるにしても、確実に日本国民の良心のうちに滲透しつつあるということもいえると思っています。

人口問題の解決にあたっては、人間おのおのが、神から与えられた世界資源の開発に協力するということも、忘れてならない重要事であります。

いまわれわれに欠けているものは、正当な配分の計画と、その実現に必要な知性と、意志の調和的努力、および開発途上の国における資源の十二分な開発であります。

日本は、その増大する人びとを人為的に制限する代わりに、それを自己の最も大いなる財宝として大切にし、全世界の進歩のために有効に役立たせる手段として活用して行くべきであると信じます。

五月五日は「移住の日」

海外移住は人口問題に悩む日本国民にとって、重大な関心をよぶものであるが、現下日本の人口問題に解決を見出す必要に迫られているカトリック教会にとっては、積極的な寄与をなすべき事柄である。「日本カトリック移住協議会」では五年前からそのため「単にカトリック信者の移住を援助しその世話をみるだけでなく、全日本の人に問題を考えて、信者未信者の別無く、移住ができまた移住先で同化できるよう援助を与え」ようとしている。

われわれは、祈と犠牲、献金をもってこの事業を援助する義務を果さなければならない。

聖体礼拝（五月）

第一日曜　久留米教会
第二日曜　饗島ウルスラ修院
第三日曜　茶山教会
第四日曜　八幡教会
第四日曜　恵風園
カノッサ修院
熊本天使園

祈禱の使徒会（五月）

〔一般の意向〕　分離した東方教会の復帰
〔布教の意向〕　布教地における修道会のため

五月　聖母マリアの月

一日（水）　勤労者の聖ヨゼフの祝日
カトリック的社会理論は愛と正義に基礎をおく。そしてその具体的実践の指導は、機会ある毎に教会から与えられている。信者はそれに深い関心を抱き、各家庭、職場において、これを普及させるよう、自ら実行に移さねばならない。

三日（金）　憲法発布記念日（小斉免除）

五日（日）　ご復活後第三の主日
ペトロはどれい達に「心のやさしい主人にだけでなく、冷酷な主人にも心から仕えよ。これこそキリストの恩寵のあらわれである」と教えている。これはわれらの愛徳が実行についても同じである。気の向く人だけを愛し、いやな人に冷やかであるのは、愛徳と言えない。

移住のための日
聖体行列（於福岡市、午後二時）

七日（火）―一〇日（金）
東京で全国司教会議

一一日（土）　聖フィリッポ・聖ヤコボ両使徒

一二日（日）　ご復活後第四の主日
信仰のために世間で色々と苦しい目に会うことがあっても、それを恐れないこと。
苦しみながら祈り、それに耐える力を願うこと。これが真の忍耐である。

西新教会祝別式（午前一〇時）

一三日（月）　聖ベラルミノ司教博士証聖者
イエズス会司祭、のちに枢機卿。プロテスタント異説の出現に対して、信者の信仰を守り固めるため、公教要理の編さんを行なったが、これは四〇カ国語に訳された。一六二一年帰天。

一九日（日）　ご復活後第五の主日
今日から御昇天の祝日までは、とくに祈りについて黙想しよう。まず「キリストの御名において祈る」を学び、次いで「キリストと共に苦しみながら祈る」ことができるように努めよう。

健軍教会で堅信
熊本地区学士会発会式（司教臨席）

二三日（木）　ご昇天の大祝日（守るべき祝日）
キリストは、弟子たちとおん母マリア、その他親しい人々から別れて、天の御父のもとに帰り給う。その別離のときに主の愛は更にやさしさを加え、残る人々を御父に托し給う。「われ、かれらのために祈る。わが祈るは…われに賜わりたる人々のためなり、かれらは汝のものなればなり。」

教区カトリック学校協議会（於熊本マリスト学園）

二四日（金）　今日から聖霊降臨の大祝日めざして九日間の祈り

二六日（日）　ご昇天後の主日
聖霊がおいでになれば、キリストについて証明をなし給う、即ち、キリストが真の神の御子たること、その言うべからざる愛主に従うことのよろこびを、われらに心底から納得させて下さるだろう。そこからわれらの信仰の強さが増してくる。

黒崎教会で堅信

二八日（火）　深堀司教の祝聖記念日
教区におけるキリストの最高の代理者、われらの霊的父であられる司教さまのために、祈り申し上げよう。

三一日（金）　天地の元后なる聖母の祝日
さきに天に昇られたキリストは、ご自分の協力者であられた御母を天国に迎えて天地の元后としてたたえ給う。

世の光

渡り鳥

山々が新緑に蓋われ始めると、名も知らない小鳥が次々にやってくる。深い森の奥でふと郭公の声を聞いた時などは、何か旧い友達にでも巡り会ったような懐しい気持ちにひたされる。「口に青葉山ほととぎす初鰹」と俳句にもよまれているように、時鳥や郭公はやはり初夏の代表的な鳥の一つであろう。十数年前までは油山の麓、大神学校の近くまでも聞かれていた時鳥は、松林の濫伐のため近頃では余程の深い山にでも行かねば聞かれなくなった。初夏の訪れと共に我邦に渡ってくるほととぎすは、インド、華南方面から渡来し山地に主として棲み松毛虫を食う益鳥だ相である。でも何千粁という距離を、特に海の上を何日も始め、一定の日数（ほぼドイツからエジプト、ナイル河上流までの飛翔に要する日数）が過ぎると再び落着きを取り戻す。渡りの期間に入った一羽の鶫を、籠のままプラネタリウムに入れ、シベリアの夜空を天井に写し出したところ、小鳥はしばらくの混乱のち、西の夜空に嘴を向けてとまり木にとまった。それは丁度シベリアから見れば集結地ドイツの方向に当っていた。そして更に今度は毎晩毎晩、ヨーロッパの夜空を漸次南下させながら写し出した。すると小鳥は、毎晩止まり木にとまる方向を少しづつ変えて止まった。それはまさに、この渡り鳥が途中通過する通路と同じジグザグを示し、その方向と一致していた。そして最後にナイルの上流の夜空を映し出した頃には、この小鳥は再び落着きを取り戻していた。このことから学者達は、この鶫の方向探知能力の謎は、星にあるらしいということを報告している。

この本を読みながら、ふと海を越えて飛び交う飛行機のことを考えた。今や人々は長い夢であった雲の上を精密な機械によって測定し、目標に向って飛ぶことができる。それらの巨大な飛行機の内部には、ギッシリと種々の計器類が処狭しと積み込まれている。小さなネジ一本、ちょっとした配線の故障も飛行機を航路から外してしまい、致命的な結果を呼ぶのである。そこにはどれほどの精密な技術と、細心の注意が払われていることだろう。偉大な科学者たちの智慧の集計がそこに見出される。実際この科学的な成果に到るまでに、人類はどれほどの長い歴史を要したことであろう。

ところで、このような精密な機械が、実は幾千年幾万年も前から自然の中には存在していたのである。羽毛をとり去ったら、せいぜい一糎四方には足りない。この小さな小鳥の頭の中に、実は精巧無比な、しかも超極小のトランジスター方向探知機があり、毎年季節がめぐりくる毎に、幾千粁というユインタもまた「自然の偉大なる距離の海洋や山河を越え、間違いなく小鳥を導いてくるのである。

考えて見れば、自然はなんと神秘に満ちたものであろう。しかも恐らく何億という細胞が、この機能を果すために整然と秩序づけられているのである。鶫の眼が星の光を受けてから脳細胞にそれが伝えられる経過を、飛行機のそれと較べて見たらどうであろうか。しかもヨーロッパの春でなく秋の夜空の星が、なぜ、どのように、小鳥の中に反能を呼び起こすのであろうか。科学の発達は私達に、まるすます微少の世界における秩序の神秘を示してくれるであろう。この自然界に充満している素晴しい秩序と法則を前にするとき、私たちは、深い畏怖と驚嘆の念におそれわる。

ある哲学者は「秩序の存在は理性を予測せしめる」といっているが、かの偉大なる科学者アインシュタインもまた「自然の偉大なる神秘を前にして神を否定することができるだろうか」といっている。また昆虫記で有名なファーブルは、神を信ずるかと問われたのに対して、「私は毎日その御業を見ておりますので……」と答えている。パスカルもまた「自然を見て、自然が一切を、神学でさえも語ることを悟る人々は、よく自然をたつとぶものである」と、その瞑想録の中でいっている。

私達が、真理への愛と畏敬と謙虚な心で自然に接し、自然を眺めるとき、自然は、人間にとっていかに偉大な智慧の書物となることであろうか。旧約聖書の詩篇は「空の星は神の光栄を語り、蒼穹は神の御手の業を告ぐ」（一八の2）とこのことを歌っている。

平山高明

北九州市初の叙階式

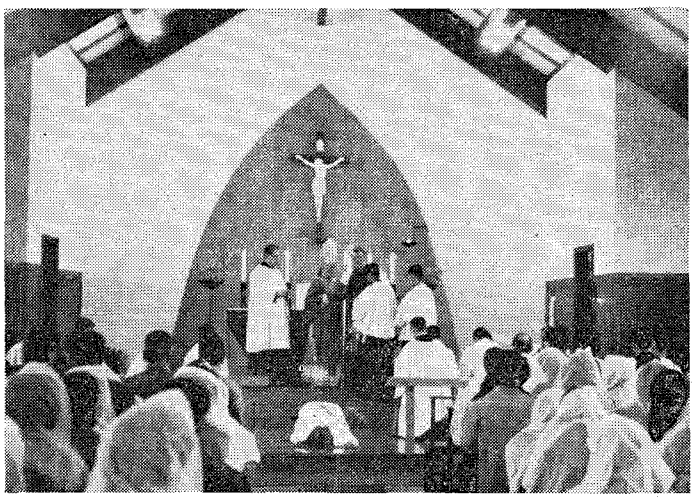
浦師が黒崎教会で

三月二四日、雪の日、ヨゼフ浦後雄師の司祭叙階式が北九州市黒崎教会で挙行された。

北九州地区ではじめての叙階式とあって雪にもめげず信者多数が定刻前から堂を埋め、新司祭を生んだ誇りにわく地元民と共に神の聖寵に感謝の祈をささげた。十字架を先頭に二十数名の司祭らが進み、つづいて被叙品者と司教が入堂。福岡大神学校のラベル師とカズレ師が司教を補佐し、岩村師が式の一つ一つを一般参列者のために解説して行ったが、訓戒から諸聖人の連禱に移る頃には、会衆の心は荘厳そのものの儀式に今く吸いこまれてしまった感があった。

按手をして内陣に立つ司祭団、永遠の印がきざまれる壮重な序誦の祈、司教との共同ミサ、一切を捨ててキリストに従う者に与えられる平和の接吻、罪を赦す権の授与、司教との同心一体を示す抱擁など司祭職の崇高さが見るものの心の肌にじかにくい入ってゆく。まさに教会の全信仰を一巻の絵巻物で眺める感さえする。

式を終えて信者の前に立った浦新神父の口から大いなることをなし給った至高の神と、長い神学校生活の間、陰からの援助を惜まなかった恩人たちに対して感謝が述べられ、母堂ナツさんに初の司祭掩覆が与えられた。



浦師は故克巳さんとナツさんの長男、弟さんは福岡小神学校に在籍している。なお初ミサは翌日同じ黒崎の煉獄援助修道院の聖堂で、ボア師に助けられてささげた。(写真は浦師の叙階式)

司祭異動

(カッコ内は前任地)

福岡地区

区小郡巡回教会付ー岩永義人師(大名町助任)

大名町助任ー浦後雄師(新司祭)

北九州地区

北海道函館助任ーフィリベール師(黒崎助任)

小倉助任ーボネ師(日本語学校)

休暇帰国ーペニエ師(飯塚主任)

熊本地区

休暇帰国ーブルク師(琵琶崎修道院付)

琵琶崎修道院付ーオーエンス師(手取助任)

佐賀地区

佐賀主任ーガツザルディ師(武雄主任)

武雄主任ーマグリン師(佐賀主任)

鹿島主任ールツチ師(多布施巡回教会付)

唐津主任ーサルヴィ師(佐賀助任)　佐賀助任ーテンペリニ師(鹿島主任)

"健全な信仰を体"せよ

要理教授法講座で

本格的なカテキスタ養成をめざして開かれる第一期要理教授法講座のはじめての講義が、四月二〇日午後一時から双葉学園内で行われた。

北九州市や熊本など遠隔の地からも聴講者が集り、八四名がラベル、平山両講師の講義に熱心に耳をかたむけた。開講にあたってまずラベル師が本講座の目的を明示したあと、深堀司教が「要理教授法の研究に従事する者は浅薄な知識の吸収に終ってはならない。神の啓示という天よりの賜を深い信仰の心をもってうけて、これを自分の全生活のうちに具現するよう努むべきである。神の教を他に伝える者は、何にもまして カトリック教会の聖なる権威への超自然的服従に徹すべきである。教会にそはキリストの生きた延長だからである。この服従の精神から出発して健全なる信仰を身につけることが、カテキスタに要求される第一の責務である」と述べた。

第一期は七月六日まで二講義づつ、毎土曜日午後一時から行われるが、修道者だけでなく、使徒職にたずさわる一般信者も進んで来聴することが望ましい。なお各期毎の試験にパスした者には、修了認定証がさずけられる。

福岡地区信徒布教委員会

本年度の実践項目を発表

福岡地区信徒布教委員会では四月二二日午後七時より司教館で総会をひらき、まず昨年度の会計報告、長崎巡礼の決算報告の承認のあと、本年度の行事について討議した。

の四項目を決定した。

① 八月二五日にソフトボール大会を行う。開催前に責任者が進行方法を練り審判団をつくること。各チームには女子二名、五〇才以上の男子二名をまじえることにする。

② クリスマス、歳末の街頭募金は今年も実行する。集った金はヴィンセンシオ会に委託するので各教会で対象家庭を調査しておいて、有意義に分配するように最善をつとめる。

③ 福岡地区の信徒布教大会を一一月一〇日に開催する。またこれを機会に合同運動会を行う。全員が参加できるよう種目の選定を慎重にする。

④ 各教会では布教委員の人選に力をそそぎ、会組織の強化をなすこと。

久留米クリア

アチエス

レジオ・マリエ久留米クリア(久留米、大刀洗、本郷、大牟田、佐賀プレシディウム)では、アチエスの式を四月二一日午後一時半から久留米教会で開き、約一〇〇名の会員が青木保師の説教のあと聖母への宣誓を新たにした。

【司教の日】

今年の北九州地区「司教の日」のミサと集会は、四月二一日午前九時から門司教会で行われた。

ミサ中、主任のモーゼ師がいった。

ミサ後の懇親会では、地区の各教会からの代表をまじえて、約五〇名が、霊的父とひざをまじえてへだてなく話し合ったが教会から遠ざかっている人をどのようにして連れもどすか、信者はどんな精神をもって社会に生きるべきか、などについて、次ぎつぎと意見が交された。

霊的父のことばをきく

「キリストの生きている使徒である司教さまをお迎えできたことは、大きなよろこびである。みなさんは牧者の声にきき従うことが、永遠の幸福への道であることを悟って頂きたい」と説

伝統の学園に新校舎

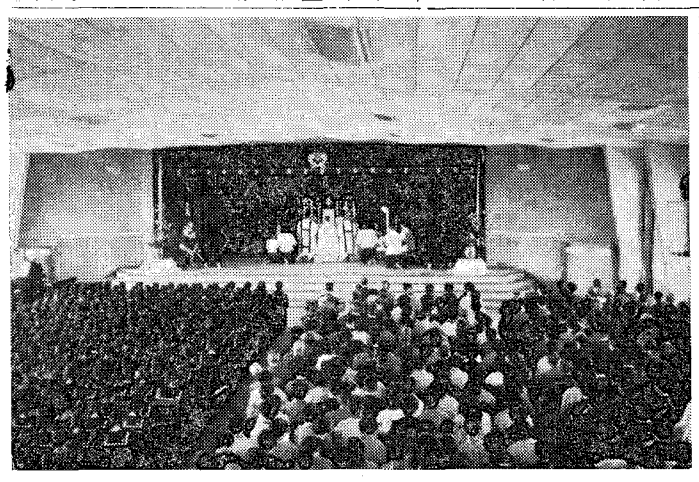
八代白百合学園

五四年の古い伝統を誇る八代市長町の白百合学園(シャルトルの聖パウロ女子修道会経営)では三月二六日九時半から新校舎の祝別と落成の祝典を挙行した。

校名にふさわしい清楚な新校舎の正面玄関前で深堀司教が祝別の祈をとなえ、四階の大講堂で感謝の聖体降福式が行われた。落成式では理事長(同会日本管区長三島初江童貞)と学園長(武内マシ童貞)があいさつし、司教、県知事市長らから祝辞がよせられた。式には在学生と父兄のほか、市内の小・中学校長、県下の私立学校長らが列席、終りに永年勤続者数名に表彰状と記念品が贈られた。

新校舎は三六五〇平方メートル(一一四〇坪)鉄筋コンクリート四階建で、総工費七千万円、設計は地元の佐藤工務店、施工には和久田建設があたり、昨年五月に着工したが梅雨期に雨が多かったのと湧水のため工事の進捗が妨げられた。普通教室一二、特別教室八、一階に職員室図書室、放送室などがおかれている。学園は幼、中、高をふくみ、生徒総数約九〇〇名。

本学園は八代女子技芸学校として発足し、明治四二年に認可をうけ翌年四月一二三坪の校舎で開校



八代白百合学園祝別式(新講堂)

技芸を教授した。

大正二年に八代技芸女学校となり、七年には当時の八代教会主任であったルマリエ師の寄付で四七坪の校舎一棟を増築、一〇年に八代生科高等女学校と改称、一五年にはさらに八代成美高等女学校と名を改め、昭和六年からは八代成美家政女学校を併設した。

戦後に中学校を設けて八代白百合学園となった。東京に姉妹校がある。これまでの卒業生総数は六五四〇名。

カルメル会で着衣式

野口司教が司式

四月二四日福岡の女子カルメル修道院において広島教区の野口司教の司式による着衣式が行われ修道女の両親や友人ら多数が出席した。

イエスのテレジア童貞ー和田昌子、山口県光市出身、福岡大名町教会で受洗。

聖テレビアのマリア・ヨゼフィナ童貞、西村スミ子、広島市出身岡山弓之町教会で受洗。

福音の光修院でも

福音の光修道会福岡本部で四月五日、深堀司教の司式でマリア・ヴェロニカ童貞(原千秋ー広島職町教会で受洗)の着衣式が行われた。

新入生八名

福岡小神学校

将来教区において働く司祭を養成する福岡小神学校には、今春左の八名が聖なる希望に胸をふくらませて入学した。これで当校在学生は三十八名(中二三名、高一六名)になった。(カッコ内は出身教会)

中学一年

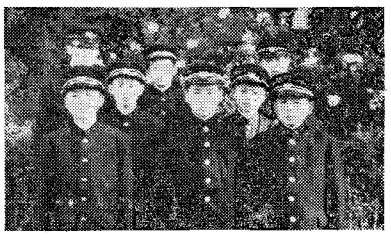
中村聖司(鳥栖)　岩永一行(隈府)　竹森勇(大江)　深堀勝人(伊万里)　榊知(伊万里)　平田隆二(木郷)＝以上福岡教区。

坂井正裕(大牟田)＝大分教区。

高校一年

大原弘光(黒崎)＝福岡教区。

(写真は新入小神学生)



祖父の信仰をしのぶ

浦上出身信者ら

殉教をさえいとわず雄々しく信仰に生きた祖先の姿をしのび、お互いの熱心を高めるための、福岡在住の浦上出身信者の集いが、今年もまた深堀司教をかこんで、四月二五日午後七時から大名町教会で開かれた。司教のささげるミサで強い信仰のおめぐみを祈り求めたあと、老幼男女約一〇〇名が旧聖堂で夕食をとり、家族的だんらんの一時を過した。

スール・マチルド童貞

(森さとさん)

久留米市菅川町の幼きイエズス修道院で三月三〇日午後五時四〇分心臓まひのため逝去。

五四才。長崎市家野町三九七番地生れ、昭和三年同会に入会。五年初誓願、一一年終身誓願。遺骸は長崎市浦上町の赤城墓地に葬られた。

聖心の使徒 (昭和38年5月号)

表紙　「母の愛は満ちあふれる」　湯崎夫沙子画

神の御母　三木　次郎

五月の意向　離れた兄弟たち

修道者も布教の前線に(五月の布教の意向)　松村　菅和　柏谷　源蔵

黙想　朝の奉献　河野　義裕

世界の救いは母にあり

写真特集　世界の母たち

子供が母を見て

五月の聖人　聖人の母　宮本　一彦

祈禱の使徒会と聖母マリアの信心　小林　純一

聖人への狭き門　千寿　利久

謙遜に　十字架のイエズス修道女会

明治初年の布教　青山　政徳

自然の驚異(十九)　H・ムシャレク

新本めぐり

ポスト

購読料　一カ月　五七円　一カ年五七〇円

日本祈禱の使徒会発行

東京都千代田区紀尾井町七

医療法人雪の聖母会経営

井手医院

院長　井手速見

診療科目　内科　小児科　放射線科

久留米市日吉町十六番地

電話　二一七五番

聖マリア病院

院長　井手一郎

副院長　佐藤謙治

外科医長　津留水城

診療科目　外科　内科　小児科　放射線科　精神科　神経科　歯科

健康保険、国民健康保険、生活保護法労災保険、未熟児養育施設　指定病院

久留米市津福本町西鉄試験場駅前

電話　五八〇〇・八〇〇〇番

看護婦(正・准)募集

履歴書持参・午前中面談

カトリック教理

第一戒（つづき）
聖人をうやまう

一、聖人とはどんな人？

私たちが聖人というのは人間の力だけではとうていい実現できるはずのない、感ずべき立派な生き方をなさった方です。ゆるぎない信仰と親愛な神との交わりをもち、悪に対しては冷静さと勇気をもってどこまで立向い、私心をまじえぬ全き献身で隣人を愛するなど、数多くの徳で精神を飾っておられますがこれらの諸徳は神の聖寵によって養われ、みがかれたものです。聖人とは、神のみ業の傑作であると申せます。

(1) 聖人は、どの方も同じ鋳型にはまった、個性を失ったマネキンみたいなものではありません。瞑想的に目をとぢ、両手を合わせて祈っている姿だけが聖人のすべてだと思ったら、間違いです。教会では、公けにある人を聖人として尊崇するには、その人が教会から正式に聖人の列の加えられていなければなりませんが、実際にはそうでなくても、尊敬に価する立派な聖者は数多いものです。

次に有名な聖人のお名前を列挙してみましょう。

まず救主イエズスの御母聖マリアとその養父ヨゼフ、キリストの先駆者洗者聖ヨハネ。

キリストの直接の後継者たる十二使徒ら。とくにペトロ、パウロヨハネら。

信仰のためにいのちをささげた人を殉教者として厚く敬います。ローマ時代の迫害で殉教した人では、上にあげたポリカルポ、ラウレンチオ、聖女アグネス、ルチア、チェチリアら。聖体を守って殺されたタルチジオ少年。

わが国では長崎で殉教した二六聖人ら。

殉教でなく聖なる生涯をもってキリストの教と愛を証明なさった方（証聖者という）。

大修道会の創立者ではベネディクト、ベルナルド、アンジのフランシスコ、ドミニコ、イエズス会のイグナチオ。

修道女ではアヴィラのテレジア、クララ、幼きイエズスのテレジア、ルルドのベルナデッタ。

聖徳と学問の輝きをかね具えた方ではアキノのトマ、大アルベルト、ボナヴェンツラ。

布教者としてはフランシスコ・ザベリオ。信者の司牧者としてはサレジオのフランシスコ、ヴィアンネー。

社会事業の面では、貧者の父ヴインセンシオ、孤児の父ドンボスコ。

(2) ごらんの通り、聖人たちの生き方は千差万別です。活動家に隠遁者、学者に無学者、家庭の主婦に子供たち、生れながらの純潔を保った人もあれば、放蕩から改心した人もいます。王宮に育った人ばかりでなく極貧の家に生れた人もあります。

しかし神に対する愛に生きるという一点だけは、すべての聖人に共通しています。勿論この愛は神がかれらの心にそそいで下さったものですが、かれらはこの愛をもって、神のおぼしめしに忠実に従い英雄的勇気をもってさまざまの困難と戦い、神のみ心にかなう人間に仕上げられたのです。

聖人にはなるのであって、聖人として生れることはありません。色々な悪い傾きもあり、虚栄心、傲慢、しつとなどになやまされたものです、いわば荒けずりの人間像が、神のお働きと各自の努力によって、傑作に生れ変っていったのです。

(3) ですから神は、この人たちがこの世に生きている間から、とくに天のふるさとに帰ってきたときに、功績をたたえ、努力にむくいて下さいます。

キリストが御昇天のときに最高の栄誉をおうけになったように、また聖母が天地の元后として冠をうけ給ったように、それぞれの聖人が聖徳に応じてほまれをうけるのです。殉教者をたたえる祈のなかにも「神よ、おんみはかれに光栄と輝きの冠をさずけ給えり」とあります。

聖人たちのなかには奇跡を行う力を与えられている方がありますが、これも神がかれらにむくい給うたしるしです。

二、どのように尊びますか

ポリカルポ司教の栄ある殉教の直後、その信者たちは次のような申し合せをしました。

「これから私たちはみな毎年聖ポリカルポ司教の墓前に集り、その殉教を記念してよろこび合いましょう」。

この日は聖司教が天国に誕生された日です。教会は聖人の命日をその祝日とする習慣を保っています。

聖人の祝日には、聖人を賛美するだけでなく、神がこの聖人にまわったおめぐみ、その妙なるお働きについて、神に感謝することが大切です。

また聖人方は私たちの兄弟、姉妹ですから、信頼と親しみをこめて、神のみまえに私たちのため取次ぎをして下さるように祈ります。聖人たちの隣人愛は非常に広いものでしたから、天国においては尚更のこと、連日精神の戦いに疲れてている私たちのために、祈って下さるはずです。聖人たちに祈るとは、聖人を礼拝することではありません。父親は、子供たちが愛し助け合うこと、力ある者が弱い者をいつくしむのをよろこぶものです。

聖人らは神のみまえに力ある方ですから、弱い私たちを助けることができます。だから私たちは聖人たちに援助を願うわけです。

三、われらのモデル

聖人たちを尊ぶもう一つの道、それはその聖なる生涯、徳の実践にみならうことです。ある聖人の伝記をよんで心がときめくのを感じたことはありませんか。「よし私もそうしよう」という決意がわいてきたら、それを押し殺してはいけません。これこそ神の聖寵の訪れです。神はあなたをも聖人にしようと望んでおられるのです。

あなたと同じような境遇にあった聖人らの伝記をよく読むこと、その御絵を目につく所に飾るのもいい方法でしょう。

教会では昔から殉教者の墓の上に聖壇を設けそこでミサを献げたり、ある特定の聖人を尊ぶため教会を建立することがあります。今日では、少くとも殉教者の遺骨をはめた石を祭壇におくことになっています。

聖母マリアに対する尊敬

聖母マリアのみ位―聖母マリアは、永遠の昔から世の救主の御母となるよう御父から予定され、その地位にふさわしいおん徳の輝きを頂き、わけても原罪のけがれに一瞬の間もそまり給うたことがなく、聖寵に満ちた方であります。全天使、全聖人の聖徳を合せたよりも聖なるお方、神の創造の最高傑作と崇められております。他方マリアは、最もけんそんなお方、神の下女としておぼしめしを細大もらさず忠実に果されました。私たちはその高いみ位とそのおん徳をたたえます。

一、マリアを通じて

聖マリアはイエズスの実の御母ですが、私たち全人類の霊的母でもあります。幼きイエズスを生み育てるため母親としてこまやかな心づかいを見せられたように、天国から私共一人ひとりの上にいつくしみのまなことを注いでおられます。

イエズスがマリアを通じてこの世に生れ、救世のおめぐみを下し給うたように、イエズスのお功徳はみな、マリアのみ手を通じて私共に分配されます。ですからマリアと親しくなることは、イエズスと一致するための最良の道であると、教会は常に教えています。

立派なカトリック信者はイエズスを愛するが故に、その御母を愛し賛美をささげずにはおれません。御母を愛したうことによって、ますます御子イエズスに対する愛が増してゆくことを、私たちは経験によって知っています。

一年中で一番美しい季節に当る五月と一〇月は御母にささげられています。聖母に関係のあるルルドやファチマには無数の巡礼がなされ、またそのほまれのために建てられた聖堂は、枚挙にいとまがないほどです。多くの芸術家は、愛情はこめて御母の姿を画き、美しい音楽を作曲しています。

二、アヴエ・マリア

聖母に子としての孝情をあらわす方法は沢山あるうちで、一番やさしくて、聖母のお気に召すのは度々心をこめてアヴェ・マリア（天使祝詞）の祈をとなえることです。この祈は、

大天使ガブリエルのあいさつ。

「めでたし、聖寵みちみてるマリア、主おんみと共に在す

エリザベトのあいさつ

「おんみは女の中にて祝せられまた御胎の御子イエズスも祝せられ給う」

教会が加えた嘆願

「天主の御母聖マリア、罪人なるわれらのために、今も臨終の時も 祈り給え。アーメン」

天使祝詞をくり返しよくとなえる方法がロザリオです。

ロザリオとは、バラの花を首かざりのように糸でつないだものです。バラの花は実際に使えませんから、木やガラスや真珠の玉を使います。十字架からはじまって、玉を順次指でくりながら主禱文、天使祝詞、栄誦をとなえます。（左の絵をごらんなさい）

しかしロザリオでは、祈をとなえる以外に、もう一つ大切なことがあります。それはキリストと聖母のご生涯を黙想しながら、となえるということです。

その黙想は、伝統的にまず三つに大きく分けられ、よろこびの玄義、苦しみの玄義、栄えの玄義と申します。

各玄義がさらに五つの部分に分けられます。

よろこびの玄義では

一、聖母が天使のお告げをうけ、神の御母となり給うたこと。

二、聖母がエリザベトを訪問し給うたこと。

三、救主がベトレヘムで誕生し給うたこと。

四、聖母が御子を神殿に奉献し給うたこと。

五、見失われた御子を聖母が再び見出し給うたこと。

苦しみの玄義では

一、イエズスがゲッセマニの園で人間の罪に苦しみ給うたこと。

二、イエズスがむち打たれ給うたこと。

三、イエズスがいばらの冠をかむせられ給うたこと。

四、十字架をになって刑場に進み給うたこと。

五、十字架につけられて死し給うたこと。

栄えの玄義では

一、主キリストが死から復活し給うこと。

二、主が天に昇り給うたこと。

三、聖霊が降臨し給うたこと。

四、聖母が天に上げられ給うたこと。

五、聖母が天使と人類の元后に立てられ給うたこと。

私共はロザリオをくるときに、三つの玄義のうち一つを選び、一連毎にそのなかの一つを黙想します。五連となえたら、一つの玄義を黙想し終えたことになります。

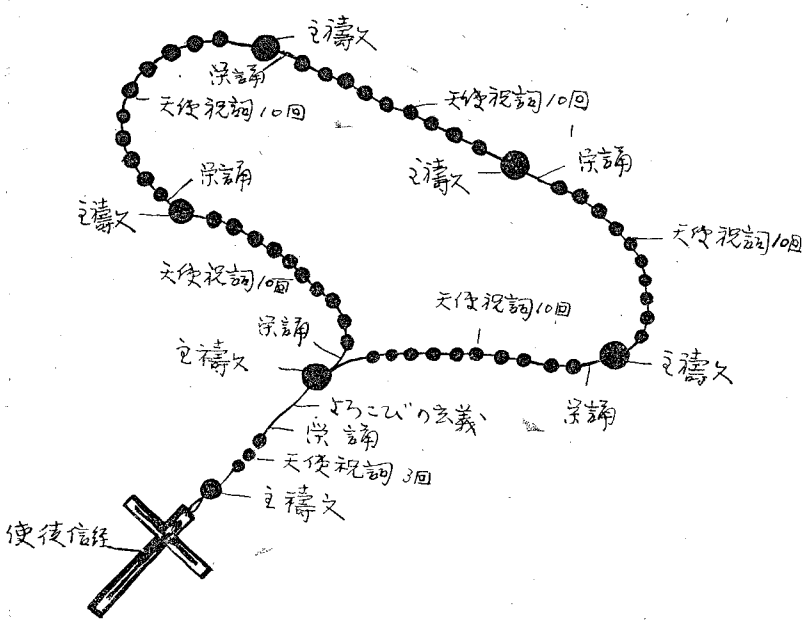
ロザリオを首からぶら下げて、装身具にしている人をみかけますが、ロザリオは、天の御母に私たちがささげる花の冠です。よく黙想しながらとなえたアヴェの祈は心なき花の束よりも聖母をおよろこばせすることができます。首にかけないで、ポケットにしまっておき、度々とり出してつまぐりましょう。

とくに五月の聖母月、一〇月のロザリオの月のあいだには、毎日必ず、一人でかまたは家族そろって、ロザリオをとなえる習慣をつけること。

三、お告げの祈

天使祝詞は、ロザリオ以外にお告げの祈のときにとなえます。これは神の御子が、人を救うためにマリアを母としてこの生れ給うたあの大いなる愛のみ業を、度々思い出し感謝するためにとなえられるものです。一日に朝、昼、晩と三回となえるのが定法です。ある教会では三回きまった時刻に鐘をならします。これがアンゼラスの鐘です。この祈も、人となり給うた神の御子に感謝すると共に、御母マリアの高い地位を賛えるものです。

御復活節中の約五〇日間は、お告げの祈の代りに、「アレルヤの祈」をとなえます。これは主のご復活と聖母のおよろこびを、共によろこぶ祈です。



聖母の知識と愛を深めるために！

キリストは、マリアと共に、ただマリアを通じてのみ見出され給う。
（聖ボナヴェントゥーラ）

私のおん母　ドン・ボスコ社
J・シュリーヴエルス著
A・デル・コール　訳
¥ 二三〇
あなたとイエズスを結ぶ、この深い関係、あなたとマリアを結ぶ、この深い関係は神のご計画でした。「イエズスの御母」「私の御母」とは…この奥義を、いともわかりやすく本書は解説しております。

わが理想　中央出版社
エミール・ヌーベル原著
清戸学園編
¥ 一五〇
完徳とは、師たるキリストにあやかることではないでしょうか、聖母への信心もキリストが聖母に対してもちたもった愛を理解することから、はじめるよう、本書は、すすめております。

聖書に於ける聖母　中央出版社
グドルフ著　¥ 一六〇
表題に示すごとく、本書は旧約、新約両聖書から、聖母に関するみことばを引用し、聖母への知識を理解させ、その御徳にならわせる黙想書。

あなたの模範マリア　ドン・ボスコ社
マエエル・デュラン著
メール・菊地　訳　¥ 九〇
女性として、母としての聖母のけだかい御徳を、短かい黙想形式にまとめたもの、女子高校生、女性の反省、黙想用として最適。

福岡県大名町一ノ七七
TEL七四・四五八八
聖パウロ書院
岩田屋六階
セント・ポール・コーナー

典礼シリーズ ㉖

"Supplices"… うやうやしく

ラプラント

聖別のあとの三番目の祈で、典文の五つの祈から成る中心部が終結します。この祈に「われらの主キリストによりて」という結尾がついているのは、そのためです。この祈は三つの部分で構成され、各部の古さは一様であります。

第一部は「全能の神に……願い奉る」で、神に向けられ、グレゴリオ教皇の古式典礼書（第六世紀）にだけある聖体拝領後の文の形体です。

第二部は「このいけにえを運ばしめ給え」まで。司祭は天使たちが私共のいけにえを天に運び、神のみいずのみまえにさし出すよう願います。聖アンブロジオの「秘跡論」（三八五年頃）にこの祈の本質的部分がふくまれていますから第二部が第四世紀末にできたことがわかります。

最後の部分は、神が人間のもとに降り給うことを示すもので、祝福と聖寵を十分に頂くため、祭壇上でいけにえとなり給うたキリストと一体化されることを願うものです。これと異文同意のものが第七世紀のガリア、スペイン両ミサ典書中にも見出され、そこではエピクレジスの祈の結尾に用いられています。だからこの祈（三部併せて）は、第七世紀には出来上っていたといえますし、事実、七四〇年頃のフランク族のミサ典書のなかに、そっくり使われています。

これはエピクレジスではない

ルブランやカジンのような有名な典礼学者は、この祈がエピクレジス、即ちパンとぶどの酒の聖別を行ない給うよう聖霊の降下を願う祈だと考えていました。どの東方典礼においても、ミサのこの箇所でエピクレジスの祈がとなえられるので、ラテン典礼に於ても同じと考えたのです。

しかし現代のすぐれた学者たちは、両者間に類似はあるが、これはエピクレジスではないと主張しています。教会のごく始め頃では、恐らくそうだったでしょうが今ではそれを確認できるしるしは残っていません。

その理由というのは簡単です。聖霊のみ名はこの祈に見当りませんし、「聖なる天使」という言葉にもふくまれていません。聖書で御父や聖霊を天使とよんだことは一度もない、と大聖グレゴリオ教皇は断言しています。しかもこれがエピクレジスであると最初にいったのは、第九世紀のパスカシウス・ラドベルト修士ですが、かれは聖霊についても御言についても言及していません。

別の理由としては、聖別はすでに終っており、その結果は「主よ……を記念して」の祈のなかに明らかに現われているということです。ホスチアは「聖なるパン」になっています。

以上、色々と理由があげられますが、決定的なものは「天使」という語の意味のなかにあります。

聖なる天使とは誰のことですか

すでに見てきた通り、これは聖霊を指してはいません。イザヤ書九章六節にいう「偉大なるこ計画の使者」とよばれ給うイエズスのことでもありません。なぜならこの解釈は、教会の最古の聖伝に基いておらず、第一二世紀に始まったにすぎないからです。司祭自身を指していないことは明白ですが第一三世紀の人デュランドスはあえてそう述べています。

では天使とは誰のことか、そのものずばりそれは普通の天使、集合名詞ととれば天使たちのことです。聖アンブロジオが書いているものを見れば、反論の余地がありません。かれは天使を複数形にして、「おんみの聖なる天使らの手をもって」としております。東方典礼はどれもこの解釈を裏付けしています。天使らは、私共が神にささげる礼拝につらなり、祈といけにえを神のみまえにそなえるのです。黙示録の八章の三―四節に次のようにあります「もう一位の天使がきて、金の香炉をもって祭壇の前に立った。かれに沢山の香が与えられたが、それは、すべての聖人たちの祈とともに、王座の前の黄金の祭壇に、ささげるものであった。香の煙は、聖人たちの祈とともに、天使の手から神の御前にのぼった」と。

この天使とは、シャルトルのディオニジオの考えるように大天使聖ミカエルのことでしょうか、それとも第一二世紀にツールのヒルデベルトがいったように司祭自身の守護の天使ことであるかそれはわかりません。いずれにせよ、黙示録の天使にならって私共も、天使らが天国の神の祭壇の上にそなえるために、私共のいけにえをとりに来て下さるように願います。

天の祭壇

黙示録に明らかな通り、これは神秘的祭壇であり、各ミサのいけにえを嘉納し給う神ご自身を指しています。神がこれをよみし給うことがはっきりしているので、天使は私共のいけにえをみまえに供えることができるわけです。イエズスはこの地上の祭壇に降り給うて、ただそのいけにえそのものを天使は私共に代って御父にささげるのです。

地上の祭壇

祭壇にあずかるとは、祭壇上のいけにえから流れくだる神の聖霊と賜物をうけるとの意味です。これは「御体をうけ奉る」という言葉で示された聖体拝領だけよりも広い、一般的な参与を指しています。この地上の祭壇は天上の祭壇のかたどり、これといくらか同一視されてよいものです。ここで献げられるものが天国でも献げられ天国でお返えしとしてほどこされる聖寵が、地上で私共に分配されます。

司祭のしぐさ

「うやうやしく」という語がありますので、第一三世紀以来司祭は、深く身をかがめてけんそんな嘆願の態度をあらわします。第一一世紀にはある国々では、嘆願を強調するため両腕を十字架の形にひろげていました。

「この祭壇の」というときに聖体布の上、ホスチアの右に接吻して、神的いけにえに対する燃えるような愛をあらわします（第一〇世紀の習慣）。供物の上にする十字架の記し二つは、別項で述べた通り、単に二つの供物を指示するだけのものです。司祭が自分にする十字架の記しの最後のものは「祝福」という言葉から第一三世紀に起り、第一六世紀になってはじめて一般にひろまっています。これはミサの聖寵が供物から司祭にうつることを示しています。

心構え

私共に代って天使がささげるいけにえを、神が玉座において決定的に嘉納し給うよう、深い尊敬をこめて願いましょう。これが私共の献物の上昇です。

またいけにえになり給うたキリストとその無限の聖寵を心の中に受けに奉りたいとの熱い望を燃やして、私共の全生活の上に天よりの祝福を祈願しましょう。私共が卒業の歌や静かに日本晴

花と娘：あきら

俳句

とと鳴きの鶏の咥へし地蟲かな　榕樹洞

出でし蝮雨に打たれてのびにけり　風声

初雛を飾り晴着の吾子抱く

満開の花洗礼の吾子に散る　牧泉

永遠を説かるる司教堅光る

短歌

二丈

国東の熊野の里の石仏と訪いて登れば山椿咲く

ややあつき春の日ざしに歩き行きくしの歯面白き山に会いたり

低みなる磨崖石仏はにらみ居き古拙の彫りに葉のかげりあり

聖書の国 ②

平山高明

ヘブロンへの途にある泉

パレスチナの気候

パレスチナには実際上には、二つの季節しかない。一一月から四月までの雨の期節の冬と、ほとんど雨の降らない乾燥期の夏である。この冬から夏への移り変るしばしの間、パレスチナの自然は、ある限りの奢を尽してその短い春を飾る。旧約の雅歌は、「今や冬は去りて雨は止め、花は大地より萌え出で歌の時は来りぬ、山鳩の嗜声は野にひびき、無花果樹は若き実をつけ、花咲き初めたるブドー畑は、はや香気に満てり」と歌っている。ガリレアの平原ではひなげしが真紅の毛織を展げ、エフレムの岩地には、ベトレヘムの星と呼ばれるかれんな草花が星形の白い花びらをまきちらしている。ユダの山地の岩の間には、芯の黒い真赤なアネモネが群がり咲いている。

あわただしい春の収穫が終わると夏はもう、そのころ にきている。「汝ら無花果樹の枝すでに柔ぎて葉の生ずるとき、汝ら夏の近きを知れ」（マテオ二四の32）との言葉の通り、パレスチナの春は大股に過ぎ去り、この華やかな春の終り頃に突然カムシンと呼ぶ熱風が、ヨルダン河の彼方の砂漠から襲ってくる。時としては一週間も続き、温度は急激に上昇し、四〇度以上にもなる。人々は疲れ、頭痛と激しい渇きに悩まされる。それが長く続くと、草木も枯れ、果実も干 乾び、死んだようになる。

美わしき春の花の栄えと、その突然の消滅は、パレスチナの人々には儚い栄華のシンボルのように見えた。予言者たちはくり返し栄華の儚さを野の花になぞらえる。「人の日は草の如く、その栄えは野の花の如く栄ゆれど、風これを吹き過ぎるや直ちに失せて跡なくそのありし所を問えどもなお知らざるなり」（詩篇一〇二）と。

× × ×

八月の平均温度は摂氏の三三度であるが、カムシンの熱風がくると、日陰でも三〇度から四〇度に昇る。幸いにこの暴気も四、五日続くと、涼しい日が四、五日続いてきて、生物は息を取り戻す。特に夕方になると海から涼しい微風が吹いてくるので、人々は涼を採るために露台に上る。夜になると相当の露が降り、気温も下りしのぎやすくなる。

主キリスト様は公生活中、度々冬をエルザレムで過ごされ、夏はガリレアで過ごされたようであるが、焼けた砂をのせた風が東の砂漠から吹く日には、徒歩の旅は辛いものであったであろう。主がサマリアを通られ、旅に疲れて井戸のほとりに坐し給うた（ヨハネ四の6）のも、多分このカムシンの吹く夏の暑い正午頃であったろう。水を汲みにきたサマリアの女に向って主は「我に飲ませよ」と仰せられる。主はその咽喉の渇きを通して御父天主の御旨を果さんとの激しい内心の渇きを表わし給う。がサマリアの女はそれを唯だ物質的水と感違いする。

一日の暑熱に苦しんだ旅人にとって、疲れ切った足を冷い水で洗ってくれることを勝る歓待はなかったであろうし、新鮮な冷い一杯の水は、どれほどの甘味をもって旅人に力を与えたことであろう。しかし一杯の冷い水を振舞うため村の共同井戸に水ガメをさげて暑い盛りに出て行くには小さな愛の犠牲が必要である。アブラハムが三人の旅人に姿をかえた天使を自分の天幕に迎えて、冷い水で足を洗い、神の祝福を受けたことの意味も、また主が「誰にても、弟子の名のために、冷水の一杯をも、このいと小さき者の一人に飲まする人は、その報を失うことあらじ」（マテオ一〇の42）と仰せられたとき、主を取りまき聞き入っていたパレスチナの住民にとってデリケートな隣人愛のさ小な犠牲の意味が、深く心に滲み入ったことであろう。

ベトレヘムの星

× × ×

雨は、パレスチナにおいては常に祝福の源である。雨が少ないということは、直ちに飢餓と窮乏を意味していた。今日ではイスラエルの平原は、チベリアデ潮の水をパイプで引いて灌漑しているが、それでもやはり大部分の農家にとって、雨の多少は直ちに農耕収穫を左右する。東方教会の典礼では慈雨を求めるために特別に荘厳な祈りが定められている。この国の人々にとって雨とは、自然の恵の中で最も大切な天の恵みであり従って主イエズス・キリスト様が「天に在す御父は義人に悪も人にも雨を降し給う。」（マテオ五の45）と仰せられたとき、人々は、限りを知らない神の慈い愛をよりよく悟ったであろう。

× × ×

雪は標高二千米のヘルモン山の頂きには、夏の始めまでかがやいているが、ユダの山地では、特に厳しい冬でなければ見られない。冬の厳しさは主の御受難の夜、ヘロデの邸の庭で兵士達が火をたいてあたっており、ペトロが火に近づいたことからもうかがわれるように、大陸性気候のパレスチナの冬の夜は相当冷え込むのである。外套を借金の抵当にとった者は、夜にはその貧しい債務者に一時かえすようにと、モイゼは微笑しい人間味のある掟を定めているのもそのことを示しているようである。

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　七三〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六八〇円
デイリーコンサイス英和辞典　六五〇円
新クラウン英和辞典　D縮刷版　三〇〇円　大型版　四二〇円
ジェム英和・和英辞典　一〇〇〇円
最新明解英和辞典　八五〇円
初級クラウン英和辞典　三八〇円
初級コンサイス英和辞典　二五〇円
初級コンサイス和英辞典　二〇〇円
三省堂　独和新辞典　七〇〇円
コンサイス独和辞典　六〇〇円
コンサイス仏和辞典　六〇〇円
コンサイス露和辞典　八五〇円
日西辞典　三、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　一、六〇〇円
新英文法辞典　七五〇円
英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、三〇〇円　二、〇〇〇円
新版広辞林　一、四〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四五〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）三五〇円
大明解漢和辞典　九〇〇円
明解漢和辞典　四五〇円
模範六法全書　六七〇円
明解六法　二〇〇円
学習百科事典（新版）一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　八〇〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

SSD
三省堂　福岡出張所
住所名変更
福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町

カトリック
深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十円

右近列福運動を推進

全国司教会議で決定

昭和三八年度全国司教会議は五月七日から二〇日まで東京のカトリック中央協議会館で枢機卿土井大司教はじめ二四名の司教、駐日教皇公使カーニャ大司教出席のもとに開かれたが、一〇日午前には、司教らと在日修道会宣教会会長らとの合同会議があり、ここで全国司教会議の決定事項その他の報告が行われた。

決定事項は左の通り。

(1)カトリック中央協議会教学部は、東南アジア諸国の教学に関する種々な会の連絡機関の役を引受けてもよいこと。

(2)同教学部は、「教会学校」の教材の世話、講習会を開催すること。

(3)日本カトリック医師会は中央協議会社会福祉部に所属する。

(4)明年夏、中央協議会信徒使徒職部の主催による全国司祭大会を開催する。（来たる八月二一、二二日札幌で信徒使徒職各教区代表司祭により準備会が開かれる）。

(5)中央協議会事務局長と次長、同協議会各部秘書を再任（向こう一年間留任）

(6)邦人司祭の選成は非常に重要なことなので、この問題をさらに検討するために司教委員会が構成された（メンバーは田口、富沢、小林、里脇、長江の五司教）。

(7)大阪の田口司教を中心に、高山右近の列福運動が行われるようになったので、司教会議は、全司教がこれに協力することを申し合わせた。

右近列福運動について田口司教は次のように語った。

自分がローマに行ったとき聖座のすすめがあり、その運動を起すことになった。元来、列福運動は本人が死亡した地（この場合はマニラ）の司教が起こすものであるが、右近は日本人であり、生涯の大部分を日本で過ごしたのであるから、今回は特例により、右近の居城のあった大阪の司教が責任をもってこれを進めることになった。この運動のため男女修道会の精神的な協力をお願いする。列福のためには、徳のすぐれていることの他に少くとも二つの奇跡が必要である。右近の場合は、何百年も前の歴史的資料に基づかねばならない。戦後一度この運動があったが（故ラウレス師らによって）中止されていた。資料は可成そろっている。列福調査は時間がかかるだろうが、近いうちに第一段階の「セルブル・デイー神の僕」に挙げられることが期待できよう。このため皆さんの祈りとPRをお願いする。

教会用語統一の件については、司教委員会の平田司教から報告があり、多くの専門家たちの協力のおかげで約三三〇〇の用語のリストができたのでこれにさらに手を入れ、このリストを希望していた文部省に提供するつもりであると述べた。

聖歌集改定については吉屋司教が報告を行った。司教はその中で改定のため毎月委員会を開いて仕事を進めているが、三分の二ほどできている。典礼的なものでも、翻訳は必ずしも直訳ではなくてよいことになっている。グロリア、クレドは近ぐカトリック新聞紙上に発表し、これに対するすぐれた作曲を募りたい、完成までになお二年くらいかかるだろうと述べた。

× ×

よき牧者、真のパンなるイエズスよ、
われらを憐み、われらを牧し、われら
をまもり給え
（ラウダ・シオンの賛歌より）

世の光

聖心が教えるもの

今年の聖母月は悪天候に二喜一憂しながらも早や初夏の六月を迎えてしまった。聖心の月になってつくづく思うのであるが、聖心の信心の内容が案外知られていない。その理由はいろいろあるが一つは聖心の御絵にも原因があるのではないだろうか。イエズス様の傷ついた心臓の周りに燃えている火などはなんだかお伽話の絵のようだ。正直にいって何か非常にセンチな感じがしないでもない。

所が、この聖心の御絵こそは、私たちに今の世界に一番大切なものを教えてくれるものなのである。それでイエズス様の聖心の信心について

一、教会では何を教えているか
二、歴史
三、聖心は何を教えるか

この三つについて考えて見よう。

一、教会では何を教えているか

イ、第一にイエズス様の肉体の心臓は礼拝されなければならないことである。これは「御言葉と一致せるキリストの人性は神性と共に礼拝されなければならない」という教義に基づいている。肉体的な心臓を礼拝することは、イエズス様に関する限り、偶像崇拝にはならないという事である。キリストの人性は天主の第二位、御言葉のペルソナの中に一致しており、区別して考えることはできても、実際には一つだからである。

ピオ六世が「信者たちは聖心をイエズス様の心臓、御言葉から離れ得ないものとして礼拝する」と言っているのは、この意味である。

ロ、聖心はイエズス様の知識、意思、感情、五官、思想、人間の全能力の象徴である。

全世界どこでも心は、人間の全能力の象徴として考えられている。パスカルは「心には理性のわからない理由がある」と言い、「あの人は、良さそうな人だけれども、何だか心の許せない人だ」。「そんな心がけではダメ」。などとよく私達は日常使う。イエズス様も「汝ら心を尽し、霊を尽し云々」と申されている。

ハ、教会ではこの二つの方面即ち、人性の一部の肉体的なものと、一方、内的生命と全人格の能力の象徴として、イエズス様の聖心を礼拝するのである。特にこの信心の対象はイエズス様の胸中にあって、私達人類に対し波うち鼓動している愛なのである。

二、歴　史

初代教会から、少くとも千年の間は、聖心について、はっきりした信心はなかった。初代教会において信者達は聖心の代りに「善き牧者」なるイエズス様をこよなく愛し、礼拝した。中世以後、聖ベルナルドや聖フランシスコ等がイエズス様を単なる天主として畏敬するだけではなく「愛に満ちた、苦しめる人の子」としてのイエズス様を発見し、愛と苦しみとによって傷つけられた聖心への道、即ち、救い主の最も奥深い、深刻な心理的理解において、聖心の信心を行うようになった。一六九〇年一〇月一七日、フランスのパレ・ル・モニアルの聖母訪問童貞会の修道女が示現を受け、初金曜日のイエズスの聖心に献げられた日として九ケ月間、引き続いて聖体拝領をした人々には、臨終の時に、救主の特別な御恵が約束された。そしてピオ十世やマテオ神父の奨励を受け聖心に家庭を奉献するように全世界に対して運動している。

三、何を教えるか？

聖心の信心が教えるものは、私達がイエズス様の愛に、愛をもって報いるということである。それには人を愛をもって良く理解しなければならないということも含まれている。聖フランシスコの「主よ、われをして御身の平和の道具とならしめ給え……理解さるることよりも理解せしめ給え」という祈りがあるが、今の世の中に一番大切なものは、愛をもって人を理解することである。

親は子供を、老人は今の世代の教育を受けた青年達を、妻は外で働く夫を、白人は風来の上がらない黒人を、姑は若い嫁を、信者は未信者を、それぞれイエズス様の愛をもって理解しない場合には、憎しみと紛争を強めるばかりである。そして私達は敵をも理解しなければならない。スターリン、フルシチョフ、毛沢東、ヒットラー等教会に対して迫害をした人々のために祈り、またどんなにつまらなく見える人間、赤いジャンバーをはいたイカレたあんちゃんでも、イエズス様の救いの計画に入っていることを考え、決して軽蔑してはならない。教会は、天国に入った人のカタログは列聖によって作るが、特定の人が地獄に行った人を定義したことはない。なぜなら人には自分の行いに対してそれ相当の理由があるものなのであり、人間の心の奥底は外面だけでは恐らく不可解なものだからである。

私達は、今の世間をイタズラに批判せず自分達が今の世代に生きていることを良く考え、聖パウロの「衆人のためにいかなるものにもなった」との言葉を、生活の中に実現するようにすべきである。

もちろん、つまらない物に適応性を示すということではなく、どんな人の心も理解してやらなければならないということである。

イエズス様は愛に燃える聖心を指さして「汝の計った計りで、汝も計られるであろう」と言われていることは六月の始に一考を要する。

（山東龍雄）

教皇聖下ご重態

バチカンよりの報導として新聞・ラジオが伝えるところによると教皇ヨハネ二三世聖下は、五月二八日午後、全く危篤に陥っておられる。

教皇聖下のご病気は、胃のなかに腫瘍（しゅよう）ができたもので出血がひどく、教皇は非常に弱っておられる。

× × ×

教皇聖下のご危篤の報に接し、深堀司教は五月二九日、全教区に次のように請願しておられる。

「いとも尊敬すべき教皇聖下、ならびにそのご指導のもとに生きている全カトリック教会の上に、天主さまのみせつりがご意志のままに行なわれますよう教区のみなさま、こぞってお祈り下さい。」

〝平和への勇気ある発言〟

新回勅への反響

教皇ヨハネ二三世の歴史的回勅「地上に平和」は発表以来、世界各国で大きな反響をまきおこしている。朝日ジャーナル誌も巻頭言でこれにふれ、米、英、仏、伊などの諸新聞はいずれも、教皇が世界平和について積極的な、示唆に満ちた勇気ある発言を打出されたことに、無条件の賛意を表している。教皇も同回勅がいたる所で好意的に受け入れられたことに、深い感謝の念をいだいていると、申された。

〝教皇は平和の擁護者〟

ソ連首相が見解発表

フルシチョフ・ソ連首相は伊ミラノのイル・ジョルノ紙の主幹イタロ・ピエトラ氏との一時間一五分にわたるインタビューの中で、教皇を〝平和の擁護者〟として称賛した。

このインタビューは核兵器廃止に関する西側の態度、キューバ危機の成り行きなどについてフ首相の見解を尋ねたものであったが、同首相は、ヨハネ教皇と第二バチカン公会議との平和への寄与をどう考えるかと尋ねられて、こう言った。

われわれは、ヨハネ教皇の平和賛成の立場を称える。教皇は最近の回勅のなかで、軍備競争の終止、核兵器の禁止、そのような兵器の実験停止、効果的な国際管理下における軍縮の実行、諸国の平和共存、諸国家や諸民族間の平等な関係、および戦争の病的興奮の除去を支持する旨を表明された。

われわれ共産主義者は、いかなる宗教的概念も受け入れないが、しかし同時にわれわれは、平和を護るためには、あらゆる力る結合する必要があるらろうと信ずる。

聖体礼拝

（六月）

第一日曜　馬渡島教会
第二日曜　戸畑教会
第三日曜　人吉教会
第四日曜　箕島教会
第五日曜　ノートルダム修院

祈禱の使徒会

（六月）

【一般の意向】　一般道徳低下の防止

【布教の意向】　極東諸国における布教

六月

イエズスの聖心の月

二日（日）　聖霊降臨の大祝日

主キリストは十二使徒の養成を手がけられ、その上にカトリック教会の基礎をおき給うた。キリストご昇天の一〇日目、聖霊はかれらの上に降って、教会がキリストの救世の業を継続してゆくよう、特別の援助を与え給う。

今日は全日本で「病者布教の日」である。

佐賀地区司教の日　（於佐賀教会）

九日（日）　三位一体の祝日

世界と人間の創造、救世のみわざ、世の終りまでの教会の働き、いずれも三位にして一体なる神の深遠、限りない愛のあらわれである。われらは三位一体の神の聖名において、神の子とされ、罪をゆるされる。聖寵に生きる信者の魂は、三位一体の神の住居となっている。

八幡門田町教会で堅信

一一日（火）　使徒聖バルナバの祝日

聖パウロと共に福音の伝導に従事した。使徒行録第一三章を参照。

一三日（木）　聖体の祝日

聖体は御受難の記念である。いけにえの死をとげ給うたキリストは、毎日祭壇の上で、われらのいけにえとして神の正義をなだめる供物となり給う。聖体はわれらの食物である。キリストを食する者は、いけにえにて在すキリストと一致し、共に十字架をになう勇気と力をうける。

一六日（日）　聖霊降臨後第二の主日

キリストは聖体の秘跡において信者をご自分の愛に招き給う。ある人はこの愛のよろこびを少し味っただけで、さらに深い親密さに進もうとしない。自分の方から身を引くのは、やはり神のお心を傷つけることになる。

若松教会で堅信

二一日（金）　イエズスの至聖なるみ心の祝日

「聖心の信心の特徴のうちで、きわ立ってすぐれているのは奉献である。これによってわれらは自己とその所有するすべてのものを神の永遠の愛に帰して、イエズスの聖心にささげる。救主は、この奉献の務めを果すことを限りない愛にかられて切願なされた」（ピオ一一世教皇の回勅）

二三日（日）　聖霊降臨第三の主日

今日のミサでは、罪人に対する神のご慈悲を默想し、賛える

新田原教会で堅信

二四日（月）　洗者聖ヨハネ誕生の祝日

二九日（土）　聖ペトロ・聖パウロ両使徒の祝日

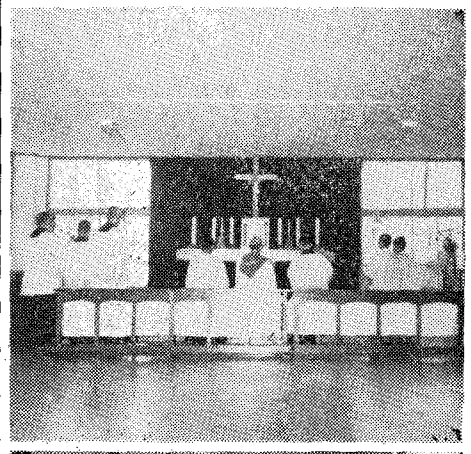
福岡大神学校で敍階式

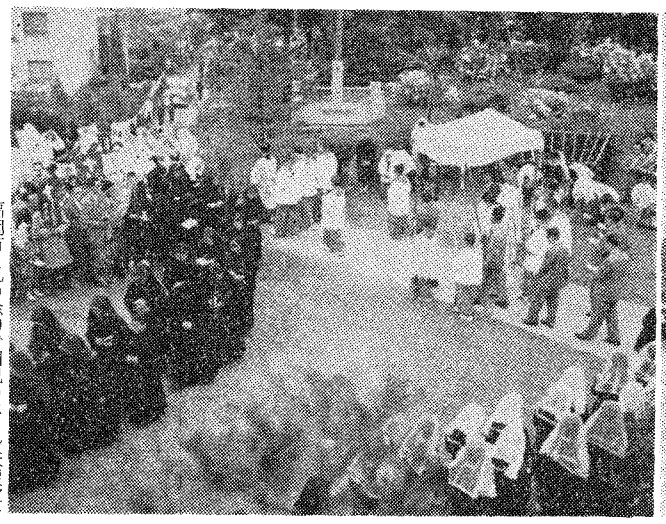
三〇日（日）　聖霊降臨後第四の主日

使徒は特別の使命をおびて神からつかわされた者という意味である。教会は常に使徒としての務めを果すが、各信者は教会に属する者としてこの働きに協力する。

聖堂兼園ホール完成

西新教会





福岡市曙町の西新カトリック教会では主任の平田勇師、信者付属幼稚園の全父兄の絵力で園児のホール兼聖堂を完成、これまでは民家を改造した一〇坪ほどの部屋で日曜の務めを果していたのがこれからは明るい一五二平方メートル（四六坪）の聖堂で祈れるようになり、一同大きなよろこびにひたっている。

祝別式は五月一二日午前九時半すぎ、全国司教会議から帰福した深堀司教の司式で行なわれ地元信者や園児、父兄、他教会の信者ら数百名が新聖堂の誕生を祝った。西新教会は日本二六聖殉教者中の聖パウロ三木に献げられている。

ミサ後、落成式と祝賀パーティが開かれ、席上平田勇師が惜しみない協力を示した多くの人々に感謝の意を吐露し、ついで司教が教会祝別の意味を説き、設計に当った菅種雄氏に感謝状を贈った。

西新教会は昭和二九年に地行教会から独立、現在信者数は約四〇〇名である。

（写真上は西新教会祝別式、下は祝賀パーティ）

信仰みなぎる聖体賛美

新緑五月をかざる祭典

新緑五月に色をそえる教区聖体行列は、日曜とかち合った子供の日、福岡泰星高等学校付属聖堂から双葉学園講堂までの間で挙行された。

本年は降りつづく雨のため開催があやぶまれたが、当日は曇り空ながらも幸い雨の心配はなく、泰星、双葉両運動場が不良のため野外仮祭壇を設けられず、予定コースを巡ることもできなかったが、二〇〇〇名を超える参加者が内にこもる信仰を聖体賛歌にたくして高らかに公言した。

定刻二時、教区各地から集った信者たちはつつじとバラが咲きみだれる泰星高校本館前の通路に整列して聖体のお出ましを待ち、聖体を奉持した司教のお姿があらわれると、十字架を先頭に双葉学園生徒の長い行列が動きはじめた聖体のそばには浦師と三木神学生がつきそい、白の祭服をまとう十数名の司祭が行列に一層の荘厳さをまし、花まきの少女たちの清らかな姿が道行く人々の目をひく。赤ちゃんを背に幼児の手をひいてロザリオをとなえつつ歩む人たちの顔には、ただ愛の秘跡に対する熱誠がかがやいて、聖体行列ならではの感がみなぎっていた。

天蓋が浄水通教会の前を通る頃には、先頭はすでに双葉の校門に達していた。聖体が祭壇に安置されると同時に神学生、修道女、一般信者が講堂に入り、浦師の説教のあと隆福式にうつり、聖母月にふさわしいフアチマの聖母賛歌を合唱して、盛典の最後を飾った。

（写真右は行列先頭をゆく十字架、左は泰星高校を出発する行列）

カーニヤ大司教、ご訪問延期

駐日バチカン公使マリオ・カーニヤ大司教は、六月上旬に九州の各司教区を公式訪問なさるご意向であったが、ご健康の理由で、ご旅行を無期延期なさる由、福岡司教館にご通達があった。

熊本カトリック学士会

深堀司教迎えて発会

五月一九日深堀司教臨席のもとに熊本県地区カトリック学士会の発会式が行なわれた。

熊本マリスト学園教頭の福山賢蔵氏のよびかけで当日は二時半に三四人が手取教会付属洋裁学校に顔をそろえた。ロザリオの祈のあと主任司祭ダンフィ師が「このグループの会員がキリストの精神に徹して世の光となり、教会と社会に貢献して頂きたい」とあいさつ。ついで司教は「学士会とはあるべき種の党派や護教計論家の集りでなくロザリオの祈ではじまる会でありかくれた所に偉大さをひめる会である」と会の趣旨について説明し、おのおの初名乗りをあげて、懇談のひとときを過ぎ聖体降福式をもって第一回会合を閉じた。

これからは毎月第一日曜日に定例会合を開き、できる限り自分も出席するとの司教のお約束もなされ、全員の推せんで福山賢蔵、本多正昭、岡本英輔の各氏がそれぞれ会長、書記、会計として会の世話に当ることになった。

教会建設工事はじまる

〔熊本〕 聖コロンバン外国宣教会では熊本市の北東、飛行場に近い保田窪本町に教会を新設して司方面に布教に力こぶを入れることになった。場所は手取教会と健軍教会を結ぶ線を底辺にしてその頂点に当り、周囲に続々とアパートが建ちはじめている。聖堂、司祭館、信者会館をふくめて約五七八平方メートル（約一七五坪）のもの、今秋一〇月末に完工の予定。

〔小郡〕 久留米市に近い三井郡小郡町に昨年開園したカトリック幼稚園に接して新しい教会の建設が五月中旬からはじめられている。面積は司祭の部屋を入れて一七五平方メートル（五三坪）で聖母被昇天祭の頃までに工事を終ることになっている。小郡は西鉄急行電車に近く、福岡、久留米両方面との便があり、自衛隊の駐屯地となっているので、住宅地としても大いに発展をとげつつある。岩永義人師がすでに在住している。

アフターケアの家再建

八幡聖小崎育児園

さる二月一四日不慮の火災で焼失した聖小崎育児園（園長ルネ・ルリエ師―北九州市八幡区赤坂本城）のアフターケアの家は、各方面からの援助もあって、直ちに再建にとりかかっていたが、同じ基礎を使い、わずかの模様変をほどこして、このほど美しい憩いの家が再現した。五月一三日開の理事長でもある深堀司教が祝別式を行ない、北九州地区の司祭、同園の保母さんらが共に、子供達の多幸を祈った。

内部は全く日本風、八畳一間、六畳三間のほか炊事場、風呂場など、中学三年生で近く社会に出る子供たちがここで起居するが、すでに社会で働いている者も休みをここで過すことができる。

アウグスチノ会管区長来福

聖アウグスチノ修道会の米国ヴィノヴァ管区長J・ドンヌロン師は秘書ホワイリ師同伴で来日福岡市東田島の同会担当の教会と修道院を公式視察ののち五月一四日司教館に深堀司教を訪問した。

司祭異動

熊本手取教会主任ブレンチフィールド師は暇暇帰国。後任は助任のダンフィ師。なお日本語学校を終えたゴール師が同教会助任。

馬渡島教会主任伊東誠二師は新田原教会主任。

松島巡回教会付田川清美師は馬渡島教会主任。

学生会報発刊

福岡カトリック学生会では、五月から月刊会報を発刊している。会報を通して現会員が相互の親睦を深め旧会員先輩とのきずなを固めることをめざしている。深堀司教は創刊号に「学生会の深い地盤は信仰と祈にある」とのことばを寄せている。

移住の日の献金

（五月五日）

大名町	四、〇〇〇	鳥栖	一、〇〇〇
浄水通	二、一三五	伊万里	三〇〇
地行町	二、五〇〇	鹿島	五〇〇
高宮	一、五〇〇	武雄	
養島	一、四六〇	八手寺	二、二〇〇
西新	一、四二六	門司	二、三〇〇
吉塚	一、〇〇〇	小倉	七、〇〇〇
箱崎	一、五〇一	湯川	二、〇〇〇
茶山	一、〇二〇	戸畑	一〇、五〇〇
大楠	一、二五三	門田	三、二〇〇
那珂町	四、〇〇〇	黒崎	五、五〇〇
二日市	七四一	直方	五〇〇
久留米	五、〇〇〇	飯塚	
大牟田	二、〇〇〇	若松	一、五〇〇
今村	五、四〇〇	新田原	
本郷	一、八六〇	田川	五〇〇
古賀	一、〇五〇	水巻	一、二〇〇
		行橋	一、五〇〇
佐賀	一、〇〇〇	手取	六、五〇〇
唐津	一、〇〇〇	島崎	九、三〇〇
		健軍	二、一〇〇
八代	三、六〇〇	高宮マリア幼	二、〇〇〇
人吉	二、八〇〇	明光学園	一一、五〇〇
水保	一、四〇〇	熊本信愛学園	一五、五〇〇
玉名	四三〇	養島幼稚園	一、〇〇〇
崎津	二、〇六四		
大江	一、五〇〇		
隈府			
荒尾	七七五		
本渡	一、〇三〇		
呼子	二、四五〇		
馬渡	一、五九〇		
本城			
田島	六〇〇		
吉野	三〇〇		
多久	四〇〇		
合計	一四六、三八五		

医療法人雪の聖母会経営

井手医院
院長　井手速見
診療科目　内科　放射線科　小児科
久留米市日吉町十六番地
電話　二一七五番

聖マリア病院
院長　井手一郎
副院長　佐藤謙治
外科医長　津留水城
診療科目　外科　内科　小児科　放射線科　精神科　神経科　歯科
健康保険、国民健康保険、生活保護法
労災保険、未熟児養育施設　指定病院
久留米市津福本町西鉄試験場駅前
電話　五八〇〇・八〇〇〇番

看護婦（正・准）募集
履歴書持参・午前中面談

聖心の使徒（昭和38年6月号）
表紙　「御聖体」湯崎夫沙子画
六月の意向　社会と愛と良心　今田健美
極東の布教（六月の布教の意向）　粕谷源蔵
黙想　朝の奉献　河野義裕
わが子に心の糧を　千寿利久
写真特集　家庭と典礼　林忠実
活ける水の泉　三木次郎
新しき聖心の詩篇　宮本一彦
六月の聖人　御聖体の聖女　薄田昇
聖心の信心と祈禱の使徒会　岩島忠彦
みこころの使徒
十字架のイエズス修道女会
東京の教会の思い出　青山政徳
自然の驚異（二十）　H・ムシャレク
新本めぐり
ポスト
購読料　一カ月　五七円　一カ年五七〇円…〒共
日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾井町七

カトリック教理

第二戒

主なる神の名をみだりに呼ぶなかれ

神のみ名に対する尊敬

一、人の名前

私たちは誰でも名前がありますが。しかも二つ一つは姓で、家族または両親の名前ともいえます。この人は、この家族の方であることを示します。もう一つは、その人個人の名で両親がつけて下さったものです。この名前で兄弟、姉妹から区別されます。

道を歩いているときに自分の名前をよぶ人があったら、そちらに顔を向けます。その名前であなた自身がよばれているのですから。自分の名前をどんな風によんでくれるかを聞けば、相手が自分にどんな感情をいだいているか、自分とどんな間柄にあるかわかります。もし誰かが人通りの多い場所であなたの名前をぞんざいによんだり当りまえの名前でよんでくれなければ腹が立ちます。名前を馬鹿にすることはその本人を馬鹿にしているのです。父母の名前をぞんざいにいうのを聞いて、あなたは平気でおれますか。

二、聖なる神のみ名

神のみ名は聖なるもの、たっといもの です。なぜなら神は、もっとも偉大な方、いとも聖にして、いとも愛すべき父にて在すからです。私たちはそのみ名を心のなかに大事にいだき、うやうやしく口にします。神をたっとんでいるのですから、つねに尊敬とつつしみをもって神について話すようにしなければなりません。

(1) 全能なる神に

旧約時代に神がアブラハムにおあらわれになって「私は全能の神である」とおっせられると、かれはすぐに平伏し、顔を地につけて礼拝いたしました。神は、世界中のどの王、どの権力者よりも力ある方、永遠に生きて万物を治め給う主であられます。おそれかしこみつつ、全能の神のみ前にぬかずきましょう。

(2) おん父なる神に

キリストはお祈のときいつも、神を「父よ…」とよんでおられます。「父よ、私はおんみを賛えます」「父よ、おんみにはおできにならぬことは何一つありません」などと。

「わが父」という呼びかけのなかに、御父に対する尊敬、愛情、服従のみ心が十分にしのばれるではありませんか。私たちは親しみと敬いの心で「天に在すわれらの父よ」と申し上げましょう。

(3) イエズスのみ名に

御父がこの世につかわし給うたイエズス、このみ名は私共には格別に聖なるもの、親しみをおぼえるものです。イエズスは実に神の御子にて在す。そしてこのみ名は天において選ばれ、天使が伝えたもので、「救い主」という意味です。「かれはその民を罪より救うべければなり」。

このみ名には聖なる力がひそんでいます。ペトロはちんばに向って「ナザレトのイエズスのみ名によって、歩け」と命じ、奇跡を行いました。イエズスのみ名は私共が救われるためになえられた、ただ一つのみ名であります。

三、どのように聖なるみ名をたたえますか

(1) 聖式において

私たちは神を讃美し、そのみ名をあがめるために教会におまいりします。聖書の朗読や説教のあいだ、うやうやしく耳をかたむけ、とくにミサ聖祭のあいだは荘厳に神のみ名をたたえます。典文の祈に入る直前に司祭は、序誦を高らかにとなえます。

「聖なる主、全能の父、永遠の神よ、われらが、いつも、どこにても、主に感謝をささげるのは実にふさわしく、正しいことであり、われらの義務と救いである」

そうして序誦の終りに「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主よ、天と地とは、その光栄にみちあふれる。いと高き天にホザンナ。主のみ名によって来給うおん者は、祝されよ」とうたいます。

(2) 教えを聞き、話すとき

神についてのお話をつつしみ深くききましょう。また神について語るときに信仰と愛をこめて語りましょう。どんな風に神について話しているかをきけば、その人の信仰がほん物であるか解ります。

神にささげられたものへの尊敬

主イエズスがお祈のため神殿にお入りになると、牛や羊や鳩をうる人や両替屋が大声をあげて商売しております。参拝にきた人も祈はせずに、まるで市場にきたかのように往来しています。主はこの様子をみてお怒りになり、なわでむちを作ってこの商売人たちを神殿から追出してしまわれました。

一、神にささげられたもの

まず教会や聖堂、巡礼地やカトリック墓地は聖なる場所です。また司祭や修道者は神に全く身をささげた方で、俗人とは区別されます。

カリス、十字架、ミサ典書、聖書、ご絵、ご像、祭服、聖油、聖水、ロザリオなどの神への礼拝に使われるもので、聖なるものとされています。

なおミサ聖祭、諸秘跡の施行、聖体降福式、聖体行列は聖なる業であります。葬式、説教、聖書研究、祈などもそうです。

教会や聖堂は、神に礼拝をささげるための特別の場所ですから、学校の講堂とは違います。

司祭は神の代理者、修道者は全生涯をささげた方ですから、いわゆる「えらい人」とは意味が違います。

秘跡は、神ご自身のお働きが示され、人々の魂を聖ならしめるものですから、特別にて重に取扱います。そのなかでも聖体の秘跡は、イエズス、キリストご自身がそこにこもり給うのですから、聖の聖なるものです。

神にささげられたものを、日常生活の普通の用途に当ててはなりません。

聖なるものを聖なるものとしてうやうやしく取扱わないことは、神ご自身を侮辱することになります。

二、どのように尊敬するか

いくつかの例だけ申します。教会に入ると、帽子をぬぎ、聖水をつけてうやうやしく十字架の記しをし、きれいにひざまずきます（わき見をしたまま、手をポケットに入れたままひざまずく人がいます）

必要もないのに隣りの人と話すのは止めましょう。お祈はしないでキョロキョロあたりを見廻すのはどうでしょう。聖体拝領台に近ずくときは、手を合せるとか組むとかつつしみの姿をとります。腕組みをするのは一寸変です。

カリスやパテナには司祭から許しをうけた人だけふれることができます。

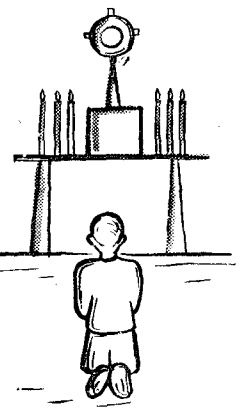
司祭や修道者にはていねいに物をいいましょう。

三、聖なるものをけがすこと

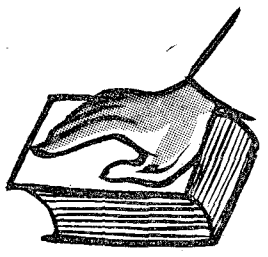
(1) どく聖。神にささげられた品物を盗んだり、憎しみの心から十字架をこわしたり、司祭や修道者に暴力をふるうことは、恐ろしいどく聖の罪です。

大罪を犯したままの心で聖体を拝領すること、告白のときに大罪をかくすことは、秘跡に対するどく聖です。

(2) 尊敬をかくこと。どく聖の罪ほど重いものでなくても、私たちは度々、聖なるものに対して十分の尊敬をはらっていない場合が多いようです。例えば教会で笑ってふざけたり、つつしみのない態度をしたり、聖体のおめぐみを軽んじる心から、まれにしか拝領しなかったり、よく準備しないで告白の秘跡をうけたり、聖体拝領の感謝をしないですぐに教会から出たりしていないでしょうか。



誓いを立てる



一、証人

私共はときに、どれが真実であるか判断するのがむつかしくしかもはっきり真実を知らねばならないことがあります。例えば自動車の事故が起ったときどんな調べがあるか知っていますか。事故が起ると警官がきてタイヤの跡をみて、どこでブレーキをふんだかなどを調べ、そこに居合せた人の名前をきいておきます。なぜでしょう。裁判のとき、その人に事故がどのように起ったか見た通りを陳述してもらうためです。証人から事情をきくとはこのことです。

二、誓い

キリスト教国では、裁判で証人がいないときなど、全知なる神を証人としてよろこぶことが許されます。神がご存じの通り自分は真実をありのままに述べるということです。これが誓いです。誓いには次のような文句を用います。

「私はこの聖なる福音書に手をふれ、真実をいうことを誓います。さればこの聖福音書が私を助け給わんことを」。

神を信じていない人でも裁判所で誓いを立てることができます。そのときは神を証人によばず、ただ良心の命ずるままに真実を述べると、公言します。

三、約束の誓い（宣誓）

オリンピックの開催にあたって選手代表が、手をあげて大きな声で宣誓をするのを知っていますか。また重要な職務につくとき、よくこの務めを果すことを誓いをもって約束することがあります。

もし神を証人に立ててこのような宣誓をして約束し、それを守らなかったら、大いに神を侮辱したことになります。

重大なことについて神を証人に立てて誓うことは、神の全知を認めることですから、神に対するほまれになります。

もし誓いを立てておいてうそを述べたら、神にうそをいわせることと同じですからほうごくの罪になります。人間社会に信頼感を失わせることでもあります。

重要な理由もなく、はっきりと知らないことについて誓いを立てることも、絶対に許されないことです。

誓願

一、誓願とは

ある青年が教会でひとり祈っているときに、聖寵のすすめに動かされ、愛ふかい神への感謝のために全生涯を神と教会にささげたいと、決意しました。しかし神にお仕えするには修道院に入るのが最良の手段と考えたので、自分をよく知っている司祭と相談しました。修道院では数年間、かれの決心を観察したあとではじめて、全生涯を神にささげる約束をすることを許しました。かれはこのとき生涯この修道会に属して働き私有物を持たず、結婚をせず、長上に服従するという誓願を立てましたもしこの約束を破ったら大罪になるという覚悟をあらわしたのですから、はじめの決心がにぶることなく、全力をあげて神のために働けるようになりました。

これが修道誓願といわれるものですが、このほかになにか非常にいいことを神に約束するときに、誓願の手段をとることがあります

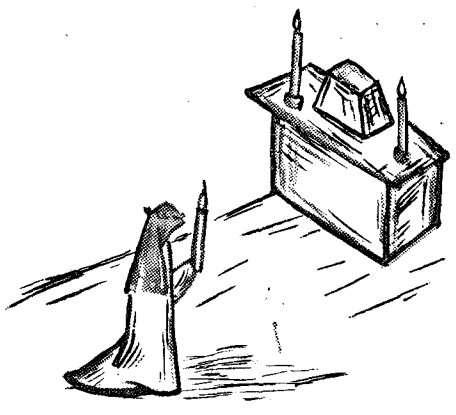
誓願とは単なる決心とは違いこれを守らなければ大罪になるという義務を自らおうことです。また誓いとも違います。誓いとは神を証人によんで、人に対してなにかを約束することです。（例えば真実を述べるということを）

二、誓願のねうち

誓願は、神のお気に召すことを是が非でもなしとげようと、かたく神に結ばれ、自分の大切なもの（例えば全生涯、財産、労力）を神にささげることですから、神に対する真の愛の表現であり、尊敬のしるしであります。また誓願を立てると、決心が非常に固くなり心変りすることが許されませんので、約束の実行に全力をそそぐことができます。

誓願は神に対する重大な約束ですから、自分の思いつきだけでふみきったり、とても果せそうにないことをきめてはなりません。修道誓願でなくても、立てる前には必ず司祭と相談すべきです。

誓願を立てるのは義務でありませんが、一度立てたら必ずその通り守らねばなりません。もし重大な理由のため守れなくなったら、告白をきく司祭に打明けます。ある種の誓願はその司祭が免除したり変更することができます。ある特別の誓願については教皇だけが免除することができます。



堅信のよろこび

〔養島教会〕五月二二日午前九時より、一六名が受堅。
〔健軍教会〕五月一九日午前九時より、三九名が受堅。
〔黒崎教会〕五月二五日午前九時より、七六名が受堅。

◇青少年のキリスト教的教育
—教皇ピオ十一世の回勅
—イエズス会神学院訳　¥70
本回勅は、教育の目的を自然的、超自然的方面から説いたもので、親たちをはじめ、教師、生徒は、一読すべき回勅。
（カトリック教育協議会）

◇カスティ・コンヌビー
結婚の倫理
ピオ十一世著　岳野慶作訳　¥100
結婚についての、キリスト教的倫理をあきらかに示している。
（中央出版社）

◇スムミ・ポンティフィカツス
世界の平和
ピオ十二世著　岳野慶作訳　¥130
信仰と愛との一致のなかに生きてほしい。それによって、世界は、キリストのメッセージと教会との威力と効力とをみとめるにちがいない。—ピオ十二世—
（中央出版社）

◇みこころの信心
東京カトリック神学院　¥300
本書は四回勅から、み心の信心を教義的にあきらかにしたもので、み心の信心を深め確信あるものとするための必読書。
（中央出版社）

教皇さまのおことばを読みましょう

◇レールム・ノヴァルム
労働者の境遇
レオ十三世著　岳野慶作訳　¥100

◇ディヴィニ・レデンプトリス◇
無神的共産主義
福音的愛徳をもって協力せよ—レオ十三世
ピオ十一世著　岳野慶作訳　¥110
（中央出版社）

◇マーテル・エト・マジストラ
キリスト教の教えに照らしてみた社会問題の最近の発展について
ヨハネ二十三世著　小林診雄訳
社会の腐敗防止は、まずキリスト教的生活の改新、真の地の塩となることであると、本回勅は強調している。（中央出版社）
真理を光とし、正義を目ざし、愛を原動力とする社会秩序再建策、いわば「世界善意党宣言」ともいえようー（中央出版社）　¥130

聖パウロ書院
名町屋
大岩
セントポール・コーナー

聖書の国 ③

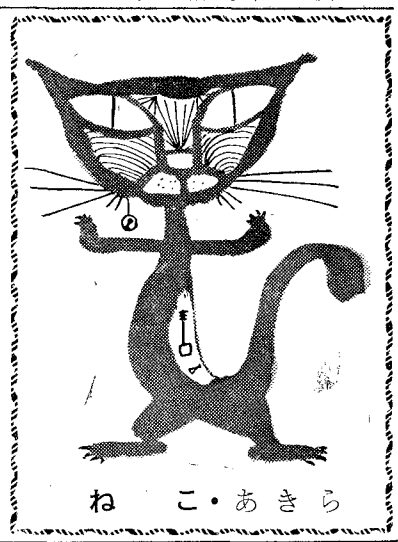
平山高明

子の誕生と命名

子供はイスラエル人にとって、なによりも先ず神の賜であり、祝福のしるしであった。今日でもパレスチナでは若い夫婦に遭うと人々は「ペフアヘット・アリス」とあいさつする。それは「あなたに子供が授かりますように」という意味である。すくすくと育つ子供たちは神の恵みである。

聖書は「汝は幸いなり、主をおそれかしこむ者よ、汝は主の道を歩みたり…汝の妻は家にて実を結ぶぶどうの木の如く、汝の子らは卓を囲みてオリーブの若木の如くあらん」（詩篇一二七）とうたっている。

逆に洗者ヨハネの母エリザベットの言葉にも見られるように、不姙ということは大きな恥辱であり禍いであると考えられていた。そのため血統を絶やさぬためにと、妻が夫に奴隷女を与えて、その子を自分の子とするということさえ生じた。それだけに家の中に子供が生れるとき、ユデア人の両親は喜びに躍った。そしてこのニュースは村中に早速つたえられ、親戚はもちろん、友人や隣人たちが次々に祝詞を述べに押しかける。アマンドを米と甘く煮込んだイグリという菓子をもって行く習慣が、今日でも見られるが、どんな貧しい夫婦でも、その善意から除外されてはいなかった。



ねこ・あきら

ひとりの嬰児の誕生をよろこぶかれらの心に、イザヤ預言者はさらに深い救世主の来臨の希望をきざむ。

「ひとりのみどり児、われらのために生れ、ひとりの子、われらに与えられたり」（九の5）

他日、ベトレヘムでうら若い一人の母が貧しい羊飼の祝詞をうけながら、この言葉の成就を味つであろう。人類の歴史が新らたに開かれたのである。

× × × ×

とくに生れた子供が男の子の場合には、いきおいお祝いの言葉にも熱がこもる。これで家の血統が保たれるからというのである。

それに比べて女児の場合には、祝いはずっと慎ましくなる。とくに次々と女児の誕生がつづくときなど、祝いは同情の言葉にとさえ変るのである。なぜなら、娘は大きくなれば嫁にゆき、家の財を増すよりも持ち去るからである。

タルムッドという書には「娘は贈の宝、おまけにいつも心配して見張っていなければならない」と嘆いている。

かわいそうに八番目に生れたある女児には、タマンという名がつけられた。「もう沢山！」という意味である。

古代のギリシヤやローマでは女児はしばしば遺棄されたし、あるエジプトの父親が妻に向って「男だったら残し、女児だったら殺してしまうように…」と認き送ったひどい文章が残っている。

それに対してユデヤの律法は、女児を遺棄する者を、少くとも罰している。とはいえ、生れてくる女の児が男の児と同じく、真の愛とふさわしい尊敬につつまれるためには、キリストの福音の教えと聖なる母マリアへの尊敬と愛が、人々の心にはぐくまれるまでの長い時をへなければならなかったのである。

× × × ×

家族のなかで最初の子供が男児ならば、よろこびは最高頂に達する。「初児」と、特別の言葉でよばれるが、聖ルカが幼きイエスに用いたこの言葉は、「父のたくましさ、力の初穂」という意味をもつもので、必ずしも多数の兄弟のうちの長子を意味するものではない。ひとり子であっても用いられたのである。

長子は、家族または部族の未来を約束する頭として、部族の一切の権威と義務とを背負い、それに物質的な面でも、少くとも他の兄弟の二倍の遺産（たいていの場合はずっと多く）うけたのである。従ってエザウとヤコボのように、双児が生れるような場合には注意深く分けて、先に生れた子供の脚に赤い紐を目印しにつけるようなことがあったのである。

父親は導かれて部屋に入ると、ひざまずいて子供の上にかがみ込んだが、これは公的な認知のしるしであった。八日目になると、男子は包皮を切る割礼の式をうけ、ここに選びの民の一員として正式に加えられたことになる。そしてこのとき、名が与えられた。

× × × ×

ユデヤ人は、名前に特別な力がこもると考えていた。名は、その人の人格を形導るものであり、その使命さえもあらわす。従って、律法学士のある者は「名を変えるということは、その人の生涯の方向を変えることである」といっている。

従って主イエス様が、「ヨナの子シモン」にケファ（ペトロすなわち巌）という名を与えられたとき、他の弟子たちは、事の重大さを感じとり、その使命をのちにふかく悟ったことであろう。

子供に名前をつけるのは、まず家族の長である父であり、ときとしては祖父である。かれらのなかには家族をあらわす姓がなかったので、「ヨナの子シモン」とか「ゼベデオの子ヤコボ」という風に、父の名をもってよばれたが、あるときは、家系を示す必要から祖父や祖先の名がとられることもあった。その名前は、ときとしては懐胎や誕生の際の事件や環境、特色を暗示するようなものがある。石女であった老エリザベットから生れた洗者の名、ヨハネは「神から望まれた者」の意である。

メソポタミアの午後、井戸のほとりに羊をつれてきてヤコボとめぐり合ったラケルの名が「羊」という意であり、勇ましいデボラは「蜜蜂」である。神の介入を示す神秘的な出来事を示すような名と、植物や動物の名がそれらに重って選びの民の田園詩的な綾を織りなしているのである。

聖母の名、ミリアムは「海の星」とか「奥方」とか、いろいろの意味があるが、なによりも第一の意味は「神から愛された者」との意であり、天使から予め告げられていたイエスという名は「ヤヴェは救いなり」「神は救いなり」との意であり、救主としての役割のために神によって選ばれていた名であった。

☆ ☆ ☆

古代のギリシヤやローマでは女児はしばしば遺棄されたし、あるエジプトの父親が妻に向って「男だったら残し、女児だったら殺してしまうように…」と認き送ったひどい文章が残っている。

それに対してユデヤの律法は、女児を遺棄する者を、少くとも罰している。とはいえ、生れてくる女の児が男の児と同じく、真の愛とふさわしい尊敬につつまれるためには、キリストの福音の教えと聖なる母マリアへの尊敬と愛が、人々の心にはぐくまれるまでの長い時をへなければならなかったのである。

私共は死者のことを忘れ勝ちですから、死者の記念のときに司祭と心を合せて、煉獄の霊魂のために祈るようにしましょう。なにか特別の祈をするかミサ全体をささげましょう。これは諸聖人の通功によってさずけられる大きな助けとなります。ある日聖ベルナルドは、ローマのマリア・スカラ・チエリで祈っているとき、ミサのお蔭で苦しみを解かれた煉獄の霊魂たちが天使に見守られて一本のはしごをつたって天に登ってゆくのを見ました。

苦悩の教会と一致し、私共の功徳を分け与えるのがこの祈の目的です。煉獄の霊魂の忠実な友となりましょう。第一八世紀のパリでのこと、聖厳ミサで死者の記念がはじまったとき、一人の侍者が説教台にはせ上り「ゴンディ枢機卿様（パリの有名な大司教）のご霊魂のことを記憶して下さい」と司祭に向って叫びました。私共に死者を思い出させるのは侍者でなくて、煉獄に苦しむキリストの兄弟への愛であります。

× ×

典礼シリーズ ㉗

死者の記念

ラプラント

死者のために祈る習慣は、第三世紀の「葬儀会食」でも明らかなように教会のごく始めから行われています。やがてミサのなかにこの死者の記念が入れられ、三四八年にエルザレムの聖チリロは「聖祭の間にわれわれと同じ心のままで亡くなったすべての人々の記念を行う」と非常にはっきり述べています。それから六〇年後、聖アウグスチノはラテン教会にこの同じ習慣のあることを、三度明らかにしています。例えば告白録のなかで母モニカは臨終に際し、祭壇で自分を思い出してくれるよう子供に懇願したと、記しています。

生者の記念と同様、ディプチック（本項第二三回参照）に記された名前を大声で読み上げており、この死者のディプチックの最古の痕跡は第七世紀のものです。第八世紀には死者のリストの朗読は日曜には許されず、週日に限られていました。日曜日に誓業的性格が入らないためです。荘厳ミサでは助祭が、最近亡くなった人と特別の恩人に限り、名前を続み上げました。しかし第八・九世紀になってもすべての荘厳ミサで死者の記念はなされてはいなかったことに注意すべきです。この習慣がいたる所ですべてのミサに決定的に加えられるまでには、第一二世紀を待たねばなりません。

どの死者のために祈るか

祈の言葉に従えば、司祭が祈るのは〝信仰の記しをもって〟死んだ人、即ち洗礼をうけ信仰を公けにしていた人のためです。従ってこの祈は異端者や離教者のように信仰を捨てた人のためではありません。勿論、個人として司祭はすべての人のために祈りますが、公人、教会の正式の代表者としては洗礼のとき受けた信仰を捨て、教会に属していなかった人のためには祈りません。

煉獄にいる親しい霊魂のため祈ります。祈には「平安のうちに眠るしもべ及び婢女」とよばれています。平安のうちに死ずとは、聖教会と結ばれたままで死ぬことです。かれらは煉獄で苦しんでいても、いつか天国にゆけるとの保証があるので、魂のうちに最小限の平安はもっています。

死者を記念するに当り、司祭や信者は愛徳の順序に従います。もし特定の死者のためミサをささげるなら、その人をまず最初に、次に近親者、知人のため、そして天国に入る日を待ちつつ〝キリストにおいて安息している〟すべての死せる信者の順になります。

古いキリスト教的表現

死者の記念には古代キリスト教の香りを放つ表現がいくつもあります。〝信仰の記し〟という言葉が前にありましたが、これは洗礼をさしています。洗礼は信仰の押印であると、聖バジリオが申しているからです。〝平和のうちに眠る〟という表現は教会のはじめ頃の墓碑銘によく見られます。次のようなものもあります。

罪なく心やさしきセヴェリアノ、キリストの平安のうちにここに眠る

イエズスこ自身も死を眠りとよんでおられます（マテオ九の24）。レフリゼリウム（幸福の国）という表現は全くキリスト教的なもので、天国で永遠の幸福の喜びと光明のうちに与えられる清涼と慰撫を意味し、暑い太陽の下での長い労働を終え、木蔭で静かにのどをうるおす冷い飲物を想像させます。

しぐさと典礼法規

司祭は手をあげ、それから両手を合せ静思の姿に入って、記憶をたどり、内に祈を集中させようとします。そしてよく祈れるように目をホスチアのうちに在すイエズスにそそきます。生者の記憶ではなにも見ないように目を伏せたままでした。――祈の第一部分のあと援助を与えようとする死者の名前を、心の中にまたはごく低い声で誦えて、かれらのために黙って祈ります。主禱文をとなえる位の間がいいと典礼学者はいっています。NとNの所ではなにもいいません。中世期、多くの地方でそうでしたが、NとNの所で名前を挙げる習慣も拡がっていました。古い多くのミサ典書ではNの代りにillius（あの人という意味）の略字であるill.を使っています。

おわりの「キリストによりて」で、司祭が頭を下げる法規があるのは全くふしぎで、この礼の意味と理由は今もってはっきりしません。それはキリストが十字架上で息絶えて頭をたれ、死者を救うために古聖所と煉獄に下り給うたことを、神秘的に暗示しているという人がいます。この説明はごく最近のもので、余りに寓意的ですから、説得力がありません。

キリストの御名への尊敬のためであると述べる人もいますが、一般典礼法規によるとイエズスの御名にだけ頭を下げ、キリストの御名には下げないことになっていますから、これは例外的ケースということになります。しかし古い典礼書にはこのような礼について、幾つかのケースが見られます。

心構え

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円　七三〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六八〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　六五〇円
デイリーコンサイス英和辞典　三〇〇円　四三〇円
新クラウン英和辞典　D縮刷版　五五〇円　六三〇円
ジェム英和・和英辞典　大型版　八五〇円　一〇〇〇円
最新明解英和辞典　三八〇円
初級クラウン英和辞典　二五〇円
初級コンサイス英和辞典　二〇〇円
初級コンサイス和英辞典　二〇〇円
三省堂　独和新辞典　七〇〇円
コンサイス独和辞典　六〇〇円
コンサイス仏和辞典　六〇〇円
コンサイス露和辞典　八五〇円
日西辞典　三、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、六〇〇円
英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、三〇〇円　三、〇〇〇円
新版広辞林　一、四〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四五〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　三五〇円
大明解漢和辞典　九〇〇円
明解漢和辞典　四五〇円
模範六法全書　六七〇円
明解六法　二〇〇円
学習百科事典（新版）　一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　八〇〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

SSD
三省堂　福岡出張所
住所名変更
福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町

カトリック
深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部十円

教皇ヨハネ二三世逝去

惜しまれつつ主の平安に

六月三日月曜午後七時四九分

教皇ヨハネ二三世は六月三日午後七時四九分（日本時間四日午前三時四九分）万人の感動と賛仰のうちに、聖なるご霊魂を主のみ手に返された。臨終の三日間、世界の目はひとしく教皇のお苦しみの上にそそがれ、かれの苦痛が、人類の平和と公会議の成功のためにささげられていることを知っていた。

生命の炎は消えなんとしてまた燃え上つた。それは主へのささげが完遂されるためであつた。聖ペトロ大聖堂前広場では、数万人の群衆が父なる教皇のために祈りつづけた。

三日午後七時、トラリア枢機卿が教皇のための特別ミサを広場の正面バルコニーの下でささげた。七時四九分ミサが終るか終らないうちに教皇の居室に灯がつき、居ならぶ群衆と全世界にむかつて、ヨハネ教皇の逝去が伝えられた。

教皇の死を見守つていたのは、チコニヤニ国務長官、三人の主治医、教皇の三人の弟と一人の妹、甥のロンカリ師、聴罪司祭カバニヤ師らであつた。

故ヨハネ二三世教皇

追悼ミサ聖祭にあたり

深堀仙右衛門司教

「人一度死してのち審判あること定まれり」（ヘブレオ九の27）永遠なる神に造られ、世に生れいでたる私たちは、ひとりの例外もなくみな死んで消えてゆきます。死しては一人ひとりが、生涯の生活、行いについて神に審判せられ善行には善、悪行には悪の賞罰がむくいられるのであります。「人一度死してのち審判あること定まれり」とは神の啓示（しめし）であり、われらの信仰であります。そしてそれは、永遠の神の審判であり、賞罰ですので、有限生命のわれわれ人間は、日々の生活、行いによって、わが永遠の賞罰、幸不幸の材料を自分で作っているわけであります。

しかるに今ここに、追悼のミサ聖祭とともに赦祷式をささげております教皇ヨハネ二三世聖下は、教皇在位わずか四年八カ月にして去る六月三日、八一才をもって世を去られたのであります。

しかしこの短かい在位の間に、教皇は、救主イエズス・キリストの地上における代理者、神慈の謬りなき伝達者、人類を永遠のたすかりに導く案内者、世界の指導者として、多くの回勅、警告、メッセージなどにより、特に去る四月一一日に発表された「地上の平和」をもって、ひとり五億五千万のカトリック信者のみでなく、宗教宗派、国、民族の別なく、地上のすべての善意の人に、真の平和はただ神の永遠平和からくることをさとし、平和の根拠を示し、これが実現のために協心協力をうながされたのであります。

「全人類の大家族が和合と平和のうちに集まるのを見ることこそ私の最大の願いである」とは、教皇のご心中を余すところなく表示したおことばでありましょう。

とくに昨年一〇月からは、全世界三千に近い司教らをローマに集めて、人類史上最大の公会議をひらき、人の現世と永遠の生命、すなわちたすかりに関する重要事を審議し、いまなお進行中であつたのであります。

がすべてをお望みのままに計らい給う神は、この偉大なる神の使者、人類平和の指導者を、突如われらの世から取り去られました。神のみせつりとはいえ実に全世界の一大悲痛事であります。秩序は混乱、人の心はすさび、頽廃、無気味な不安にさえつつまれている現代に、真理の光を与えていた太陽は地に墜ち、人は行手を照らす光を失なった感を深くしているのであります。

しかし他方においては、私たちは、救主イエズス・キリストが信ずる人に約束し給うたたすかりについて、ゆるぎなき信仰をもっているものであります。しかるにこの偉大なる教皇ヨハネ二三世は、一言にしていえば全く信仰と祈りの人であられました。

深い信望愛の対神徳とゆたかな神学的知識のうちに生き、神のみ旨がすべての人の上に行なわれんことを祈りつづけられたのでありました。

こうして教皇は、世にありながら神の永遠の生命を吸収して生きすべてを神によって、神において神とともに行なわれたのであります。

遂にそれは、そのご生活とご言行のうちに、ご事業のうちにまでしみ出て、高い聖徳の香りをただよわしていたものであります。そして教皇をみる人、きく人、まして近くその親しみあふるる温容、お声に接する人は、宗教、国、人種、老若男女、主義思想の別なくみなが一様に、地上のものならぬよろこびと慰めと力を与えられ、禁じえない感涙のうちに、教皇のうちにもえているカリスマを想起させられたものであります。

私たちは、このような偉業を残しこのような徳行のうちに去られた教皇であれば、いまはイエズス・キリストによって約束され、固く信じておられた神のみ国に入り全生涯の善行に永遠の幸福がむくいられ、これがうちに安息、終りないよろこびにひたっておられることを、信じてうたがわないのであります。

また地上の教会と私たちのために、いつも祈っておられることを確信しているのであります。

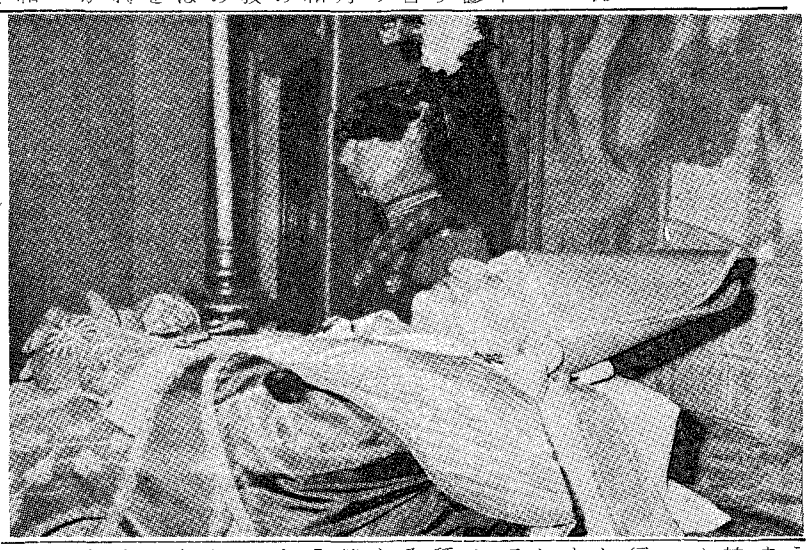
ここに全世界の人びとと一致して、追悼のミサ聖祭と赦祷式をもって亡き教皇の聖なるご霊魂を神のみ手にささげました今日、私たちの心にあらたにわきいずるなつかしい追憶と賛仰、思慕と感謝が教皇のご光栄の上に加えられんことを祈りましょう。

主よ、永遠の安息をかれに与え絶えざる光をかれの上に照らし給え。　アーメン

× × ×

ヨハネ教皇の略歴

一八八一年　一一月二五日北イタリアのソット・イル・モンテに生る。
一八九二年　ベルガモ教区神学校に入学。
一九〇四年　八月一〇日ローマで司祭に叙階（二二才）
一九〇五年―一九一四年　ベルガモ教区テデスキ司教の秘書を勤め、同時に大神学校で教会史、護教学、教父神学の教べんをとる。
一九一五年　第一次世界大戦に応召、はじめ衛生部隊の軍曹、のちに陸軍病院付司祭。
一九二二年　イタリア信仰弘布会会長に任命される。
一九二五年　教皇庁特派ブルガリア巡察使、アレオポリスの名儀大司教に祝聖。
一九四四年　駐仏教皇庁大使
一九五二年　枢機卿に任命される。
一九五三年　ヴェニスの総大司教に任命される
一九五七年　西独政府から大十架功労章を贈られる。
一九五八年　一〇月二八日、二六二代教皇に選出され、ヨハネ二三世を名乗る。
同　年　一一月四日　教皇戴冠。
一九六〇年　一月　ローマ司教区総会議を開く。
一九六二年　一〇月一一日第二バチカン公会議を開会。
一九六三年　六月三日逝去。



七月

一　日（月）　わが主のいとも貴き御血の祝日
二　日（火）　聖マリアご訪問の祝日
七　日（日）　聖霊降臨後第五の主日
他人の罪をゆるし、和睦しようとつとめるその愛を、われらのささげとして神に近づくこと。
一四日（日）　聖霊降臨後第六の主日
われらはキリストに救われるまえは、沙漠を食なく水なく放浪する者のようであった。いまは洗礼によってキリストにつがれ新しい生命をうけ、天よりのパンに養われている。
一九日（金）　聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ証聖者
一七世紀フランスの司祭。農村布教と慈善事業をもって人びとに奉仕した。
二一日（日）　聖霊降臨後第七の主日
キリストから頂いた貴重なめぐみを死蔵してはならない。日常生活の聖化こそキリスト信者のしるしである。
二五日（木）　使徒聖ヤコボの祝日
二六日（金）　聖マリアの御母聖アンナの祝日
二八日（日）　聖霊降臨後第八の主日
「これはキリスト信者にふさわしいことか、どうか」この考えを自分のしている行いにあてはめてみること。
三一日（水）　ロヨラの聖イグナチオ証聖者

八月

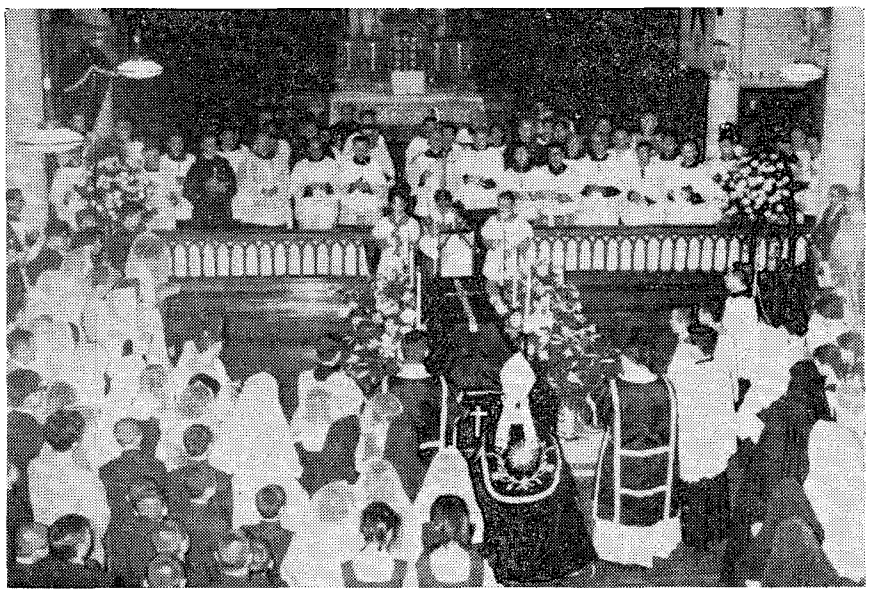
四　日（日）　聖霊降臨後第九の主日
荒野は試練の場所、そして神のめぐみのときである。われらがひどい苦しみに出会うとき、そばに必ず神が立っておられる。今日は**深堀司教さまのご霊名の祝日**。主のおめぐみをお願いしよう。

SVP九州ブロック大会（於福岡双葉学園）
五　日（月）　教区司祭月例集会の日
六　日（火）　わが主のご変容の祝日
一一日（日）　聖霊降臨後第一〇の主日
われらは自分の力だけで一体なにができるというのか。神のあわれみにすがるけんそんな者こそ、最大の雄者ではないか。

レジオ福岡セナート大会（於福岡双葉学園）
一五日（木）　**聖マリア被昇天の大祝日**（守るべき祝日）
「よろず代にいたるまで、人われをさいわいなる者ととなえん」。聖母のご光栄はまったくわれらのよろこびである。
一六日（金）　聖ヨアキム証聖者
一八日（日）　聖霊降臨後第一一の主日
改心まえのパウロは、精神的におしでつんぼであった。奇跡的改心のあとでは全地に神のみことばをのべ伝えた。
二二日（木）　聖マリアの汚れなきみ心の祝日全日本国民を聖母におささげしよう。
二五日（日）　聖霊降臨後第一二の主日
人種差別は絶対に悪いことである。露骨なこうまんのしるしである。

慈愛の教皇に最後のおわかれ

司教座聖堂で教区葬



深堀司教は、ヨハネ二三世教皇ご逝去の公報に接し、ただちに教区内の全司祭に、できるだけ早い時期に故教皇のご霊魂の安息のため一つのミサをささげるよう、また小教区においては信者参列のもとに追悼ミサと説教を行なうよう指令した。

なお福岡市大名町教座聖堂では盛大な教区葬儀が、福岡県知事代理、博多米軍キャンプ軍司令官ら来賓出席のもとに、ご逝去八日目にあたる六月一一日（火）午後四時から執行された。

ミサでは司祭長平田恵五郎師、名誉助祭棚町正刀、浦口均両師、助祭牧山重光師、副助祭三木義明神学生が司教に仕え、九十数名の司祭が教区各地から参集した信者約七〇〇名とともに堂をうめつくした。

ミサ後、司教が追悼説教をのべかりのひつぎをかこんで、教皇生前のご恩への感謝をこめて最後の訣別をなした。なお阿部福岡市長からも弔電がよせられた。

熊本市手取教会では六月一二日午後七時から特別に地区葬儀を行なったが、石坂熊本市長、プロテスタント牧師二名も参列した。

（写真は献花式）

待労病院焼く

患者全員は無事

六月一八日午前一時四〇分ごろ熊本市島崎町、ハンセン氏病療養施設、待労病院（マリアの宣教者フランシスケン修道会経営）の東病とう東端一階の天井付近から出火、木造二階建の東西病とう一むね約一・三〇〇平方メートルを全焼、さらに廊下続きの平家建調理室、治療室約二〇〇平方メートルを半焼して同三時ごろ消えた。

同病院にはハンセン氏病患者男女六四人が収容されており、なかには目の見えない患者や歩行困難な患者が入院していたが、出火と同時に患者同志が背負うなどして近くの畑に避難して全員無事だった。

火は鉄筋コンクリート建の聖堂の手前でとまり、女子病とうと、娯楽室が残っているので患者の収容治療はどうにかしのげると病院ではいっている。原因は漏電でないかとみられている。

待労病院は、フランスからの宣教師コール神父が、明治三一年マリアの宣教者フランシスケン修道会の協力で創立したもので日本における同会最初の事業である。

ルルドの洞くつ

熊本県荒尾市のカトリック教会（主任ベーカー師）に日本趣味を生かしたルルドの洞くつが完成、深堀司教が祝別した。

八月に二つの大会

八月はじめに福岡双葉学園を会場に二つの大会が開かれる。

SVP（聖ヴィンセンシオ・アパウロ会—カトリックの社会慈善奉仕団）では、八月四日（日）に福岡、長崎両中央理事会が合同で九州ブロック大会をひらき、朝の司教ミサのあと会員約一〇〇名が諸問題を討議する。特別講師は棚町正刀師。

レジオ・マリエ福岡セナートス大会は八月一一日（日）会員約一五〇名の参加のもとにひらかれるが、前日の午後五時からは役員の特別集会も予定されている。

学生会静修

福岡カトリック学生会では八月二日聖霊降臨の大祝日に小笹男子聖パウロ修道院で一日の黙想をおこなった。指導は福岡大神学院の三村邦明師、参加者二五名。なお八月下旬に大黙想会をおこなう。

親睦かねた黙想会

教職員一六〇名が

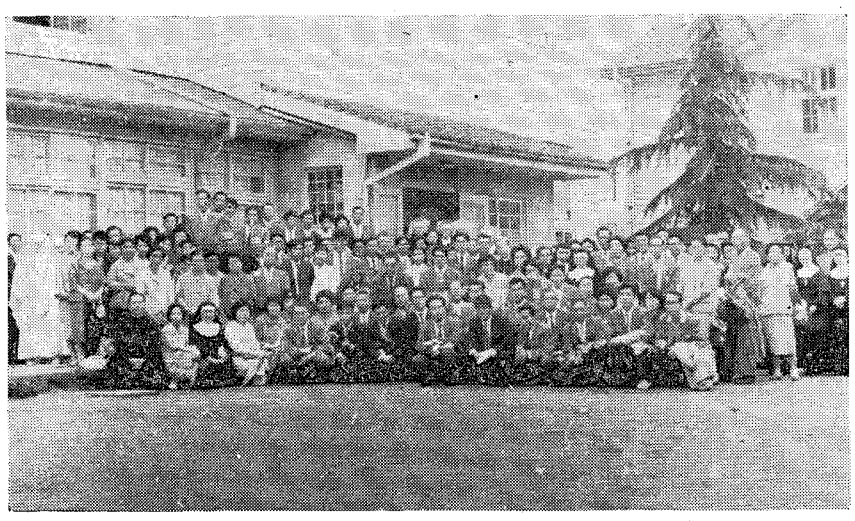
福岡教区カトリック学校協議会（教職員の親睦をかねた黙想会）は、五月二三日御昇天の大祝日に当番校熊本マリスト学園で開かれ修道女、男女教職員約一六〇名が深堀司教の指導のもとに、深い反省の一日をすごした。

九時司教ミサのあと一〇時半と一一時半に説教、中食後貸切バスで島崎町の琵琶崎修道院にむかい付属聖堂で顕示された聖体の前でロザリオを唱えて説教。

同院シスターの案内で養老院、待労院、育児園、慈恵病院を見学し、幼園ホールでは茶話会でくつろぎ、愛児園の鼓笛隊に送られて散会した。

来年の当番校は八代白百合学園

（写真は黙想会にあずかった教職員）



〝信仰の遺産を育てよ〟

深堀司教あいさつ

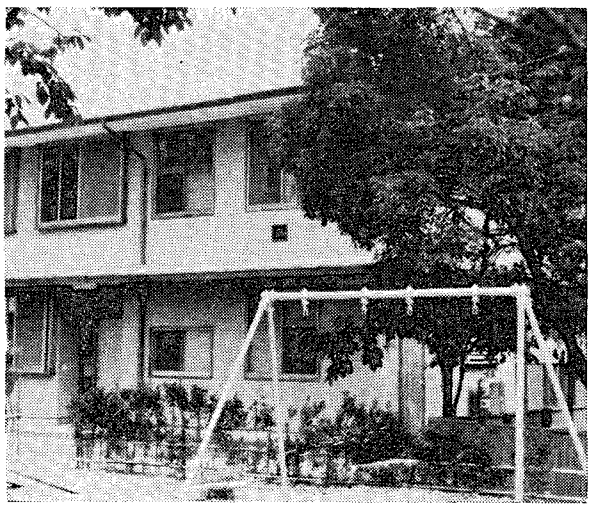
佐賀地区司教の日

佐賀市松原町中小路カトリック教会では、かねて改築中であった司祭館一九八平方メートル（六〇坪）と幼稚園四六三平方メートル（一四〇坪）の新築落成を記念し六月二日深堀司教を迎え盛大に祝別式を行なった。

当日は佐賀地区第三回「司教の日」でもあり、同地区の信者約三〇〇人のほか、園児一五〇人と父兄が参加、式は司教荘厳ミサに始まり、ついでミラノ宣教会日本管区長マルチノ師、各小教区の司祭および来賓多数を迎えて、新司祭館でなごやかなブッフェパーティに移り、その後司教を囲んで懇談会を行なった。

席上深堀司教は「司祭館や幼稚園がりっぱにでき上がってまことに喜ばしい。このよい環境で信仰の遺産を美しく育てていって下さい」とあいさつ、午後はおりからの雨で聖母行列はできなかったが聖体降福式を最後に、午後四時めでたく一日を終えた。

（写真は司祭館）



黙想会・練成会の報告

JOC福岡地連女子部

JOC福岡地方連合会女子部では、五月一八、九の両日、小倉教会において、黙想会と練成会を行いました。この集りは、現在私たちジョンストが本当にイエズス様のみ旨の通りJOC活動に参加しているかを黙想し、また〝ジョンスト（女子）三四人の参加でした。

練成会では〝調査活動と私たち〟をテーマに、現在やっている「結婚について」の調査を通じて実際に男女交際や結婚の問題で苦しんでいる環境の若い人々を知って友達となり、その人といっしょに考え、また二人だけでなく、その周囲の若い人たちをも動かそうとしているかということについて話しあいました。私たちが環境の問題をよく知るためには、その中に入らねばならないこと、そのために調査活動はJOCにとって欠くことのできない重要なものであること、その年のテーマを通じて自分の環境に働きかけ、友人、同僚らがその問題をどのように考え、行っているかを見て、この状態にイエズス様ならどうされるかと判断し、上から教えるのでなくその人のところまでいき、いっしょに考え、周囲の人をも動かして皆共に向上しなければならないことなどについて、もう一度理解を深めると共に、この調査活動は周囲の人のためだけでなく、ジョンスト自身がこれによって養成されるという自覚をかためました。

〝調査活動はジョンストの祈りである〟との意味を知り、教皇ピオ一一世のいわれた〝JOC活動は使徒職の準備でなく、使徒職への参加である〟というお言葉を胸にきざんで、二日間のつどいを終りました。新たにジョンストのバッチを受章した三人の友を迎え、JOCの発展を祈りつつ、明日からの活動に、希望をもやして、それぞれの環境に帰っていったのでした。

急告！

火災でもち物を全部失った待労病院の患者さんのために、衣類、はき物のほか、ロザリオ、宗教書などを、ご寄贈ください。

聖体礼拝

（七月）

第一日曜　直方教会
第二日曜　水俣教会
第三日曜　高宮マリアの宣教者フランシスケン修院
第四日曜
第五日曜　天使の聖母修院

（八月）

第一日曜　新田原訪問会
第二日曜　飯塚教会
第三日曜　佐賀教会
第四日曜　三位一体修院
　　煉獄援助修院

祈禱の使徒会

（七月）

【一般意向】教会の神学者と説教者のため
【布教意向】南米における農民のため

（八月）

【一般意向】カトリック教育事業
【布教意向】インドネシアにおける教会

子を持つ親の宝典
「幼児の心理とその指導」　三〇円
「幼児の心理と幸福を築く教育」　五〇円
送料（二冊）二〇円
ちょうど百円になりますから、切手または定額カワセ同封、普通郵便で御注文下さい。
広島市翠町一五九三
ふじかけ教育相談室

聖心の使徒（昭和38年7・8月合併号）
表紙　「善きサマリ人」　湯崎夫沙子画
七月の意向　教会は教える　浜尾文郎
南米の農民（七月の布教の意向）　粕谷源蔵
黙想　朝の奉献　河野義祐
サマリア人　H・チースリク
写真特集　サマリアを行く
八月の意向　カトリック学校における教育　小林純一
イシドネシアの布教（八月の布教の意向）　粕谷源蔵
サマリアの過越祭を見て　V・ロビンソン
なんじもし、われの誰なるかを知らば　P・ブルイン
個人的親切と社会的親切　七田和三郎
古い街道　J・レーデンディグ
耳をかたむける　シュエネンス枢機卿
病める友へ安定　十字架のイエズス修道女会
新本めぐりポスト
購読料　一カ月　五七円　一カ年五七〇円…〒共
日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾井町七

神への従順を説き 人類の平和を念ず

ヨハネ教皇の偉大なる遺訓

（一）

教皇ヨハネ二三世が病の床にふされたことを知って以来、死の苦悶の有様が刻々と伝えられるのを耳にしながら、「教会はしきりにかれのために神に祈りつづけた」（使一二の5）。

教皇の平癒を願わぬものはひとりもなかったが、この度の病がすでにキリストの十字架上の三時間にあたるものであることは、だれもが予感していた所であろう。

死はいけにえであるが、「私は教会と公会議と平和のために祭壇にそなえられたいけにえである」と、はっきもらされたその聖なる意向に、全教会の祈りが合わせられて神のみまえに立ち昇っていった。かれの苦しみの一つ一つが苦悩する現代世界と切りはなせないつながりをもっていたからである。

われわれは、教皇と共に祈り、苦しみ、いけにえをささげたのである。みな父のそばによりそって、その聖なる生涯の証人となった。

かれはよき戦いをたたかい、走るべき道のりを走りつくし、正義の冠がそこに輝くのをかいま見て一刻も早く主とともにあることをあこがれていたであろうときでも神のみ手が自分の魂をいだきとり給うまでは、教会と人類の幸福のために、自分を使い果すだけの精神の平静さを失わなかった。

人手に助けられる身で人を助け苦しみを訴えるだけの力しか残っていないはずの唇をひらいて、最後まで語り、教えつづけたのである。

（二）

ヨハネ教皇は、すべての人にむかっていつも語りかけることを望んだ。語ることは相手にも語らせ対話することであり、またどんな相手を前にしてもたじろぐことはなかった。紅海の水はいつも教皇の一言で左右に分れたのである。

高座に待って人を引見するのでなく、歩いて近より、胸襟をひらいて語り、相手の心にとびこんでいった。かれが語るのは、聞く人を高め、その徳を立てるためである。

かれは異国語を語ろうとはしない。というのが、相手がきいて理解できないことを語るよりも、預言すること、すなわち人間に話して、徳を立て、勧め、慰める（コリント前一四の3）のを好んだからである。

教えるというのは、決して上から真理をおしかぶせるのではなく真理に向って心の窓をひらかせることである。

ヨハネ教皇の声にじかに接した人びとは、かれの言葉がもつふしぎな魅力にとりつかれたという。しかしかれが伝える言葉は、言葉である以上に、心のなかからあふれる神の愛である。

「たとい私が人間と天使の言葉を話しても…また預言の賜をもっていたとしても……愛がなければ……」（コリント前一二の一）真理はもともと暖かい、おだやかな力強いものである。ところが実際には、真理をのべて他人を傷つけることがあるのは、一体どうしたものであろうか。

真理を所有していても、愛が欠けているからではないか。愛を忘れて真理だけをふりかざすのは危険であって、人の徳を立てることは望めない。

プロテスタントの人々に信仰の一致をよびかけたときの教皇の言葉のなかには、対決し屈服させようとの気がまえは毛ほどにもひそんでいない。ただ愛する兄弟たちと語り合う場をもちたいとの念願にみちている。

（三）

ヨハネ教皇が、まったく庶民的な方であったことは、数々のエピソードが証明して余りある。

しかしわれわれはこの表現を〝貴族的〟という言葉と対立させてのみ考えない方がいいのではなかろうか。それよりもかれが、いつどこでも誰に対しても、共通の父そしてポンチフェックス（神と人との架橋）として振まったのだと考えるべきではなかろうか。

われわれはむしろ、教皇が「心の貧しい人々」の友であったことに注目したい。

かれは決して貴族的な人や社会的地位のある人を毛ぎらいしないただ社会の下積みになっている者や、世俗的な精神の持主から無視されている階層の人びとを、とくに愛し、引き立て、かれらに愛されることをよろこんだのである。

つつましい家庭をいとなむ労働者、がっちり大地と取組む農夫たちと相語るとき、かれは自分の父の家にもどったくつろぎにひたっていた。それはかれらのふんいきが平和そのものであり、貧しさを生きぬく姿に生きた信仰がにじみ出ていたからである。

かれは教会の最高責任者としての重荷に圧倒された風は少しもみせなかった。しかし病者をなぐさめ、老人をいたわり、避難者に希望の灯をともすときには、かれらの苦悩を自らが負い、そして教会全体の苦しみが、かれらの祈りと犠牲によってやわらげられることを期待していた。

公会議の開催がきまってからというもの、教皇はいくたび、子供や老人や病者に、自分と司教たちの支えになってくれるよう嘆願したことであろう。

公会議だけでなく神の国の建設という超自然的わざが、智者や賢者の議論や研究よりも、祈る者の群、貧しいささげを誠意をこめて持ちよる無名の人々によって推進されることを、洞察していたのである。

（四）

「従順と平和」。これはヨハネ教皇が司教にあげられて以来、その紋章に書きとめたモットゥである。

司教、のちに教皇としてかれが実践した従順とは、神のせつりに対する無条件の協力であり、教会の使命への全面的奉仕であり、托せられた魂に父性的献身をつくすことであった。

深い祈りの生活の体験がないかぎり、真の従順はありえない。

「主の命令への忠実、よきみ手に守られているとの確信、ひたすらに主のみ旨を果そうとの覚悟」は、緊密な神との交わりにおいて神から注入されたものであり、そこから聖なる深い、美しい平和をくみとっていたのである。

つかわし給うたお方のみ旨を行なうことのみをめざして、十字架上に至るまで従い給うたキリストの感ずべき従順の姿は、その後継者たるヨハネ教皇の祈りと行動のうちに再現していた。

人類の頭なるがゆえに御父に従順であるキリスト、教会の最高位にあるがゆえに、神とキリストに服従する教皇、垂直につながるこの系譜以上に美しい従順の模範がほかにどこにあるだろうか。

「神に奉仕することは司どることである」（平和を求めるミサの聖体拝領後の祈）。神への従順によって世界を治めることこそ、歴代教皇のもっとも伝統的な〝政策〟である。

「従順と平和」これはまた神への従順が人類平和の第一原理であることを教えている。

教皇ヨハネ二三世の最後の回勅となった「地上の平和」は、神の定め給うた秩序への従順が、平和の基礎であることを率直明快にうち出している。

有名になった冒頭の言葉をいま一度、思い出してみよう。

「あらゆる時代の人間が切望してやまない地上の平和は、神の定め給うた秩序を絶対的に尊重しないかぎり、きずくことも、固めることもできない」。

（五）

自然の秩序に従うことは、少くとも創造主なる神をみとめる人であれば、例外なく首肯できることである。したがって教皇はこの回勅を、これまでの慣習をやぶって司教や信者のみでなく、ひろく善意の人びとにあてて公表したのである。

ここにもまたヨハネ教皇が、宗教宗派の別をこえて、世界中の人びとの友と仰がれた一因がある。

第二次バチカン公会議において具体化された信仰一致の努力は、人びとの驚嘆をよそに、一躍してすべての善意の人たちの糾合へと発展していった。しかも教皇のよびかけは拍手をもって応じられている。対立と憎しみと闘争に絶望しきっている今の世界にとって、これほどよろこばしい現象がおこることを、一体だれが予想しえたであろう。

もし今回の公会議が、新しいペンテコステ（聖霊のご降臨）であったとするならば、善意の人びとの一致は、神が教皇ヨハネを通じて行ない給った「奇跡」といわねばなるまい。

教皇近いていまはその声をきくことはできない。父を失なった孤児の寂しさにしずむのはひとりカトリック信者だけではない。われわれはこの教皇の遺志が新しい時代にうけつがれ、神の国が世界の隅々にまで行き渡ることを祈るのみである。

教皇登位後まもなく，ローマのレヂナ・チエリ刑務所をおとずれて，囚人をなぐさめ，力づけた。

公会議の成功と教会の一致を祈願する教皇。

ああ教皇様

なでしこ

旧信者でない私の家庭は、実に奇妙な信仰の組合せで構成されている。カトリック信者の娘がいるかと思えば、未信者の息子もいるしまたプロテスタントの娘もいる。

よく信仰の問題でいろいろとディスカッションが始まる。お互にお互の信仰の在り方については邪魔立てもしないが、何時も一致する事は、ヨハネ二十三世教皇様に対する意向なのだった。

プロテスタントの娘が、教皇様の平和に関する御回勅を拝見して、私共より以上の感銘をうったえ、また第一回目の公会議によってもたらされている影響などについても、私共より以上の関心をよせている様だった。

その卓越した御識見を神様から授っておいでになった教皇様が、御病気、御重態、カトリック信者のみならぬ憂慮に、御病をお土産に。

然し、私共はやはり、私共の目の届かぬ所に消え去った、偉大な星の影を追う様に教皇様の御近去を悲しみ惜しむ心でみちあふれている。

御在位は、短かかったけれども、何と身近かに感じられた教皇様でいらっしゃった事かと。信仰を異にする家族全体で、お名残を惜しんでいる。

ああ、教皇様

つまり、毎日毎日家族中で、一言一言一緒した物だった。

「今日は意識がおもどりになったってね」、とか、「御けいれんがおひどいんだってね」、とか、毎日毎日家族中で、一言一言一緒した物だった。

ウィーンに留学中の霊的な娘からは、「何と淋しい毎日なんでしょう。今日も教皇様の御容態が次々に放送されています。私の心を今くらくしている何物か、それは教皇様の御病状です」、と訴えて来ています。

地球上の善意の人々の祈りに守られて遂に教皇様は天の御父のもとへお帰りになりました。地上でお積みになった沢山の宝

パウロ文庫

家庭の聖女・エリザベス・ルメール
毎月の黙想　A・ウッサン神父監修　中央出版社　倉田清訳　¥100
世俗の中に多難な生涯をすごした一霊魂の霊的メモ、忙がしい家庭の主婦の黙想書として最適。

小さな秘訳　カシアン・カルグ著　光明社　ワツラビク訳　¥100
〝小さな秘訣〟から多くの霊魂が、イエズスのもとに導びかれました。この小冊子はだれでも実行できる内的生活を教えております。

はげましのことば　ダニエル・コンシダイン著　中央出版社　吉川浩一郎訳　¥85
暗やみのときでも、悲しみや弱さにくるしむときでも…みあるじのところへいらっしゃい。そうすればみあるじはその悪のきずなを断ち切ってくださるでしょう。（本文より）

花咲くあぜ道　A・ポーア著　中央出版社　山本文子訳　¥200
世界各国の有名な画家がいかにしてその名作を後世にのこしたか。その多難な生涯の一端にふれた短篇集　中学生のために。

ろばものがたり　セギュール著　中央出版社　安井源治訳　¥250
ろばが人の口をかりて、数奇な生涯をかたります。ろばのものがたりとは？　中学一年生向。

青い坂道　A・ポーア著　中央出版社　山本文子訳　¥200
世界文化史上に輝かしい名をとどめた文豪たちの人間像をえがいたもので、学業の一助となります。

かげをなくした男　シャミッソー原作　中央出版社　内山保訳　¥200
お金がほしいため自分のかげを売った男の物語。真の幸福の意義を子供の心に教えております。

福岡市大名町一ノ七六　岩田屋六階
聖パウロ書院　TEL七四・四五八八
セント・ポール・コーナー

典礼シリーズ

㉘

Nobis quoque peccatoribus

われらは罪人なれども…

ラプラント

死者の記念をしたあと司祭は、一つの重要な祈をとなえ、死者だけでなく罪人である自分も天の聖人らとの交わりに加えられることを願います。この祈は、スプリチェス（うやうやしく願い奉る）の祈と論理的つながりをもち、その最后の言葉〝天の祝福と聖寵とにみたされんこと〟をふえんするものであろうと、ある典礼学者は申していますが、もしそうだとすれば死者の記念は前後の祈となんのつながりももたぬ追加にすぎないことになります。この仮説は説得力がつよくありません。なぜなら、〝われわれにも〟とありますので、この祈が前の死者の記念と密接なつながりがあることが、はっきりしています。

それはともかく、この祈のなかに挙げられている七名づつ二重のリストは、コンムニカンテスの一二名づつの二重のリストと明らかに対をなしていることは、たしかです。祈の最初の作成にあたっては第五世紀の教皇聖レオと聖シンマコの手が加わり、ついで第七世紀の大聖グレゴリオ教皇がそれを現在の釣合のとれた形にしたという説には、かなりの根拠があります

罪人とはだれを指していますか

言葉そのものの意味からすれば司祭とそこに集っている信者らを指しているように見えます。これが典礼学者たちのあいだでよくひろまっている意見です。

しかし諸文献にもとずいてなされた新しい研究によって、もっとせまい意味にしぼる方が正しいことが証明されました。ミサを立てている司祭が、自分と、聖式に仕えている聖職者のために祈っているという結論です。第一三世紀にアクイノの聖トマもそう教えています。シリアとエジプトの東方典礼における司祭たちのための祈は「主よ、罪人にして不肖なるおんみのしもべたるわれらを記憶し給え」となっています。

また中世期に、聖職者がサインをするときに〝罪人なる…〟とか〝不肖なる〟とか〝いやしき…〟などの形容詞を書きそえる習慣がありました。

例えば、六九二年ツルロの宗教会議の決定事項に署名した司教たちのうち、半数以上が〝罪人なる〟〝いやしき〟という語を名前のはじめにつけています。（この語にあたるギリシャ語はテペイノスTepeinosですが、司教たちはだんだん最初の文字のTだけを略記するようになり、それをいそいで書くと十字架の形になるので、今日でも司教や修道院長はみな署名のトップに、十をつけます）

上にあげた二つの意見を綜合して私共は、司祭はミサに集っているすべての人のため、しかしとくに自分と聖職者のために祈るのであると、申しましょう。

一五名の聖人の名簿

リストをみますと、この祈を作成した最後の人がコンムンカンテスのリストを補足することを考えさきに挙げた名前をくり返えすまいとしたことが、はっきりわかります。

冒頭のヨハネとは、典文にすでにあがった使徒の方でなく、洗者ヨハネです。これにつづいて七名の男性の殉教者。

最初の殉教者ステハノ（使六の8、七の58）

コンムニカンテスでは忘れられていた使徒マチア（使一の26）、パウロの伴侶で準使徒ともいうべきバルナバ（使一三の2、50）。

一〇七年殉教したアンチオキアのイグナチオ。

アレキサンドロについては、ある著者は一一五年亡くなった教皇アレキサンドロ一世であるといいますが、第二世紀にローマで殉教したアレキサンドロを指しているとの意見が強いようです。（祝日は七月一〇日）。

三〇四年殉教したローマの司祭マルチェリノ。（六月二日）

マルチェリノと共に殉教したローマの拔魔師ペトロ。（六月二日）

七名の女性殉教者

フェリチタス。この名をもつ二人の有名な殉教者がいます。ひとりはローマの人（一一月二三日）もうひとりはアフリカの人（三月六日）。ここではどちらを指しているのか、歴史家も決定しかねていますが、ローマのフェリタスの方に軍配をあげた方がいいようです。

二〇三年アフリカのカルタゴで殉教したペルペツア（三月六日）

二五一年シチリアのカニニアで殉教したアガタ（二月五日）。

三〇四年シチリアのシラクサで殉教したルチア（一二月一三日）

二五一年か三〇四年にローマで殉教したアグネス（一月二一日）

一七七年か二〇三年殉教したローマのチェチリア（一一月二二日）。

三〇〇年ごろシルミオで殉教したアナスタジア（一二月二五日）

中世期には、ほかの聖人たち、例えば英国ではペトロ、パウロ、パトリチオ、ジェオルジオら、またフランスではディオニジオ、マルチノ、ジュヌヴィエーヴらの名前もあげていました。

司祭は胸を打つ

胸を打つのは第一二世紀から始まったもので、〝罪人という言葉をとなえるとき、おのずからわき出る痛悔の情のしるしです。胸をうつのは司祭だけです。これから見ても、この祈が聖職者のためだけであるとの仮説をうらづけるようです。

なん回胸を打つのかミサ典書は規定していませんが、現代のルブリカの専門家たちは一回だと申しています。しかし昔、ある教区では三度、あるいはそれ以上、司祭の随意のままでした。

最初の三語で声をたかめるのはなぜですか

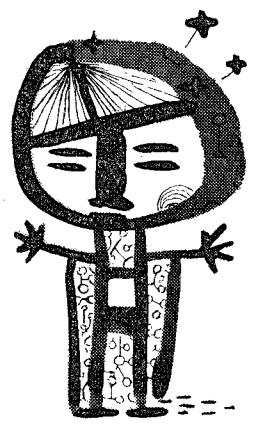
これは第九世紀に始まる古い習慣の名残りです。荘厳ミサに仕える副助祭たちは、サンクツスの所から身をふかくかがめていましたので、体をあげて、パン割きの式のためパテナをとりにゆくようにかれらに合図をするため、司祭はこのはじめの言葉で声を高めたのです。

あとになってこれら副助祭の役割はすたれて、ただ習慣としてこのルブリカが残り、寓意的説明がほどこされました。それによると〝人びとみな胸を打ちながら帰っていった〟（ルカ二三の48）というイエズスのご死去のときの群衆の後悔を思い出させるということです。

心構え

コンムニカンテスのときに私共は、この地上に聖人らのご保護をよび下しましたが、今度は、けんそんな痛悔の精神をもって司祭をともに、すべての罪をゆるしていただき、天上の聖人らの聖寵とその一致にあずからせ給うよう、御父にお願いしましょう。

この嘆願は、私共の功徳にでなく、ただ痛悔する罪人に対する神の限りないあわれみにもとずいてなされます。神殿でけんそんに祈った収税吏と全くおなじ心で、胸を打ちたいものです。



おどり：あきら

俳句

注連縄の影をうつせし苗田かな　榕樹洞

洗礼を受けて帰りし麦の秋　義信

一粒の種子が実をもつ麦の秋　風声

白蝶の息絶えてをり陶画室

菖蒲湯に吾子浸しをり妻笑顔

聖書の国 ④

平山高明

姉と弟

子供のしつけと教育

イスラエル人は教育の役割を高く評価しており、ラビ（教師）は永遠なる者の使者とよばれていた。子供の教育は、両親のつとめと考えられ、一般に深い関心がはらわれていた。イスラエルの母親が注意深く献身的で、すばらしい母親であることには定評がある。聖書は母性愛の証言にみちあふれている。

女の子は嫁にゆくまで母親と一緒に、水くみ、糸つむぎ、裁縫を学び、農家ではラケルのように羊の番、落穂拾いをしていた。男の子は村の学校に通うが、一方父親は息子の手に職をつけるよう、早くから仕込み始める。主イエズスはヨゼフから大工仕事を習われたであろう。福音書に、ぶどう栽培者の父親が二人の息子を畑に働きにやるたとえが記されている（マテオ二一の28）。

× × ×

イスラエルの伝統のなかに実践を通してつちかわされてきた教育法には、すぐれたものがある。

「子供たちになにかやると約束しながらその約束を破ってはならない。それは子供にうそを教えることになるから」とのラビの言葉はいつの親にとってもたいへん教訓であろうし、「子供たちの中の一人をひいきし、差別してはならない」との教訓も、太祖ヤコボやヨゼフの苦い経験からくみとったものであろう。

子供のしつけは一般にきびしかった。「むちを惜む者はその子を憎む者である」とか「子供のやわらかい心に悪が根をおろし、罪の死におちいらないように、むちで悪徳を追いだすように」とか、格言の書は勧めている。

だから親の最大の関心は子供の道徳であった。朝夕の祈のなかでまた生活を通じて十誡をおしえ、年毎の大祝日、例えば過越の祝日にはたねなしパンや小羊、その他の儀式の意味や、ヤーウェが自分らの民族の上になし給うた偉大なるみわざについて語ってきかせた「そのとき汝は、汝の子らに告げていいなさい。『これはわたしがエジプトから出るとき、主がなされたことのためである』。そしてこれを手につけ、しるしとして目の間において記念とし、主の律法を汝の口におかねばならない』（出エジプト一三の8）。

× × ×

主イエズスの時代には、学校はすでに存在していたようである。しかし最初の学校教育法ともいうべきものを布告したのは、女王サロメの兄弟で大司祭のヨズエ・ベン・ガマラである。この法令は、両親が子供を初等学校にやる義務についてきめており、はてはサボッたり、長期欠席する子供に対する罰、成績のよい子供を上級の学校に進ませる組織についても語っている、完備した教育法令であった。

この法令が出たのは紀元六四年だから、幼きイエズスはこの法令の恩恵には浴されなかった。初等教育は五年間で、村や町の学校で行なわれた。

教師のまわりをとりかこんで坐っている子供たちの第一の仕事は暗記で、先生の教える一語一語、一節一節を、くり返しいく度も口ずさんで暗記につとめた。アイヌの歴史詩や、わが国の古事記にみられるように、現代人の硬化した記憶力と比較すると、まったくの驚異であるが、このすぐれた記憶こそ、かれらのもとにおいて思想と知識を正確に伝える手段だったのである。あるラビのことばに「よい泉は立派にできた桶！一滴の水も洩らさぬ桶のようなものだ」といっているのをみても、子供たちの記憶力がいかに強調されていたかがわかる。

小学生たち

× × ×

イスラエルの学校で教えられるものは、聖書がおもで、文法も歴史も地理も、聖書を通じておしえられたのである。あるユデヤの学者は「人びとはそこに最上の学問と幸福の泉を見出す」といっている。逆に世俗の教養はあまり歓迎されなかった。初等の学校は「書物の家」上級の学校は「教義の家」とよばれ、最後に専門的に宗教をまなび、律法学士になろうと思う者は、エルザレムの「研究の家＝バーテーハム・ミドラシュ」とよばれる学校に入らねばならず、ここに入学できるのはごく限られた、とくに選ばれたものだけだった。

この学校は、有名な学者たちによって指導されていたが、未来の使徒パウロ、タルソの若者サウロも、博学温厚なラビ・ガマリエルのくんとうをうけたのである。

「先祖の律法の真理に従いてガマリエルの足下に教えられ」とかれ自身のべている（使二二の3）

これらの学校は、女の子のためには閉じられていた。あるきびしい律法学者は「律法が女の唇にきかれるよりも、巻物が焼けてしまったほうがよい」とさえ極言しているが、このような考えはすべてのラビの意見だったわけではない。

タルムッドのなかである賢者は「すべての親は娘にトーラ（聖書）をおしえる義務を負っている」といっているし、聖マリアがエリザベトを訪問なさったとき、即座にうたわれたマニフィカトをみても、旧約聖書についてどれほど深い知識を身につけておられたかがうかがわれるのである。ユデヤの娘たちは、兄弟たちに劣らずよく聖書を学んでいたと、考えることができるだろう。

男の子は一三才になったとき、成年式をあげて公けに聖書の一節を朗読する。この日から「律法の子」として神殿では「男子の内庭」に坐し、イスラエル人の一切の権利と義務を負ったのである。

× × ×

× × ×

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円　七三〇円

コンサイス和英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六八〇円

コンサイス英英辞典（改訂版）　革　六五〇円

ディリーコンサイス英和辞典　革　三〇〇円　四二〇円

新クラウン英和辞典　縮刷版　D　大型版　一〇〇〇円　六二〇円　八五〇円

ジェム英和・和英辞典　五五〇円

最新明解英和辞典　三八〇円

初級クラウン英和辞典　二五〇円

初級コンサイス英和辞典　二〇〇円

初級コンサイス和英辞典　二〇〇円

三省堂　独和新辞典　七〇〇円

コンサイス独和辞典　六〇〇円

コンサイス仏和辞典　六〇〇円

コンサイス露和辞典　八五〇円

日西辞典　三、〇〇〇円

商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円

新英文法辞典　一、六〇〇円

英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、三〇〇円　二、〇〇〇円

新版広辞林　一、四〇〇円

明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円

明解国語辞典　四八〇円

三省堂国語辞典　四五〇円

三省堂小学国語辞典（改訂版）三五〇円

大明解漢和辞典　九〇〇円

明解漢和辞典　四五〇円

模範六法全書　六七〇円

明解六法　二〇〇円

学習百科事典（新版）一、二〇〇円

明解日本語アクセント辞典　八〇〇円

書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

SSD

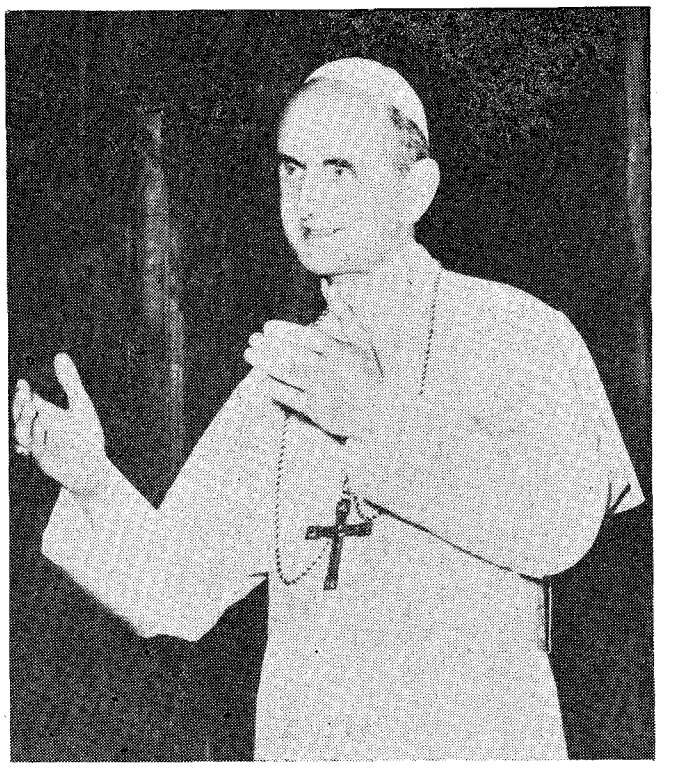
三省堂　福岡出張所

住所名変更　福岡市白金一丁目三街区一号

本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部十円



教皇への服従とわれらの信仰
公会議のため祈と犠牲を

福岡司教ドミニコ　深堀仙右衛門

新らしいわれらの教皇パウロ六世聖下のご即位を、教区の信者みなさまとともに、心からお祝い申し上げます。

六月三日、ヨハネ二三世教皇のご逝去の報に接したときには、丁度、キリストのご昇天を見送った弟子たちが、われを忘れていつまでも空を仰いでいたように、私どもも、空位の教皇座をながめて、ふかい寂寥感を禁じえなかったのであります。

しかしそれから一八日目の六月二一日、天の御父は、イエズスの聖心の大祝日に、キリストの地上最高代理者であるペトロの後継者として、パウロ六世聖下を遣み、お立てになりました。

この報導に全地面はあらたなる歓喜にもえたち、全世界の心は、キリストの「なんじはペトロなり われこの巌の上にわが教会を建てん、かくて地獄の門これに勝たざるべし」とのみことばをあらたに聞く感激をおぼえ、天主のふかいお摂理を賛美しまつたのであります。

ペトロとその後継者によって治められるカトリック教会は、世の終りまで決して滅びることがなく、キリストから委託された貴い使命を忠実に果し、つねに若々しい力をもって、人びとを救霊にみちびいてゆくことに変りはありません。

しかしながら、私ども現代の信者は過去のいずれの時代よりも、物質主義や無神主義、快楽主義や世俗主義などのおそろしい誘惑にとりかこまれ、神の教えに従ってゆく上に、非常な困難に直面していることは、否めない事実であります。

このように、大きな危険にさらされている信仰を、完全に保ってゆくためには、キリストの代理者たる教皇聖下のご指導に、確固とした信念をもって従う以上に最良の道はありません。ですから、この機会に、教皇聖下に絶対的な従順と忠誠のまごころをさらに表明いたしましょう。

ご存知の通り、教皇パウロ六世聖下は、全世界に向けての最初のラジオ放送のなかで、ご自分は故教皇のご遺志をついで同じ道を進み、ヴァチカン公会議を全力をかたむけて継続するであろうと、宣言されました。

教皇ヨハネ二三世によれば、第二ヴァチカン公会議は、カトリックの信仰をさらに増し、強めるために、開かれたものであり、従って、公会議は信者一同にとって縁遠いものでなく、むしろ、一人びとりが熱心な祈と犠牲をもってこれに協力、教会の歩みを助けねばならないわけであります。公会議の再開も九月二九日にせまっているこの際、その成功のために、教会に対する愛情を再び燃えたたせ昨年来実行してきましたように、ミサと秘跡にしばしば近づき、痛悔の心をもって祈と犠牲をささげて下さい。併せて「公会議のための祈」も熱心にとなえて下さい。

ローマから返電

パウロ六世教皇聖下の御選出に際し、深堀司教は直ちに祝電をおくったが、これに対し聖座からつぎのような返電があった。

教皇聖下は貴下に深甚なる謝意を表明され、牧者ならびに信徒に心から最初の使徒的祝福をおくられた

チコニヤニ枢機卿

信者総数二二、五八六名
三六三名の増加
福岡教区教勢発表

さきに発表された昭和三七年度福岡教区教勢（昨年七月一日から今年六月三〇日まで）によると、

㈠　信者人口は、二二、五八六名で、昨年に比べ三六三名の増。求道者数は、一、二三一名。臨終外の大人の受洗数は、五一〇名。他教区からの転入者は六四七名に対し、他教区への転出者は九四九名。

信者同志の婚姻が一二一組に対し、未信者との婚姻は一二八組で未信者との婚姻数が信者同志のそれを上廻ったのは、本教区では今年がはじめて。

㈡　司祭は一〇五名。うち邦人教区付司祭が三五名、同じく修道司祭が五名。外人司祭は六五名。小教区数は五五。巡回教会は一六。

大神学生は一三名、小神学生は三五名。

修道士は一一名。

修道女は邦人が三四〇名、外人が四八名。

㈢　学校

高等学校	八	四
中学校	六	一
小学校	三	
特殊学校	五	
幼稚園、保育園	四六	
病院	二	
診療所		

㈣　社会施設

養老院
育児院

参考

福岡、北九州、熊本各市、それぞれの信者人口は、

福岡市　三、八八四名
北九州市　五、七八九名
熊本市　一、七四九名

助祭叙階式

六月二九日福岡サンスルピス大神学院で深堀司教司式で助祭叙階式が挙行された。

助祭＝三木義明師（福岡）生藤達男師（大阪）小島栄師（長崎）宮良徹師（琉球）

なお福岡教区の山川渉氏が下級聖品（守門、繞師）を受けた。

堅信のよろこび

真方教会＝八月一一日二七名
伊万里教会＝八月一八日三〇名
那珂町教会＝八月二二日三七名
呼子、馬渡両教会＝八月二五日七八名。

司祭異動

聖母献身会＝古賀主任ハー師は四国徳島主任に。徳島主任ロビタイ師が古賀主任。

福岡邦人地区＝大名町助任平田敬師は久留米助任に。久留米助任堤敏雄師が大名町助任。

聖体礼拝（九月）

第一日曜　西新教会
第二日曜　新田原教会
第三日曜　福音の光修道院
第四日曜
第五日曜　マリアの宣教者人吉修道院

祈禱の使徒会（九月）

【一般意向】　司祭職および修道生活への召出し

【布教意向】コンゴにおける教会

福岡教区信者状況

（昭和38年6月30日現在）

種類	教会	洗礼 臨終外 大人	洗礼 臨終外 子供	洗礼 臨終時 大人	洗礼 臨終時 子供	求道者	信者数 1963	信者数 1962
邦人司祭地区	名町	38	28	2	1	40	850	721
	大浄水通	4	4	0	0	258	369	352
	地行町	6	3	2	0	16	276	244
	西新町	3	7	3	0	22	342	410
	簑島	3	4	0	0	5	189	177
	茶山	1	7	0	0	1	371	359
	大楠	4	0	1	0	6	201	186
	高宮	17	9	18	1	40	310	308
	那珂町	18	6	0	0	23	273	227
	吉塚	5	4	0	0	12	439	454
	箱崎	3	5	1	1	6	188	167
	東島田	3	5	1	0	11	76	58
	古賀	12	5	0	0	7	140	122
	二日市	4	0	0	0	11	91	77
	今村	2	33	0	0	0	1,360	1,361
	本郷	0	12	0	0	0	673	678
	久留米	20	15	15	3	75	1,170	1,176
	大牟田	21	8	9	0	36	289	355
	吉野	10	1	11	0	80	61	52
	呼子	2	2	0	0	0	509	499
	馬渡	5	12	0	2	0	704	893
ミラノ会地区	佐賀	34	8	1	1	23	370	323
	鳥栖	1	2	0	0	13	95	74
	唐津	0	3	1	0	13	157	150
	伊万里	3	7	0	0	3	146	175
	鹿島	1	2	0	1	6	114	109
	武雄	0	4	0	0	10	94	100
	多久	6	2	1	0	10	102	102
パリ会地区	門司	5	3	0	0	15	449	429
	小倉	27	30	1	0	45	1,636	1,523
	湯川	0	14	0	0	5	599	590
パリ会地区	戸畑	82	14	0	0	80	1,074	1,056
	若松	15	6	0	0	10	310	294
	門田	1	8	0	0	10	447	430
	黒崎	34	15	8	0	34	892	866
	飯塚	5	3	4	0	6	285	279
	直方	3	1	0	0	3	163	178
	田川	0	3	0	0	3	168	181
	行橋	7	7	0	1	6	260	276
	新田原	0	46	4	0	10	1,361	1,300
	水巻	1	9	0	0	11	398	419
	八王寺	4	4	0	0	11	260	266
	本城	15	1	0	0	15	122	88
コロンバン会地区	手取	19	20	24	2	52	784	768
	健軍	3	9	0	0	12	408	366
	島崎	27	7	43	11	90	634	617
	八代	0	4	19	0	10	304	317
	人吉	6	4	6	7	11	355	367
	水俣	4	5	1	1	22	119	116
	玉名	1	1	0	0	4	53	50
	隈府	6	2	5	1	26	288	288
	本渡	8	0	2	0	4	120	99
	大江	3	17	1	0	5	650	660
	崎津	4	2	2	0	0	416	427
	荒尾	4	3	8	0	4	72	66
合計		510	470	194	33	1,231	22,586	22,223

増加数…363

九月

一日（日）聖霊降臨後第一三の主日

今日のミサの集祷文に「われらに主の命じ給うことを愛さしめ給え」とある通り、われらは洗礼のときに頂いた信、望、愛の力をもって、万事において、主の思召しを実行するよう努めよう。

今日から土曜日まで教区邦人司祭年の黙想会

三日（火）聖ピオ一〇世教皇証聖者

一九〇三年から一九一四年まで教皇位にあった。

八日（日）聖霊降臨後第一四の主日

聖書で人智というのは、神が信仰する者に与える天的な智と対立する。人智は、神を度外して、自分の欲望の満足のために働くもので、これが人間の世界に不和を生じさせる。神の智は、人をけんそん、平和、献身、神への服従にみちびく。

隈府教会で堅信

一〇日（火）日本二〇五殉教者

サベリオの渡来から徳川幕府によるキリスト教弾圧までの間に、日本で殉教した信者は数万に上る。そのうち二六名が聖人の位に、また二〇五名が福者の位にあげられて、特別の尊崇をうけている。

一二日（木）聖母マリアのいとも聖なるみ名の祝日

一四日（土）聖十字架称賛の祝日

十字架はわれらの救いの道具であり神の愛のシンボルである。

一五日（日）聖霊降臨後第一五の主日

誰でも自分の真のすがたを反省するならば、他人の行状についてとやかくいうほど厚かましくはなれないはず。自分の欠点を知らない者が、他人の欠点をせめたてるのである。

今村教会で堅信

一七日（火）古賀教会で堅信

二〇日（金）深堀司教、公会議に参加のため博多駅からご出発

二一日（土）使徒福音史家聖マテオの祝日

二二日（日）聖霊降臨後第一六の主日

苦しみ自体は、人間にとって、一つの恥辱であり、神ののろいの記しであった。（旧約のヨブの例）。しかしキリストが十字架の苦しみをもって、世界の救いを全うし給うて以来、苦しみは愛の記しとなった。パウロは「この患難」を汝らの光栄なれ」と言い切っている。

二四日（火）メルセスの童貞聖マリアの祝日　秋分の日

二九日（日）大天使聖ミカエルの祝日

大天使ミカエルは教会のために三つの仕事を果して下さる。悪の勢力との戦いにおいて、われらを守ること。天の祭壇のそばで、われらの祈を取次ぐこと。天国への道の案内者。

今日からローマで第二次ヴァチカン公会議開催

カトリック運動三つの集り

有益な意見交換

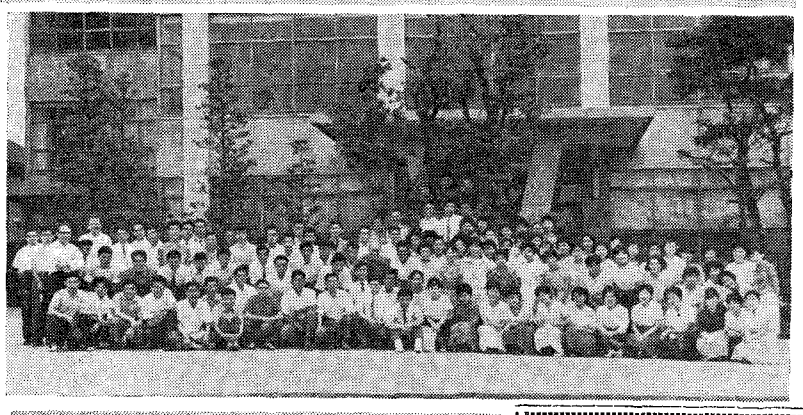
レジオ・マリエ、総会と分科会

八月一〇日、一一日の両日、レジオ・マリエ福岡セナートスの第一回コングレスが福岡双葉学園を会場にしてひらかれた。

一日目は午後七時から福岡市内の各プレンディウムの役員が出席して、役員の種々の問題について話し合った。

二日目は、長崎、鹿児島、大島、宮崎、熊本久留米、北九州の各クリアおよび福岡セナートスの会員約九〇名が参加して、まず八時から学園会議室で深堀司教のミサにあずかり、司教講話につづいて一一時からプレンディウム集会について総会。

午後の分科会では、家庭訪問、病院訪問・土曜・日曜学校、求道者、レジオ会員の獲得と育成、ジュニア・プレンディウムなどについて、それぞれ綿密、具体的な活動法について熱心な創意を発表し合い、五時の聖体降福式をもって散会した。



JOC 西日本ブロック リーダー会議ひらく

六月二二、二三の両日、北九州市明治学園にて長崎、福岡、中国地区のジョシスト約一二〇名が参加して、JOC（カトリック青年労働者連盟）の西日本ブロック・リーダー会議が開かれた。東京からも全日本の総指導司祭であるアルツス師が出席した。

この会議は、各リーダーがJOCの精神と活動について再確認し組会の中で自分の立場と責任を自覚しようという目的のもとに行なわれたもの。

まず、カトリック・アクションの一員として活動するJOCの働き場は、青年労働者の生活するあらゆる場所であって、大衆のうちにおけるリーダーとして、その青年たちとどのように接触するか、かれらの人格をそこねる幾多の問題と闘いながら、かれらに奉仕してキリストの愛を知らせるにはどのようにすべきか、実例にもとずいて話し合った。

ついで組会におけるリーダーとして、JOCの活動を推進するために現在リーダーがもっているさまざまな社会的、家庭的困難の問題そして新しい仲間の獲得などについて討議。

各組会とも、JOCに対する一般信者の理解を一層つよく要望しており、また求道者との交際、一般青年むきの集会や公教要理への働きかけの努力を、今後もつよめていくことをうち出した。

このような討議の実りをキリストにおいて結ぶために、よい牧者である主のみ前に集って印象ふかい典礼が行なわれた。

夕の祈、ミサ、聖体降福式に自分の組会の各ジョシスト、自分の環境の青年たち、更に全世界の青年労働者と共にあずかってキリストの愛において一致し、生命を与え給うた牧者になって、主と青年労働者兄弟に仕える約束を新たにした。

短時間の討議であったが、JOCの精神である青年労働者の救いと、それを通じて自己の成聖を確認し、各地区リーダーの親睦を深めることができた。

（JOC小倉組会会長　宮下益一記）

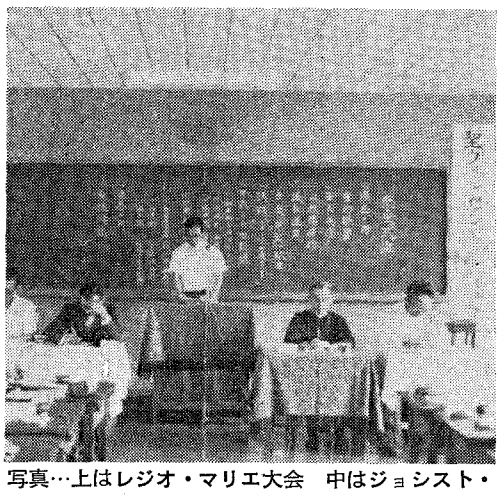
新作能「復活」上演

九月一四日　電気ホールで

土岐善麿・喜多実共同新作能「復活」が来る九月一四日（土）五時福岡市電気ホールで上演される。

これは三年前の「使徒パウロ」（福岡では昭和三六年一〇月に上演）につづくキリスト能の第二作文学博士関根文之助氏は、能「復活」に寄せてつぎのように述べている。

「能」という日本独自の芸術のうちに、しかも、その本質を生かしつつ、なお、キリスト教との接触が具象化しうるならば、それこそ、世界における新しい試みであって、前回の「パウロ」に続く作品として、この第二回の試みの「復活」に対し、大いなる期待を持つとともに、ひとりでも多くの人びとが、見ていただきたいものである。



写真…上はレジオ・マリエ大会　中はジョシスト・リーダー会議の参加者　下はヴインセンシオ大会

SVP九州地区ブロック大会

聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会（SVP）では八月四日九州地区ブロック総会を、福岡市双葉学園でひらいた。

一〇時半浄水通教会で参加者のために深堀司教がミサをささげ、総会には中央理事会指導司祭平田正喜（福岡）中島政利（長崎）の両師、全国理直属別府協議会の秋元保夫師のほか、九州地区の会員約八〇名、また日本全国理事会より九州担当の鈴木副会長が出席。

まず福岡、長崎の両会長のあいさつにつづいて、深堀司教がSVPに対する認識と会の精神ならびに愛徳の実践活動について、力強く要望を披れきし、午後は一時間棚町正刀師が「カトリック的愛とSVP」と題して講演、五時の聖体降福式まで次の諸点について、発表と自由討議をかわした。

(1)効果的な訪問の仕方について対象家庭の選定、初対面の重要な役割、道徳的、霊的感化など。また対象家庭の名簿作製。

(2)効果的資金の使い方。昭和三七年度の別府協議会の資金の使用実績、配布物資の内訳など。

☆　☆

学園だより

【熊本信愛女学院】高等弓道部は熊本県代表に選ばれ、宮崎の、全九州大会において女子部で優勝またタイプ部は県代表で全九州大会に出場。

バトミントン部は全国高校大会予選個人戦でダブルス、シングルス共に一、二位となり、山形での全国大会に出場。

なお小学校、中学校は書道（硬筆）優良校として表彰された。

霊的よろこびを求めて

学生黙想会

福岡カトリック学生会が主体になって行う恒例の夏期大黙想会は八月一六日夜から二〇日朝まで、福岡市小笹の男子聖パウロ修道院で、地元および帰省中の男女大学生三名参加のもとに行われた。

今年は山田成章師（本郷主任）が指導に当り、説教毎日三回、深堀司教も懇切な訓話をさずけ、沈黙と反省のうちに霊的よろこびを味った。

× ×

福岡学士会も、会長桑原万寿太郎教授の欧米視察旅行観送会をかねて六月三〇日、深堀司教の指導のもとに一日の静修を行った。

プールで大はしやぎ

吉野カトリック幼稚園

大牟田市吉野大工原の吉野カトリック幼稚園（園長山川辰幸師）に、園児用のかわいいプールが完成、よい子に絶好の遊び場になっている。

大牟田地区は河川が少く、海岸も水浴に不適なので、夏の安全な水遊び場を子供たちに与えたいとの父兄一同の希望が実って、六月はじめからプール建設工事に着工去る七月七日深堀司教が来園してプール開きを行った。

折角の司教訪問とあって、吉野教会信者、カノッサ修道女、園児と父兄と全員がプールの祝別式にあずかり、つづいて聖堂から園庭をまわって聖体行列を行った。

落成式のあと園児が遊戯やリズム合奏を演じ、プール開きのテープが切られると早速、子供たちは水の中にとびこんで大はしやぎ。

プールはたて六メートル、よこ四メートル、深さ六五センチ、中央に噴水をそなえ、建設費は一五万円。

伊万里に移転準備

トラピスチヌ修道院

福岡県糸島郡から佐賀県伊万里市への移転を決定したトラピスチヌ修道院は、八月はじめから同市伊万里、腰岳の中腹にブルドーザーを入れて四五六、二〇〇平方メートル（四五町歩―一三万坪）の宅地造成、構内道路、牧草地の整地を行っている。

さらに九月はじめから修道院の建築をはじめて、来年五月頃に入居を予定している。

信者集会所

伊万里教会に新らしく信者集会所（五六平方メートル）が完成八月一八日深堀司教によって祝別された。

泰星組が優勝

福岡地区信徒布教会主催の教会対抗ソフトボール大会は八月二五日午前一〇時から泰星高等学校校庭で行われた。

出場教会は一三、大名町―糸島の試合で熱戦の火ぶたを切ったがベスト4に泰星、二日市、西新、高宮が残り、決勝では泰星と高宮両チームが熱のこもった攻防戦を展開したが、延長九回の表に泰星が貴重な一点を入れて結局七―六で、一昨年につづき二回目の優勝をとげた。

ペトロの献金

（六月三〇日）

大名町	四、六八二円
浄水通	一、〇〇〇
地行町	二、五〇〇
簑島	一、一〇〇
西新町	一、六〇〇
茶山	一、二五〇
大楠	一、三一七
高宮	一、七三〇
那珂町	二、二〇〇
吉塚	一、五〇〇
箱崎	八八九
田島	六〇〇
古賀	七六五
二日市	七〇四
今村	五、三〇〇
本郷	二、一八〇
久留米	三、七七五
大牟田	一、五〇〇
吉野	四〇〇
呼子	一、二〇〇
馬渡	一、五七五
佐賀	一、〇〇〇
唐津	一、〇〇〇
鳥栖	二〇〇
伊万里	五〇〇
武雄	三〇〇
鹿島	
門司	三、六〇〇
小倉	八、〇〇〇
湯川	二、五〇〇
戸畑	九、八六〇
若松	二、〇〇〇
天神町	二、九〇〇
八王寺	一、三三〇
黒崎	三、〇〇〇
本城	三〇〇
水巻	二、一〇〇
直方	三三〇
飯塚	六五〇
田川	五五〇
行橋	一、二〇〇
新田原	四、六〇〇
手取本町	五、三〇〇
健軍	二、六〇〇
島崎	四、四〇〇
八代	五、〇〇〇
人吉	四、七〇〇
水俣	一、六〇〇
隈府	二、三三三
玉名	一、一一〇
荒尾	一、六五〇
本渡	九〇〇
大江	一、五〇〇
崎津	二、三四〇
計	一一七、三九〇円
多久	三〇〇

聖心の使徒（昭和38年9月号）

表紙　「召し出し」　湯崎夫沙子画
教皇パウロ六世
七月の意向　求人主のぶどう畑に　黒滝　竜彦
コンゴの教会（九月の布教の意向）　粕谷　源蔵
黙想　朝の奉献　河野　義祐
神学生の生活　山辺　建
写真特集　われ、主の祭壇に赴かん　E・グリスト
神学校の理念　泉　富士夫
黒いスータンの学生たち
日本の神学校の歩み　品川　勝郎
病める友へ　神経衰弱
十字架のイエズス修道女会
国東半島の聖地を尋ねて　大平　茂樹
教会の塔の影　F・アウスラー
自然の驚異（二十一）　H・ムシャレク
新本めぐり
ポスト
購読料　一カ月　五七円　一カ年五七〇円…〒共
日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾井町七

幼児をもつお母様方

幼児教育を失敗すると子どもは不幸になる。
正しいよい教育の指針として
小出神父主幹　月刊『ふじかげ』
を読みましょう。　1ケ年送料共200円
切手または小額カワセ同封にてお申込下さい。
広島市翠町1593
ふじかげ教育相談室

カトリック教理

第三戒　汝、安息日を聖とすることをおぼゆべし

日曜日と守るべき祝日にミサにあずかること

一、日曜日の中心はキリスト

教会のごくはじめ頃の歴史を見ますと、エレサレムの信者たちは週の第一日にどこかの家に相集っていました。この日が選ばれたのは主キリストが死からよみがえり給うた日、いわばキリストの勝利の日だからです。そしてキリストのように復活することが信者の最高の念願でもあったからです。毎日曜日、主のご復活を記念し、あがないのおめぐみを感謝していたのです。週の第一日は、主のご昇天の一〇日目に聖霊がお降りになって救世のみ業が完成し、世界が新らしい創造の時代に入った日でもあります。

だから初代の信者らは日曜日を「主の日」また「復活の日」とよんでお祝いしていたのです。

所がローマに参りますと、そこの異教徒たちは週の第一日を「太陽の日」とよんで、太陽神を拝む日となっていました。それでローマの信者もこのよび名をうけついで、キリストが世界を照らす太陽来るべき栄光の太陽にて在すところから、日曜日を太陽の日（英語のサンデー）とよぶようになりました。

二、キリストのいけにえをささげる日

信者は日曜日に集って一体なにをしていたのでしょうか。かれらは使徒たちからキリストについて話をきき、一緒に祈っています。使徒たちのひとりがパンとぶどう酒を祝別し、主が最後の晩さんのときになされたように、聖なるおん体とおん血をみな拝領いたします。

かれらは、この集りの中心にキリストが実際に在すことを感じていたのです。ここではキリストが目に見えないながらも、教えをとき、共に祈り、いけにえをささげておられるのです。かれらは立派な聖堂も、美しい祭服もありませんでした。しかしかれらは心のうちに大きな満足をおぼえていました。

私たちは今どうでしょう。信者の数はふえ、見事な教会でミサにあずかっていますが、かれらのように熱心に説教をきき、キリストと一致してミサのいけにえをささげているでしょうか。心の中に聖なるよろこびを味っているでしょうか。平気でミサに遅れ、心を散らし、ミサが終るのをいまかいまかと待ちあぐねているのではないでしょう。

三、守るべき祝日

一年中の日曜日のうち最大のものは、ご復活の大祝日とよばれる日曜日、つぎに重要なのは聖霊降臨の大祝日の日曜です。この他に日曜にあたらなくても、日曜同様にミサにあずかって聖とすべき日が、守るべき祝日です。日本で守るべき祝日になっているのは、つぎの四日です。

一二月二五日　主のご降誕
ご復活の四〇日目　主のご昇天
八月一五日　聖母被昇天
一一月一日　諸聖人

四、日曜のおきて

(1) 公教会の第一のおきて

教会の信者がふえるにつれて、なかに不熱心なものもでてまいりました。かれらは日曜日の集りにゆかず、永遠のたすかりを忘れて主のおめぐみを軽じます。教会は何度も勧告をくり返しましたが効果がありません。それで「日曜日と守るべき祝日には、けいけんにミサにあずかるべし」とのおきてを発布しました。七才以上の信者はみな、このおきてに服さねばなりません。

(2) おきての重大さ

日曜日と守るべき祝日には天の御父、世界の主にて在す神が、子供たち一同をおそばに招待しておられます。折角のお招きに応じるため、私たちは自分のしたいことを残して教会に集まり、聖なる教をつつしんで聞き、共にみ栄をたたえ、霊的食べ物を頂かねばなりません。

日曜日のつとめを守らなくなったとき、その人の信仰の火は消えはじめます。天国への道から遠ざかりはじめています。

日曜日には信者が相集ってミサにあずかるのが大切であって、自分ひとりだけ山にいって祈るのではありません。

(3) おきての範囲

重大な理由がなくてミサにあずからなければ、大罪を犯すことになります。重大な理由というのは病気、どうしても欠かせない仕事やつとめ、教会から遠い所に住んでいることなど。

具合が悪くても学校にゆける位だったらミサにゆくはずです。

歩いて三〇分位でも、元気な人には平気でしょう。運動会の弁当を作るのに忙しいからミサにこれないというのは、重大な理由にはならないでしょう。

ミサにゆけないときは、せめてロザリオをとなえるようにしましょう。

(4) ミサにあずかる作法

ミサにおくれないこと。定刻の五分前には着席して、心のうちに祈りながら主のお出でを待ちましょう。

熱心にあずかること。ミサ中に試験のことを考えたり、前の人の着物の品定めなどしないで、全精神を主のいけにえに集中する。

説教に耳をかたむけること。神のみことばとしてうやうやしくきき、自分のために一つの教訓を引き出すようにします。

労働を休むこと

一、日曜日と守るべき祝日は安息の日

キリスト信者は、週の一日、日々の働きから解放され、自由な子供として万物の源で目的にて在す神の方に目をむけなければなりません。神のみそばに近づいて賛美をささげ、毎日のおめぐみについて感謝申しあげます。またこの世のすべての重荷から自由になって天国で思う存分、神と共に楽しむ日のことを思うように努めます。

日曜日で大切なのは、体のつかれをいやして来週の仕事にそなえるというだけでなく、神のためにゆっくりした自由な時間をもつということです。仕事に没頭するとき、私たちはこの地上のものに心がうばわれ、いくぶん機械のようになっています。

神に自由に心をむけるために、日曜と守るべき祝日には、肉体的な重労働を休んで、ミサやその他の聖なる儀式にあずかります。また所属教会のほかの信者さんと親睦をしたり、聖書、聖人伝、教会から出ている新聞や雑誌に目を通します。

二、気晴らしの日

人間は、機械のように休みなしに働けるものでありません。使いつくした力をおぎなうにも、次の仕事に進むにも、適当な休止が必要です。これは筋肉の力のためにも、神経の働きのためにも同様です。ですから神のためにささげた残りの時間を正しく楽しみましょう。

美しい自然のなかを散歩するとか、庭いじりするとか、画をかくとか音楽をたのしむとか。家のなかにとじこもって仕事をしている人は、新鮮な空気を求めて郊外に出る方がいいでしょう。無理なドライブをするのは考えものです。

お父さんだけゴルフに行って、子供たちががっかりしている家庭を見うけますが、日曜日は家庭だんらんの日であってほしいものです。家族そろってミサにゆき、帰って一緒に食事をし、なにかの遊びをするのが理想です。

親戚や友人を訪問したり、とくに病人の見舞をするのは美しい愛の行いです。

三、日曜日をけがすつみ

お金もつけに頭が一杯で、ミサにもゆかず、重大な理由なしに重労働すること、または人にさせるのは日曜日をけがすことになり大罪です。

重大な理由があれば、司祭にゆるしを頂くようにしましょう。最近レジャーの行きすぎから、土曜日の夜におそくまで遊んでミサにおくれたりするのは、信者らしくないことです。悪い所に遊びにいったり、酒を飲みすぎたりするのも日曜日にふさわしくありません。

キリスト教的典礼の暦

一、週間

日曜日は、主が死からよみがえり給うた日、そして私たちのあがないを記念する日。

金曜日には主のご受難をしのび、なにかのぎせいを実行する日です。肉を食べない（小斎）のはそのためです。月の第一の金曜日はイエズスの聖心の日です。

木曜日は、主が聖体の秘跡を制定し給うた記念の日で、またゲッセマニの園で、死ぬばかりの苦しみをなめ給うた日です。この晩によく「聖時間」の信心が行なわれます。

二、御復活の聖節

(1) **ご復活の大祝日**は、主の復活の一年ごとの記念日で、日曜日のうちで最高のもの。教会のはじめ頃では、これが教会の唯一の祝日でした。今でもこの日が教会の暦のなかで最頂点を占めています。

この祝日につづく七週間がご復活をよろこぶ時期で、ご復活節と申します。

(2) **聖週間**

信者たちは主のご復活のお祝いを当日の夜明け前から行っていました。教会に対する迫害が終ってからは、大祝日前の金曜日、すなわち主のご死去を記念するためにも集り、（聖金曜日）、なおまた聖体ご制定の日であるその前日にも特別の儀式を行うようになりました（聖木曜日）。土曜日は、主が墓に留まっておられた日ですから、なんの式もありませんでした。

ご復活の大祝日の一週間まえの日曜は、主がエルザレムに入城なさった日で、枝の主日といいます。枝の主日から土曜日までを聖週間と申します。

(3) ご復活の祝日のまえとあと。

ご復活のお祝いを聖週間だけでなく、もっと前から準備しようという考えが、信者の間にもり上ってきました。四〇日間の祈と断食をもって公生活の準備をなさった主にならって、自分たちも、常より多く祈り、痛悔の心を起して新しい生活に入ろうと努めたのです。

求道者も、ご復活の式中に洗礼をうけるため、最後の準備に熱をいれました。

この期間が**四旬節**で、その第一日を灰の水曜日と申します。

あとではさらに四旬節の前にも遠い準備をすることになりました。これが**七旬節**です。七旬節からご復活の大祝日までは九週間あります。ご復活の大祝日の四〇日目がキリストのご昇天の大祝日、同じく五〇日目が聖霊降臨の大祝日です。

三、御降誕の聖節

ご復活のお祝いについで盛大に祝われていたのは、主の**ご降誕**の祝日です。

キリストのご誕生日がいつであったか、なんの伝えも残っていません。でもローマの異教徒たちは冬至の日に不敗の太陽神のお祭りをしていました。所が信者たちはキリストこそこの世を照らす正義の太陽であると考えておりましたので、一二月二五日をキリストご誕生の日として祝うようになりました。

ついで一月六日は、東方の博士らが主に礼拝をささげた記念日で**ご公現**の祝日と申します。ご降誕と公現の祝日を準備する期間が**待降節**です。一一月の末か一二月のはじめの日曜日から待降節に入ります。この期間に、私たちは、主が世の終りの日に人々をさばくために来り給うこと、そして二千年前に主がベトレヘムに降誕なさったことを黙想します。

四、その他の祝日

このように教会の典礼上の暦には二つの聖節がありますが、みなさんは一年を通じていろいろな祝日があるのをご存じでしょう。その主なものは、

三位一体の祝日（聖霊降臨の八日目）。その次の木曜日は聖体の祝日、また聖体の祝日の次の週の金曜日は聖心の祝日。一〇月の最終の日曜は、王たるキリストの祝日です。

キリストの御母マリアをたたえる祝日もたくさんあります。

御降誕の聖節
- 準備期間——待降節
- 祝日
  - 御降誕の祝日
  - 御公現の祝日
- 祝日後——御公現後の期節

御復活の聖節
- 準備期間
  - 七旬節
  - 四旬節
  - 聖週間
- 祝日
  - 御復活の祝日
  - 聖霊降臨の祝日
  - 御復活節
- 祝日後——聖霊降臨後の期節

光の通う道　ジナ・サッフィリオ著　大滝玲子訳　近刊
私の進むべき道は？人生の辻に立って、その前途に開かれた多くの道！本書は若き女性におくる人生案内書　（ユニバーサル文庫）

現代の使徒職の道
—在俗修道会—
ヨゼフ・M・ペッリン著　ペトロ・ハイドリッヒ訳
現代の要求に応じて生まれた在俗修道会とは？その使命と精神とを総括的に述べている。　（中央出版社）

万町電停前　**聖パウロ書院**
岩田屋6階　**セント・ポール・コーナー**

新刊案内

私があなたたちを愛したように あなたたちも互に愛しあいなさい
（ヨハネ15・12）

若い女性へのすすめ

第1巻　女性とその使命
第2巻　女性と職業
第3巻　女性と社会
第4巻　女性と召しだし
第5巻　女性と献身

人生の途上、入学、就職、結婚、召し出しなど、重大な問題に直面し、岐路に立ったとき、キリスト教の光に照らされて書かれた本シリーズは、かならず女性のためのよい助言者となることでしょう。

江藤きみえ著　デルコール監修

新書判・全5巻・定価各¥120・ドンボスコ社

典礼シリーズ

㉙

Per quem haec omnia……Amen

かれによつて、これらすべてを…

ラプラント

「われらは罪人なれども」の祈につづいて司祭は、典文最後の祈をとなえますが、これは二つの部分からなり、十字架の印八つとオスチアの小奉挙一つを伴っています。

神学的な意味

「かれによって」のかれはキリストを指します。御父は、神なる御言によって万物をつくり聖ならしめ給うからです。―おんみは、これらすべてをときものとしてつくり、聖とし給う。聖三位の神の第二位は創造における象型因、すなわち 模型また理念 にてましまします。しかも人となり給うた神の御言は死をもって私達を救い給うたのですから、私達を聖ならしめる聖籠はすべて、ただひとりの仲介者なるか れによって めぐまれます。―そしてわれらに与え給う。

イエズスの仲介というのは、神から人間へのお働きの仲介、すなわち私達の聖化ばかりでなく、人間から神への業の仲介をも指し、これによって、私達はすべての礼拝と賛美を聖霊との一致において御父にささげるのです。―聖霊との一致において、おんみはすべての ほまれと光 栄を受け給う。ですからこの祈は、ミサにおいてささげられる礼拝を最も端的にあらわしたものであります。

油、ぶどう、その他のものの祝別

ごく少数の典礼学者は断言をさしひかえてはいますが、「これらすべて」というのが、昔ミサのこの箇所で祝別をうけていた地の産物をさしていることは、全く確かのようです。このような祝別の例は非常に多く、エウチキアヌス教皇（二八三年死）の時代にもぶどう酒やそら豆の祝別を行い、第七世紀のレオ教皇の司教典礼書にも水や牛乳やはち蜜の祝別が指示されています。

「ペル・クェム」の祈の直前にぶどうを祝別することは、ずっと長い間あちこちに見られた習慣です。ルブラン・デマレット師は一七一八年に、フランス、レンス、ツールまた全ローレヌ地方でこの儀式を見ております。ツールの聖マルチノ教会では一粒か二粒のぶどうの実をとって、そのしぼり汁を貴きおん血のなかに混ぜていました。三回の十字架の印をもって祝別された残りのぶどうは、信者に分配されましたが、ドヴェール師は一七〇〇年にアンゼー地方でその式にあづかっています。

ポッビオのミサ典書では、この箇所で過越祭の小羊の祝別をすることになっています。

今日でも全教会で、聖木曜日の司教荘厳ミサのこの所で、病人の香油の祝別が行われます。

このように歴史的過程をたどってみますと、「これらすべて」というのが、全く祝別用の文句であることが判然とします。

地上のすべてのものがよきものとしてキリストからつくられ聖とせられたのですが、キリストはそれをいのちの源として私達に分けと与え給うのです。

十字架の印と小奉挙

十字架の印―最初の三つは献物の上にするものですが、第三世紀からはじまっています。これには当然、祝別と聖化をあらわす三つの言葉がついています。オスチアを手にもって行なう五つの十字架の印は、一〇〇〇年以後に生じたもの、そのためはじめはもっと簡単で美しかったしぐさが、こみ入ったものになりました。

昔は「ペル・イプスム」の祈のあいだ中、司祭がオスチアを、助祭がカリスをもって、二人でこの汚れない小羊を神の方に高くあげて、すべてのほまれを御父にささげていました。

小さな奉挙―教会の最初の数世紀間は、聖変化のときに奉挙はなく、これがミサ中ただ一度の奉挙でした。

前に述べた通り、奉挙は「ペル・イプスム」の祈のあいだ中つづいていたのが、今日では司祭は、「すべてのほまれと光栄」ととなえるときにだけ奉挙をします。欧州の多くの教会では今でも、このときに鈴をならして荘厳なこのしぐさに注意を向けるようにします。中世期には、オスチアを奉挙する司祭の腕に対する尊敬から、助祭は司祭の肩にせっぷんするかせめてその腕を支えるかしていました。

カリスのふちにオスチアをのせるしぐさは、キリストのおん傷を示すという中世期の寓意的な解釈からきているようです。「ペル・オムニア・セクラ」の前に跪くのは、典文とその結びを不当に断ちきるものであることは、申すまでもありません。これは第一四世紀頃におそく加えられたものです。

かれによって、かれと共に、かれにおいて

「キリストによって」とは神と人との間に立つ唯一永遠の司祭たるキリストの仲介を意味します。

「キリストと共に」。それは御父ならびに御父にひとしい御子、このお二方に私達のほまれをささげるからです。

「キリストにおいて」。ヨハネ福音書は、神学者がチルクムインセッシオ―聖三位相互内在性とよんでいる玄義を 教えていますが―「御父はわれに在すことを信ぜよ」（一〇の38）―これに従って私達は、御子イエズスのうちに内在し給う御父を賛美いたします。

「聖霊との一致において全能の神なるおんみに」。この言葉は第六世紀のゼラジオ教皇の古いミサ典書からはじまったもので、聖三位に対する頌歌のくくりで、三位一体の神への信仰宣言であります

新しいカルワリオであるミサが聖三位の神にこの上なくよみせられるいけにえであることは、画家エル・グレコ（一六一四年死）の傑作によく表現されています。―絵参照。

心構え

ミサの中心部である典文を終るに当って、完全なる司祭、仲介者にてましますキリストによって、聖三位のほまれのため完全な賛美をささげ、神をたたえるために奉挙されるオスチアに、私達の心をこめましょう。このしぐさに心で参与し、神をたたえようとしていることを示すために、真心から、司祭にアーメンと答えましょう。対話ミサであれば大声で、そうでなければ低い声でアーメンとなえます。

いずれにせよ、アーメンととなえることは大切です。このアーメンは、序誦からこれまでのすべての祈と願いは、私達の祈りであり願いであることを意味するからです

アンブロジオ、アウグスチノ、エロニモら教父たちは、キリストの聖体のいけにえにアーメンと答えうる権利を、大きな特権であると考えていました。この意味ふかい伝統的考えに思いをいたして、よりよくミサにあずかるようにしましょう。

聖書の玉 ⑤

平山高明

婚約

エザウの復讐をおそれたヤコボが、伯父ラバンのもとに逃れたとき、ラバンはかれを自分の血族のひとりと認めて「汝は真にわが骨わが肉なり」（創二九の14）といった。「わが肉なり」という言い方は聖書にたびたび出てくるが、同じ血筋をもち、喜び悲しみを共にする家族の一員であることを示している。

イスラエルでは、家族の連帯意識はきわめて強く、まず家族の利益が追求され個人の姿はその前にうすれて見える。法律も家族の権威と安泰、部族の血の純潔を保つことに大きな関心を払っている。太祖らの遊牧の時代が終り、大家族主義が失われていってもこの血族意識は強く残っていた。

今日でもか れらは 近い親戚を「兄弟」とよぶが、ヘブライ語の「アー」という語は兄弟を示すと共に、異母兄弟、いとこを始め、近い親戚の男子のすべてに向けられる語である。アブラハムは甥のロトを兄弟とよんでおり、キスはエリアザルの息子に、即ちおじいとこに兄弟といっている。福音書に見られる「イエズスの兄弟」というのも、いとこや親戚を指している。

× × ×

家族は血によってさらに大きな部族にとつながっており、各部族は、深い家族意識によって結ばれていた。家族の一員に幸いがやってくると、それは一族の喜びであったし、その分け前にも与ったのである。太祖ヨセフがエジプトの宰相になったとき、兄弟らをゲッセンの沃野に住わせたことを人びとは賞賛し、かがみとたたえている。

だがこの傾向は、ときとして極端な門閥主義を生むおそれもあった。主イエズスを裁いた大司祭アンナは、その大司祭職を七人の息子と娘むこカイファとの間に順々にたらい廻わしにして、権力を保った。

いずれにせよ血縁は破ることのできないつながりを作るもので、やはりそれは一つの大きな恵みと考えられた。それだけに家族、家族の頭となる息子の結婚は、家族全体の繁栄と安泰に直ちにひびいてくる問題であった。従って結婚の相手を選ぶためにイニシアチーブをとるのは、まず父親でありついで家族の者たちである。アブラハムは息子イザアクの嫁を同族の中に探させるために、老僕を故郷メソポタミアのナホルの町につかわしている。

× × ×

結婚の年令は一般に早く、男子は一四、五才、女子は一二才半になれば適令と認められていた。ラビ達によれば、男子は一八才が最適で、女子は適令に達すれば一日も早く結 婚さすべ きと考えていた。男子が二〇才にもなって独身でいるのは不都合千万なことと一般には考えられていた。二〇才前ならまだ父が選択する権があったのである。生れるとすぐ許婚者がきめられることもあった。

だからといっていつも両親が好き勝手にきめたわけではない。若者たちは自分の結婚について意見を述べることができたし、また自分でさっさと選ぶこともあった。例えばエザウは、イザアクら両親のうれいをよそに土地の異邦人の娘をめとったし、ヤコボは愛するラケルを妻と迎えたが、そのために二四年間も義父ラバンの家で働いている。

しかし律法学者は、くり返し若者に「相手をえらぶ前によく考えよ、容貌だけに気をとられるな。顔の美しさはすぐに過ぎさるものだ。むしろ家族のことを考えよ」と勧告している。これは「誰が賢い妻を見出すことができるか。かの女は宝石よりもすぐれて尊い……あでやかさは偽であり、美しさはつかの間である。しかし神をおそれる女はほめたたえられる」という箴言の言葉を思い出させる。

× × ×

相手がきまると、署名した婚約書を交換し、男の側から娘の父親に贈物と結納金が送られ、正式な許婚者となり、このときから法的には妻と同様の権利と義務を負うのである。従って婚約中に相手が死ねば寡婦の権利がみとめられ、あるいはまた婚約者の不義は妻の不義と同じにみなされ、律法によって厳しく罰せられた。

ご托身の玄義をまだ知らされていなかったヨゼフの苦しみと、妻マリアへの配慮の深さがこのことからも読みとられる。婚約者は花嫁を花婿の家に迎える行列と、引きつづく饗によってはじめて結婚したものと認められた。ご托身の玄義をヨゼフに告げて天使は「ダヴィドの子ヨゼフよ、ためらわずにマリアをあなたの妻と迎えよ」と命じている。

私の娘

なでしこ

私には三人の娘がある。三人三様でわが子とはこんな物かと被造物たる娘の姿をつくづく眺めることがある。生命をわけた娘は三人だがもっと違った意味での娘は年々数を増して行く。

神の御計画は成る迄は私共人間には全く分らないが成って見るとああそうだったのかとびっくりする。

その一つに、私の心が忘け出すと、神は一人の娘をお 与えになる。親たる者、一人の子の誕生毎に、緊張し祈り、そして自分を潔めねばならない。之が私への神の御計画であり聖言葉であるんだな、とひそかに思いめぐらす。

霊的娘の健康上の苦しみ、又精神的なやみ或は家庭的心痛を次々に打ち明けられる時共に苦しみ、共になやむ事をよぎなくされる。始めはよぎなくしていたなやみ、苦しみが、今は全く身について、それが私 の生き甲斐 となっている。遥々海を越えて伝わって来る精神的なやみに御祈りの間に神は回答を下さる。早速航空便をとばす。でも私の手紙の着く前に神は直接、本人に回答を与えていて下さることがよくある。

この間も一人の霊的娘が何年か越しの心臓病をメスの力で解決しようと決心した。並々ならぬ大手術ですい分大きな危険が伴う相だ。御家族は「本人の気力丈けです」としみじみ心配していられる。御家族でなくても止められるものなら止めてもらいたい位気が気でない。

イエズス様が「この盃を」とゲッセマニの園で御祈りになった御心境がいく分でも分る気がする。自分丈けの力では祈り切れないので神父様方に御祈りの御加勢を御願いした。ああ今頃は手術台の上だなと思った丈けで私の心臓は痛くなる。現地調停に向う道すがら車の中で祈りつづけた。直方からかえったところへ御家族の方から無事七時間に近い手術も終って今酸素室に入っています、とのおしらせ、御本人は手術室へ入る前髪をゆわえる布の中にマリヤ様の御像を包んでおかれたとのお話、そして「とても落ついてニッコリとほほえみ乍ら静かな気持で手術室に入ったので看護婦さん達が驚いていました」と伺って聖恵みが見えた様な気がした。指先を切ってさえスキンズキンと誓うは痛い、ましてや人間の生命の根源たる心臓をメスで切りひらいたのだ。どんなに今夜は痛むことだろうと思った丈けで、私の心臓迄スキンズキンと痛む、床に入っても痛い。あっちへころがりこっちへむき直りして夜を明した。私が痛がって見ても何の役にも立たないかもしれないけれど、若しほんの一部分でも負担してあげる事によって霊的娘の苦しみが軽くなるものならそれでいいんだ、と一人合点して仕事に掛った。天主様は地球上に満ちあふれている似姿の一人一人に対し聖心を煩わしていて下さると思えば、大した数でもない霊的わが娘の一人一人の上に心の配れないなどと云うわけはない、天主様と一致するその筋がねを横に通せばいいんだ、と自分流の理屈をつけて、その実行を支えて頂くお祈りを、マリア様におねだりする事にしている。

御恵みはここに見えたり至難なる手術に向う君が勇気に十字架のそれにも似たる苦しみに耐え抜く力君与えられし

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円　七三〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六八〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　六五〇円
デイリーコンサイス英和辞典　革　三〇〇円　四三〇円
新クラウン英和辞典　縮刷版　五五〇円　六二〇円
ジェム英和・和英辞典　D大型版　八五〇円　一〇〇〇円
最新明解英和辞典　三八〇円　三五〇円
初級クラウン英和辞典　二〇〇円
初級コンサイス英和辞典　二〇〇円
初級コンサイス和英辞典　二〇〇円
三省堂　独和新辞典　七〇〇円
コンサイス独和辞典　六〇〇円
コンサイス仏和辞典　六〇〇円
コンサイス露和辞典　八五〇円
日西辞典　三、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、六〇〇円
英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、三〇〇円　二、〇〇〇円
新版広辞林　一、四〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四五〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）三五〇円
大明解漢和辞典　九〇〇円
明解漢和辞典　四五〇円
模範六法全書　六七〇円
明解六法　二〇〇円
学習百科事典（新版）一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　八〇〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

三省堂　福岡出張所
住所名変更　福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町

昭和30年7月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行　第98号

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十円

＝パウロ六世教皇書簡＝

祈とぎせいの実行に励め

公会議開催を前に強く勧告

教皇聖下は、九月一四日付で〝公会議開催を間近かに控えて〟と題して全世界の司教に勧告書簡を送り、第二次バチカン公会議がよき実りをあげるために、祈と痛悔にはげむよう次のように要請された。

▽ 第二次バチカン公会議の第二会期がはじまる日が近づいているこの時、私は前教皇がのこされた聖なる事業の偉大さを前に深い感動をおさえることができない。私はその模範と事業と指導の貴い宝を無傷で保つために、いかなる労苦も努力をもいとわない覚悟である。

▽ 昨年公会議開催に当って展開された驚くべき光景が私の精神にあざやかに残っているが、これは教会が常にわき立つ若さをもち、人々の心にさしこむたすかりの力と光を放っていることを、明らかにしたものである。第二会期が近づいている今も、万民の目は広い希望ともえる期待とをもってこの教会にそそがれ、教会がこの会議を通じて、現在の要求に答えて教導と規則と活動を示し、自分たちに時代に適した新しいより効果的な力を与えてくれることを待望しているのである。

▽ 私はこの大事業を遂行するに当って司教たちの貴重な援助とともに、全信者の祈と願望に支えられている。公会議はぼう大な内容をかかえ、しかもそれは教会の深い生命にかかわるものである。従って私は、信者たちがこれに対して心をふさわしく準備するよう熱望する。私は前教皇と同じく、信者が公会議にもっとも豊かな実りを神から頂くために、祈と痛悔の実行に励むことを、強く勧告する。

▽ 公会議の進行には人間的な努力が必要なことは言をまたないが、会議の機構やすぐれた議論や研究がその目的にわれらを導くのではない。公会議は聖霊のお働きであるから、絶えざる祈、聖なる生活、善業をもってそのお助けをこん願せねばならない。

▽ 祈としてどんな祈をとなえるかは各人の自由であるが、私は前教皇が公会議の成功のため作成された祈を用いることを勧める。私はまたローマ典礼のすべてのミサにおいて、聖霊の祈願文を加えることを命じる。

まず司祭、神学生、修道者が、そして一般信者もかれらにならず祈に励んでいただきたい。

会期中の諸儀式

教皇聖下はティツスラン枢機卿（公会議議長団主席）に書簡を送り次のように発表された。

本会期中に聖ペトロ大聖堂でいくつかの列福式を挙行し、一〇月二三日布教の日に布教国の一四名の司教の叙階式を肖り司式する。一〇月二八日には前教皇の記念追悼式、ついで一一月四日にはトレント公会議の神学校設置の決議四〇〇周年記念祭、そして同九日にはラテラン大聖堂で教皇着座式を行なう。

〝修道と苦しみの奉献〟

教皇　修道女の病院を訪問

教皇聖下は、八月二二日朝、教皇夏期別荘に近いアルバノの使徒の元后ホーム（聖パウロ女子修道会所属、病気療養の修道女のための施設）を訪問してミサをささげ説教なされた。

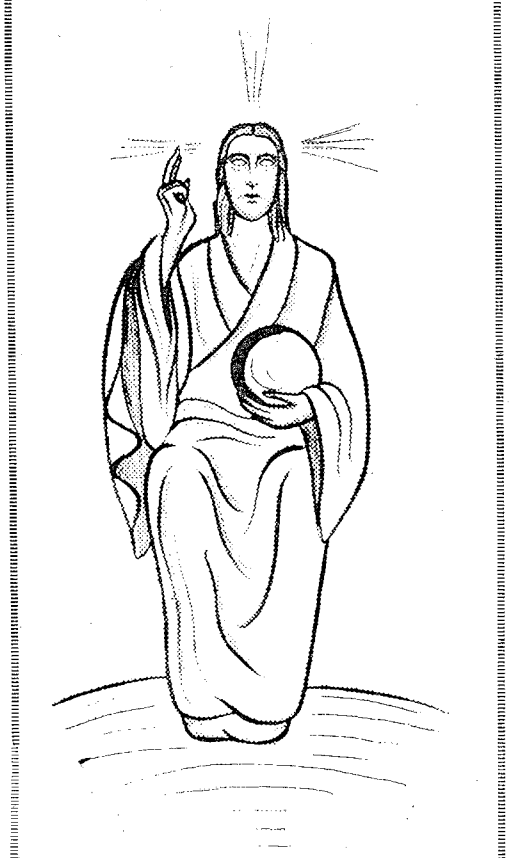
教皇は、修道女たちにかの女らの修道生活と苦しみの生活という二重の奉献についてお話しになった。

この二つのものは人間的にいえば、相反しているように見える。修道生活は、自分の生活を役立たせ、愛徳事業や祈りや兄弟たちへの奉仕にささげ、すぐれた創意において内容ゆたかな活動にむけられている。これに反し苦しみの生活は、長期の療養を強いられて、やるせない無活動を余儀なくさせられている。

犠牲や苦しみは、自己を完成させ主張しようと欲する者を打ちのめし傷つける。しかしながらキリスト教的に考えるならば、この第二の奉献は、決して無益なものでなく、無限に貴重なものである。

聖アウグスチノは「汝らは苦悩の効用に鈍感になった。されば、いともみじめなものとなった」といっているが、人間は、疲労、苦痛、涙、不安、死の値いを理解しなくなったとき、重大な損失をこうむるのである。

ある人は絶望のうちに苦しみつづけ、ある人は忍耐とあきらめをもって苦しみに対するであろう。しかしキリストを知り、キリストに従っている者は、愛をもって愛によって苦しみを迎える。



王たるキリスト

聖体礼拝（一〇月）

第一日曜　呼子教会
第二日曜　崎津教会
第三日曜　カルメル修院
第四日曜　高宮教会
手取教会
隈府教会

祈禱の使徒会（一〇月）

【一般意向】　教会の迫害者の改心
【布教意向】　邦人司祭の養成事業

世の光

信心業について

一〇月はロザリオの月である。今月中（一〇月一日から一一月二日まで）毎日、教会または家庭においてロザリオ唱え、それに「聖マリアの連祷」と「聖会の保護者なる聖ヨゼフに向う祈」を加えるようすすめられている。

マリア様の度重なる御出現により、また歴代の教皇によってくりかえしすすめられるロザリオの信心業はどれだけ実行されているだろうか。ロザリオの月を機会に、個人的信心業一般について反省してみよう。

信心と信心業

個人的信心業の省略の原因は、多忙ということもあるが、大抵の日実のうちには形にとらわれまいとする誤った進歩主義がひそんでいるようである。

信心と信心業とは目的と手段のようなもので、もちろん混同されてはならない。信心とは信仰して祈念することで、信じきったものにいよいよ深く帰依する、自分の一切を献げつくすことである。神に対する信心とは、私たちの全生命を神に献げつくすことで、その意味で完徳に結びついている。宗教は人間を神に帰すうさせるものであるが、その中にあって祈念による神への帰すうをめざすのが、信心である。

信心業とは祈念の行為である。この祈念を表わし、また獲得する手段である。そして限られた人間の行為であるので、完全な信心をめざすために種々異なった形をとるのは当然である。先教皇ピオ一二世は、「神と人との仲介者」（一九四七年）という回勅の中で教会が信者に極力、勧めてやまない信心業の主なものとして、念祷、良心の糺明、黙想会、朝夕の祈、聖体訪問、聖母への信心などをあげている。

もちろん信心業の堆積が信心の人、聖人を作り出すのではない。しかし内部に充満している信心は自然に信心業の形をとって外に表われる。神に対して恩を感じている人は自然に朝夕の祈、折あるごとの種々の祈を口ずさむようになる。

また逆に信心は信心業によってますますその熱度をましていく。一例をとれば、神への奉仕に熱心さが足りないのは、単なる思い、漠然とした望みだけで、キリストを深く知るための聖書奉読、霊的読書、よくまねるための犠牲、いわゆる信心業が伴わないからである。

信心業とミサ

個人的信心業をないがしろにするいまひとつの口実はミサである。必要な信心はすでに日曜日毎のミサ拝聴によって果され、完成されているのであって、殊更に一信者の、しかも個人業に頼るのはこりすぎではないかというのである。

なるほどミサが典礼の中心であり、その典礼とは、キリストの神秘体である教会が、団体でその頭キリストと共に御父に捧げる礼拝であることを思えば、この異論にも一面の真理が認められる。

しかし真のミサ拝聴は、個人的信心業なしには期し難いし、また真心からのミサ拝聴は自然に、各信者の個人生活の中に、個人的信心業の形をとって表われてくるものである。

まず個人的信心業は熱心なミサ拝聴を準備したける。ミサに実際に参与するためには、そこにおいて司祭であり、いけにえであるキリストへの全き一致が必要である。キリストとの一致をとげるためにはまず、キリストの奥義を知らねばならない。この準備はミサ中の書簡、福音の朗読、説教などによって与えられているが、これで果して充分といえるだろうか。

外にも聖書奉読、霊的読書などによる「絶えざる学び」が必要ではなかろうか。またキリストとの一致のためには、毎日の生活をキリストと共に生きることが要求される。キリストと共同の生活は、ひんぱんな告白を通じて聖霊の浄化を求め、犠牲によってキリストに合わせ、聖体訪問によってキリストと共に聞き、ロザリオを通じて御母と共に奥義を再び生きることによって、なしとげられていく。

つぎにミサが真心からの礼拝、神への帰依であるならば、必ず各人の生活の全部に及ぶはずである。ミサによる礼拝の理由は、神がすすめられたロザリオの信心業から私たちの自然的、超自然的生命のはじめる。（岩村清太）

ロシアの回心のため祈ろう

ティッスラン枢機卿演説

このほどポルトガル・ファチマに新築されたビザンツ式典礼の礼拝堂の献堂式で、ローマから参式したティッスラン枢機卿は、祝賀演説のなかでロシア国民の宗教心について次のように述べた。

ソ連では、宗教は一九四二年以来、寛大に扱われることになったが、根本的な反教会的理論は変らないでいる。それにもかかわらず成人の洗礼、宗教的結婚、および召命はますます多くなりつつあるソ連当局はこれからも宗教の実践を抑圧しつづけるかも知れない。従ってわれわれは、聖母がファチマで求め給うた「祈とぎせい」を果してゆかねばならない。この祈は無益ではない。なぜならロシア国民はますます宗教的になりつつあるからである。

ロシアの回心は、聖職者と信者が敬けんをまして、マリアの取次ぎで祈ることによって得られるであろう。

シベリアのイルクースク出身のカトコッフ司教は、東方式典礼によるミサ中、次のように説教した。

「この礼拝堂は、ロシア国民の信仰、愛、信心の証拠であり平和、への希望の灯台であり、またカリック教会はすべての典礼、人民、文化、伝統を抱擁することを思い起させるものである。

「ロシアには聖母巡礼地がたくさんあり、聖母は〝ロシアの母〟として崇敬されている。この礼拝堂は、東と西を結合したこのファチマとロシアとのきずなを強める。なぜなら聖母は、ファチマの御出現中に、はっきりとロシアに言及されたからである。

一〇月　ロザリオの月

二日（水）　守護の天使の祝日
神はみせつりをもって、この地上のわれわれを天使によって守らせ給う。大天使聖ミカエル（九月二九日）は教会全体の守護者、そしてわれわれ一人ひとりにも守護の天使が与えられている。

三日（木）　幼きイエズスの聖テレジア童貞（布教の保護者）
かの女の「幼な子の道」は、福音の教えをもっとも端的にわれらに示し、現代思想の毒気にあてられているわれらに清新な力をそそいでくれる。

四日（金）　アシジの聖フランシスコ証聖者
フランシスコとテレジアのあいだに非常に深い所で共通点のあることは明白である。
キリストに従うためにすべてを捨てること。とくに自己自身を。そしてもっとも快決なよろこびのうちに、キリストのお苦しみを生きること。

六日（日）　聖霊降臨後第一八の主日
良心の平和は心と身体の健康の第一の条件である。多くの人はこの条件を欠けているため、薬でいやすことのできぬ病いにとりつかれている。

七日（月）　ロザリオの童貞聖マリアの祝日
「ロザリオの祈は、福音全体の概略であり、聖なる奥義の観想であり、美しいささげものであり、家庭の要望であり、天のめぐみの誓約である」（ピオ一二世教皇）

一一日（金）　神の御母なる聖マリアの祝日
「永遠の御父の御子を宿し給いし処女マリアの胎は幸いなるかな」

一三日（日）　聖霊降臨後第一九の主日
聖パウロは「新しき人を着よ」とすすめている。われらは、洗礼のときにキリストの精神を象徴する白衣を身にまとったが、審きの庭にいたるまで毎日、キリスト教的徳の実行、とくに愛とけんそんを実行しなければならない。

一五日（火）　アヴィラの聖女テレジア童貞
カルメル修道会の改革者、神秘家、一五八二年帰天。

一八日（金）　福音史家聖ルカの祝日

二〇日（日）　聖霊降臨後第二〇の主日　布教の日
御父は永遠の愛を告げさせるため御子をこの世につかわし給うた。御子キリストは福音宣布のため、使徒を全世界に派けんし教会は信者に布教の義務の一部を負担させる。

今村教会で聖体行列

二三日（木）　聖アントニオ・マリア・クラレット証聖者
聖母の汚なきみ心の修道会創立者。キューバのヤコボ教区の大司教。一八七〇年帰天。

二五日（日）　王たるわが主イエズス・キリストの祝日
武士は主君に絶対に帰依し、仕えることをもって本分とした。われらはキリストを全人類の王とあがめ無条件に服従する。
新田原教会で聖体行列
天草殉教祭（於本渡市）

二八日（月）　聖シモン・聖ユダ両使徒の祝日

霊的花束をもつてローマへ

いのりをこめて司教お見送り

深堀司教は、第二次バチカン公会議第二会期に出席のため九月二〇日博多発のあさかぜで上京、二三日午后五時半、国内の全司教らとともにスカンヂナビア航空で南廻りローマに向った。

福岡出発に先立ち午后三時、多数の司祭、修道者、信者が福岡市大名町教会で司教司式の聖体降福式にあずかって、全教会のため重大使命を果す司教の上に聖霊のおめぐみを求め、ご旅行のご無事を祈った。式後、高座に坐した司教に向って棚町正刀師があいさつ。

ついで司教は「公会議こそはまことに聖霊のみわざであり、すべての司教たちがそこで永遠との接触を感じた。公会議は、神のさしずのもとに全人類の永遠のたすかりをはかるものである。みなさんは祈ときせいをささげて神のお助けを願い、公会議の成果のために祈って下さった。みなさんはこうして精神的に公会議に参与しておられる。私は教区全体の霊的花束を教皇さまに奉呈いたします」と送別のことばをのべた。

司教が教皇との個人謁見のとき献呈される教区からの霊的花束の集計は左の通り。

公会議のための祈　一三、六六二
ミサ拝聴　一七、九九三
ロザリオ　二三、五〇七
十字架の道行　一三、五五三
聖体訪問　二二、五六三
告白　一三、九六九
聖体拝領　七八五
小斉　一七、三六七
ほどこし　一七、一七二
自己犠牲

なおお銭別として集められた献金は二〇四、四六六円に達しそのなかからポータブル・テレビを購入、教区よりの贈物として布教聖省に贈られる。

深堀司教ロマー滞在中の宛名は左記の通り

Norland Hotel
via Alciato
Roma, Italia

「シラクサの涙の聖母」

信心普及のため小冊子発行

イタリアのシラクサ市で起った「涙の聖母」の奇跡一〇周年を記念する特別ミサが、九月一五日聖母マリアの七つのお悲しみの祝日に、佐賀県鳥栖教会で行われたが主任司祭スプリリオ師（ミラノ外月一三日南イタリア地区の司教会議でまことの奇跡と確認されて以来、涙の聖母に対する信心は徐々に世界各地に普及していった。

今回発行された小冊子には深堀司教も一文をよせており、また司教館応接室には奇跡の聖母像と同型のものが安置されている。

同信心の普及のためスプリリオ師は小冊子をできるだけ多くの教会、信者に配布するので、希望者は左記に申込むとよい。

佐賀県鳥栖市本通町
カトリック教会
スプリリオ神父

涙の聖母の像

この奇跡は、一九五三年八月二九日シラクサの一若夫婦の家にかざってあった聖母の汚れなきみ心の壁掛御像から人間の涙が流れ、四日間にわたり多くの群衆がそれを目撃した。同年一二月の直前、小教区設置を認可し、師が初の主任司祭に任命された。

新小教区は今村教会から小郡町と太刀洗町の一部（西太刀洗）をうけつぐ。信者数は少いが布教地として大いに期待されている。祝別式は司教が公会議から帰ってからとり行われる予定。なお工事担当は福岡高山組。

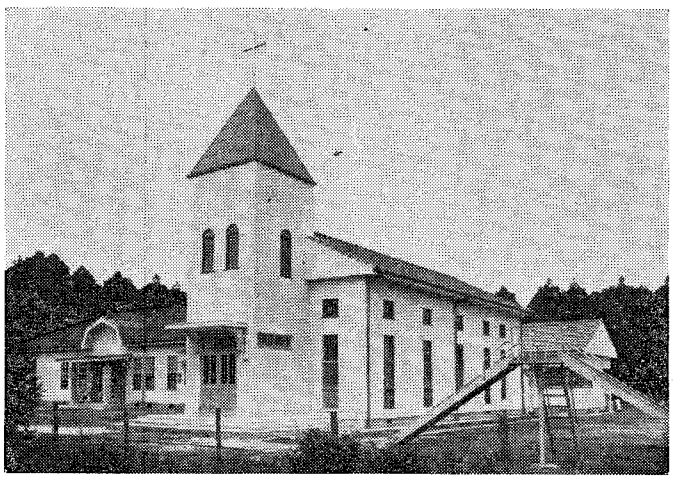
森のなかに白亜の聖堂

小郡教会誕生

福岡県三井郡小郡（おごり）町で、西鉄急電小郡駅から徒歩一〇分。ひろい筑後平野の一角、杉林をバックに白亜の聖堂がくっきりと浮びでている、聖堂は一一六平方メートル、司祭館は六七平方メートル。

司牧に当る岩永義人師が幼稚園に去る六月から着工していた聖堂と司祭館は、予定よりやや遅れてこのほど完成、小数区小郡教会として発足した。

場所はすでに昨年四月からカトリック幼稚園がひらかれている所



小郡カトリック教会

こんたつのおらしよ

明治初期宣教師の手紙

明治のはじめ長崎浦上の信者が一人のこらず流罪にあい、それぞれ各藩におあずけになったとき、島根県の津和野（亀井藩）に送られた人々の頭にドミニコ仙石衛門という人があったことはよく知られているかれがまだ獄にあった間すでに長崎にきていたフランス人宣教師J・ロカニュ神父は、信仰のため苦しんでいる人々を励ますとう仙石衛門あてに見舞状を送った。このことは浦川和三郎の浦上切支丹に明らかであるが、この手紙を保存している高木義人氏（仙石衛門の孫、熊本市島崎町在住）が最近、同書を見事に装ていされたので原文のまま（浦川師のものは可成り現代訳してある）転載させて頂いた。どうして手紙が牢中のものに渡ったかについては多分あとから流罪された家族のもの手をへたのであろうとの意見がつよい。なお手紙は明治四年に書かれたことが他の文献によって知られる。

ぜずす　まりあ
よせふ　せんをもん

われのかなしみのなかにあなたのことをききましたによりて、たくさんよろこびました、天主さまのがらさにはまだかいしんせずにおりますこと天主さまにおふきにありかとふそんじたてまつる、とふぞこれからもしぬるじぶんまでよふぶなれがし、しまいまで天主まさにはめておりませぬが、ながくじよふぶなりておりましてもやくにたちますまい。ただあなたとまたあにまをたすけませうとのぞむいづれのほかのひとも天主のがらさなくしてじよふぶになることいつこうもかなわずとわするることなかれ、やまずにそのちからを天主様よりねがうてまた天主はあなたがたのねがいをあたえてくださるるよふによきこころをもってねがいなされ、かくだんにあなたがたをせむるものをたとへばきりしたんでありましてもうらみることなかれ、御主ぜずすきりしとと共にくるすのうえにおりまするとおもうて御主さまのこころをもってきりしたんのなんぎのゆへとなるひとまでもあいしてそれらのためにたのみなぎるべく、いかにせめがあってもつみとがのつくのいとおもっていんべるのくるしみにくらべてみればたのしみにするべきこととかんがえておわりなきくるしみにばかりおそるるべし。あなたのひとはこれ、わすれてころびましていっときのしきしんのなんぎをかるるがためにおわりなきくるしみをうくるふにになるとみてかなしむべし。あれらのためにまことのかふくわいをもって天主にたちかえりたてまつるふにねがわねばなりません。ころびましたものつくのいのためにあなたのくるしみ御主さんたまりやさまのくるしみとともにささげてあれらが天主様にそむきまることたくさんかなしうおもいなさるべくたまあなたがたまいっぺんばてもるあふてさがらめんとうくることはなはだのぞみまいるとききましたそれはでくるふに天主さまははかろふてくださるるよふにひたすらにねがいなされ、これらもあなたとともにまいにちそれをねがいまする。けれどもたとえばさからめんとうくることかないませずにさいごにおよぶ八人あらばかなしみなさるな。こんびさんのさがらめんとうけることかないませんによって天主さまはたっしたるかうくわいをあたへてくださりませふとたのもしくにおもいなされころびませんものなれはすこしもきづかいがあるべからず。そむきましたものも天主にいっしんからたちかえりましてまことのかうかはいをねがいますればつみのゆるしをうくるべしとうたがいなし。かくだんにあにまのたすかりをなげく人はさんたまりやのおんとりあわせたのむべし。またさんたまりあ様のごおんうけるがためにだいいちのつとめといふはこんたつのおらしよでござりますればやまずにそのおらしよつとむるべし。このおらしよをもってきりしたんがたびたびだいじなるごおんうけました。あなたがたもさんたまりや様のごがげをもっててんぐにかつべしとたのもしくおもいます。さんたまりあ様のごたすけをもってにつほんのきりしたんいつまでもきへずにつたえたによってさんたまりやさまのごかげをもってまた一ぺんさかるべしとたのもしくにおもいますなり、あなたがた一人のこらずばらいぞへみちびいてくださるるよふにねがいたてまつるかつまたきよねんの五月十一日にけい三ぶろからくにこにてしにました。それをけいさぶろうのために天主様のごおんとおもうてかなしみなるな、けんたろうがくこうにおいてよくつとめまする。このよにまいっぺんこどもとともにありますることかないませんならばどふぞばらいぞこみな天主様のまえであいまするよふにこいねがいたてまつる。

四月十一日

よふぜふ
せんえもん様
せんえもんとともにおる
ひとびと様

要理教授法講座

第二期はじまる

布教の第一線ではたらくカテキスタ（要理教授者）養成のため去る四月から開かれている要理教授法講座は、七月はじめに第一期を終了、第二期講座は九月二一日から再開された。講師は前期と同じくラベル、平山両師、福岡双葉学園で毎土曜日午后一時から三時まで二講義。すでに修道女、一般信者ら数十名が聴講しているが、希望者はいつからでも出席できる。

第二期講座のプログラムはつぎの通り。

一、布教段階　（一〇時間）

(1) 使徒達のケリグマ、中心思想は皆同じであるが、その宣布の方法は二つに分けられる。

(2) 救いの御計画（I）

(3) ケリグマの特徴

(4) 救いの御計画（II）

(5) 改心（I）言葉の意味

(6) 救いの御計画（III）

(7) 改心（II）

(8) 改心（III）改心への障碍

(9) バンコック要理研究週間による要理教育の七つの指針

(10) 改心（IV）

二、いわゆる要理授業の段階（二二時間）

(11) いわゆる要理授業についての簡単な解説

(12) 如何にして授業の準備をするか

(13) 神についての正しい観念

(14) モデル授業

(15) 神に召されたことの偉大さ即ちわれわれに対する神の愛、神はわれわれを創り給うた。

(16) モデル授業

(17) 神はわれわれにあらゆる種類の聖寵を与え給い、われわれを聖化される。

(18) モデル授業

(19) 原罪

(20) モデル授業

(21) われわれの救主なるイエズス・キリスト―御托身の神秘

(22) モデル授業

なお本期最終講義は二二月一四日である。

天草殉教祭ご案内

木渡市で毎年行われます天草殉教祭には、教区のみなさまからあたたかいご協力を頂きまして、私たち教会関係者はもとより本渡市民は心から感謝いたしております。今年は本祭典を一〇月最終の日曜日、王たるキリストの大祝日を期して挙行しますが、平和の王として十字架上にいけにえになり給うた聖主と信仰の証しとして自らの生命を主にささげた殉教者を、共々に賛美したいと思います。

どうかみなさま、私たちの趣旨をおくみとり下さいまして、例年通り多数ご参加下さい。

記

一〇月二六日（土） 前夜祭　午後五時半
1 ミサ聖祭　教会境内のルルド洞窟前にて
2 聖母ローソク行列　ルルド洞窟より市内一巡

一〇月二七日（日） 午前一〇時半
1 荘厳ミサ　于人塚にて
2 聖体行列　于人塚より市内一巡して教会まで

雨天決行

船賃の割引および宿泊 については、早目に当教会にお申込み下さい。

二七日（日）の中食は当教会で準備いたします。

行事終了より帰りの船までは十分時間があります。

熊本県本渡市木戸馬
カトリック教会
ライル神父

熊本クリア黙想会

レジオ・マリエ熊本クリアでは九月二一、二二の両日、八代教会で長崎のイエズス会司祭を迎えて黙想会をおこなかった。正会員、賛助会員ら九〇名が参加して奪発のおめぐみを祈り、決意をあらたにした。なお宿舎、食堂には白百合学園があてられた。

熊本学士会員も

熊本カトリック学士会員一三名は深堀司教が堅信授与で来熊されたのを機会に九月七、八両日、菊地市で静修を行った。

小家族構成が流行している現在、よほどしっかりした教育をしないと、子どもはだめになります。正しい教育のあり方を示した

小出神父著
「新しい教育」
五〇円　〒一〇円

「一人一人に寄り添う教育」
四〇円　〒一〇円

を是非お読み下さい。
二冊一しよに御注文の砌は送料共一〇〇円切手、小額カワセ同封にてお申込み下さい。

広島市古市局区内古市一四八八
テレサ出版部
振替　一四二八八

聖心の使徒（昭和38年10月号）

表紙　「王たるキリスト」　湯崎夫沙子画
十月の意向　すべての心の王　彼らのためにも祈らん　下山　正義
邦人司祭のため―聖ペトロ会の事業（十月の布教の意向）　粕谷　源蔵
黙想　朝の奉献　河野　義祐
病める友へ　勇気　十字架のイエズス修道女会
ポーランドの雪どけ？　高橋　憲一
写真特集　信仰は活きている　チェンストコヴァの黒い聖母　O・デ・バタリア
共産圏における唯一のカトリック大学　粕谷　源蔵
十月の聖人　民衆の母　辰野　太郎
口をつぐむシュエネンス枢機卿　ロザリオを家庭で　クシング枢機卿　大平　茂樹
自然の驚異（二十二）　H・ムシャレク
新本めぐり
ポスト
購読料　一カ月　五七円　一カ年五七〇円…〒共

日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾井町七

カトリック教理

第四戒　汝、父母を敬うべし

人間は社会のうちに生きる

一、共同生活をいとなむわれら

あなたが毎日つかっている石けんの一つをとってみても、これが製造されてあなたの手に入るまでには、実にたくさんの人が働いています。私たちは、ひとりでは決して人間らしい生活を送ることができない者です。自分だけで家を建て、食べ物をつくり、色々な知識をえることは不可能です。多くの人と交わり、助け合い、能力を提供し合ってはじめて私たちは、幸福な生活をいとなみ、永遠の目的に達することができます。私たちは、ちょうど一本の根から出た大木のようなものです。

二、色々な共同体

(1) 家族という共同体――だれにも父と母があり、父母がいなければこの世に生れ出ることはありません。家族というものがこの地上での生活のもっとも深い根です。あなたは家族のなかに自分から入っていったのではなく、木が土のなかの根から生えるように、家族から生れ出たのです。

あなたが属している家族という根は、ほかの根にもつながっています。

あなたは自発的にそうしたわけではないのですが、生れると同時に、××市（または町、村）の住民であり、日本国民であり、人類という大きな共同体に属します。またあなたが洗礼をうければそこの教会の信者となり、カトリック教会の霊的子供となって諸聖人との交わりにも加えられます。

(2) 自分で選んで入る共同体――ある少年は体をきたえ規律になれ人に奉仕するために、ボーイスカウトに入ります。ある少女は音楽が好きですから放送局の合唱団に加入します。労働者は自分たちの仕事を守るために組合を作ります。このように私たちはそれぞれの必要に応じて共同体をつくります。

共同体というのは同じ目的をもった人の集りですが、そこには必ずず全体を運営してゆく責任者、みなが守るべき規則、仕事の分担があります。この秩序がなければ共同体は意味もないし、すぐつぶれてしまいます。

三、共同体での義務

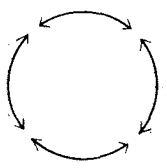
共同体には秩序がいると申しましたが、これは義務を守ることです。共同体にとって根本的な義務をつぎの三点から考えてみます。

(1) 共同体に所属する者（メンバー）が相互いに守るべきこと。

各メンバーは決して自分のことだけ考えてはなりません。車を運転している人は、他の車のこと、歩いている人をよく見て、交通規則に従う義務があります。そうしないと事故を起して大変なめいわくを及します。家庭内や学校、公園や職場でも同じです。食事中には無作法をいましめ、商売している人は買う人の身になり、一国の政治家は他国の利益を忘れてはなりません。

しかし実際には自分の利益しか眼中におかない人がどれほど多いことでしょう。だからこの世界にはいがみ合いや争いや戦争がたえません。

私たちは自分の権利を守ると同時に、他人の権利をそっちのけにしてはなりません。しかも権利と義務を正確に守る以上に、愛と親切をもって他人を尊敬し、暖かい交わりをつづけるよう努力せねばなりません。愛は機械のじゅんかつ油のようなものです。



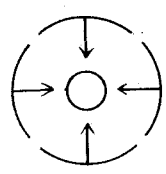
第一図　共同体のメンバー相互いの義務

(2) 共同体に対して各メンバーが守るべきこと

消防自動車が火事場に急行しているときには、他の車は道をあけねばなりません。市長さんでも車にのっているときは、交通巡査の指示には従います。

私たちが図書館に入ったときは本を大切に取りあつかい、おしゃべりはしないことです。でないと図書館は誰にも利用できなくなるからです。私たちは共同の利益をめざして協力し、それを損うものを捨てねばなりません。

共同体のメンバーは責任者に協力し、指導に従います。命令がなくても積極的に全体の利益のために力をつくす心構えがほしいものです。報酬を度外視して人々のために隠れてつくす業が、社会を明るくし人類の幸福をおし進めるのです。

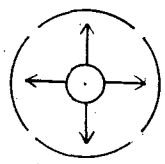


第二図　共同体に対するメンバーの義務

(3) 共同体そのものがメンバーに対してなすべきこと

共同体というものは、それ自体目的をもたず、ただメンバーの利益のために存在するものです。

私たちはばらばらでは力がよわく、限られたことしかできないからこそ共同体をいとなむのです。だから共同体はその大きな力をもってメンバーを援助するのは当然です。政府は道路をつくり交通規則をきめて、すべての人の便宜をはかります。また社会福祉を進めて、不具者や貧しい病人、母子家庭などを助け、子供たちに遊び場をもうけねばなりません。しかし利益の配分を公平にし、一部の人にえこひいきをせず、すべての人の人間としての品位と権利は絶対におかしてはなりません。



第三図　各メンバーに対する共同体の義務

父母

一、父母は神の代理者

私たちは、自分ひとりの力でこの世に生れてきたのではありません。神から直接に創造されたのはアダムとエワ（人祖）だけで、ほかの者はみな、両親から生れました。神は直接に私たちをお造りにならないで、両親に自分の全能のお力を分け与えられ、この両親が子供に生命を与えたのです。

なおまた神は、ご自分の無限の慈愛を両親の心にお伝えになりましたので、両親は子供たちにこの世でもっとも純粋な愛をそそぎ、力の限りあなたを幸福にしよう、となさるのです。親の愛情がなければあなたはとっくに死んだはずです。両親は神に代ってあなたに生命を与え、愛情をそそぎ必要なものを下さったのです。ですから父母は子供にとって神の代理者です。

二、最高の恩人

両親があなたを今日まで育て上げるためにどれほどの苦労をはらってこられたか、考えてごらんなさい。生活費をうるため父親は仕事をいとわず働き、母親はみなが楽しい毎日を過せるよう日も夜も心をくばっておられます。あなたがまだ小さかった頃にはなんでも親にしてもらったのです。体のつかれにもまして精神的な苦労は、とうていはかることはできません。私たちは心の中に手を合せて父母に感謝いたしましょう。

三、天国への案内者

両親はあなたの生命を養いそだてる外に、もう一つさらに尊い使命を神からさずかっています。それは子供を天国にみちびいてゆくことで、教会で司祭が果す役割と非常に共通しています。

実際あなたは教会で教えられるまえに、両親から神のことを聞き朝夕かかさず祈ること、毎日曜日にミサに行くことを教えられました。一つ一つについて善悪の区別を示し、我ままをすてて神のおきてに従うようすめてくれたのも両親でした。

父母は、あなたが神のよい子供になるようみちびいて下さったのです。

四、イエズスの模範

世界を造りつかさどり給う神の御子は、人を救うためにマリアを母として生れ、ヨゼフと共に三〇年間ナザレトでお過しになりました。宇宙の王にて在すイエズスはマリアとヨゼフに従い、ふかい尊敬と愛をおささげになりました。なぜでしょう。それは人となってお生れになったから、お二人を両親としてうやまい、従い給うたのです。従うことは、イエズスにとって決して不名誉なことでもはずかしいことでもなかったのです。

イエズスでもそうでしたから、私たちが両親をうやまい、愛し、これに従うのは当然です。

兄弟姉妹。友人

兄弟姉妹

一、神のめぐみ

私たちが兄弟姉妹と一緒に生活できることは、神の大きなおめぐみです。兄弟も姉妹もいない人はどうでしょう。

学校から帰ってきてもたったひとりです。弟や妹たちに学校できた面白いお話しをしてあげたり世話をしてあげるよろこびはありません。兄さんや姉さんから色々なことを教わることもできません。

兄弟姉妹があれば一緒に遊びに行ったり、ゲームをしたり、工作をして楽しむこともできますし、お互いに欠点を直して、正しい、心の強い人になるよう助け合います。ひとり子というのは、とかくわがままになりやすく、物おぼえが悪く、社交性にとぼしく、他の人と楽しく歩調を合せることがへた、なんでも自分中心にする傾きがあります。職業についたとき、結婚生活に入ったとき、これらの欠点が目立ってきます。反対に兄弟姉妹のなかでよくもまれた人はいい父親、いい母親になれます。

二、助け合いのよろこび

父母についで一番に近い肉親は兄弟姉妹ですから、多いほど何かと頼られ、頼ってゆけます。両親が亡くなったときなど、兄がいると父代りに幼い弟妹の世話をしてくれます。

そうでなくても兄弟姉妹は、相互いに足りない所をおぎなうことができます。姉や妹は家事をよくやってくれます。兄や弟は力仕事をしてやり、電気器具の修繕もできます。それぞれに趣味や能力が違いますので、ひとりっ子よりも多くの点で助けられ、それだけ広い視野をもつようになります。

三、ゆずり合い

兄弟姉妹は大きなおめぐみですが、一緒の生活がいつも楽だとは限りませんので、みながまんをし、ゆずり合い、不きげんを顔に出さないようきびしく自分をおさえる努力がいります。権利をはっきり主張すべきときもありますがだまって引っこむ方がいい時があります。少しでも損をするのはいやだと思っていると、兄弟間がまるで敵同志のようになって、毎日地獄の苦しみを味うことになります。

兄弟姉妹がむつみ合って楽しく過すための第一の条件、それは愛であり、お互いの幸福を心から願うことです。

この愛は心の中だけでなく、外にあらわすようにしましょう。荒々しい言葉づかいや態度、皮肉やけいべつ、責任のなすり合いをせずかえって兄弟たちの失敗をかばい、慰めの言葉をかけ、力づけてやりましょう。

兄や姉は決して幼い弟妹の前で悪い手本をみせてはなりません。かえっていい模範をみせなさい。かれらはなんでも年上のすることをまねしますから。そしてやかましく言わないで幼い者の相手になってあげなさい。

友人・友情

一、友情

私たちは兄弟、姉妹、親族は選ぶことはできませんが、友人は選ぶものです。ごく小さいときには遊び友だちはありますが、本当の友というのはこれと別です。一三才頃から人間の魂はつばさをもって飛び上ろうとします。なにか高い理想にあこがれ、心をひきつけるものを探し、すばらしい境地に達している人に近づこうとします。こういうときに真の友情が生れます

二、二人のよき友

友情に結ばれた二人は互いに尊敬し、それが二人を支え幸福にします。一緒にいることを望み、共通の経験を求め、忠告し合い、心の中をひれきします。手をとり合って立派な人間になるようにつとめ、困難に際してもよく励み合います。よろこびにおいても苦しみにおいても忠実で、デリケートな心でふれ合います。友情が深まるにつれて、二人はよく祈り合い、神の道を真直に進んでゆきます。

友情を獲得するためには、次の点に注意しなければなりません。

相手の外面的なものに重きをおかないこと。お金をふんだんに使うとか、きれいな洋服をもっているとか、そんなことにひかれて結び合っては決して友情は生れません。二人はもっと深い真剣な所で共鳴すべきです。

また相手を利用し、自分の利益をさきにするならば、そこには友情よりもねたみ、しっとが起るばかりです。友情のなりそこないは憎しみを生むだけです。

三、友情を深める

まずあなたの人格完成をはかりなさい。立派な人間になればなるほど、いい人を友にすることができます。誠実でありなさい。そうすれば友はあなたに信頼するでしょう。友がしあわせであるために最善をつくしなさい。あなたはそれだけ無欲になり、二人のきずなは純粋になるでしょう。

心は少しづつ開いてゆきなさい。かたつむりのようにからの中にとじこもっていては、誰も近づいてきません。しかし相手かまわず、初対面から心を開放しても、軽そつすぎます。

はじめから完全無欠な友をえようと思っても無理です。私たちは友情によって理想に向うのです。

キリストを友としなさい。そうすればあなたたち二人の友情は岩のように固い、そして聖なるものとなるでしょう。

思索の秋・読書の秋に！

◆ イエズスとの出会い
J・モンステルレ著　渡辺義愛訳　¥500

◆ 霊の糧 第1巻 第2号　荻原晃著　¥各800

◆ すさまじき愛　M・E・ボイラン著　佐伯わか子訳　¥550
〝汝らの天父の完全なる如く、汝ら完全なれ〟すべての信者の義務となった、キリスト教的完徳を容易にするのは、日々の黙想霊的読書にあります。
キリストをよくよく知り、神の愛にはぐくまれて、生き生きとした霊的生活をするために好適な熟想書。
一般信者、修道者向き　（中央出版社）

新刊案内

光の通う道　ジナ・サッフィリオ著　大滝玲子訳　近刊
私の進むべき道は、人生の辻に立って、その前途に開かれた多くの道！本書は若き女性におくる人生案内書　（ユニバーサル文庫）

現代の使徒職の道
―在俗修道会―
ヨゼフ・M・ペッリン著　ペトロ・ハイドリッヒ訳
現代の要求に応じて生まれた在俗修道会とは？その使命と精神とを総括的に述べている。
（中央出版社）

真理は声なく
われらのうちに語る
（キリストに倣いてより）

万町電停前　岩田屋6階
聖パウロ書院
セント・ポール・コーナー

典礼シリーズ

㉚ パーテル・主禱文

ラプラント

歴史

主イエズスが自らお作りになったこの主禱文は、私たちすべての祈のモデルとして公けに残されたただ一つの祈です。「汝らが祈るときには、かく祈れ」（マテオ六の9）。信者たちはすぐ個人的にこの祈りをとなえはじめました。おそらくミサでもとなえたでしょうが、最初の三世紀はどうであったか確かな証拠はなく、ミサでこの祈をとなえていたとの一番ふるい証言を与えているのは第四世紀聖アンブロジオ、アウグスチノ、イエロニモです。

位置

第六世紀までは聖体拝領のすぐまえパンを割く式につづいてとなえられ、今日でもミラノおよびいくつかの東方典礼が その通りです。ローマ典礼では大聖グレゴリオ教皇（六〇四年死）がその位置を、典文のすぐあと、オスチアを割く式のまえに変更しました。同教皇はその理由として「単なる教会の学者たちが作った祈を典文の間にとなえているのに、われらの救主の祈を聖変化からこんなに離してとなえるのはふさわしくないから」と説明しています。

この理由の外に私たちは「主禱文の前半部の願いは神の光栄にむけられているが、これはミサ典文の見事な結尾ともいうべきものである」との聖アウグスチノの説明にも同調いたします。

典文のすぐあとでは気を散らす行為も少く、全く静かですから、聖変化された多くのパンを司祭たちが割いている間に主禱文をとなえるよりも、確かに信心にプラスしました。

典礼上の役割

聖グレゴリオ教皇があげた理由はともかくとして、ミサ中の主禱文は第一に聖体拝領の準備になります。教父たちは「我らの罪をゆるし給え」という一句を大いに強調して、汚れなき小羊をうける前に魂を清めることをすすめています。アウグスチノの時代、ヒッポではこの句で胸を打ち、痛悔の情を表わしました。聖体拝領への準備という役割は第一一世紀までは まことにはっきりしており、病人の聖体拝領前には告白の祈でなくて主禱文をとなえていました。

ことばの意味

私たちはみなこの簡単な祈を暗記し、おのおのの願いになれています。ここで特に注意したいことは、この祈は私たちが神に懇願できるすべてを含んでいること、さらに、まず神、ついでわれわれという神の望み給う順序によって願いをひれきしていることです。従って前半の三つの願いは、私たちの目的なる神に関わるもので、神の光栄、その御国の到来、いたる所でその御旨が行われることを求めています。

次の四つの願いは私たちに関わるもので、身体的、霊的生命に必要な食物を願います。ここで糧とはこの二つの意味にとります。ついで神が私たちの魂の大敵、罪と誘惑と悪を遠ざけ給うよう祈りますが、イエズスは私たちの罪をゆるすに当って一つの条件をおかれます。それは私たち罪をゆるしてもらいたいなら、他人をゆるす愛を持てということです。人をゆるせない心ではミサをささげる価値がありません。「汝もし供物を祭壇に献ずる時、そこに於て、何にもあれ兄弟にうらまるることあるを思出さば、その供物をそこに祭壇の前にさしおき、まずゆきて兄弟と和睦し、然るのち来りてその供物を献げよ」（マテオ五の24）

悪とは非常に広い意味にとられますが、ここではとくに悪魔と罪の結果を指していると、大聖テレジアや現代の註解者は説いています。アーメンは聖書のギリシヤ原典にはなく、ラテン訳に加えられたもの。（主禱文の詳しい註解については、グラント著「主の祈り」、アヴィラの聖テレジア著「完徳の道」二五章―四三章を参照するとよい）。

となえ方

主禱文の荘重さをきわだたせるために大聖グレゴリオは、小さな序文を加えました。「祈願、汝らかく祈れとわれらに命じ給いし救主イエズスのご命令にすすめられ神聖なる制定の祈をあえて申し奉る」。同じような祈は第三世紀の聖チプリアノの主禱文註解にも見られます。

昔は、今日の東方典礼におけると同じく、全会衆が大声でとなえたのに対し、現在では司祭ひとりがとなえて、最後の願いだけを信者がとなえます。モザラブ典礼では、願いの度に信者がアーメンと答えます。

対話ミサでは、信者は司祭と全く一緒にラテン語でとなえることができます。日本語でとなえるなら、司祭と同時にでなく、少しずらさねばなりません。

ミサ以外では、教会初期にはいつも低い声で、声がもれないようにとなえられており、また受洗者には使徒信経と同じく荘厳に口づからこの祈をさずけました。所かまわず大声でとなえて汚してはならない神秘的な宝物のように見なしていたのです。今日でも主禱文にまつわる秘密の痕跡のようなものがあり、典礼儀式のあいだ非常にたびたび司祭が最初の二語「パーテル・ノステル」とだけとなえて、あとの部分は列席者が声を出さないでつづけます。例えば、死者ミサの赦禱式で、キリエ・エレイソン、パーテル・ノステル…

挙式法

主禱文をとなえる司祭は、この崇高な祈の作成者であるイエズスいまはオスチアにこもり給う御者の上に目をそそぎ、序誦のときのように両腕をひろげます。アルメニア人は、十字架の形にぐっと両腕をのばして主禱文をうたい、願の心を外に表わします。同じ理由で第一三世紀には跪礼をしていました。多くの所では、前半部の願いまたは「われらの日用の糧を」ととなえるときに、オスチアの奉挙をしていましたが、これは行きすぎで、トレントの公会議において禁止されました。

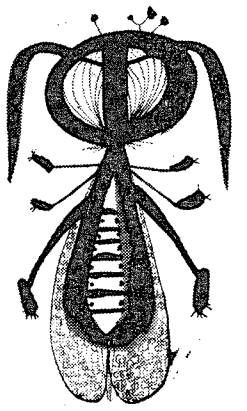
荘厳ミサでは、助祭は主禱文のあいだなにもすることがないので司祭のうしろに下り、終る頃にまた上ってゆき、パテナを副助祭からうけとり司祭に渡します。

うた

主禱文をうたうには現在二つの旋律がありますが、これは第五―七世紀に作られたもの。荘厳調の方が古く、いずれも序誦の旋律に似ています。イタリア、ドイツなどの第二五世紀のミサ典書のあるものには、主禱文のために三つから四つの旋律があります。

心構え

イエズスと一致して御父にご光栄の高揚とその御国の到来をお願いしましょう。そして聖体拝領に思をいたして物質的食物、ことに誘惑と悪に抵抗して生きのびるための霊的食物を御父に嘆願しましょう。イエズスの御父、そして私たちの父、全人間家族の父にて在すからです。御父の住い給う所、従って私たちの住居は天国です。もし地上でその御旨を行い、私たちを永遠に生かすために天から降り給うたパンを御父のお心から頂くならば、私たちはみな天国に行くことができます。



カット・あきら

秋虫

短歌　二丈

すみきりし空に日ざしは強くありてすき花咲く山に二人行く

すぎ去りし戦を思う聖戦忌心に期してゆきし人の墓に

いたずらに花のみ多くかざりありし墓にまいりぬ戦知らぬ子らと

俳句

くすぐれば花みな咲う百日紅　榕樹洞

ライオンの尻矢の如し檻暑く　風声

西日濃し病廊長く影を引く　牧泉

星空を仰ぐ窓辺に虫時雨

聖書の国 ⑥

平山高明

結婚と婚礼

敬虔なイスラエル人は子宝を神の祝福と考えていた（トビア）。神は人祖アダムとエワに「生めよ殖えよ地にみてよ」と仰せられたのだから、適令に達したら男女共早く結婚しなければならないと思っていた。

しかし、一方イエズス様の時代には、神への誓願によって貞潔を守り、修道的生活を送ったエッセニアン派やナザレ人があったし、最初のキリスト教徒の中には生涯を神に捧げた人々が多く見出されたし、聖パウロの書簡では童貞生活がたたえられている。

× × ×

家族の繁栄とその血を保つためには、本妻以外に何人かの妻を持つことも認められていた。時としてはそれは力の象徴のように考えられ、サロモン王の如く多くの後宮を有するに到るのである。妻に子供ができない場合には、それは他の女をめとり、離婚する簡単な理由ともなったのである。旧約の道徳はその点においても未だ完成されていなかった。女性が人間としての尊厳を認められるには主キリストとその御母マリアの時代をまたねばならなかったのである。しかしながら、凡ての人が一夫多妻だったのではなく、多くの人は矢張り一夫一婦を守っていたのである。オゼア予言者やイザヤまたエレミア予言者によっても神なるヤーベとイスラエルの民との愛の一致と忠実さは、一夫一婦の姿をもって表現されている。イエズス様は彼らが多妻や妻を離縁する口実を求めたとき「神が始めに男と女とを創造り給うた時……それゆえ男は父母を離れて妻と合い、二人は一体となるべし……と仰せられた。だからもう二人ではなく一体である。人間は神がお合せになったものを離してはならない」（マテオ十九の3―7）と答えられて、夫婦が霊的にも肉体的にも、全生涯にわたって互いに忠実に結ばれ、一夫一婦を守ることを厳格に要求なさったのである。

× × ×

家を嗣ぐべき子供が神の祝福のしるしとすれば、逆に子のないこと、家系の断絶は最大の不幸と考えられていた。それでユダヤ人の家族では兄弟の中で誰かが子供を残さず死んだ場合、兄弟はその寡婦をめとる義務があり、子供がその寡婦から生れた場合、最初に生れた子供は故人の家名を継ぐのである。これが有名なレビラの法則で、サドカイ人がイエズス様に向って、七人の兄弟が子がなくて次々に死に、寡婦は次々に残された兄弟と結婚するが、最後には女も死んでしまう、この場合復活の後女は誰の妻か？と尋ねたのも、このレビラの法則を前提にしている。主はそれに対して、人間は天国において地上的な肉体の束縛をのがれ、天使のようになることを答えて、彼らの余りにも現世的な考えの誤りを是正された。

また福音書の中でわれわれは、時として例えば（聖父ヨゼフ）の親の名や系図が相違しているのを見出すが、それはこのレビラの法によって伯叔父の家名をついでいることによるものである。

さて、いよいよ婚礼の日になると、水浴して香油をぬり、その日のために準備された白い婚礼衣裳をつけ、ベールを頭からつま先までおおい、一段高くしつらえられた席につき、介添の処女（普通十人）に囲まれながら迎えの来るのを待つ。婚礼は夕刻から始まる、親戚、友人、村人など出来るだけ多くの人々が参列出来るためには一日の仕事が終り、陽が落ちてからが都合が良いからである。福音書の中に十人の処女が手にランプと油壺を携えているのはそのためである。（マテオ二五の1―3）

聖アウグスチヌスは灯を信仰の光、油を行いの意味にとり、実行が伴わねば口先だけの信仰では天国（婚宴でたとえられている）に入れないことを教え給うたのだと解している。やがて「新郎の友」のさしづに従って人々は行列を組んで花嫁を迎えに来る。花婿はその喜びの日、一切の心労から解放され王様のように坐っているだけである。そこで親しい友の中から「新郎の友」がえらばれる。披露宴のブドー酒から料理の心配、花嫁を迎える行列の順序に到るまで一切の世話を引きうける。そして婚礼が一切うまく行き、友のよろこぶとき新郎の友の務めは果せたといえるのである。洗者ヨハネはイエズス様を花婿、自分をこの新郎の友にたとえて、イエズス様が本当の約束された救主であり、自分はその先駆者に過ぎず、自分の務と喜びは、人々がイエズス・キリスト様を信じ、その弟子になることだといっている。（ヨハネ三の27参照）

× × ×

やがて花嫁は長いベールをかぶり、駕に乗せられ、花婿の家へと迎えられる。人々は途すがら婚礼の歌をくりかえして歌うが、聖書の雅歌の中からとられたものも多く、花嫁の美しさやその徳の美しさをたたえ幸福を祈るものであった。

今日でもパレスチナでは、花婿は介添と共に道の途中まで迎えに出る。一行が花婿の家に着くと奥に導かれ、奥の前で互いに約束が交され、一つの杯からブドー酒を飲む。そして両親は祝福の祈りをとなえ参列した人々は一緒にそれをくり返えす。その祈りは二人の将来に幸福と子宝が恵まれるようにとの内容で、創世記の二四章やトビア書の九章などからとられ、今日教会で結婚式の時に唱えられる祈りと似ている。

× × ×

それがすむと宴会であるが、宴は一般に七日間つづいたが、人により三日から二週間までの間であった。この時には親戚や友人は勿論、友人のその友人までも招かれた。従ってカナの婚宴にイエズス様が招かれた時、ガリレアの漁夫であったペトロを始め、他の弟子たちも主と共に招かれたのであり（ヨハネ二の1―2）ブドー酒が意外に早く尽きたわけもわかるようである。多くの人々が招かれ室内では狭過ぎ、星空の美しい中庭がよく宴会の場所に用いられた。従って雨期の冬と酷暑の夏はその点不適であり、春と秋が結婚の一番良いシーズンとされていた。麦やブドーの収獲を終て人々の心が安らぎ、季節としても花開き、星の美しい一番良い時期であったからである。ブドー酒を飲み、大いに人々は喰べ、大いに歌い踊り、遠くから来た友人と歓びを交し合った。それはパレスチナの人々の生活の最も楽しいひとときだった。

× × ×

イエズス様は彼らに神の国、天国のことを語り給うたとき、度々この婚宴をたとえに引いておられる。カナで貧しい新婚の夫婦がブドー酒を切らしていた時、招かれておられたイエズス様が最初の奇蹟を行って彼らを助けてあげられたのは、結婚が神の御子の最初の奇蹟を豪ったほど尊いものであることを示すものであると同時に、主の人々に対するこまやかな思いやりを私たちに見せてくれるものである。

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　七三〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　五五〇円　六八〇円
デイリーコンサイス英和辞典　革　六五〇円
新クラウン英和辞典　縮刷版　三〇〇円
ジェム英和・和英辞典　D版　四三〇円
最新明解英和辞典　大型版　六三〇円
初級クラウン英和辞典　八五〇円
初級コンサイス英和辞典　一〇〇〇円
初級コンサイス和英辞典　三八〇円
三省堂　独和新辞典　二五〇円
コンサイス独和辞典　二〇〇円
コンサイス仏和辞典　七〇〇円
コンサイス露和辞典　六〇〇円
日西辞典　八五〇円
商業英語活用辞典（増補版）　三、〇〇〇円
新英文法辞典　七五〇円
英語慣用法辞典　一、六〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、三〇〇円　三、〇〇〇円
新版広辞林　一、四〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四五〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　三五〇円
大明解漢和辞典　九〇〇円
明解漢和辞典　四五〇円
模範六法全書　六七〇円
明解六法　二〇〇円
学習百科事典（新版）　一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　八〇〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

三省堂　福岡出張所
住所名変更
福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町

カトリック
深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十円

公会議の四つの目的明示

第二会期開会式の冒頭演説で

教皇パウロ六世聖下は、去る九月二九日聖ミカエルの大祝日、聖ペトロ大聖堂において約二五〇〇名の公会議教父の前で、第二バチカン公会議第二会期を開会された。教皇は、その冒頭演説のなかで、公会議の四つの目的として❶カトリック教会の認識❷その改革❸すべてのキリスト信者を一致させること❹教会と現代世界との対話をあげて、公会議開催に対する先教皇ヨハネ二三世の方針を継続する意向を明らかにされた。

第二会期開会の式典は第一会期のときに比べて簡略で、教父たちが公会議ホールを埋めるなかを、コシに乗った教皇が枢機卿を従えて玉座の方に進んだ。聖霊の助力を祈願する〝ヴェニ・クレアトール〟を始唱されたあと、ティッスラン枢機卿が荘厳ミサをささげた。ミサ後、教父たちの従順の礼をうけ、一時間にわたる演説を述べられた。

教皇演説要旨

○　公会議の主たる目的は、教会の基本的本質を宣明し、これにおわされた各方面の救済使命を表明することである。公会議の存在は、教会とその規則の若返りに決定的証拠を提示する。

○　分離せる多くの兄弟たちに対する教会の態度、即ち教会の統一のなかに多様性の存する可能性に対する教会の態度に不明瞭はありえない。かれらへの語りかけは友好的で、全く誠実、真剣そのものである。

○　われらはわなをかけない。われらは現世的利益をねらって行動しているのではない。とにかくわれらは信仰を論争の誘因にしたくない。

○　キリスト教的一致の前述には多くの困難な問題がひかえているが、完全な和解の視された時を、忍耐ぶかく待つことを恐れない。

教皇ははっきりその名をあげないで、多くの教父たちの公会議参加をさまたげた迫害のために味わされた深い悲しみを表わされた。

○　われらは現実主義者であって、世界の多くの地域からこの世界会議にまで届いてくる野蛮な行為を隠してはならない。われらはこの公会議で多くの席が空席となっている事実に目をつぶり、認めないでいられようか。

○　教会が弾圧されている諸国のわれらの兄弟たちは、今どこにいるであろうか。またそのような地域では、宗教はどんな状態の下に存在しているであろうか。

最後に、世界の指導者たちに対して

○　諸国の指導者たちよ勇気を出せ。今日諸君は、諸君の国民に対してかれらの生活に必要な多くの良いものパン、教育、仕事、秩序自由で平和的な市民の尊厳―を与えているのである。

○　正義と愛とのうちに協力して働きつつ、諸君は非常に熱望された偉大の善である平和を作り出すことができ、そして諸君は人類を単一の都市になしうるのである。

○　われらが一ならんことを」「世界が信ずるために」「人類間、キリスト信者間、カトリック信者間の一致を助長するもの、妨げるもの」にもとずいて作成された問題の検討が含まれている。

準備テーマのこの選択は公会議の目的に呼応したもので、世界中の信徒が公会議の諸決定をうけ入れ、さらには「教会生命のより大いなる躍進」「分離した兄弟たちとカトリック教会の一致の希望」「世界人類の平和と精神的発展」（この三点は教皇からティッスラン枢機卿あての最近の書簡のなかに挙げられている）という目標をかかげている。

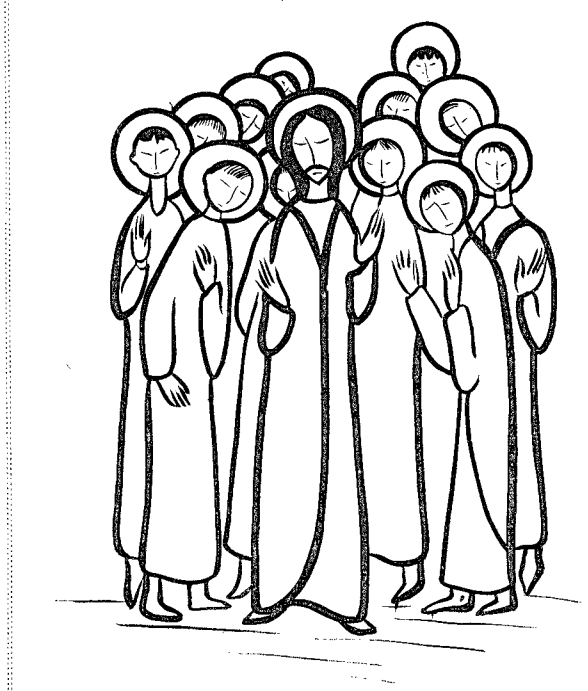
公会議の決定を実行に

信徒使徒職世界大会議案

信徒使徒職世界大会は「一般信徒に関する第二バチカン公会議の決定事項を知らせ、その実践を助けること」を主要テーマとして開かれる。

今度の大会のためにこれまでに作られた議案はパウロ六世教皇に提出されている。開催期日は未定であるが、それは公会議の進行状況に応じて決められる。

教皇に提出された議案には、大会準備のために選ばれたテーマ、「一般意向」「公会議の諸規定の実行と成果」「南洋諸島における布教」「教会最初の神学校」「使徒たちを養成し給うキリスト」「祈禱の使徒会」「公会議のため祈る」「聖体礼拝」「高松司教区誕生」「ベラン大司教を釈放」「チェコ政府が発表」「聖体礼拝」「聖霊降臨後第二三主日」「聖霊降臨後第二四主日」「聖霊降臨後最終の主日」「侍者少年の集り」「文化の日」「煉獄の霊魂の月」



使徒たちを養成し給うキリスト

（教会最初の神学校）

世の光

神学校とは

トレント公会議に参集した教父たちは、教会革新の一大要素として、司祭職志願者の教育を徹底させることを決めた。そして一五六三年七月十五日付をもって、各地方あるいは各教区に神学校を設立すべきことを決定したのであった。これに基づいて聖カロロ・ボロメオはイタリアで、少し後になって聖ヨハネ・エウド、聖ビンセンシオ・ア・パウロ、オリエ師らはフランスで神学校設立の聖業にとりかかったのであった。ちなみに、オリエ師は、福岡大神学校の指導に当っている聖ルピス会の創立者である。

神学校とは、神のことの学校、すなわち聖職を志す者が未来の司祭に要求される聖徳および学問を身につける学舎である。ピオ十二世はイタリアの大神学生になされるはずであった遺稿の中で、次のように述べておられる。「実際に、ローマ教皇が全教会の信者のために、各司教が各自の教区の信者のために、かれらが直面している必要に対する援助に次いで有益かつ尊い仕事といえば、それは将来の司祭の養成に全力を尽すこと以外にありません。なぜなら、司祭こそは全人類の救いのために、最高の司祭キリストを世の終りまで私たちの間に具現していくからであります。すなわちキリスト様は次のように仰せられて、司祭を御自分および御父と同心一体ときられておられるのであります。『あなたたちのいうことを聞く人は私のいうことを聞く人であり、あなたたちを拒む人は私を拒む人である。そして私を拒む人は私をお送りになった方を拒むのである』。と（ルカ十・十六）

それ故、神学校の目的は若者の心に確固とした司祭の精神を形成し、かれの全能力を完全な使徒的活動に向けて発展させていくことである。ピオ十二世はこういわれた。「ある意味で教会は一つの大家族であり、この大家族の牧者たちは、父としてその名誉、発展、継続に気を配っています。この大家族はまた、それを愛し、そのために身を捧げ、自分を犠牲にした前任者から、教区あるいは小教区という具体的な形において受け継がれて来たのです。が果してこれらの前任者は、かれらの遺産が、あるいは召命を受けるものが少ないとか、あるいは後継者が不適任であるとかの理由のために、中断されるのを忍び得ましょうか」。

そのため司教は、機会ある毎に若者に呼びかけ、信者の群の中から司祭を見つけ出そうと努めるのである。司教はピオ十一世のお言葉をかりてこういうであろう。「兄弟たちよ、この司祭職への傾向は良心の内的招きや感覚的魅力―これは時として欠けていることもあり、えます―によるよりもむしろ、司祭職志願者をこの身分にふさわしいものとする、すべての身体的、精神的特質に合わせられた、真直な意向によって立証されるのであります。ひたすら神への奉仕と霊魂の救いに献身することのみを目的として、司祭職に憧れると同時に、しっかりとした信仰と試練を経た貞潔と充分な学識とを所有しているものは、明らかに神によって司祭職に召されているのであります。」

それならば、召命への妨げをもたず、必要とされる適格性をもっているものはみな、招かれているのである。かれらは平凡な生活に召されているのではない。あらゆる仕事の中で最も崇高な仕事に呼ばれているのである。ピオ十二世のお言葉をかりよう。「かれらの主な任務は、厳密な意味での司祭の職務、すなわち人類のためにかつ人類を代表して、神に新約のいけにえを捧げ、秘跡を授け、神の御言葉を述べ、聖務日課を誦える」ことにより、神と人との仲介者となることであります。司祭は神および教会、一般信者に対してだけでなく、不熱心な信者、無信仰の未信者に対してさえも、聖体顕示台の輝きに似て、絶えず輝きを放つ神の僕であります。実に司祭はその働きが聖であるばかりでなく司祭自身が聖なのであります。このような深奥な聖化の要求に面して、私たちは謙遜に「どうしてそんなことになるのでしょうか（ルカ一・三四）といわねばなりません。しかし全能の神の聖寵への信頼は、かれらに確信を与えてくれることも忘れてはなりません」。

このような青年をキリストのふさわしい役者として準備するのが神学校である。発展の途上にある教会が司祭職志願者にかけている希望は大きい。またそれだけに、かれらを育成する神学校の責任も重大である。一日も早くわれわれの祖国が、全世界が真の「神の国」となるよう、召命の増加と神学校における召命の稔りとを祈ろう。（J・Lカズレ）

公会議のため祈る

英・聖公会教会で

英国聖公会信者四千万人の最高指導者であるカンタベリーの大主教ラムゼー師は、第二バチカン公会議の上に神のご加護を祈るよう信者に呼びかけ、九月二七日の公式ステートメントで次のように述べている。

バチカン公会議の新らしい会期が開始されようとしているので私は、神がこの公会議の決定を正義と真理と一致の方に向け給うよう、われわれのアングリカン教会が祈ることを希望する。

祈禱の使徒会

（一一月）

【一般意向】公会議の諸規定の実行と成果

【布教意向】南洋諸島における布教

聖体礼拝

（一一月）

第一日曜　那珂町教会

第二日曜　大江教会

第三日曜　トラピスチヌ修院

第四日曜　荒尾教会

琵琶崎修院

玉名教会

深堀司教のローマ滞在中の住所

Nordland Hotel
via Alciato
Roma, Italia

高松司教区誕生

パウロ六世教皇は九月二八日四国知牧区を司教区に昇格させ、同司教区の初代司教にフランシスコ・ザベリオ田中英吉師を任命した。新司教区は高松司教区とよばれ、全四国の四県を管轄下におくが、東京大司教区の属司教区である。

田中英吉被選司教は一〇月一四日ローマに出発し、二〇日布教の日に教皇聖下より他の一三名と共に司教に叙階された。これによりわが国の司教区数は一五になった。新司教区のカトリック人口は四、三一六名（今年六月三〇日現在の統計）。

ベラン大司教を釈放

チェコ政府が発表

チェッコスロバキア政府は一〇月三日、プラーグのベラン大司教ブルノのスピキ司教および他の二名の名儀司教の釈放を発表した。これら司教は数年前から投獄または軟禁されていた。そのあと同政府はまた、ベラン大司教が釈放前に国家への忠誠宣誓に署名することを拒んだと、発表した。釈放された司教はいま自由に公会議に参加できる。

一月　煉獄の霊魂の月

一日（金）　諸聖人の大祝日（守るべき祝日）小斎免除

異教の神々にささげられていた、ローマのアグリッパの神殿（パンテオン）は、カトリックの礼拝堂に改造され、第七世紀に殉教者の遺骨がカタコンブからここに移しおかれることになった。信者たちは、この地上でキリストに従って生命をささげ、天国でむくいをうけている聖者たちを荘厳にお祭りした。

二日（土）　諸死者の記念日

死者をしのぶことはひとの心の美わしさの発ろである。われらは愛徳から出る同情をもって煉獄の友を思い出し、その永遠の安息を祈ろう。

三日（日）　聖霊降臨後第二三主日

文化の日

煉獄の霊魂のために祈ったわれらは今日、この世ですでにつぐのいの日々を送っている人、愛のよろこびを知らずに苦しんでいる人のために祈ろう。

四日（月）　聖カロロ・ボロメオ司教証聖者

今から四〇〇年前のトレントの公会議で活躍し、その決議事項をいち早く実行にうつしたミラノの枢機卿。祈禱の使徒会の今月の意向を併せ考えよう。

九日（土）　ローマ救世主大聖堂の記念日

各教区に司教座聖堂があるように、これがローマの教皇座大聖堂である。

一〇日（日）　聖霊降臨後第二三主日

キリストはこの世で願う人に奇跡を行って神の威光を発揮し給った。その同じキリストは、世の終りにさらに大いなる能力をおびて再臨して、人間を復活させ、宇宙を一新せしめ給う。この来るべき偉大な奇跡は、すでにわれらの魂のうちに秘跡をもって開始されている。

一一日（月）　聖マルチノ司教証聖者

一七日（日）　聖霊降臨後第二四主日

世の終りに完成すべき神の国は、われら一人びとりの魂のなかで、ひそかに隠れて進められている。丁度、からしだねが種のうちで一番小さくても、育ては大きな木になるように。われらは神の遠大なみ業を忍耐と希望をもって見守らねばならない。

二二日（木）　童貞マリアのご奉献の祝日

二三日（金）　聖女セシリア童貞殉教者

二三日（土）　勤労感謝の日

侍者少年の集り（於福岡大神学校）

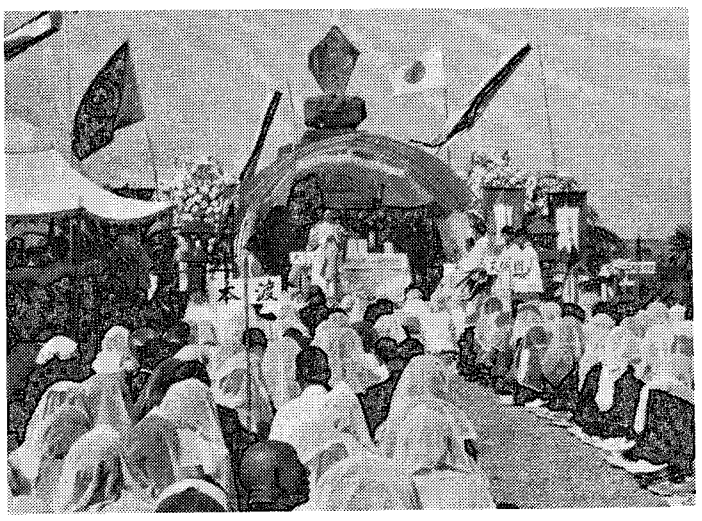
二四日（日）　聖霊降臨後最終の主日

世の終りに来り給うべきイエズスは、今すでにわれらの霊魂のなかで神の国の建設をはじめておられる。その時になって始めてイエススにお目にかかるのではない。信仰の目をもって神の御子を見ている者は、主を愛とよろこびのうちに迎えることができる。

三〇日（土）使徒聖アンドレアの祝日

遠きみおやの信仰を賛う
おごそかに天草殉教祭

温暖な気候と美しい自然、キリシタン文化発祥の地として全国に知られる天草島その本渡市では、信仰のうちにこの世を去った同島の古いキリシタン、デウスとマリアの名をよびつつ教えのため潔ぎよく散華した多くの殉教者をしのんで、毎年さまざまな祭典がカトリック教会と観光協会の共催で行なわれているが、今年も一〇月二六、二七の両日、本島および熊本地方の司祭、信者地元市民らの参加でおごそかに挙行された。（写真は千人塚で説教する棚町師）



この天草殉教祭は、コロンバン会のライル神父が同市に来任した八年前からひきつづき行なわれているもので、城山公園の千人塚教会のルルドの洞窟、キリシタン墓地、王たるキリストの立像などすべて同師のあっせんで市当局が建立、今では市を訪れる人の見逃すことのできない名所になっている。

二六日の前夜祭では午后五時半川口康頻師がルルド前でミサと説教をなし、参列者全員が手に手にローソクをかざして聖体行列をなし、市内目貫通りを一巡してキリシタン墓地に達して王たるキリストを賛え、八時散会。

翌二七日は王たるキリストの大祝日、定刻一〇時半城山公園の殉教碑前の祭場には紅白の吹きながしが風にはためき、内海執行委員長（本渡観光協会長）が祭文をよみ、横山市長の慰霊のことばについで棚町正刀師がローマ滞在中の深堀司教から寄せられたメッセージを朗読。このあと棚町師が川口、平山両師をしたがえて荘厳ミをささげ、熊本マリスト学園の中学生がミサ奉仕をつとめた。

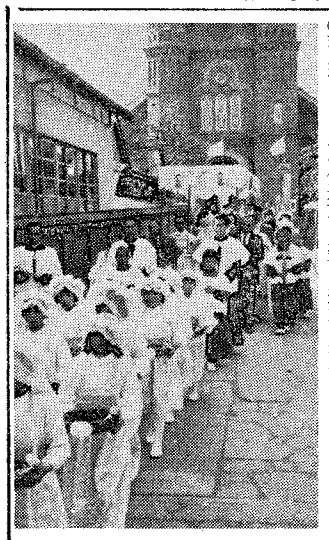
ミサ後ふたたび市内を通って教会まで聖体行列が行われたが、すでに馴じみの深い市民の心に美しい賛美歌のひびきが、年毎にしみわたってゆくように感じられた。

なおライル師は来年中にアルメイダ神父（イエズス会員、救済事業に大貢献をして一五八三年天草で殁した）の銅像を建てる計画である。

今村で聖体行列
公会議成功を祈って

一〇月二〇日布教の日、公会議の成功の祈願をこめた聖体行列が福岡県三井郡太刀洗町の今村教会で盛大に行われた。

午后一時半、鐘楼から鳴りひびく鐘の音を合図にまず十字架が教会を出発、婦人信者、白衣の少女たち、赤い侍者の服装の児童の一団が、平山高明師の奉持する聖体のまえを、うしろに修道女と男子信者がつづいて、信者家庭旗のみえる部落を横ぎり、取入れを待つばかりの黄金の稲穂のあいだをぬって聖母慈愛園の運動場に到着、秋の陽にさん然と輝やく顕示台を仰いで声のかぎり賛美のうたをささげ、教会にもどって岩永義人師の説教、三時一五分最后の降福式をもって盛典を終えた。



（写真は教会を出発する聖体行列）

生徒寄宿舎の起工式
熊本マリスト学園で

熊本市健軍町のマリスト学園の生徒寄宿舎の起工式が、九月二八日午前一一時、ダイモンド師司式で関係者七〇名出席のもとに行われた。

来年三月末日完成を期して着工されたこの寄宿舎は、鉄筋コンクリート陸屋根四階建、延七四四坪収容人員二〇〇名のもので、総工費（備品共）六〇〇〇万円が見込まれている。各室西名の生徒居室が五〇、舎監室三、洗濯室、厨房食堂売店など最新の設備をそなえ学園本館と寄宿舎の間は巾五米の渡り廊下でつなぐ。設計は福岡の菅種雄氏、施工には熊本の松尾組があたる。

故M・ボネ神父の石碑をつくりたい

去る昭和三四年三月一九日、八一年の生涯を終えて今は新田原教会墓地に眠るマキシム・ボネ神父（パリ外国宣教会司祭）の石碑建設運動が、新田原、今村両教会の発起で進められている。

ボネ師は一九〇三年パリで司祭叙品後来日して、鹿児島県奄美大島、長崎平戸島、福岡県太刀洗町今、飯塚、新田原などで信者司牧にあたったほえぬきの宣教師で、その熱烈な信仰蘇愛あふれる温顔、ユーモラスな応待ぶりは接した人々の心に忘れられぬ印象を残している。

こんどの石碑建設運動は、同師の人柄にふさわしく神父をしたう人達の全く純粋な心からの募金によって進められる。なお寄付は両教会のいずれに送ってもよい。

石碑の設計図はパリ外宣会本部の肝いりですでにでき上っている。

サンモール修道会日本管区長
エンマヌエル童貞急逝
幼稚園落成で来福中に

サンモール修道会日本管区長エンマヌエル童貞は、福岡双葉学園付属幼稚園の新築落成式に出席のため来福中、一〇月二三日午前六時一〇分脳溢血で急逝、五六才。遺骸は同夜ただちに東京四谷の修道院向け車で運ばれ、二六日盛大な葬儀が行われたが、悲しみに包まれた福岡修道院では、遺骸の出発に先立ち午后八時から赦祷式を行い、市内および近郊から多数の司祭、修道女、学園関係者、卒業生らがあつまって霊魂の安息を祈った。

エンマヌエル管区長は落成式の二日前、長崎を経てわざわざ来福し、二三日午后に静岡に向うことになっており、落成式ではよろこびのあいさつを述べ、来賓や父兄らと歓談していたので、急逝の報をうけた人々は全く信じられぬ面持ちであった。しかし連日の激務で非常に疲労していたと、修道院では語っている。

エンマヌエル童貞は明治四〇年当時正金銀行支店長であった巽甲之丞氏の長女としてロンドンで生れ、東京双葉高等女学校在学中に受洗、昭和三年サンモール会に入り、八年一二月初誓願福岡修道院に移って福岡女子商業学校で教鞭をとり、三〇年一二月管区長就任まで校長兼修院長として長年尽力、福岡は第二の故郷となっていた。

管区長在任中は二度にわたってパリの総会に出席、長崎修道院の創立を実現するなど終始子女の教育につとめた。

双葉幼稚園落成

エンマヌエル童貞の最後の働きとなった福岡双葉学園付属幼稚園の新園舎は、去る四月から大林組が着手し、その逝去の二日前に棚町正刀師によって祝別された。旧幼稚園のあとに建てられた新園は教室四つのほか、遊戯場と保母室をふくみ、定員一二〇名。鉄筋コンクリート建二七二、五坪。さる昭和二六年四月、寄宿舎の一室七五坪をもって定員三〇名をもって発足した当時のことを考えるとまさに今昔の感がつよい。

JOC地方青年大集会の報告

小倉組会　宮下益一

従来JOCでは夏期の活動としては、全国大会や地方研究会等のジョシスト養成、つまりJOCの内的生活を固める時期として来たが、今年は新しい試みとして環境の青年を中心にした活動を行い、全国的に成果を収めているようである。福岡地連では、九月七日、八日、八幡帆柱キャンプセンターで北九州の青年約二八〇名（うち信者は八〇名位）を集め、北九州青年キャンプ大会を開いた。昨今のバカンスムードに酔ったようになった青年に正しい余暇のすごし方を共に学び、青年の向上心を助長しあうことを知らせるため、またジョシストと青年たちとの友情を深めるためであった。

キャンプ大会では、テント張りの講習に熱心な意欲をみせる姿、食事の準備に軍労働の水汲を一生懸命やる青年、ハンカチ片手に涙をふきふき薪をくべる飯たき班、手伝いのいる仕事に進んでひきうける青年、一人一人が何かの責任をもって自分の仕事として働いていきいきとした顔、大会全体が皆の一致の雰囲気によってもり上っていた。キャンプファイヤのあかあかともえる炎にうかび上った顔、顔、顔。いろんなだしものに笑い歌い、拍手のうちにとびだしたアフリカ土人の出現は、はぎれよくなりひびくボンゴのリズムにあわせて、キャンプのたのしさを満喫させた。私たちジョシストは自分の誘って来た青年たちに気を配り仕事を共にしたり、すしずめテントの中で互いに犠牲しあうなど、一致協力のうちに青年の友愛を深めるよう努力した。

或青年は感想を次のように話してくれた。「いやあ、自分はお客きんのつもりで参加したんですよ。ところが水汲や鍋洗いやらされたでしょう。おまけにテントは満員だし、夜警にたった人なんかちょっと気の毒でしたよ。自分のテントにもどって来たら寝るところがないんでしょう仕方なしに腰から下テントの外にだしたまま寝ていました。しかしキャンプとしては最高と思いました。キャンプファイヤーも楽しかったし、又全員がよくまとまって食事の準備の時など遊んでる人がいないでしょ。やっぱり自分も一しょにやらなければいけないって雰囲気がキャンプとしてもりあがってたですからね、いい思い出ですよ」彼の卒直な言葉は、私たちの一ケ月の準備を大いにむくいてくれた。

私たちジョシストは、この日得た教訓を忘れることなく、この機会を今後に活用して、青年の使命を自分と他人の上に実現させるため努力を続けることを決心したのだった。

松本健次郎氏の告別式

去る一〇月一七日東京都世田谷の自宅で逝去した松本健次郎氏（九三才）の遺骸は、二八日北九州市戸畑区の西日本工業クラブ（安川家旧本邸）に安置され、翌二八日午前九時半から同市八幡区黒崎の安川電機体育館で、多数財界人列席のもとにカトリック典礼による告別式が執り行われた。

式は深堀司教代理として棚町正刀師が司式し、簡素な式場ながら厳粛なふんいきで、祈りがささげられ式後、遺骸は福岡の平尾墓地に埋葬された。

松本健次郎氏は昨年東京で受洗、令嬢二人は聖体礼拝会とカルメル会の修道女になっている。

「涙の聖母」英語小冊子も発行

既報＝佐賀県唐柄教会では「シラクサの涙の聖母」について小冊子（三七頁）を発行についで、こんどは同じ題目の英文のもの（約一一〇頁）を発行した。印刷実費に一五〇円かかっている。

希望者は同教会に頼めばよい。

新田原教会合同運動会

秋はスポーツの季節、東京の国際スポーツ大会に負けじと新田原教会の前の広場でも一〇月一三日の日曜日には終日かん声がわき上った。幼稚園と教会の合同運動会とあって、かわいい園児の遊戯にまじって世界新記録（?）をねらう腕じまん、足じまんが、日頃の鍛練をお目にかけ、地区対抗のリレーや仮装行列でわき立った興奮も、青年会員のフォークダンスでおさまるなど、盛り沢山のプログラムに老いも若きも時間のたつのを忘れ、和気あいあいのうちに築城地区優勝で新田原地方オリンピックの幕をとじた。

（写真は青年会員のフォークダンス）

聖心の使徒（昭和38年11月号）

表紙　「信仰と科学」　湯崎夫沙子画
十一月死者の月
十一月の意向　大切なのは信仰　寺西　英夫
南洋の布教（十一月の布教の意向）　粕谷　源蔵
黙想　朝の奉献　河野　義祐
病める友へ　不眠症
十字架のイエズス修道女会
デッサウアー信仰と技術の弁護者　高橋　憲一
写真特集　主に新しき歌を
科学技術―神への道　千寿　利久
いちかばちか　シュエネンス枢機卿
新しい掟　P・ミルワード
わが家の家庭祭壇　田北　耕也
ゼフの初聖体　M・ゴディン
ポスト
新本めぐり

購読料　一カ月　五七円　一カ年五七〇円…〒共

日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾井町七

小家族構成が流行している現在、よほどしっかりした教育をしないと、子どもはだめになります。正しい教育のあり方を示した
小出神父著
「新しい教育」　五〇円　〒一〇円
「一人一人に寄り添う教育」　四〇円　〒一〇円
を是非お読み下さい。
二冊一しょに御注文の砌は送料共一〇〇円
切手、小額カワセ同封にてお申込み下さい。
広島市古市局区内古市一四八八
テレサ出版部
振替　一四二八八

カトリック教理

第四戒（つづき）
両親の義務

旧約聖書にマカベ母子の壮烈な殉教がきわめて感動的に記されています。教えのために捕えられ、掟に反していることを強いられた七人の兄弟とその母は、ごうもんにも屈せず、見ている前で一人づつざんこくに殺されてゆく息子たちを、母は声をはり上げ、すすめはげまし、最後に自分も殺されました。

一、愛

子供たちは父母のつとめのきびしさ、むつかしさを容易に理解できません。父母は命令するだけでよく、自分たちは従うばかりでつまらないと思っています。

子供に対する第一の義務は愛です。父母が子供を愛するのは当然のことですが、これは神がおわされた聖なる義務でもあります。親の愛を知らない子供は、大きくなっても一人前の社会人となることがむつかしく、こうして多くの犯罪人が生れます。

親のなかには子供を甘やかして欲しがるものをなんでもやる人がいますが、こんな愛情は子供を悪くするばかりです。苦労を知らずに育てられた子供は、あとで苦労します。わがままな子供は他人を愛する道を知りません。真実の愛とは甘やかすことでなく、子供に本当に大切なものを与えることです。

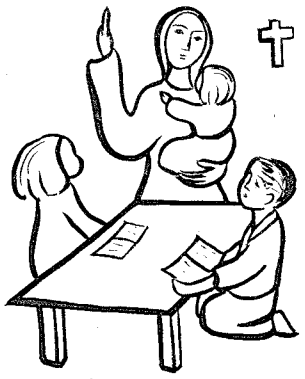
二、教えみちびく

親は子供に食べもの、衣服を与え、健康に心をくばるのは当然ですが、同時に人間として生きる道を教える任務があります。

笑うことを教えないと子供は笑顔ができません。きちんと坐ること、よく話すこと、遊ぶこと、清潔にすることなどいちいち手をとって教え、説明し、質問に答えてやります。

さらに大切なのは心の教育をすることです。いいことと悪いことの区別、正しいことを愛し実行にうつし、欠点をため直し長所を伸ばすようにしつけることです。しかし教育は一日でできるものでなく、長い間の忍耐と愛の働きの結晶です。

それにもまして両親の最大の義務は、子供を神のために育てることです。子供はどんなに可愛がられ、勉強がよくできても、神の方にみちびいてもらえなかったら、永遠の目的に達することはできません。そのため親は神について話してきかせ、毎日祈ることを教えミサにつれてゆき、神の掟をよく説明し、罪を犯さないように注意します。



三、通学

子供の教育は家庭内だけでできるわけでないので、両親は学校、交友、読書にも気をくばります。

幼稚園、学校＝両親の教育方針と学校のそれが一致しないと効果があがりません。学校の選択は大切なことです。信者はカトリック学校に通うのが望ましいことはいうまでもありませんが、わが国では思う通りにいかないので、子供の能力に応じたいい学校に入れるようにします。

交友関係＝子供がどんな友だちと仲よくつき合っているか、夜遊びはしないか、小づかいの使い方はどうかにも気をくばります。

読書と映画＝よい本を与え、悪い本や雑誌を遠ざけ、テレビの番組や映画でも子供の心を毒するものは許してはいけません。

四、職業と結婚

子供に職業をえらばせるのは無理な話しです。経験のある両親が子供の適性や趣味、成績をにらみ合せて一番適当と思われるものを探してやらねばなりません。職場では先輩が指導してくれます。

男にとって生涯のもっとも大切な二つの目標は、立派に仕事をやりとげることと家族の幸福をきずくことですが、女にとっては家庭の方がずっと大切になります。数多い離婚がどれほど悲劇を生んでいることか。そしてそれは結婚前の準備に不足があったか、あるいは相手の選び方がまずかったかに原因しています。両親に相談せず自分だけで相手をきめるのはどうも賢明といえません。

教会の長上

一、霊的父に対して

(1) 聖パウロ

聖パウロは、当時のローマ帝国の諸都市をめぐり、ユデヤ人、ギリシヤ人、ローマ人の別なくキリストの教を説き、信者の団体をつくり、ミサをささげ、新しい司教を任命しました。またそれぞれの教会に起る諸問題について相談をうけ、その解決を考え、不熟心な信者をいさめ、つまづきを与える者を罰し、信者生活の規則をきめました。聖パウロは、使徒、キリストの代理者、霊的父として子供である信者のため、愛にもえて命がけで働きました。

(2) 今日の教会で

私もいま霊的父をもっています。主任司祭、伝導士（婦）、司教、教皇がそうです。

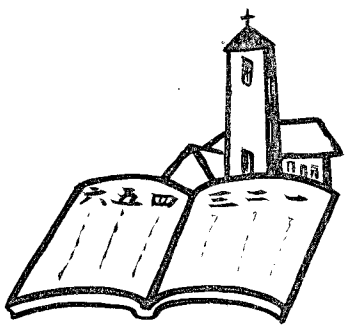
司祭は洗礼をさずけ聖体を拝領させ、罪の赦しを与え、いさめ、苦しむ人の味方となり、祝福します。司祭はキリストの代理者です。

司教は全教区の上を配慮し、司祭を派遣し、堅信の秘跡をほどこし、教会の建設を考えます。

教皇は全教会の統治者、キリストの最高の代理者です。聖体拝領前の断食の規則をきめたり、度々拝領する許可を与えたり、典礼の改正をしたり、公会議を召集したりします。

教会のなかで権威をもっておられる方々を、私達はキリストの代舞者として尊敬し、これに愛と服従の真心をあらわします。

一方、私達は霊的父の働きに協力する心構えをもたねばなりません。それは進んでミサにあずかり秘跡をうけて信仰を深めるというだけでなく、各教会の色々な仕事を助けることです。例えば掃除、飾りつけ、祭服の洗濯、修繕、草とり、事務、子供に教理を教えること、求道者を案内し、病人を見また身分に応じて献金をなし、教会維持費をおさめます。



二、教会のおきて

全世界五億五千万人以上のカトリック信者の団体である教会が、キリストのお望み通りの活動を果してゆけるには、確固とした規則―教会法―によって秩序づけられねばならぬことは、申すまでもない所です。

教会法は、二千前からの長い聖なる経験と聖霊のおみちびきのもとに少しづつ作られ、時代に応じて改められたものです。たくさんの規則のなかから私達にごく大切なものだけを考えてみます。

(1) 六つのおきて

「主日と守るべき祝日を聖としミサ聖祭にあづかること」

これは天主の十戒の第三をさらに明らにしたものです。日本で守るべき祝日は、クリスマス、御昇天、聖母被昇天、諸聖人の四日です。日曜日とこれらの日にミサに与ることが義務です。

「少くとも年に一度は告白すべし」

キリスト信者が大罪のままで生きていることは、本当におそろしいことです。できるだけ早く告白して神と和睦するよう教会は勧めていますが、いうことを聞かない人がいるので、この規則が作られました。

「少くとも年に一度は御復活祭の頃に聖体を拝領すること」

たびたび聖体をうけることは信者にとってこの上ないよろこびです。ただ不熟心な信者は聖体に近づこうとしないので、この規則がきめられました。

「定められた期日には大斎を守ること」

「金曜日およびその他定められたる期日には小斎を守ること」

小斎や大斎を命じているのは、信者がいくらかのぎせいをしてキリストの御受難、御死去をしのび罪のつぐのいをして、大祝日を迎える心の準備をさせるためです。

「各々の分に応じて教会維持費を負担すること」

まえに述べた通り、教会を維持しその色々な仕事を助けるために信者は献金や維持費を負担します。

(2) その他の主なおきて

信者の信仰を安全にするために悪い書物、雑誌を読むことや（禁書目録をもって）、反キリスト教的な団体に加入することや、未信者や他の宗教の人と結婚することを禁じています。

また結婚は教会で行ない、生れた子供にできるだけ早く洗礼をさずけ、カトリック的に教育することを命じています。

国家、諸国間の交わり

一、国家の使命

(1) 国家の必要

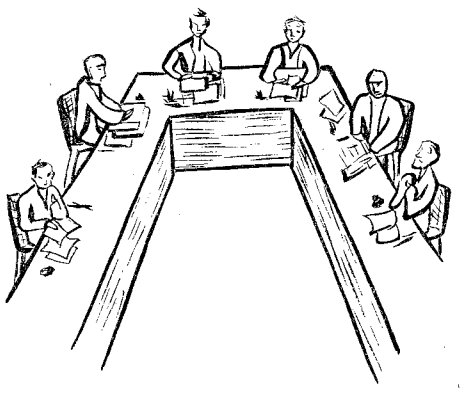
国家がなく政府がなく、従って法律も警察もなければどうなりますか。治安がみだれ、不正や暴力がはびこって強い者勝ちになって善良な人々の生活がおびやかされます。国家は人間の本性から出たもので、家族、市町村が相集って国家を形づくるように、神が人間の本性をおきめになったのです。人間が国家をつくるのですが、そういう生来の傾きは神から与えられています。

国民一人一人に食物、衣服、住居を提供するのが国家の本来の目的でなく―これらは国民が自分で手に入れることができます―もっと他のこと、例えば治安を推持し法律を定め、罪人を罰し、外敵から国を守るなど、国全体の福祉を確保するのが、国家の目的です。

(2) 国家の主権者

国家には主権者がいますが、その権威は神から与えられたものです。政府の人、裁判官の権威がそうです。イエスはピラトに向って「もし上から与えられなければ、あなたは私に対して何の権利ももっていない」と申されました。

文化の遅れた人の間でも、族長や王や長老会のようなものが、権威をもって人々を治めます。しかし主権者は自分の好きなままに権威をふりまわすことは許されません。王の上に、政府の上に神がおられます。ですからどのように権威を使うかについて国民と神の前に重大な責任をおっています。



二、国家に対する義務

(1) 法律に従うこと

「セザルのものはセザルに返せ」とイエスは申されましたがこれは国のものは国に返せ、国民は国家とその主権者の命令、法律に従え、という意味です。

国の法律は全体の利益を守るためにあるのですから、これを破るものは全体の利益を害します。道路交通法を守らないと他人の生命を危うくし、禁じられた所でたき火をすると大火事を起すかも知れず納税の申告をいつわると国家の財政をくるわせ、まじめに納めている人に不正をかけることになります。憲法が法律の基礎です。その精神を重じなければなりません。

(2) 主権者を尊敬すること

国の主権者に従うのは、そうしないと警察から罰されるからでなく、神に不従順になるからという考えをいだくべきです。聖パウロも「すべての人は上の権威者に服従せよ。権威にそむく者は神の定めにそむくのである。かれらはあなたを善にみちびくための神の役者である。かれらの怒りをおそれるためだけでなく、良心のためにも服従せよ」（ローマ書第一三章）と教えています。

(3) 公けの利益のための協力

国民は国家から利益をうけるばかりでなく、自分の方からも力に応じて全体の利益に貢献すべきです。国の動きに関心をもち、その安泰を進歩をはかり、とくに選挙権を正しく使うようにします。理由なく棄権するのは怠りの罪になります。良心に従って投票すべきです。贈賄や買収にまけてはなりません。

もし政府の命令や法律が明らかに神の掟に反している場合には、これに従ってなりません。そのときは「人間に従うよりも神に従うべきです」

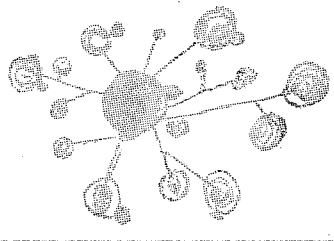
三、諸国間の交わり

私達は自分の国だけでなく、他の国々についても関心と責任をもつべきです。外国との交わりは今日ますますひんぱんになり、一国にとじこもっていては、政治的にも経済的にも文化的にも立遅れてしまいます。スポーツ、学者、情報の交換、被災者に対する援助など、多くの分野で国境を越えた活動、協力が要求されています。

人類という大きな家族の運命について各国が責任ある行動をとり文化や開発のおくれた国々を無視したり、不当に圧迫をしてはなりません。すべての国の人々が自由を尊重される権利をもっています。人種差別は絶対にいけません。私達はすべての国と仲よく交わり、世界の平和を進めていかねばなりません。

— 神の愛を —

クリスマス・プレゼントで！



クリスマス・セット

◆ 色付 14コ ¥ 900
〃 ¥ 1.500
〃 ¥ 2.300
◆ 〃 日本的 ¥ 3.000 ¥ 7.000
◆ 木彫聖家族 ¥ 1.200
◆ 組立クリスマスセット ¥45～50(紙製)
◆ 夜光像
聖家族 ¥ 50
聖母像 ¥ 50～300
幼きイエズス ¥ 100

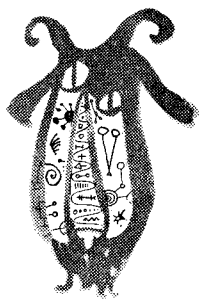
クリスマス・カード
イタリア製 ¥ 20～60
日本製 ¥ 15～50
日本的なもの ¥ 20～50

クリスマス・御絵
イタリア製 ¥ 8～15

天使像
豆天使 ¥120～200
コーラス天使（各種）

お友だちに・お子様に
心に愛のかてを！
◆天から来た人　脇田晶子編 ¥ 250　小学4年～中学生
◆イエズスのお母さん　脇田晶子著 ¥ 250　小学3年生まで
◆生きるに値するいのち　小林有方著 ¥ 150　一般向
◆若き日に老いし日に　ニノサルバネスキ著 アグネス・レト共訳 山本文子共訳　若い方・一般向 ¥ 250

万町電停前 岩田屋6階
聖パウロ書院
セント・ポール・コーナ



カット　あきら

羊（顔）

短歌

二丈

夕しぐれ町は地平に低く出で屋根の高みにすぎし雨雲

時雨してこの三千院の杉苔はつややと見えぬ法を説く声と

ひなたより校舎のかげに連らなりてまきをはこべる少女らは

俳句

風声

手鏡にとらえし妻の木葉髪　牧泉

秋深し少年草笛吹いて行く

白菊の柩に祈る深夜かな

大家族サンダル履いて鑑釣りに

聖書の国 ⑦

平山高明

族長・家父

細胞が分裂するように結婚によって家族の中に独立した新しい核すなわち家庭が生ずる。分家は本家から分れながらも、なお血の靱帯をもって強く結びつけられていた。この本家の頭ともいうべきものが聖書で長（おさ）、族長とよばれていたが、アブラハム、イザアク、ヤコブまたイスラエルの一二族といった太祖の時代には、血縁に結ばれた家族同志がこの族長によって導かれていたのである。族長は全家族の上に最高の裁判権と徴罰権を有し（創三八の24）生殺与奪の権さえも有していた。また戦いに当っては部族の長として軍を指揮したのであり、（創一四の14）、文字通り最高の主権者であり、生れながら将たる使命を担った者であった。

エザウが一皿の豆と蠣率にも交換してしまった長子権とは、この族長を相続する長男の権利のことである。

族長は長子にこれらの権をゆずるに当って、特別の祝福を与えたが、この祝福は相続者の上にいつまでもとどまり、恵みをもたらすものと考えられていた。

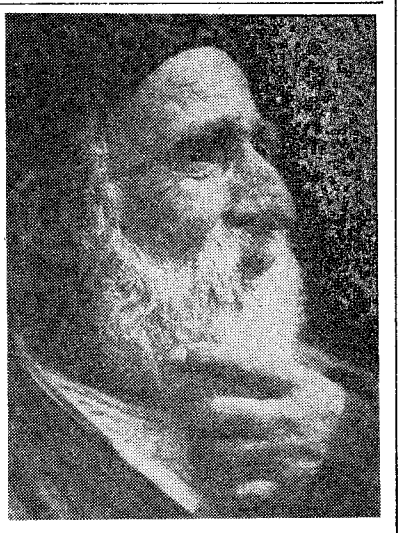
△　△　△

太祖ヤコボの一二人の子供達はそれぞれ一二の支族に分れたが、各支族の長は集って部族の最高会議を形成し（出エ三の16）ある時には王を選出し、ある時には和戦を議決した。そして部族の各員は支族の長に対しては服従していたが、他の部族の長に対しては無関係であった。ただかれらは共同の先祖から出た皿族兄弟との強い意識と、また唯一神の信仰を守るために、神から特に選ばれた民であるとの深い自覚を有していたので一旦ことがある時には強い団結を示した。

△　△　△

イスラエルに干制がしかれ、部族政治の影はうすれたが、かれらの一致は宗教を中心にして行なわれた。とくにエルザレムにおける過越の祭や、天幕祭などの国民的祝祭にあずかることによって、共通の使命をおびた兄弟との意識をふかくした。この選民の自覚がふかくなるにつけ、かれらは「選びの民」の血を純潔に保とうと努力した。

とくにカナアン人、モアブ人、アンモン人らとの結婚は、同時にかれらの偶像崇拝や迷信を、頽廃した風俗と共にイスラエルに持ちこんだので、族長や家長たちは、おのが部族の者がこれらの異邦人と結婚することを、極度に警戒しきらったのである。



部族の命運は族長にかかっていたので、とくに長子の結婚に対し家父はふかい関心を示し、介入し干渉したのであり、この点についての家長の権は強力であった。律法は「汝は異邦人の娘を妻として息子にめとらせてはならない。なぜならその嫁は自分でも偶像のまえに平伏するだろうし、また良人までも同様にさせる恐れがあるからである」（出エ、三四の15）といっている。

△　△　△

族長である父親が、息子や娘をどれいのように売ることもあったし、また子供がなにか重大な罪を犯した場合には、族長はかれを死に処することもできた。（創三八きの24）

イエズス様の時代になると、族長の姿はうすれ、子供を売ったり生殺与奪の権をふるうようなことは見られなくなったし、大家族主義に代って、聖ヨゼフと聖母マリア、ザカリアとエリザベト、ゼベデオとサロメというように、経済的にも独立した個々の家庭が中心となっているのが見られる。

それにしても父親が家族の頭であることに変りはなかった。妻は良人を「あるじ」とよんでいたし子供たちは父親を神の代理としてながめ、これに従っていた。

律法はくり返しくり返し「父母を敬う」ことを命じ、「汝の父母を尊べ、さらば長命を得ん」（出エ、二〇の12）と教えているがまた逆に、父母にそむき、父母をのろう子供に対してはきびしい罰をもっておどしている。聖パウロも、両親を尊ぶことが神の約束をうける第一のものだとエフェゾの信者に書き送っている。

父親は事実上、家庭の頭であり家族の生活を支える。聖書のなかには、家長である父親がぶどう畑をとえ、柵をめぐらし、小作人に貸し、あるは種まきを指示したり、息子たちを畑にやって仕事を割りあてたり、盗人を防ぎ、日傭労働者に仕事を与え、給料を支払う。改心してもどってきた放蕩息子のために、牛をほうって盛大な宴会を準備させたのも父親であり、かれらの生活の中心に浮び上ってくるのは父親の姿である。

イエズス様は、優しいながらも威厳にみちた父親の姿をもって、永遠なる天の聖父を教えようとなさったのである。

A・M・ロゲ著
岩村清太訳
秘跡とは何か
カトリック全書版
定価　〒400

典礼シリーズ

㉛ リベラ・ノス（主禱文直後の祈）

ラプラント

主禱文につづいてすぐ司祭は一つの祈をとなえますが、これは第七世紀以前にはじまり、恐らく主禱文と同じ頃にミサに入れられたものです。主禱文の最後の祈願、われらを悪より救い給えと同じ言葉ではじまり、この祈願を展開させ説明するもの。従ってこれをエンボリスム、すなわち挿入部分と申します。

私達はここで聖人たちのお取次により、すべての悪から救われるよう願います。過去の悪は私達の罪とその悪結果で、現在および将来の悪はすべての不幸、罪・霊的弱さのことです。ここで良心の潔白とくに平和を求めます。はじめはマリア、ペトロ、パウロの名前だけあげていましたが、ローマの教会はやがて聖ペトロの兄弟に対する特別信心から、聖アンドレアの名前を加えました。これは恐らく、教皇聖グレゴリオ（六〇四年死）の直接影響によるものでしょう。この教皇は長年聖アンドレア修院の修士でした。

第一〇世紀以降は、土地の信心によって他の聖人の名前を加えてもよいことになり、この習慣は一五一四年のランドのミサ典書のなかにも残っていました。この祈の本文は現在では不変です。ただスペインのモザラブ典礼ではミサ毎に変化します。

声の高さ

「リベラ・ノス」は第七または八世紀以来、小声でとなえますがそれ以前は大きな声で、または歌うようになっていました。今日でもリオン、ミラノ典礼で、またラテン典礼では聖金曜日の聖式でそうなっています。この祈は主禱文のつづきですから、これと同様に大きな声をとなえたことは当然だと思われます。

式の動作

ノベラ・ノスをとなえながら、司祭はプリフィカトリウムをもってパテナを拭き清めます。キリストの尊いお体をのせるためです。荘厳ミサでは助祭が代ってそれをします。前に述べた通り、副助祭は奉献のときから祭壇中央の最下段に、肩衣をつけ、その両端でパテナをにぎり、顔の高さで奉持して立っています。主禱文の終りになると、祭壇の右にいる助祭にそれを持ってゆきます。これは中世期（第七世紀以降）の教皇ミサで侍祭が果していた役割の名残りであって、ひとりの侍祭が序誦のときから両肩にかけたヴェールで大きなパテナを包み、胸の所で奉持し、〝テ・イヂツール〟がはじまるとこれを副助祭に渡し、副助祭は主禱文のときに、その教会付きの副助祭に渡し、最後に、リベラ・ノスの終り頃、大助祭がパテナをうけとってうやうやしく接吻したあと、パンをさく式に用いるためこれを務めの助祭に差し出していたのです。

面白いのは今日でもローマ典礼以外の色々の典礼で、荘厳ミサ中パテナを持つのは副助祭でなくて侍祭だということです。例えばパリのノートル・ダム大聖堂では侍祭がパテナを大きな銀の箱に入れてかかえています。

十字架のしるしとパテナの接吻

パテナをもって十字架の記しをするのはやっとここ数世紀まえから起った習慣です。司祭はこの行為をもって、聖別されたパテナで自分に祝福を与えているようですが、かれは平和とくにキリストの十字架によってえられた霊魂の平和を願しています。第一六世紀頃フランスのモー教区の司祭は、パテナで三回十字架をしるしていました。

パテナに接吻する規則は（パテナに息をふきかけていると思っていた人もいますが、実は接吻するだけ）第七世紀にきまっていましたが、荘厳ミサでこの接吻をしていたのは大助祭です。ずっとあとでこれは司式司祭だけ許されることになりました。所が色々な行きすぎが入りこんできて、例えばパテナをもって顔に、胸に、全身にそれぞれ十字架の記しをするとか聖ペトロの名を口にするところで右の目に、聖パウロの名のところで左の目にパテナでふれるなどの習慣が出てきました。幸い一五七〇年改革のミサ典書はこれら蛇足的なものを全部とりのけました。

パテナに対する尊敬の理由は、やさしく納得ができます。カリスと同様ミサ聖祭をささげる用にあてられ、キリストのお体をのせるものだからです。だからパテナも金でおつわれ聖香油で聖別されます。パテナはキリストの平和をもたらす道具の如きものであり、司祭は〝あわれみによって平和を与え給え〟という言葉をとなえ、同時にパテナに接吻しながらこの平和を祈り求めます。

司教の与える祝福

聖アウグスチノ、アールの聖セザリオ（第六世紀）、ツールの聖グレゴリオその他によると、主禱文の直後に、司教は聖体拝領をせずに教会を出てゆく信者に祝福を与えていました。ガリアでは司教がこの祝福を与える場合、きわめて荘厳に歌っておりました。この習慣は今もトレド、リオン、オータンおよび東方典礼に残っています。私達のローマ典礼ではここで祝福はなく、ただミサの終りに一度与えるだけです。

すべての東方典礼ではこの第一祝福のあとで、会衆にむかって「聖なるもの を聖なる人々（信者）に…」と招きの言葉をかけますが、この言葉は第四世紀からはじまったものです。そして司祭は、みんなに見えるようにオスチアを高くあげます。聖体拝領の知らせです。ラテン・ローマ典礼ではこの行為は小さく目立たない程度に丁度各自への聖体分配のときになされます。

第一七世紀のパリのミサ典書のルブリカに、副助祭は聖体拝領が近づいていることを示すために、自分の顔の高さにパテナを上げるように規定していますが、このルブリカは余り信用できません。なぜなら、副助祭は奉献のときからそうしているのですから。

心構え

神のあわれみにより頼み、私達のすべての悪からの解放と、キリストのあふれる平和を祈願しましょう。司祭はこのすぐあとで、カリスの上にオスチアをもって三度十字架をしるしながら、この平和を私達のために願い、荘厳ミサでは、助祭を通じて列席の全聖職者にこの平和を与えようとしています。ですからリベラ・ノスの祈は平和の接吻と、すべての罪を赦して真の平和をほどこし給う神の小羊への祈であるアーニュス・デイへの橋渡しともいうべきものです。

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　七三〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六八〇円
デイリーコンサイス英和辞典　革　六五〇円
新クラウン英和辞典　縮刷版　三〇〇円　四二〇円
ジェム英和・和英辞典　D版　五五〇円　六三〇円
最新明解英和辞典　大型版　八五〇円
初級クラウン英和辞典　一〇〇〇円
初級コンサイス英和辞典　三八〇円
初級コンサイス和英辞典　二五〇円
三省堂　独和新辞典　二〇〇円
コンサイス独和辞典　七〇〇円
コンサイス仏和辞典　六〇〇円
コンサイス露和辞典　八五〇円
日西辞典　三、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、六〇〇円
英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　一、三〇〇円
新版広辞林　背革特装版　二、〇〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　一、四〇〇円
明解国語辞典　六〇〇円
三省堂国語辞典　四八〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　四五〇円
大明解漢和辞典　三五〇円
明解漢和辞典　九〇〇円
模範六法全書　四五〇円
明解六法　六七〇円
学習百科事典（新版）　二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　一、二〇〇円
書道六体大字典　八〇〇円
一〇、〇〇〇円

三省堂　福岡出張所
住所名変更
福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町

昭和30年7月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行　第100号

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部十円

神学校設置四百周年に

教皇書簡と記念式典

一五六三年トリエントの公会議が神学校設置を決議して今年は丁度四〇〇年、これを記念する種々の式典がローマおよび全世界の大神学校であげられたが、一一月四日パウロ六世教皇は、聖ペトロ大聖堂において数千名の神学生らに説教し、神学校制度の本質と目的を明らかにされた。なお同日付で全世界の司教宛に教皇書簡「スンミ・デイ・ヴェルブム」（至高なる神の言葉）を発表された。

トリエントの公会議は、当時の異端説によって乱された教会内部の一致を図るために、多くの教義を明確化し、聖職者、信者の信仰的生活の刷新を断行し、その後の教会の進路を決定したものであるが、数多く決議された刷新事項のなかでも、神学校設置の決定はとくに異色のものであり、教会の聖化と内的充実に最大の効果をもたらしたものである。

この決議事項には、将来司祭をめざす者の選択（本人の智的能力品行、敬虔、聖職への動機などの審査によって）、神学校内における智的、信仰的訓練、超自然的精神のかん養（哲学、神学、聖書学などの課程、霊的指導の要綱の規定）、各司教が下す最終決定など細かい規則がふくまれている。

× × ×

教皇パウロ六世聖下は、今回の書簡のなかで、神学校設置の史的背景、その理由、教会と社会にとって神学校の占める重要性、現代における神学校の必要性について述べたあと、司祭職への召し出しを実現するに好都合な雰囲気を作り出すべきことについて、次のように指摘しておられる。

「実際、司祭職を志望して第一歩をふみだした時からその達成までを考えてみると、召命は神の賜を主とするものではあるが、それでも聖職者および信者たちの惜しみない援助がなければならない。現代文明は信者たちをも外的財産への望みに昂じさせており、そのため超自然界の不滅の財産に対する関心が稀薄にされている。多くの青年たちは、最初よきあこがれを抱いていても、家庭や学校がこの志を育て深めるようにしてやらなければ、立消えしてしまうであろう」。

「このようにしてのみ、かれらは世間の腐敗から護られ、そして最適の場所で神の召し出しの芽を成長させうるであろう。」

「神学生養成の第一の責任者は司教および神学校指導者らであるしかしながら、主任司祭や他の司祭ら、修道者、一般信者よりの力強い熱心な支持が得られなければ神学校自体の仕事は失敗するであろうし、また効果を半減してしまうであろう。」

教皇書簡はさらに、正しい召命の意向、危険と脱落、その対策などについて述べている。

フアチマの牧童の

列福運動に祈と犠牲を

一九一七年（大正六年）ポルトガルのファチマで聖母のご出現をうけた三人の牧童のうちフランシスコ・マルト（当時九才）とその妹ヤシンタ（当時七才）の列福運動が、ファチマを中心に全世界で進められている。この運動の責任者でありローマ聖座への列福請願者であるルイス・コンドール師（神父会員）から、棚町正刀師への書簡によると、深堀司教は去る六月二三日、棚町師を福岡教区における列福運動センターの責任者に任命している。

フランシスコは一九一九年四月四日に、なおヤシンタは一九二〇年二月二日に病歿。また一緒に聖母ご出現に接したルチア（当時一〇才）は、ドロテア会修道女として生存中である。

本列福運動は、祈とぎせいによってこの二人が一日も早く祭壇上の尊崇を公けにうけられるよう、神の特別のおめぐみを懇願することを主眼目としている。

祈禱の使徒会（一二月）

【一般意向】各国相互の尊敬、信頼、愛による世界平和

めでたし，
恩寵に満てるマリアよ．

（聖母無原罪のおやどり）

世の光

「我が子をよく育てる人は慰めを受け」（集30の2）

最近私は「奇跡の人」という映画の試写会に行った。もちろんその映画の表現するものをそのまま現実として、とるわけにはいかないけれども、私はこの映画を観て次の集会書の言葉を思い出した。

〝わが子を愛する人はこらしめを苦しまない。後にその子は、かれの慰めとなろう。わが子をよく育てる人は、慰めを受け、知人の間でその子を誇ることが出来る。

子を教育する人は、敵の妬みを買うが、友人の前では、その子について喜ぶ。

父親は死んでも、死なないのと同じだ、自分によく似た子が、あとをつぐのだから。

生きている間は、子を眺めて喜びを感じ、死ぬ時にも苦痛ではない。

かれは、敵に仇をとってくれる人を、友人に恵みを返してくれる人を、後に残した。

子を甘やかす人は、その子の傷に手当をしなければならなくなりその子が泣くことに、父の心は引き裂れる。

よく馴れていない馬は、すぐすね、したい放題のことをしている子は、頑固者になる。

子をちやほやするがよい、そうすると、あなたは子を恐れるようになるだろう。

子とたわむれるがよい、そうすると、あなたは子に泣かされるだろう。

子と共に笑うな、あなたが子と共に泣きたくないなら。結局あなたは、歯ぎしりすることになろう。

子が若いときには、自由を与えず、その愚かな行為を見すごすな

子が若い時には、背をかがませまだ子供の頃から脇腹を叩け。

そうしないと、かれはあなたにそむき、いうことを聞かず、あなたを悲しませるだろう。

子を育て、つくり上げよ、そうしないと、かれの無礼をしのばねばならなくなる。（集会30の1－13）

最近幼稚園などで「児童心理」「教育心理」等の講演があると文句なしに大勢の父兄が集まって来る。無理もない話しである。犯罪の低年化と、それに若い層の教育程度のどんどん上って行く今日、親達もその時代のいわゆる「波」に乗って行くのに必死なのだ。現在、大新聞までが「小さな暴力排除」や「小さな善意奨励」に一役買って出ている。現象面に表われた小さな出来事を一つ一つ拾って誤りを直したり、ほめたりすることは、物事をミミチック考える人にとっては、心の慰めになるかもしれない。しかし、これは何百万部の発行部数をもつ大新聞のやる事ではなさそうだ。こんなことは小学校の倫理教育が足りないために公徳心の乏しい人間ができるのであろう。新聞は道徳教育復活のキャンペーンをやるならば、もっと人間は、人々に親切をすることをおぼえるであろう。小暴力を排除するためには、警察制度や法律をもっと完備すべきであろう。その日の出来事だけをとらえて、良い、悪い、をいう事は長屋の熊さん、八さんでも用は足りる。根本的に道徳思想のない所に現在の日本の穴があるといえる。

戦後、小学生が女の先生をからかっても、教育を見失った彼女には、怒る事もできない。真赤なセーターを着て、女物の下駄をつっかけている青年が通ったとしても大人達は、せいぜい眉をひそめ通り過ぎ、陰で「今の若い者は」という昔エジプトのヒエログラフにさえ書かれている陳腐な言葉をもち出す。青年は青年で「いらぬおせっかいだ。これは趣味の問題だよ。人に迷惑をかけているわけじゃないものな」と、なる程そうだ。確かにそれは大人の偏見かも知れない。しかし旧世代に挑戦する日常の戦の中での勝利や敗北、挫折の体験の上で若者は始めて練られて行くのだ。現在は陰湿な笑いはあっても、若者に期待と善意をもつ叱責、そして「大人」らしい人生の助言にも不足している。姑息的なミミッチイ事をほじくり出すことよりも、もっと根本的な問題にメスを入れなければ、日本は救われない。一体、若者はこれでいいのか、という問は明らかに一体大人はこれでいいのか、という厳しい問でなければならない。それに対して、非常に簡単に答えてくれるものは、複雑に人間心理を分析した、児童心理学や教育心理よりも、聖霊が今も世の親達にささやいている集会書の言葉であると思う。

「わが子をよく育てる人は慰めを受け、父親は死んでも、死なないのと同じだ、自分によく似た子があとをつぐのだから」

（山東龍雄）

ごあいさつ

第一〇〇号発行に当り

福岡教区機関誌の使命をになう本誌「カトリック」も今月号をもって第一〇〇号に達しました。昭和三〇年二月に創刊号を出して満八年、不慣れな旅路をたどる編集者にとりましては、まことに長くつらい道のりでありましたが、深堀司教さまはじめ、実に多くの友にはげまされて、やっとここまでたどりつくことができました。有形無形の御援助をお寄せ下さった方々、ご愛読の皆さまの御厚情を感謝申し上げます。

経営面は、印刷代や郵料の値上げで赤字すれすれですので、誌代引上げとなりました節は、どうか御容数下さい。今後とも広く皆さまの御協力をお願い申し上げます。

カトリック編集部

布教活動に寄与せよ

布教の主日に教皇が放送

【布教意向】キリストの平和が万民にもたらされるように

教皇聖下は世界布教の主日のためのラジオ放送の中で、教会の宣教師たちは「世の終りまで教会に留まる」とのキリストのお約束を証明するものであるといわれた。お話しの大要は次の通り。

これは、宣教師たちへの私の初のメッセージであるが、実にかれらは、万民に福音の光とめぐみを広めたいとのキリストのご熱望が、常に教会の中に存在しかつ働いていることを雄弁かつ確実に証明しつづけている。

ある選ばれた人びとに、宣教師になる特別なお恵みが授けられ、かれらは世界中の最も骨の折れるかつ最も近づきにくい道を旅してゆき、そして神はご助力を与えてかれらを非常に困難な仕事と取組むことができるようにし給う。

どうか各人が、自らの責任と地位とに応じて、信仰弘布会を援助するように。どうか世界の隅々から、私の声に応じて終りのない祈りの合唱隊がきて人びとを唯一の指導者なるキリストの許に連れ戻すように。また熱烈な愛徳が、到る所でその真の発揮のうちに栄えるように。この愛徳は、すべての信者に、キリストの愛の大きさを理解させうるようにするのである。

どうか天使たちが世界的な祈の合唱隊、熟慮された意向、積極的な努力を、キリストのみ国の拡張のために取り集め、それらを神にささげるように。

聖体礼拝（一二月）

第一日曜　二日市教会
八代聖パウロ会
第二日曜　本渡教会
久留米日吉町幼きイエズス会
第三日曜　唐津教会
第四日曜　本城教会
第五日曜

一二月

一日（日）　待降節第一の主日
クリスマスを準備するこの待降節は、真の改心にむかって一歩ふみ出すときであることを忘れないようにしよう。パウロは「眠りよりさめて、キリストを着よ」と勧めている。昨日までのなまぬるい生き方を捨て、新鮮な信仰の空気を胸一杯に吸いながら、愛と忠実を実行するす決意にみなぎらせるように努めたい。

三日（火）　邦人司祭の養成日
聖フランシスコ・ザベリオ証聖者
今から四〇〇年前はじめて福音の光に浴した日本国民がキリスト信者としてどれほどすざましい熱心を示したことか。外国から渡来する多くの宣教師らがこれにひとしく驚嘆の目をみはったのである。今日も物質的繁栄だけでなく精神的信仰的発展をもって、世界の明星となりたいものである。

八日（日）　聖マリアの無原罪のおやどりの祝日
（待降節第二の主日）
原罪と自罪に一瞬もけがされることがなく、聖寵にみちみち給うマリアの霊魂の美しさは、いかなる芸術家もこれを表現することはできない。自然界のすべての美を合せたよりもはるかに美しい、神の最高の傑作であるマリア、このマリアを賛えるときわれわれは神を賛えずにおれない。

一三日（金）　聖女ルチア童貞殉教者

一五日（日）　待降節第三の主日
長い間のなまぬるい生活から抜け出るときには、心の痛みはさけられない。丁度、傷口のほうたいをはぐときのように。しかしそれを通りこしたあとの心のやすらぎは言葉で言い表わすことはできない。「よろこべ、汝ら、主において常によろこべ。主は近くに在すなり」。

二一日（土）　使徒聖トマの祝日

二三日（日）　待降節第四の主日
改心にふみ切ったものは、忠実なキリストの友としての生活に入る。この忠実の誓いこそ、この世に降り給うキリストへの最大の捧げ物である。

二四日（火）　ご降誕の大祝日の前日
聖パウロには改心のあと、死ぬまで福音のため働いた。かれはひたむきにキリストの後に従ったのである。

二五日（水）　わが主イエズス・キリストの御降誕の大祝日
（守るべき祝日）
われわれは新しい心のなかに神の御子をいだき、天のみ使たちこの地の善意の人々と共に、賛美のうたをうたい、マリアと共に、主を礼拝しよう。

二六日（木）　聖ステハアノ殉教者の祝日
ステハアノは、石殺しの刑で殉教するときに、居並ぶ人びとの改心のために祈った。

二七日（金）　福音史家使徒聖ヨハネの祝日

二八日（土）　罪なき聖嬰児ら殉教者

二九日（日）　ご降誕八日間中の主日
過ぎし一年のあいだに頂いたおめぐみを神に感謝しよう。

＝福岡海星女子学院＝

福岡市老司に新教育施設

来春開校めざし建築中

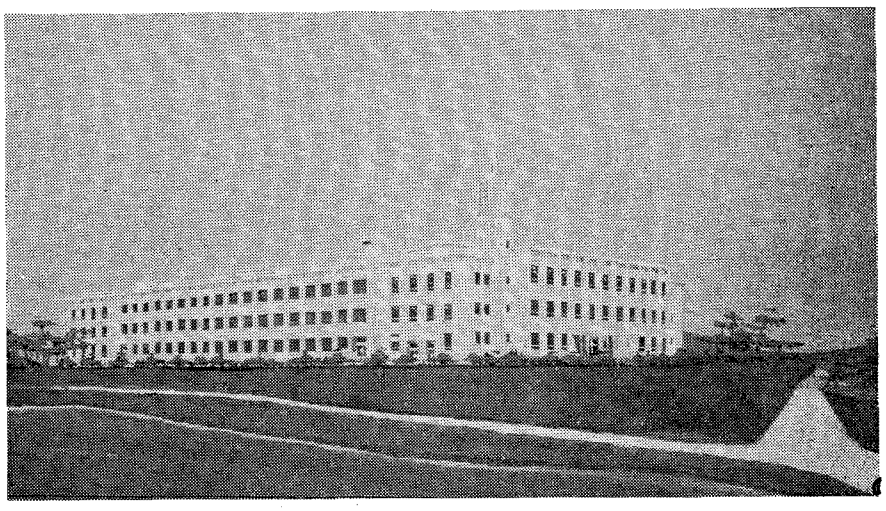
いま福岡市南部で女子のため新しいカトリック学校の建設が突貫工事で進められている。

神戸、宇都宮ですでに教育事業をしているマリアの宣教者フランシスコ修道女会が、福岡海星女子学院の名称のもとに開くもので数年前からの準備が実り、東油山のふもとに近い老司字中尾に約八二、五〇〇平方メートル（約二五〇〇〇坪）の土地を購入、去る七月二日から地開き、九月二九日に定礎式を行い、来年二月末日完工をめざして大林組が、幼稚園、中学、高校の鉄筋コンクリート三階建校舎と講堂（建築面積一、七九二平方メートル、五四三坪）の建築にとりかかっている。

認可が下り次第、幼稚園児のほか中学一年一〇〇名、高校一年二〇〇名の募集にあたるが、第一期工事で他の学年のための教室も全部そろうことになっている。

老司地区は市の中心からは遠く離れているが、周囲は急速に住宅化されており、学校用地がすっぽり老司池にかこまれて教育環境としては申し分がない。将来は大学小学校、体育館、そして修道院の建設も計画されている。

初代校長に予定されているマリー・ネリア童貞は、これまで一〇年間、神戸の海星女子学院（幼稚園から短大までの綜合学園）の校長をつとめた人。（写真は福岡海星女子学院完成図）



公会議の成功を祈って

新田原で聖体行列

王たるキリストへの忠誠を誓い公会議の成功を祈願しつつ聖体の秘跡をたたえる行列が、一〇月二七日午后二時から新田原教会で挙行された。北九州地区の各教会、修道会からの参加者、地元信者あわせて約二三〇〇名が、惜しみなく照りそそぐ陽光のもとで信仰の熱をいやが上にも高められた。教会前広場の礼拝のあとデシャンブー師（若松主任）が聖体を奉持し色染ののこぐずのじゅうたんの上を通って境内を一巡、サナトリウム正面前にとくに飾りつけられた仮祭壇で伊東師が説教、最後に広場にもどり、降福式をもって三時三〇分、賛美の祭典を終った。

（写真は新田原聖体行列）

歳末に街頭募金

信徒布教委員会決定

福岡地区信徒布教委員会では一二月二二日午后七時から、福岡市内および二日市などの各教会委員出席のもとに協議をひらき、街頭募金実践事項を決定した。

同地区では例年一二月にクリスマス、歳末街頭募金を行っているが、今年は一二月七日（日）より二二日（日）までの一六日間、市内各所、二日市、春日、大野、久留米で募金を行う。

集った金は、カトリック国際救済団体である聖ヴインセンシオ・アー・パウロ会に一括して委託するが被救済家庭の実態、必要物品と分配要員数を、各教会から大名町または箱崎の同協議会に通知すること。

なお来年早々、公会議についての講演会を深堀司教にお願いし、承諾があればそれを機会に地区の布教大会を行いたいとの希望も述べられた。

厚生大臣賞うく

島崎修道院長

一〇月二八日かた。

ら東京日比谷公会堂でひらかれた全国社会福祉大会の最終日に、長年社会福祉事業に功労のあった人びとの表彰が行われたが本教区関係者としては、熊本市島崎町のマリアの宣教者フランシスコ修道院長マリー・ピエール・ダミアン童貞が厚生大臣賞をおくられた。

ダミアン童貞はフランス人、昭和二年来日以来三六年間終始めぐまれぬ人のために献身し、二三年島崎修道院長補佐、三五年院長に就任、島崎愛児園の園長を兼ねている。

シーヒー師帰日

母国アイルランドでの休暇を終えたシーヒー師（コロンバン会司祭）はこのほど帰日、早速旧任地の健軍教会での聖務に復帰した。

学園だより

盛大に文化祭

久留米信愛女学院

久留米信愛女学院高等学校では一一月二二、二三両日に学校と生徒会共催による「文化祭」を開いた。展示部門では、芸術、文化、理科の各分野における生徒たちの研究が発表され、ステージ部門では石橋文化ホールを会場に、合唱独唱、ピアノ独奏、英語劇リア王やシャン・アヌイ作、芥川比呂志訳、吉沢五郎演出による劇「アンチゴーヌ」などが見事に上演され満員の聴衆をうならせた。

鶴見さん第一位

福岡双葉学園高校二年の鶴見孝子さんは、さきの九州地区英語暗誦大会で見事一位になった。

初誓願

一一月一三日福岡市の福音の光修道会本部で、ウィリアムズ師司式でシスター・マリア・ベルナデッタ（原田玲子、八代教会出身）が初誓願を立てた。

三川鉱事故で犠牲

荒尾の長さん

一一月九日の大牟田三川鉱の爆発事故で荒尾教会所属のミカエル長（ナガ）敏雄さん（三五才）が亡くなった。長さんは五島出身で二ケ月まえに福岡県田川の炭坑から三川鉱に移ったばかりであった遺族は奥さんと子供さん一人。

布教献金

（一〇月二〇日）

大名町	五、二〇〇
浄水通	三、〇五〇
地行町	五、〇〇〇
蓑島	二、二〇〇
西新	二、三三〇
茶山	一、六〇〇
大楠	二、四〇〇
高宮	二、〇〇〇
那珂町	二、五五五
吉塚	二、〇〇〇
箱崎	一、四〇七
田島	六〇〇
古賀	一、一〇〇
二日市	八五七
小郡	四一〇
今村	一三、八五〇
本郷	六、三〇〇
久留米	六、〇〇〇
大牟田	二、〇〇〇
吉野	三三〇
呼子	二、八〇〇
馬渡島	二、〇〇〇
佐賀	二、〇〇〇
唐津	一、〇〇〇
鳥栖	三〇〇
伊万里	三五〇
武雄	三〇〇
鹿島	三〇〇
多久	五〇〇
門司	二、六〇〇
小倉	一〇、〇〇〇
湯川	三、〇〇〇
戸畑	一、〇〇〇
若松	一、八〇〇
天神町	三、五〇〇
八王寺	二、七〇〇
黒崎	六、五〇〇
本城	一、〇〇〇
水巻	一、一八一
直方	一、〇〇〇
飯塚	六〇〇
田川	四〇〇
行橋	一、五二〇
新田原	四、一〇〇
手取	一八、〇〇〇
健軍	三、二〇〇
島崎	八、〇〇〇
八代	四、二七〇
人吉	四、〇〇〇
水俣	一、二〇〇
隈府	五、三九〇
玉名	一、〇〇〇
荒尾	一、〇七〇
本渡	一、四五〇
大江	一、五〇〇
崎津	二、一四〇
合計	一七二、八六〇
（昨年度	一四九、四二六）

× × ×

ある母親の手記①

―マルタン夫人の書簡より―

前がき

マルタン夫人は、テレーズ・マルタンことカルメル会修女、幼きイエズスの聖テレジアの母であった人。一八三一年一二月二三日フランス軍人の娘としてガラドラン村に生れる。きょうだいは姉一人弟一人。少女時代に愛徳童貞会のコルネットを憧れたが、神のみ旨はここになく、アランソン・レースの技術を専門的に身につける。

二六才の春、サンレオナール橋の上で偶然すれ違った青年マルタン氏と結ばれ、一八六〇年二月二二日から聖テレジアの生れた一八七三年一月二日までの一三年に九人の子供をあげる。うち四人は夫折。一八七七年六月ルルドに巡礼して病気快癒を祈る。同年八月二八日四五才で乳がんで死亡。

目下、夫のマルタン氏と共に列福運動の対象となっている。

「人生のあらゆる出来事を前にしても、神のみ旨にひたすら一致して自分を顧みない。家族の病気も死も、一八七〇年の戦争の恐怖も、商売仇の悪意による財政上の不如意も、かの女をたじろがせることはない。互いに愛し尊敬し合う夫に支えられ、日毎のミサ拝聴と、たびたびあずかる聖務祈祷の中に汲みとる聖寵に強められて、英雄的に妻として、母としての義務を果してゆく。（乳がんの最初の徴候が現われたのは一八六五年のことであるが、床についたのは苦しみが極度に達した最後の数日のみ。死の三週間前まで夫の腕にすがってミサにあずかっている。

かの女は〝家庭の光〟であり、生れながらの教育者である。（詳しいことは「ある家庭の物語」―カルメル会訳＝を参照。

手紙について

現存しているのは二一七通。大部分は弟イシドール及びその夫人あて、他は夫マルタン氏、訪問会の姉ドジデ修女（一通のみ）同会の寄宿生だった上の二人の娘あて

夫人はこれらの手紙を自分の慰めのためでなく、遠く離れている家族をよろこばせるために、主日の午後や、夜なべ仕事をおえてから、ほの暗いランプの光に照らされて書いた。最後の手紙は死の一二日前のもの。

次女ポリナに

一八七六年一二月八日

小さいセリナはとても愛くるしく、おばさまのご病気がよくおなりになるようにと、たくさん犠牲をしています。そしてテレジアまでが、ときどきこの犠牲のお仲間入りをしようとするのです。この子は本当にかわいくて、活発で抜目がありません。それでいてとても感じやすい心をもっています。セリナとテレジアは大の仲良しで二人だけで決して退屈いたしません。毎日ご飯がすむやいなや、セリナは雄どりをつかまえに行ってたちまちテレジアの雌どりもつかまえてしまいます。私には決してつかまえられないのですが。セリナはとてもすばしこくて、一息でつかまえてしまうのです。それから二人は、にわとりと一緒に暖炉のそばにすわりこんで、長い間遊んでいます。

ある日セリナは私と一緒に寝てテレジアは二階のセリナのベッドに寝ていましたが、（女中の）ルイーズに、蒼白には階下に連れていって頂戴と頼んでおきました。翌朝ルイーズが上っていってみますと、ベッドは空っぽで、テレジアは階下に来てセリナと一緒に寝ていました。ルイーズが「お着替は？」というと、セリーナにしっかり抱きつきながら「ああ、ルイーズ、ほっておいて頂戴、私たちはあの小さい二羽のにわとりのように、もう離れないの」と言いました。

その晩セリナとレオニアはルイーズと一緒にカトリック・サークルに出かけ、かわいそうなテレジアは一人だけ置いてきぼりになりました。テレジアは一緒に行くにはまだ小さすぎることがよくわかって、「せめてセリナのベッドに寝かせて下さったら」と言いました。でも、いいえ、それは許されませんでした。テレジアは何も言いませんでした。そして自分の小さなランプと一緒に一人残され、一五分と経たないうちに深い眠りにおちていました。

小出神父著

「幸福を築く教育」

一〇〇円　〒二〇円

目次

まちがった熱心……満九才を境に……
性格は六才までに……学校と家庭……
特技をもたす……生きぬいていく力…
幼児の扱い方で…乳児期…幼年期……
習慣づけ……反復と厳格の教育……
子どもから信頼されるには……甘やかれた子のゆくえ……よい習慣をつけるには……体罰も必要……叱ってよいことわるいこと……のびのびとした育て方……等々

定額カワセまたは切手同封の上
普通郵便で御注文下さい
申込所
広島市古市局区内古市一四八八
テレサ出版部

聖心の使徒（昭和38年12月号）

表紙　「待降節」　大野綾子画
時みちて―待降節に際して　三木　次郎
十二月の意向　世界に平和を
万民に平和を（十二月・布教の意向）　林　省吾
黙想　朝の奉献　粕谷　源蔵
写真特集　北光の下のクリマス
クリスマスの習慣さまざま　吉田　淳
クリスマス巡り
十二月の聖人　嵐にゆるがぬ巌　辰野　太郎
病める友へ　現実主義
十字架のイエズス修道女会
ポスト
新本めぐり

購読料　一カ月　五七円
一カ年五七〇円…〒共

日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾井町七

＝キリスト教一致実現の念願＝

公会議の成果に注目

在ローマ・有安宗治

一九六三年九月二九日午前九時第二バチカン公会議第二会期の幕は開かれた。ローマ聖省副監テイツスラン枢機卿のミサが終ると教皇パウロ六世が開会の辞をお述べになるために高座に赴かれる。一瞬聖ペトロ大聖堂内に静謐な空気がたちこめた。全世界の眼が教皇を凝視したのである。あたかも今世紀最大の奇跡でも見るような熱心さ、好奇心、期待をもって。

前教皇ヨハネ二三世が新教皇パウロ六世に残した遺業は、最も重大でありまた最も困難である。その完遂には明らかに人間の能力以上のものが要求される。現代はその最も困難なるものの解決を地上におけるキリストの代理者に求めている。教皇パウロ六世は高座に坐した。私達は全く神に委せきったひとりの人間を見た。就任のときあれ程「援助を、協力を」と叫んで、ゲッセマニの園におけるキリストを偲ばせた痛々しい焦躁はる。

キリスト信者の一致

第二バチカン公会議は、典礼、天啓、教皇首位権、教会行政、聖品級、道徳、文化などの諸問題を取扱う、しかしこれら問題の解決が一つの更に大きな問題の解決に集結される。全キリスト信者の一致これである。新教皇の使命は過去二千年の長い歴史を通じて、あらゆる誤謬に抗して悪戦苦斗した教会の傷だらけの体を、現代最新の特効薬にこもる神の力でいやすことにある。教会が負った傷とは異端や背教によって、教会の子らの間にできた不和と分裂である。ロシア正教、ルーテル教会、アングリカン教会、スコットランド教会、など…どれ程多くの宗派が同じ主キリストを信ずる人びとの間に存在していることか。東方教会は約千年、プロテスタントの諸教会は数百年、各おの違った社会、政治環境のもとでキリストの教を奉じ、唯一の神を礼拝してきたのである。教理、道徳、典礼などあらゆる面において、もはや各宗派は独特のもの、他者と相いれないものをもっている。しかも自分独特の教や儀式を守るために各宗派は他の宗派のあやまりや行き過ぎや悪業を指摘し、非難し、軽べつしつづけたのである。キリストに対する忠誠を誓って洗礼をうけた人達の間には、他者に対するのののしりと憎悪が看臨していたのである。キリストは福音中に他人についての判断は、神にまかせよと申しておられる。それ故、相互に審き合って諸宗派のキリスト信者は福音の名において福音を冒とくしたことになる。

キリスト信者の歩み寄り

歴史を通じてカトリック教会はキリスト信者一致の問題につねに心掛けてきた。すでにトレントと第一バチカンの両公会議において教会は、東方教会とプロテスタントの諸派に公会議への参加と協力を願っている。

離れた兄弟達の偏見にもめげずカトリック教会はトレント公会議以来、一致のための不撓の努力を重ねてゆく。レオ一三世は書簡を通じて、聖公会と英国に対して友好を深めたし、ピオ一〇世は信者に、すべての祈りに、一致のための特別意向を、そえるよう願われた。ベネデイクト一五世は、一致のためのあらゆるチヤンスと対策をおしまないようにと希望されたし、ピオ一二世は、カトリックでないキリスト信者を一致運動へと駆り立てる宗教的、道徳的理想の高揚に尽力された。

キリスト者の一致は、宗派を異にしているとはいえ、ヒットラーのナチズムの犠牲者として同じ運命に服したキリスト信者によって心理的に準備された。かくてスカンヂナビアのカトリック運動は、英国にも米国にも起ることとなったのである。多くの有名人、チエスタトン、ゲルフル・フオン・ルフオー、ブルス・マーシヤル、グラハム・グリーンらがカトリックに改宗した。

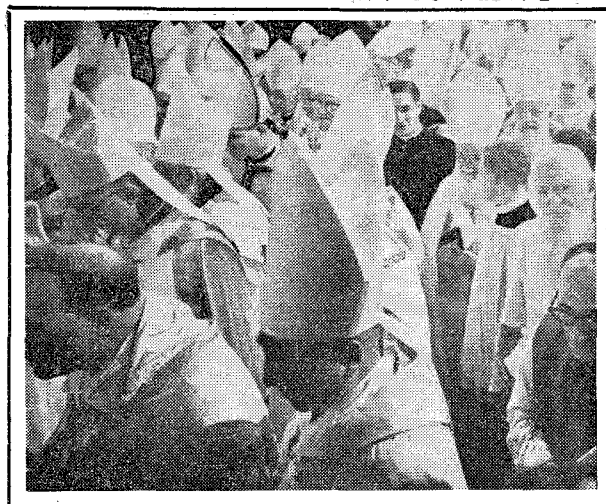
プロテスタント諸教会には相互の理解と話し合いがはじまった。ジエノバには一八〇宗派からなる教会の国際会議が設けられたので国家主義が抬頭したときキリスト信者間の分裂は辛烈を極める。「国主の宗教が民の宗教」となったとき、国と国との政治的問着と対立が宗派の対立を一層はげしくしたのである。国家は、国内のキリスト教に国家の法的性格と枠を与えてしまった。以前のカトリック、即ち普遍であった教会は国家の教会となったのである。イングランドにある教会、スエーデンにある教会、オランダにある教会とよばれていた同じキリストの教会が、国家主義の影響によって、英国の教会、スエーデンの教会、スコットランド教会、オランダ革命教会となり果ててしまったのである。

ある。共産勢力に圧倒されて、無神論から信者の信仰と道徳を守る急な必要を感ずる東方教会においては、一致への憧れはプロテスタント以上のはげしさをもっている。

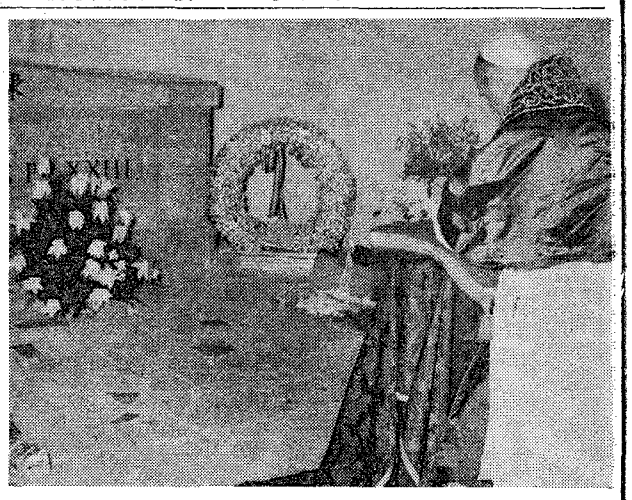
一九六〇年一一月一四日、前教皇ヨハネ二三世は第二バチカン公会議を宣言され、会議の特別の関心事が離れた兄弟達にあることを明らかにされた。この宣言はカトリックでないキリスト信者から、かれらの教会国際会議以上の観迎と人気をうけたのである。英国カンタベリーの大司教ラムゼーは「現教皇は偉大なる善意と愛の持主のようです。愛があるところ、その結果は数えきれないほどだ」と述懐した。

同様な賛辞が多数の諸宗派のリーダーから教皇におくられた。それはかりではない。公会議を前にしてカトリック信者と他のキリスト信者の間に、会話がはじまったのである。ドイツのマリアラークのベネデクト会では、カトリックと非カトリック作家の間で「公会議とキリスト信者の一致」という題で討論がなされた。

一致への最もすざましい運動は一九六〇年六月五日に設置されたキリスト教一致促進事務局の活動にある。事務局は離れた兄弟達に公会議の仕事について権威ある情報を与えて公会議に対するかれらの希望、示唆などをうけ、実際に適用できるかどうかを評議する。高会にもかかわらずベア枢機卿はその事務局長として、東奔西走、全く超人的なファイトと才能を見せている。



公会議におもむく司教たち



故ヨハネ教皇の墓前で祈るパウロ六世聖下

信者と公会議

信仰に対する積極的役割

J・ギットン氏の見解

信者として公会議に特別参加を許されているジャン・ギットン氏（フランス人）は、ラ・クロワ紙の記者と次のような問答を交わしている。

問―公会議運営にみられる教皇パウロ六世とその先住者の違いはどこにあるか？

答―めざしている目的は全く同一であるが、二人の性格と手段は非常に違っている。この二人ほど相補っている者はないだろう。すばらしい二輪車のようなものだ。教会の上に息吹く聖霊の現存をよくあらわしている。

重大な困難に立ち向ったときヨハネ二三世は、超自然的信仰の力でその困難の上にあがってゆき、高い所でこれをおし包み、こうして困難がしぼんで消えてゆくようにする。所がパウロ六世はするどい目をもつ鷲のように困難の上にとびかかり、その中に入っていって、それを身に感じ、生き、苦しもうとさえする。深い探求の努力によって解決策を見付けようとする。この二人の教皇についての感じをまとめるとすれば、ヨハネ教皇はむしろ聖ヨハネをほうふつさせ現教皇は聖パウロを思い出させる。使徒ヨハネは晩年「子らよ、相互に愛せよ」とくり返えしていたが聖パウロには、キリストを知らせるために奮発心にもえて世界を駆けまわっていた。

問―信仰の生々とした進展のために一般信徒が果すべき役割についてどう考えるか。

答―聖霊はたしかに聖職者と俗人、司教と一般信者の上に働いておられる。しかし注意せねばならぬことは、聖霊はすべての信者の上に働き給うにしても、教会における聖霊のあらわれを秩序づける。かれは深く入っていって、問題の内部から解決をわき上らせることを好む。

ヨハネ教皇は問題を太い線でつかもうとしていた。パウロ六世は全体を見失うことなく有るがままの姿の細い点にまで下りてゆこうとする。

この二人の教皇についての感じをまとめるとすれば、ヨハネ教皇はむしろ聖ヨハネをほうふつさせ現教皇は聖パウロを思い出させる。使徒ヨハネは晩年「子らよ、相互に愛せよ」とくり返えしていたが聖パウロには、キリストを知らせるために奮発心にもえて世界を駆けまわっていた。

問―信仰の生々とした進展のために一般信徒が果すべき役割についてどう考えるか。

答―聖霊はたしかに聖職者と俗人、司教と一般信者の上に働いておられる。しかし注意せねばならぬことは、聖霊はすべての信者の上に働き給うにしても、教会における聖霊のあらわれを秩序づけるのは司教の権限である。パウロは「霊を消すな、預言を軽蔑するな」と言ったあとで「すべてのことを試して、よいものを選べ」と付け加えている。

ニューマンは、第四世紀においてキリストの御托身と神性についての信仰が保全されたのは、世俗信者の忠実な信仰に負う所が多く一方皇帝権力下にあった東方の司教らの一部は半アリアニズムの異端に陥ったという。このように信徒は信仰の問題について受身でないばかりか、積極的役割をもつ。信仰を表わし、生き、深め、広めるものだからである。

問―新教皇の人物像において特に印象づけられた点は？

答―それはパウロ教皇が人間の友だということである。人間的なものでかれのあずかり知らぬことはない。かれはすでに確定した真理をいかにしたら現代人は自分のものとし、またいかにしたら真理がかれらの食物になれるか、知ろうと腐心している。

この点について教皇は、宗教上の真理の伝達と普及、その具体化は信徒にもまかされていると考える。従って信徒でも個人的肩書でかカトリック団体の代表者として公会議に席を占めるようにしたのである。

七十四才になるおばあさんが今度こそは六ケしいと云ふ事を聞いたのは二月の末か三月の始めまだうすら寒い頃でした。

胃癌らしいと云ふのでどうしてあげようもなくお見舞の品に添えてマリヤ様の不思議のオメダイを白紙に包んで贈って「之は私達の信仰のありがたいお守りです。枕の下にでも入れておいて下さい」と云ってかえりました。

その後七月に私が脳溢血で倒れたのでお見舞にも行けず只苦しみの増さない様に祈るばかりでした。

七月の末孫息子さんが見舞に来て下さった時いよいよおばあちゃんも、時間の問題となりました。と云ふ事で、私も何とも云えない気持で祈りつづけました。

九月に入って娘さんが見えて、おかげ様でおばあちゃんも眠る様な静かないい往生でございましたと云ふ事でした。その時の話しにおばあちゃんは仏教信者でキリスト教も知らなければましてやマリヤ様がどんなお方かも知っていない筈なのにいよいよ六ケしくなって意識不明の中で、何かブツブツ云い乍らあちこち手さぐりしているので聞き耳を立てるとマリヤサンマリヤサンとつぶやいています。そこで枕の下から取り出して握らせてやりましたら、しっかり握りめて胸に押しあててうつらうつらしている様でしたがその中に又マリヤサン、マリヤサンと云っているので何かあるのだろうと孫にくさりを貰いに走らせましておメダイを首にかけてやりましたらよろこんでいつもしっかりと握っていましたがそのまま静かに平和な往生をとげました。勿体ないと思いましたが、あまりお頼りしていたので首にかけたまま棺におさめそのまま葬らせて頂きました。何かあったんで御座いましょうね、不思議でございましたが、とその娘さんは述懐していました。

おばあさんの首には神仏混合で沢山のお守り札がかけてあった相ですが、その中からマリヤ様にのみおすがりした事はマリヤ様が信者未信者を問わず如何に平等にましますかを物語る物です。

私なぞベールをかぶると、つつしみはおろか、つい信者としてのほこりみたいな物を感じ未信者の方々と別格の様に考える様なおこがましい事は今更ら乍ら恥かしい事とマリヤ様の御手本に右へ習へを決心し又一面マリヤ様を御母として与えられた私共の心強さを改めて感慨深く知らされた事でした

マリヤ様は平等にまします

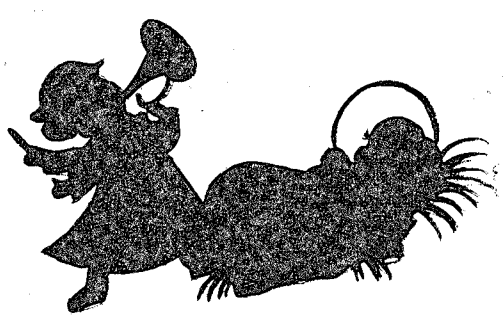
なでしこ

◆クリスマス・カツト ¥300～¥1.500（色付各種）
◆木彫聖家族 ¥ 1.200
◆組立クリスマス・カツト ¥45～¥50
◆夜光像
聖家族 ¥ 50
聖母像 ¥50～300
幼きイエズス ¥ 100

Xマス・プレゼント

万町電停前 聖パウロ書院
岩田屋6階 セント・ポール・カーナ

祝ご降誕



クリスマス・カード
クリスマスの御絵
天使像
イタリア製 ¥ 10～60
日本製 ¥ 15～50
日本的 ¥ 20～50
イタリア製 ¥ 8～20
豆天使
コーラス天使 ¥120～200（各種）

お友だちに・お子様に
◆天から来た人　脇田晶子編 ¥ 520 小学4年～中学生
◆イエズスのお母さん　脇田晶子著 ¥ 250 小学3年生まで
◆生きるに値するいのち　小林有方著 ¥ 150 一般向
◆若き日に老いし日に　ニノサルバネスキ著 アグネス・レト 山本文子共訳 若い方・一般向 ¥ 250

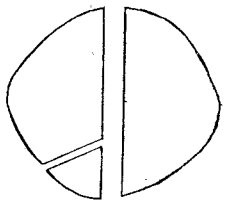
典礼シリーズ

㉜ パンをさくこと

ラプラント

どのように オスチアをさくか

「主よわれらを救い給え」の祈につづいて、司祭はオスチアを手にとりカリスの上でこれを真中から二つにさき、右手の方の半分をパテナにのせ、左手の方の半分の下の方の一部をさき、この小片を右手の親指と食指でつまみます。以上二回オスチアをさくわけですが、第一回のときに司祭は「われらの主イエズス・キリスト御子によりて」ととなえ、第二回のときに「神として聖霊との一致において、おんみと共に生きかつ治め給う」ととなえます。



なぜオスチアをさくか

それはイエズスが最後の晩さんの席上で「パンをとり、祝してこれをさき、弟子たちに与え給うた」通りにするためです（マテオ二六の26、マルコ一四の22）。もう一つの理由は実際的な便益のためでもあります。昔のオスチアはパン種の入ったパンで、非常に大きなものだったので、信者に拝領させるにはどうしても小さくさかねばならなかったのです。現在でも司祭のオスチアは大きくてさかなければそのまま拝領できません。

オスチアをさく儀式は、初代教会の信者たちの目には最後の晩さんのもっとも特徴的な行為と映ったので、ミサをさして「パンをさくこと」とよんでいました。これは一般のラテン文学には見られない厳密にキリスト教的な表現です。

オスチアを三つにさくのはなぜですか

司祭の拝領をしやすくするためならば、二つにさけばそれでいいわけですが、教会は古い儀式の名残りを留めるために、即ち昔の聖別されたパンの三つの部分を表わすために、三つにさくのです。その三つの部分というのは、一つは司祭とミサに仕える聖職者の分、もう一つは信者の分、最後の小片はカリスのなかに入れる分です。

古くからのしきたり

キリストと同時代のユデア人のあいだでは、祝福の祈をもってパンをさき、これを会食者に与えるのは、家父または集りの頭だけが司どる儀式的な行為でありました。イエズスも弟子たちと一諸に食事し給ったとき、非常に宗教的な意味をこめてパンをさき給ったので、エンマウスの弟子たちはこの行為を見ただけで、イエズスとわかったほどでした（ルカ二四の30－31）。ミサのあいだでも司祭は天よりのパン、神ご自身である、キリストをさいているのですから深い畏敬の念をもってこの行為をなさねばなりません。

東方典礼では、直径12－15センチ位の、たいていの四角の種いりパンであるオスチアをさきますがこれには象徴的な色彩の濃い儀式がきめられています。例えばギリシャ典礼では、司祭は小さな槍の形をしたものをオスチアの横側につきさしますが、これは十字架上のキリストのおん脇腹が槍でさしつらぬかれたことを象徴しています。スペインのトレドの典礼ではイエズスの九つの主な玄義を記念するため、オスチアを九つの断片に分けることになっています。カトリック・エチオピア典礼では、オスチアを一三の小片にちぎります。

すべての東方典礼ではこれにつづいて、オスチアの小片は寓意的または象徴的構図に従ってコルポラレの上にのせられます。例えば一つの小片をオスチアの大きな部分のそばに、すぐ下部の所に列べます。それは十字架につけられ給ったイエズスのおん足下にたたずみ給う聖母マリアを象徴しています。

オスチアをさくとイエズスもさかれ給うのですか

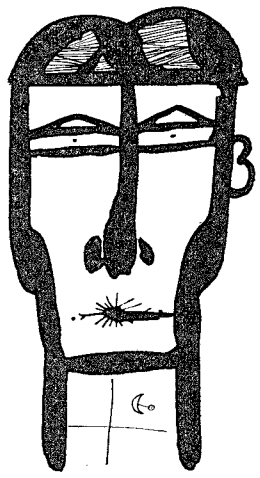
いいえ、イエズスのお体はオスチアをさくことによってさかれることも、変えられることもありません。これは大きな玄義です。しかもさかれたオスチアのどの断片にもイエズスは実在なさいます。聖トマス・アクィナス作の頌歌「ラウダ・シオン」によくそれが教えられています「これを受ける者も、切ることなく、割ることなく分けることなく、全き実体をうけ奉る。オスチアがさかれるとき汝の信仰をゆるがすな、一片も全体と同じくすべてをふくむものであることを忘れるな」。

象徴と心構え

パンをさくことは、お体とご霊魂が分けられたキリストのむごたらしい御死去を象徴しています。東方典礼では、ミサのこの動作のなかではっきりこれを言葉であらわしています。シリアの聖ヤコボ典礼を一例にとってみますと、オスチアをさきながら司祭は次のようにとなえます。

「げに神のみ言は人性においてかく苦しみ、十字架上にてさかれ給えり。ご霊魂はお体より引きさかれ、されどその神性はいささかもご霊魂、ご肉体よりはなされ給うことなし。しかもおん脇腹を槍もてさしつらぬかれ、そこよりおん血と水と流れ、全人類の上に神のあわれみを求め給えり。おん体はおん血にまみれ、おん子は全世界の罪のために十字架の上にて死し給えり」。

パンをさくことはまた、主における兄弟的一致の記しでもあります。兄弟である私たち一同が、同じ食卓で天よりのマンナ、天より下り給ったパンを食するのです。キリストは一片の食べもの、私たち一人ひとりのためにパンの一片となり給うほどに、大いなる愛をあらわしになりました。パンをさくときにこの愛を思い起させて、聖体拝領へ私たちの心を準備してくれます。「一つのパン」を食する私たちは、キリストと共に「一つの体」となるのであります。



俳句

よしのぶ

殉教祭聖体進む秋日和
噴煙の肥後路にかかる文化の日
柿多き一寒村の朝餉かな
手折り来し野菊もありて文化の日

風声

廃坑のボタ山翠けて草紅葉
頂上の大ひのまるや草スキー

牧泉

短歌

二丈

やや枯れてささけしすきの穂がならびならびて風にゆれる山すそ
緋のまくのかざされる公会議の座の中にわが司教様はこの柱のごとく

聖書の国 ⑧

平山高明

妻・母

一般にいえば、イスラエルにおける女性の社会的地位は、当時の他の国々と同様に決して高いものではなかった。女は父や夫の遺産を相続しなかった。妻は法的には未成年者と同様に取扱われ、妻が結んだ契約は法的効力をもたず夫はそれを破棄できた。この場合相手契約者は損害の賠償を要求することもできなかった。また法廷での証言は、特殊な例外を除いて価値を認められなかった。

妻は夫に依存しているものとして、奴れいが売れるときにはその妻も一緒に売り渡された。もっともその場合にも、女が妻である限りたとえ奴れいの妻であっても何人もこれにふれることは許されなかった。その点ではイスラエル人はすぐれた点をもっていた。かれらは不義を、神の最も忌み給うこと、きびしい罰をこうむるものと恐れ、律法は死をもってこれを罰していた。

△　△　△

夫は妻を売ってはならなかったが、離縁するには大してむつかしい理由は必要でなかった。逆に妻の側からの離婚請求が公的に認められることは、ごく稀にしかなかった。しかし妻の権利が全く無視されていたのではない。そこは夫の横暴がないよう、妻の権利を守る種々の法が定められていた。例えば夫は、社会的地位にふさわしく妻を扶養し、身分相応にせ遇ればならず、待遇が悪ければ妻は改善を求め、更に父親に訴え、父親を通して公けに異議を申しこむことができるとした。

妻の父親は、娘のぬれ衣に対しては訴訟を起し、罰金を支払わせることができるなど（申命二二の13－19）弱い地位にある者がしいたげられることのないようにと心をくばっている。

このような態度はまた、捕虜になった敵の女達に対しても拡げられ、征服者の横暴によって苦しめられることのないように、細かく法が定められていた（申命二二）

△　△　△

女は、神殿では男子と別の中庭に集り、道では夫と離れて歩み、語を交してはならなかった。男子が道で女と、特に妻と話しをすることは恥ずべきことと見なされていた。シケムに近いヤコボの井戸のそばで、イエズス様がサマリアの女に語りかけ給うたとき、弟子達が驚いたのも、それがサマリア人だったというだけでなく、このような習慣からであった。

△　△　△

家の庭中では妻の占める位置は大きなものであった。夫を助け、子供を教育し、家政をきり廻したがその仕事は、小麦を搗きパンを焼き、料理を作り、あるいは糸を紡ぎ布を織り、商人に売り、ぶどう畑を整えたり、事実上は夫の同意黙認のもとに相当自由に、財産の管理や売買もしていたようである。それでも家の灯を消さないようにし、毎日水を汲みにゆくのは女の役割であり、男が水がめを持って道をゆくのに出会うのはごく稀であった。イエズス様が最後の晩さんの準備のため二人の弟子をつかわしながら「町に行くと水がめをもっている人に出会うから、その人についてゆきなさい」（マルコ一四の13）と仰せられたが、それはみつけ易い目じるしだったのである。

△　△　△

精神的な掟に関しては、女子はきびしい適用はうけなかった。イスラエルの男子が毎日朝夕、唱えねばならぬ特別な形の祈も、律法の読唱に与る義務もなかったし、天幕祭の期間にも女子は天幕に住む掟から免除されていた。だがこれらの宗教的つとめを、女達が進んで良ことは禁じられていなかっただけでなく、大いに賞賛されていた。

ラビは、男達が宗教的義務をよく守り、子供達がよい教育をうけるためには、女子がふかい宗教的知識をもっていることが必要であるとして、女子が律法をよく学ぶことを勧めていた。

△　△　△

イスラエルの律法学士は女に対しては少々てきびしい。あるラビは「女とは貪食で怠け者で、やきもち焼きで喧嘩好きで、井戸端会議に熱中するものだ」とか「すべての男子は女に生れなかったこと異邦人、下賤な者に生れなかったことを神に感謝せねばならない」とかいっている。

かれらはまた女に向って投げられた預言者らの激しい言葉を引用する。「こっけいなくらい虚栄心でふくらみ」（イザヤ）「その上淫乱で奸悪」（アモス）「しかも残酷で二枚舌だ」（エレミア）とだからイスラエルの智者はくり返し若者達に向って、不身持な女、悪しき女に近ずくな、それはまむしをつかむようなものだと、警告している（集二六の1）

△　△　△

では聖書は女性の尊敬を認めていないのだろうか。預言者らが非難し警告しているのは不身持な女についてであり、当時の腐敗した社会のすべての者に対し警告し、かれらが改心して神に立ち返えることを勧めているのである。

聖書の中には、勇敢なデボラや剛毅なマカベ兄弟の母、あるいはユデイットやエステル、ルトのように犠牲的精神や広い心の持主、孝女の物語に充ちている。レビ記の中では「各人はその母と父を尊ぶべし」と、母親を第一にあげてさえいる（一九の3）箴言の書も「善良なる女の夫は幸福なるかな。そはその齢の数二倍になるべければなり」と述べている。

主イエズス様も人祖創造記の一節「これわが肉よりの肉、骨よりの骨」（二の23）の言葉を引用して、夫婦の一体なることを示され神の前に等しき者なることを教えられた。神のご計画により救主の協力者と定められた、御母マリアへの愛と従順を示し給うたことから、女性が人間としての尊厳を認められるようになった。

聖パウロは初代教会の信者に向い、キリストが教会を愛して生命をさし出し給うたように、夫たるものは心から自分の妻を愛さねばならない、と教えている（エフェゾ五の21－33参照）。

本誌代ご送金には振替をご利用下さい

福岡 4 2 9 8 1

カトリック編集部

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　七三〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六六〇円
デイリーコンサイス英和辞典　革　六五〇円
新クラウン英和辞典　縮刷版　三〇〇円　四二〇円
ジェム英和・和英辞典　D版　五五〇円　六二〇円
最新明解英和辞典　大型版　八五〇円
初級クラウン英和辞典　一〇〇〇円
初級コンサイス英和辞典　三八〇円
初級コンサイス和英辞典　二五〇円
三省堂独和新辞典　二〇〇円
コンサイス独和辞典　七〇〇円
コンサイス仏和辞典　六〇〇円
コンサイス露和辞典　八五〇円
日西辞典　三、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、六〇〇円
英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、三〇〇円　三、〇〇〇円
新版広辞林　一、四〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四五〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　三五〇円
大明解漢和辞典　九〇〇円
明解漢和辞典　四五〇円
模範六法全書　六七〇円
明解六法　二〇〇円
学習百科事典（新版）　一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　八〇〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

SSD
三省堂　福岡出張所
住所名変更
福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町